

基本計画書

基本計画											
事項		記入欄						備考			
計画の区分		学部設置									
フリガナ設置者		カヅコホウシツ シノカクエン 学校法人 佐野学園									
フリガナ大学の名称		カンダカクイコクガクイフク 神田外語大学 (Kanda University of International Studies)									
大学本部の位置		千葉県千葉市美浜区若葉1丁目4番1号									
大学の目的		広く一般知識を授け、深く専門学術を教授研究するとともに、わが国の伝統と文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的		広く一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解するための専門学術や技法を教授研究するとともに、高度の英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい、平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	グローバル・リベラルアーツ学部 [Faculty of Global Liberal Arts]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	千葉県千葉市美浜区 若葉1丁目4番1号			
	グローバル・リベラルアーツ学科 [Department of Global Liberal Arts]	4	60	0	240	学士 (グローバル・リベラルアーツ) 【Bachelor of Global Liberal Arts】	令和3年4月 第1年次				
	計										
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		外国語学部 英米語学科〔定員減〕 (△60) (令和3年4月) アジア言語学科〔定員増〕 (28) (令和2年3月認可申請)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計						
	グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科	154科目	18科目	2科目	174科目	129 単位					
教員組織の	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
				教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設分	グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科		人	人	人	人	人	人	人	
				5 (5)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	109 (109)	
	組	計		5 (5)	4 (4)	5 (5)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	— (—)	
		既設	外国語学部 英米語学科		11 (11)	4 (4)	9 (9)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	303 (303)
			アジア言語学科		12 (12)	6 (6)	15 (15)	0 (0)	33 (33)	0 (0)	281 (281)
			イberoアメリカ言語学科		5 (5)	6 (6)	8 (8)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	265 (265)
			国際コミュニケーション学科		11 (11)	10 (10)	3 (3)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	290 (290)
		の	English Language Institute (英語教育研究機関)		0 (0)	0 (0)	67 (67)	0 (0)	67 (67)	0 (0)	0 (0)
体育・スポーツセンター			1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)		

概要	分	言語教育研究所		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		キャリア教育センター		2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		計		43 (43)	26 (26)	102 (102)	0 (0)	171 (171)	0 (0)	－ (－)
		合 計		48 (48)	30 (30)	107 (107)	0 (0)	185 (185)	0 (0)	－ (－)
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		146人 (146)		51人 (51)		197人 (197)			
	技 術 職 員		4 (4)		1 (1)		5 (5)			
	図 書 館 専 門 職 員		3 (3)		3 (3)		6 (6)			
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計		153 (153)		55 (55)		208 (208)			
校地等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	37,680 m ²	0 m ²		0 m ²		37,680 m ²			
	運 動 場 用 地	30,223 m ²	0 m ²		0 m ²		30,223 m ²			
	小 計	67,903 m ²	0 m ²		0 m ²		67,903 m ²			
	そ の 他	30,938 m ²	0 m ²		0 m ²		30,938 m ²			
	合 計	98,841 m ²	0 m ²		0 m ²		98,841 m ²			
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計			
		42,083 m ² (42,083 m ²)	0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		42,083 m ² (42,083 m ²)			
教室等	講義室	演習室	実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設			
	116室	0室	2室		5室 (補助職員6人)		1室 (補助職員5人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称				室 数				
		大学全体				151 室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕冊	学術雑誌 〔うち外国書〕種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科	138,000 [53,000] (135,000) ([52,000])	7,350 [7,095] (7,350) ([7,095])	6,630 [6,625] (6,630) ([6,625])	1,900 (1,900)	0 0	0 0			
	計	138,000 [53,000] (135,000) ([52,000])	7,350 [7,095] (7,350) ([7,095])	6,630 [6,625] (6,630) ([6,625])	1,900 (1,900)	0 0	0 0			
図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
		3,820 m ²		350席		193,583冊				
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		3,223 m ²		トレーニングルーム		テニスコート5面				
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当たり研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	－千円	－千円	
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	－千円	－千円	
		図書購入費	2,000千円	3,500千円	3,500千円	3,600千円	3,600千円	－千円	－千円	
	設備購入費	19,000千円	6,000千円	6,000千円	6,000千円	6,000千円	－千円	－千円		
	学生1人当たり納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
			1,600千円	1,480千円	900千円	1,480千円	－千円	－千円		
図書費には電子ジャーナル・データベースの運用コスト及び整備費を含む。										

学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常経費補助金、雑収入 等							
既設大学等の状況	大 学 の 名 称	神田外語大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
	外国語学部	年	人	年次 人	人		倍		
	英米語学科	4	400	2年次 10 3年次 40	1,710	学士 (英語・地域文化)	1.09 1.05	昭和62年度	千葉県千葉市美浜 区若葉1丁目4番1号
	アジア言語学科	4	196	3年次 10	804	学士 (中国語・地域文化) 学士 (韓国語・地域文化) 学士 (インドネシア語・地域文化) 学士 (ベトナム語・地域文化) 学士 (タイ語・地域文化)	1.12	平成24年度	
	イberoアメリカ言語学科	4	128	3年次 6	524	学士 (スペイン語・地域文化) 学士 (ポルトガル語・地域文化)	1.12	平成24年度	
既設大学等の状況	国際コミュニケーション学科	4	197	2年次 15 3年次 15	863	学士 (国際コミュニケーション)	1.13	平成13年度	
	大 学 の 名 称	神田外語大学大学院							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
	言語科学研究科	年	人	年次 人	人		倍		
	英語学専攻	2	8	—	16	修士（文学）	0.61 0.37	平成4年度	千葉県千葉市美浜 区若葉1丁目4番1号
既設大学等の状況	日本語学専攻	2	8	—	16	修士（文学）	1.00	平成4年度	
	言語科学専攻	3	2	—	6	博士（言語学）	0.00	平成6年度	
附属施設の概要		該当なし							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														
（グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科）														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教授	准 教授	講 師	助教	助手	
英語科目	Academic Reading (a)	1前①	1			○								兼2
	Academic Reading (b)	1後	2			○								兼2
	Academic Writing (a)	1前①	1			○								兼3
	Academic Writing (b)	1後	2			○								兼3
	Academic Discussions & Presentations (a)	1前①	1			○								兼3
	Academic Discussions & Presentations (b)	1後	2			○								兼3
	English for Academic Purposes (a)	1前	2			○			2					兼1
	English for Academic Purposes (b)	1後	2			○			2					兼1
	Self-Directed Learning	1前	1			○			1					兼2
	TOEFL ITP 演習	1後	1				○							兼1
	Critical Reading (a)	2前	2			○								兼3
	Critical Reading (b)	2後	2			○								兼3
	Advanced Writing (a)	2前	2			○			1					兼2
	Advanced Writing (b)	2後	2			○			1					兼2
	English for GLA I (Introduction to Global Issues)	2前	2			○			1					兼1
	English for GLA II (Media Literacy)	2前	2			○								兼1
	English for GLA III (Global Communication)	2後	2			○								兼1
	English for GLA IV (Peace Studies)	2後	2			○								兼1
	English for GLA V (Sustainable Development Goals)	3前	2			○								兼2
外国語科目	小計（19科目）	—	33	0	0	—			3	0	0	0	0	兼15
	中国語 I (a)	2・3・4前		2		○								兼9
	中国語 I (b)	2・4後		2		○								兼9
	スペイン語 I (a)	2・3・4前		2		○								兼11
	スペイン語 I (b)	2・4後		2		○								兼11
	韓国語 I (a)	2・3・4前		2		○								兼8
	韓国語 I (b)	2・4後		2		○								兼8
	フランス語 I (a)	2・3・4前		2		○								兼4
	フランス語 I (b)	2・4後		2		○								兼4
	ドイツ語 I (a)	2・3・4前		2		○								兼2
	ドイツ語 I (b)	2・4後		2		○								兼2
	ロシア語 I (a)	2・3・4前		2		○								兼1
	ロシア語 I (b)	2・4後		2		○								兼1
	イタリア語 I (a)	2・3・4前		2		○								兼3
	イタリア語 I (b)	2・4後		2		○								兼3
	アラビア語 I (a)	2・3・4前		2		○				1				兼1
	アラビア語 I (b)	2・4後		2		○				1				兼1
	ポルトガル語 I (a)	2・3・4前		2		○								兼1
	ポルトガル語 I (b)	2・4後		2		○								兼1
	ベトナム語 I (a)	2・3・4前		2		○								兼2
	ベトナム語 I (b)	2・4後		2		○								兼2

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
外国語科目 選択外国語科目	インドネシア語Ⅰ(a)	2・3・4前		2		○								兼2	
	インドネシア語Ⅰ(b)	2・4後		2		○								兼2	
	タイ語Ⅰ(a)	2・3・4前		2		○								兼2	
	タイ語Ⅰ(b)	2・4後		2		○								兼2	
	中国語Ⅱ(a)	3・4前			1	○								兼5	
	中国語Ⅱ(b)	4後			1	○								兼5	
	スペイン語Ⅱ(a)	3・4前			1	○								兼3	
	スペイン語Ⅱ(b)	4後			1	○								兼3	
	韓国語Ⅱ(a)	3・4前			1	○								兼3	
	韓国語Ⅱ(b)	4後			1	○								兼3	
	フランス語Ⅱ(a)	3・4前			1	○								兼3	
	フランス語Ⅱ(b)	4後			1	○								兼3	
	ドイツ語Ⅱ(a)	3・4前			1	○								兼1	
	ドイツ語Ⅱ(b)	4後			1	○								兼1	
	ロシア語Ⅱ(a)	3・4前			1	○								兼1	
	ロシア語Ⅱ(b)	4後			1	○								兼1	
	イタリア語Ⅱ(a)	3・4前			1	○								兼1	
	イタリア語Ⅱ(b)	4後			1	○								兼1	
	アラビア語Ⅱ(a)	3・4前			1	○				1					
	アラビア語Ⅱ(b)	4後			1	○				1					
	ポルトガル語Ⅱ(a)	3・4前			1	○								兼1	
	ポルトガル語Ⅱ(b)	4後			1	○								兼1	
	ベトナム語Ⅱ(a)	3・4前			1	○								兼1	
	ベトナム語Ⅱ(b)	4後			1	○								兼1	
	インドネシア語Ⅱ(a)	3・4前			1	○								兼1	
	インドネシア語Ⅱ(b)	4後			1	○								兼1	
	タイ語Ⅱ(a)	3・4前			1	○								兼1	
	タイ語Ⅱ(b)	4後			1	○								兼1	
	中国語Ⅲ(a)	4前			1	○								兼1	
	中国語Ⅲ(b)	4後			1	○								兼1	
	スペイン語Ⅲ(a)	4前			1	○								兼1	
	スペイン語Ⅲ(b)	4後			1	○								兼1	
	韓国語Ⅲ(a)	4前			1	○								兼1	
	韓国語Ⅲ(b)	4後			1	○								兼1	
	フランス語Ⅲ(a)	4前			1	○								兼1	
	フランス語Ⅲ(b)	4後			1	○								兼1	
	ドイツ語Ⅲ(a)	4前			1	○								兼1	
	ドイツ語Ⅲ(b)	4後			1	○								兼1	
	イタリア語Ⅲ(a)	4前			1	○								兼1	
	イタリア語Ⅲ(b)	4後			1	○								兼1	
	小計(60科目)	—	0	48	36	—			0	1	0	0	0	兼56	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
G L A 基礎 科目	グローバル・ディスカバリーⅠ	1前①	1			○			1					兼1	共同
	グローバル・ディスカバリーⅡ	1前②	1			○			1					兼1	共同
	グローバル・ディスカバリー(フィールドワーク)	1前②	4					○	1						
	グローバル・リベラルアーツ入門Ⅰ	1前①	1			○				3	3			兼1	オムニバス
	グローバル・リベラルアーツ入門Ⅱ	1後	2			○			3	2	1				オムニバス
	グローバル・ヒストリー	1後	4			○					1				
	キャリアデザイン (GLA)	1後	2			○								兼1	
	アドベンチャーコミュニケーションプログラム (GLA)	1前②	1					○						兼1	
	グローバル・キャリア	3前	2			○								兼1	
	小計 (9 科目)	—	18	0	0	—			4	4	4	0	0	兼5	
基礎 教養 科目 A 群	歴史学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼3	
	歴史学Ⅱ	2・4後		2		○								兼3	
	哲学Ⅰ	2・3・4前		2		○				1				兼1	
	哲学Ⅱ	2・4後		2		○				1				兼1	
	倫理学Ⅰ	2・3・4前		2		○					1			兼1	
	倫理学Ⅱ	2・4後		2		○					1			兼1	
	宗教学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
	宗教学Ⅱ	2・4後		2		○				1					
	文学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
	文学Ⅱ	2・4後		2		○								兼1	
	美術史学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
	美術史学Ⅱ	2・4後		2		○								兼1	
	言語学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
	言語学Ⅱ	2・4後		2		○								兼1	
	心理学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
	心理学Ⅱ	2・4後		2		○								兼2	
	教育学	2・3・4前		2		○					1				
	社会学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼2	
	社会学Ⅱ	2・4後		2		○								兼2	
	法学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼2	
	法学Ⅱ	2・4後		2		○								兼2	
	憲法Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼3	
	憲法Ⅱ	2・4後		2		○								兼3	
	政治学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
	政治学Ⅱ	2・4後		2		○								兼1	
	経済学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
	経済学Ⅱ	2・4後		2		○								兼1	
	経営学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
	経営学Ⅱ	2・4後		2		○								兼1	
	統計学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1	
	統計学Ⅱ	2・4後		2		○								兼1	

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎 教養科目	A 群	化学Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1	
		化学Ⅱ	2・4後		2		○									兼1	
		物理学Ⅰ	2・3・4後		2		○									兼1	
		物理学Ⅱ	2・4後		2		○									兼1	
		生物学Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1	
		生物学Ⅱ	2・4後		2		○									兼1	
		自然科学概論Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1	
		自然科学概論Ⅱ	2・4後		2		○									兼1	
		小計（ 39 科目）	－	0	78	0	－			0	2	2	0	0	兼24		
	B 群	数的思考法	2・3・4前		2		○					1					
		デジタル・シチズンシップ論	2・3・4前		2		○					1					
		データ・サイエンス概論	2・4後		2		○									兼1	
		コンピュータ・サイエンス概論	2・4後		2		○									兼1	
		ビッグデータ解析論	3・4前		2		○									兼1	
		エビデンスと評価	3・4前		2		○									兼1	
		小計（ 6 科目）	－	0	12	0	－			0	1	0	0	0	兼3		
	専門 教養科目	H umanities （人間と文化）	宗教文化論Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1
			宗教文化論Ⅱ	2・4後		2		○					1				
芸術文化論Ⅰ			2・3・4前		2		○									兼1	
芸術文化論Ⅱ			2・4後		2		○						1				
人間と文学			2・3・4前		2		○									兼1	
人間と思想			2・4後		2		○					1					
世界近現代史			2・4後		2		○						1				
文化人類学			2・4後		2		○									兼1	
小計（ 8 科目）			－	0	16	0	－			0	2	2	0	0	兼4		
S ocieties （社会と共生）		共生社会論	2・3・4前		2		○						1				
		社会と多様性Ⅰ	2・3・4前		2		○									兼1	
		社会と多様性Ⅱ	2・4後		2		○						1				
		社会とサステナビリティ	2・4後		2		○									兼1	
		現代社会とイノベーション	2・3・4前		2		○					1					
		言語・文化とコミュニケーション	2・4後		2		○				1						
		デジタル・メディアと社会	2・3・4前		2		○									兼1	
		異文化コミュニケーション論	2・4後		2		○									兼1	
		小計（ 8 科目）	－	0	16	0	－			1	1	1	0	0	兼4		
G lobal Studies （グローバル・スタディーズ）		グローバル・ガバナンスⅠ	2・3・4前		2		○						1				
		グローバル・ガバナンスⅡ	2・4後		2		○							1			
		地域とグローバル世界Ⅰ	2・3・4前		2		○				1						
		地域とグローバル世界Ⅱ	2・4後		2		○					1					
		グローバル平和論	2・3・4前		2		○				1						
		国際法	2・4後		2		○									兼1	
		国際機構論	2・3・4前		2		○						1				
		国際開発論	2・4後		2		○									兼1	
		小計（ 8 科目）	－	0	16	0	－			2	1	1	0	0	兼2		

科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
基礎 演習		アカデミック日本語Ⅰ	1前	2				○				1			
		アカデミック日本語Ⅱ	1後	2				○				1			
		小計（ 2 科目）	－	4	0	0	－			0	0	1	0	0	0
演習 科目	講読 演習	講読(HUM)（宗教文化）	2後3前4前後	2				○			1				兼1
		講読(HUM)（芸術文化）	3・4前	2				○				1			
		講読(HUM)（文学/思想）	3・4前	2				○			1				
		講読(HUM)（歴史）	3・4前	2				○				1			
		講読(SOC)（社会と多様性）	2・4後	2				○				1			
		講読(SOC)（社会とサステナビリティ）	3・4前	2				○							兼1
		講読(SOC)（現代社会とイノベーション）	2・4後	2				○			1				
		講読(SOC)（言語・文化とコミュニケーション）	3・4前	2				○			1				
		講読(GS)（グローバル・ガバナンス）	3・4前	2				○				1			
		講読(GS)（地域とグローバル世界）	2後3前4前後	2				○			1	1			
		講読(GS)（グローバル平和論）	2・4後	2				○			1				
			小計（ 11 科目）	－	0	22	0	－			3	4	4	0	0
	研究 演習	研究演習Ⅰ	2後	2					○			3	4	4	
研究演習Ⅱ		3前	2					○			3	4	4		
研究演習Ⅲ		4通	4					○			3	4	4		
卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）		4通	4					○			3	4	4		
		小計（ 4 科目）	－	12	0	0	－			3	4	4	0	0	0
		合計（ 174 科目）	－	67	208	36	－			5	4	5	0	0	兼109
学位又は称号		学士（グローバル・リベラルアーツ）		学位又は学科の分野					文学関係						
卒業要件及び履修方法									授業期間等						
1．以下の所定の科目別単位数を修得し、129単位以上修得すること。英語科目35単位（留学包括認定2単位含む）、選択外国語科目4単位、GLA基礎科目18単位、基礎教養科目：A群12単位（留学包括認定4単位含む）B群6単位、専門教養科目：30単位（留学包括認定10単位含む）、演習科目：基礎演習4単位、講読演習8単位、研究演習8単位のほか卒業研究4単位を修得すること。2．履修登録単位数の上限：20単位（1年次後期、2年次前期・後期、3年次前期）、30単位（4年次前期・後期）とする。3．3年次後期留学包括認定：16単位（英語科目：2単位、基礎教養科目A群:4単位、専門教養科目:10単位）とする。									1 学年の学期区分 2学期（1年次前期は、2タームに区分）						
									1 学期の授業期間 15週						
									1 時限の授業時間 90分						

(注)

授 業 科 目 の 概 要			
（グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語科目	Academic Reading (a)	大学で必要とされる英語リーディングスキルの基礎力を高めるために、アカデミックな内容を精読・多読することを目的とする。精読では、アカデミックな題材で使われる語彙や文章構成に慣れ親しみながら、文法や接続詞の使い方に注意して筆者の意図を正確に読み取り、さらに文全体の流れをとらえながら概要を把握する。多読では精読で扱ったトピックと関連するものを複数読み、様々な意見を理解しながら批判的に考える力を養う。
		Academic Reading (b)	Academic Reading (a)の内容をさらに発展させ、アカデミックな内容を精読・多読することを目的とする。リーディングを受動的なものではなく能動的な活動ととらえ、読みながらその先を推測しつつ批判的に考え、さらに読解スピードを高めることで、2年次の英語科目やBridge CLIL Coursesにおけるリーディングとライティングへつなげる。また、ある決まったトピックに関する文章を多読することによって、様々な意見を体系的にまとめながら理解する練習も行う。
		Academic Writing (a)	大学で必要とされる英語ライティングスキルの基礎力を高めるために、アカデミックな内容を精読しながら語彙や文法の確認を行い、それらを正しく効果的に使いこなせるようになることを目的とする。中学・高校英語を「理解」するレベルから「応用」できるレベルに達するため、高校までに学習した英語を発展させ実際のライティングで使えるようになることを目指す。Academic Readingと連携させ、読んだものを要約する練習や、その内容に対する自分の意見を書く練習も行う。
		Academic Writing (b)	アカデミックな内容を読み、それを正確に理解した上で内容を批判的に考え、自分の意見をまとめることを目的とする。個人的な意見だけでなく、関連する文献を集め、そこに書かれている情報も取り入れながら説得力のある意見としてまとめる。そのために図書館での文献の探し方なども学ぶ。また、教員からのフィードバックだけでなく、ピアフィードバックも積極的に取り入れ、フィードバックとそれに基づく修正が効果的に行えるような訓練も行う。
		Academic Discussions & Presentations (a)	アカデミックな場面で必要となるディスカッションやプレゼンテーションのスキルを身につけることを目的とする。学生はアカデミックな題材を読み、ディスカッションを行う上で自身の意見や主張をどのように組み立てたらよいかを学ぶ。また効果的なプレゼンテーションを行うには参考文献や視覚教材をどのように用いればよいかについても学習する。学生は自身のプレゼンテーションを振り返り、話し言葉による効果的なコミュニケーションを実現するための改善点について考える。
		Academic Discussions & Presentations (b)	一般的なディスカッションやプレゼンテーションに加えてアカデミックなディスカッションやプレゼンテーションの方法について学ぶとともに、ディスカッションにおいて相手の意見を積極的に聞き、それに対する適切な反応のしかたを学ぶことを目的とする。学生はアカデミックな文献を収集し、整理し、それをプレゼンテーション内で提示すると同時に、自身のプレゼンテーションを振り返り、話し言葉による効果的なコミュニケーションを実現するための改善点について考える。
		English for Academic Purposes (a)	効果的な自律学習に必要な英語力と学習スキルを身につけることを目的とする。社会の諸事情に対する理解を深めながら英語を「使う」ことを中心として、大学入学までに習得したアカデミックな英語力をさらに伸ばす。同時に、SALC(Self-Access Learning Center)のラーニングアドバイザーからのサポートを得ながら、自律学習と協働学習のためのスキルも習得する。（※SALC: Self-Access Learning Center は、学生の授業外における英語学修支援施設。）
		English for Academic Purposes (b)	English for Academic Purposes (a)から継続して、効果的な自律学習に必要な英語力と学習スキルを身につけることを目的とする。特に自然科学や人文系に対する理解を深めながら学生の持っているアカデミックな読解力をさらに伸ばすことを目的とする。指導教員によるアドバイザーを通して学習全般と大学生活について確認したり、SALC(Self-Access Learning Center)のラーニングアドバイザーからのサポートを得ながら学生は自律学習に必要な学習スキルを習得する。

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語科目	Self-Directed Learning	言語の効果的な学び方、学習への自主的な取り組み方、SALC(Self-Access Learning Center)の効果的な利用方法について学ぶ。自分で自分の目標や興味にあった学習プランを立て、実行することで、語学スキルの向上を目指す。SALC(Self-Access Learning Center)のモジュールは自律学習者になるための方法を学ぶコースであり、いつ、どこで、どのように学習するかを、ラーニングアドバイザーのサポートを受けながら学生自身が決めることができる。	
		TOEFL ITP 演習	アカデミック英語の基礎力が不足しており、留学準備としてTOEFLの学習が必要な学生を対象とした授業である。TOEFLの問題集やアカデミック英語の補助教材を使いながらアカデミック英語に慣れ親しみ、留学先で要求されるTOEFLスコアに近づけ、アカデミック英語の力をさらに伸ばすことを目的とする。またSALC(Self-Access Learning Center)によるモジュールを利用しながら自律学習を行うことで、自ら学習計画を立て、実行し、振り返り、次の学習をさらに効果的に行う力を養う。	
		Critical Reading (a)	3年次に予定されている海外留学の準備として、様々な専門分野の入門レベルの題材を正確に読解し、批判的にとらえることを目的とする。例えば、複数の文献を個別のものとして理解するのではなく、お互いの関連性に注意しながらまとめる力を養う。さらに、海外留学でのリーディング課題は量的に相当なものとなることを踏まえ、その準備として読解量を増やし、多読に慣れるとともに、読んだ内容をもとに自分の意見を持つことも促す。	
		Critical Reading (b)	Critical Reading (a)におけるリーディング学習をさらに発展させ、海外留学におけるリーディングに向けての準備を進める。また、留学終了後の4年次に行う卒業研究（キャプストーン・プロジェクト）に向けた準備として、Advanced Writing (b)の授業と連携しながら、自ら立てるテーマに沿って文献を集め、その内容を批判的に考える。海外留学が卒業研究（キャプストーン・プロジェクト）に結び付けられるように、リーディングの観点からその内容も吟味する。文献をまとめる際には、内容を並べるのではなく、お互いの関連性を理解した上でまとめる練習を行う。	
		Advanced Writing (a)	3年次に行う海外留学の準備として、様々な専門分野の入門レベルのマテリアルを正確に読解し、その内容を批判的に吟味しながら関連性を考えてまとめ、自分の意見も取り入れて書くスキルを身に付けることを目的とする。また、読んだものすべてについて言及するのではなく、どの文献を使うのか、その中でもどの部分について言及するのかといった適切な判断ができるような練習も行う。さらに参考文献の言及の仕方やリストの作り方も学習する。	
		Advanced Writing (b)	4年次の卒業研究（キャプストーン・プロジェクト）に向けた準備として、Critical Reading (b)の授業と連携しながら、自ら立てるテーマに沿って文献を集め、その内容を批判的に考え、まとめ、必要に応じて自ら調査をして検証する。調査は海外留学中に行われることも想定し、事前の準備を周到に行い、帰国後の卒業研究（キャプストーン・プロジェクト）が質の高いものとなることを目指す。様々な論文や関連文献を読みながら研究論文の構成も把握し、留学先で課されるレポート課題にも柔軟に対応できる力を身に付ける。	
		English for GLA I (Introduction to Global Issues)	英語で行われる専門科目を履修するために必要な英語力を身につけながら、グローバル社会で起こりうる諸問題について学び、批判的思考力と効果的なコミュニケーション・スキルを伸ばすことを目的とする。学生は文献を読み、与えられたテーマを批判的に捉えながら、諸問題の要因と結果について考える。また他の学生との協働学習を通じて諸問題への理解を深めながら、それらの問題への創造的な解決策を見出す。	
		English for GLA II (Media Literacy)	英語で行われる専門科目を履修するために必要な英語力を身につけながら、批判的思考力と効果的なコミュニケーション・スキルを伸ばすことを目的とする。メディアの特質について理解し、幅広く、かつ批判的に捉えるとともに、英語力を伸ばしながら批判的思考力と効果的なコミュニケーションの方法を身につける。学生は様々なタイプのメディアに触れながら、情報がどのように提供・伝達・解釈されて、個人や社会にどのように影響しているかについて学ぶ。またメディアが送り出すメッセージと現代社会に与える影響についても分析する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語科目	English for GLA III (Global Communication)	英語で行われる専門科目を履修するために必要な英語力を身につけながら、批判的思考力と効果的なコミュニケーション・スキルを伸ばすことを目的とする。異文化コミュニケーションに関連するトピックについて学びながら英語力を発展させる。学生は、様々な文化を持った人々について理解し、異文化コミュニケーションにおいて文化がどのような役割を果たしているか批判的に考える。また様々なコンテキストにおいて文化背景の異なる人々がどのようにコミュニケーションを図っているかについても学ぶ。	
		English for GLA IV (Peace Studies)	英語で行われる専門科目を履修するために必要な英語力を身につけ、さらに平和と紛争に関わる主要なテーマや様々なアプローチについて考えながら、批判的思考力と効果的なコミュニケーション・スキルを伸ばすことを目的とする。平和研究と平和教育の成り立ちを学びながら、いじめや偏見のない社会の実現やグローバル市民の育成に向けて平和教育がどのように貢献できるかについて、多角的かつ批判的に考える。	
		English for GLA V (Sustainable Development Goals)	英語で行われる専門科目を履修するために必要な英語力を身につけながら、批判的思考力と効果的なコミュニケーション・スキルを伸ばすことを目的とする。2015年の国連サミットで採択された17のSDGs(Sustainable Development Goals)について、まずその背景や概念を理解し、これらの目標を達成するために世界各地でどのような取り組みが行われているかを知る。人間の生活が地球環境に及ぼす影響について批判的に検討しながら、それぞれの目標が世界各国の生活とどのように関わっているかについて考える。さらに、クラスメートと協力しながらこれらの目標を達成するための独自の解決方法を探る。	
	選択外国語科目	中国語 I (a)	本講義は、中国語を使って実際にコミュニケーションができるようになる基礎能力を身につけることを目標とする。最初は、中国語の発音に重点を置き、ピンインの学習をする。授業中、耳を通して中国語の発音を聞き、口で発音し、会話文を暗誦する。基本的な表現を繰り返し練習することによって、無理なく中国語の発音や基本文法を身につけ、簡単な会話ができるようにする。中国語を使って会話の楽しさを感じてから、さらに学生の学習進度、知識欲に合わせて徐々に高いレベルの練習を加えることとする。前期の到達目標は中国語検定4級レベルである。	
		中国語 I (b)	本講義は、中国語を使って実際にコミュニケーションができるようになる基礎能力を身につけることを目標とする。最初は、中国語の発音に重点を置き、ピンインの学習をする。授業中、耳を通して中国語の発音を聞き、口で発音し、会話文を暗誦する。基本的な表現を繰り返し練習することによって、無理なく中国語の発音や基本文法を身につけ、簡単な会話ができるようにする。中国語を使って会話の楽しさを感じてから、さらに学生の学習進度、知識欲に合わせて徐々に高いレベルの練習を加えることとする。学年末の3月に行われる中国語検定で3級に合格できることを目標とする。	
		スペイン語 I (a)	スペイン語の「読み」「書き」「聴き」「話す」基礎能力を習得することを目指す。外国語上達のコツは大きくはっきりとした声で「音読」すること及び基本の反復である。一日のサイクルで特定の時間をスペイン語の勉強に当て、毎日少しずつ続ける学習方法を奨励する。	
		スペイン語 I (b)	前期に引き続き、スペイン語の「読み」「書き」「聴き」「話す」基礎能力を習得することを目指す。1年次は動詞の現在形を中心に学習すること及び基本の反復である。一日のサイクルで特定の時間をスペイン語の勉強に当て、毎日少しずつ続ける学習方法を奨励する。	
		韓国語 I (a)	韓国語の基礎を身につけることを目標とする。独特な文字である「ハングル」をしっかりと覚え、正確な発音ができるよう時間をかける。特に、日本語にはない発音が韓国語には多々あるため、最初の段階で正確な発音を習得することが大切である。	
		韓国語 I (b)	韓国語I(a)を履修した学生を対象とした授業である。韓国語I(a)で学んだことを土台としながら、場面に応じた様々な表現を使えるようにする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	選択外国語科目	フランス語 I (a)	パリの語学学校でフランス語を学ぶ日本の女子学生美香の生活をとおして、フランス語の発音、語彙、基本表現、文を作る時の決まりを学習する。各課のダイアログは自己紹介、買い物、旅行などの際に実際に使える例を扱う。日常の口語コミュニケーションに必要な基本事項を学び、同時に、言語の背後にあるフランスの社会と文化の特徴も、DVDを使って紹介する。前期は簡単な自己紹介ができるようになり、自分の名前、国籍、年令、住い、家族、趣味などについて会話を交わせるレベルを到達目標とする。
		フランス語 I (b)	前期と同じ方針で、同じ教科書を使って、フランス語の学びを深めていく。パリからボルドーに移って来た学生美香の生活をとおして、フランス語の発音、語彙、基本表現、文を作る時の決まりを学ぶ。後期のダイアログは自己紹介、人と会う約束、レストランでの料理の注文などの際に実際に役立つ例を扱う。日常の口語コミュニケーションに必要な基本事項を学びながら、同時に、言語の背後にあるフランスの社会と文化に対する理解も深める。
		ドイツ語 I (a)	この授業の目的は、ドイツ語の基本的な文法と初歩的な日常会話の仕方を学ぶことにある。ドイツ語は語形変化の多い言語なので、まずこの変化を確実に習得することが重要である。文法は教科書に沿い、語形変化と文の作り方を中心に時間をかけて学習する。会話については、日常的な様々な場面で用いられる表現をできるだけ多く、覚えられるように授業を進める。授業の中で旅行目的地や食べ物、飲み物、スポーツ、歴史、映画などドイツ社会、文化の一端に触れ、この授業を通して、ドイツ語、ドイツ社会に対する関心を高めていく。
		ドイツ語 I (b)	この授業は、ドイツ語 I (a)を引き継ぐ形で行う。授業の目的は、ドイツ語の基本的な文法と初歩的な日常会話の仕方を学ぶ。ドイツ語は語形変化の多い言語なので、まずこの変化を確実に習得することが重要である。文法は教科書に沿い、語形変化と文の作り方を中心に時間をかけて学習する。会話については、日常的な様々な場面で用いられる表現をできるだけ多く、覚えられるように授業を進める。授業の中で旅行目的地や食べ物、飲み物、スポーツ、歴史、映画などドイツ社会、文化の一端に触れ、この授業を通してドイツ語、ドイツ社会に対する関心を高めていく。
		ロシア語 I (a)	ロシア語をはじめて学習する人のための授業である。文字と発音から始め、あいさつ表現や日常会話の基礎を身につけながら、語彙を増やし、文の組立て方を学習する。
		ロシア語 I (b)	ロシア語の学習を続けるための授業である。文字と発音を確認し、日常会話に役立つ表現を増やししながら、語彙を充実させ、さらに複雑な文の組立て方を学習する。
		イタリア語 I (a)	イタリア語文法の基礎（規則動詞、essere, avere、名詞の性と数等）を学ぶと同時に、日常生活で実際に使えるような表現（自己紹介、お店での注文等）を習得し、簡単な文の読み書きと、基礎的な会話ができるようにする。扱う事項に関連する範囲で、イタリアの生活や文化にも触れる。
		イタリア語 I (b)	前期に引き続き、イタリア語文法（所有形容詞、不規則動詞、過去と未来等）を学び、文法の基礎をひとつお習得する。併せて、日常生活で実際に使えるような表現を学び、簡単な文の読み書きと、基礎的な会話ができるようにする。扱う事項に関連する範囲で、イタリアの生活や文化にも触れる。
		アラビア語 I (a)	この授業では、アラビア語の文字、初級文法、基本的会話フレーズを学習する。最初にアラビア文字の書き方、読み方、判読を習得してもらい、その後、単語、短文へとレベルを上げ、初級文法の学習に入る。また、中東アラブ地域の文化に関わる映像・音響素材を随時紹介することで、文化への理解も深めてもらう予定である。
		アラビア語 I (b)	後期は人称代名詞の説明に入る。アラビア語文法で最も重要なのは動詞である。後期はこの動詞に挑戦し、完了時制と未完時制を修得する。
		ポルトガル語 I (a)	最も多くのポルトガル語話者を有する国ブラジルのポルトガル語を勉強する。サッカー選手やボサノヴァの歌手をはじめ、日本でもなじみの深いブラジル人が実際に使っている言葉を身に付ける。すぐに使える会話表現、基礎文法、そしてポルトガル語圏の文化や社会について学ぶ。

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	ポルトガル語Ⅰ(b)	前期に引き続き、ブラジル・ポルトガル語の日常会話と基礎文法を学ぶ。後期の授業では、実際にブラジルでポルトガル語を使いそうな状況を想定してコミュニケーションに必要な表現を学ぶ。これまでに習った基礎文法の応用練習を中心とした授業内容となる。また、ブラジルの文化や社会について紹介したポルトガル語の文章も読んでいく。	
	ベトナム語Ⅰ(a)	ベトナム語の基本的な特徴を知り、文字と発音の基本を身に付け、実際にベトナムで過ごす際に有用な語彙・表現を学ぶ。発音は声調など日本語と仕組みが大きく異なることや、日本語話者にとって区別の難しい音を中心に、学期を通じて練習する。文法は単純な事項に限定して学ぶ。発音練習・書く練習・聴解・簡単な読解により、聞く・話す・読む・書くの4技能を均等に身に付けられるようにする。ベトナム語を通して、ベトナムの文化に対する理解を深める。	
	ベトナム語Ⅰ(b)	前期に引き続き、発音練習、語彙・文法事項・表現の学習、会話練習を進め、簡単な文章を書く練習もする。発音練習を続けつつ、発音の区別を身に付けるに留まらず、よりベトナム語話者らしい発音の特徴を知ることにも挑戦する。生活に最低限必要な語彙や表現に加え、生活習慣や趣味に関するものなど、ベトナム語で情報交換し、親しくなるのに有用な語彙・表現もいくつか学び、ベトナム語話者との会話を楽しめるようになることを目指す。	
	インドネシア語Ⅰ(a)	この授業では、言葉の学習を通じて受講生が東南アジア社会とりわけインドネシア社会に関心を持つことを目指す。周知のように、インドネシア語はアルファベットで表記され、発音もローマ字読みであり、文法にしてもある程度までは学習が容易であるため、単語さえしっかり覚えておけば初歩の会話はすぐに出来るようになる。到達目標としては、簡単に短い質問、依頼、誘いなどの内容を理解でき、簡単な挨拶、自己紹介、意思表示ができるレベルを目的とする。	
	インドネシア語Ⅰ(b)	この授業では、前期と同様に、言葉の学習を通じて受講生が東南アジア社会とりわけインドネシア社会にさらなる関心を持つことを目指す。到達目標としては、簡単に短い質問、依頼、誘いなどの内容を理解でき、簡単でありつつも慣用表現を用いた挨拶、自己紹介、意思表示ができるレベルを目的とする。1年終了時にはインドネシアへ行っても日常生活に困らない程度のインドネシア語運用力が身につくよう授業を進める。社会事情についても時間の許すかぎり話す。	
	タイ語Ⅰ(a)	タイ国やタイ語に関心のある学生を対象に、タイ語文字読み書きのルールを習得し、正しい発音でタイ文字を読むことができるように指導する。	
	タイ語Ⅰ(b)	タイ国に関心のある学生を対象に、タイ語文字読み書きのルールを習得し、正しい発音でタイ文字を読むことができるように指導する。タイ文字で書かれた料理メニューや広告等を正しい発音で読み、内容を把握する。辞書を引き、語彙の意味を調べ、短文の内容を把握する。タイ国小学生の教科書を読み、文化・生活の違いについて理解する。	
	中国語Ⅱ(a)	「中国語Ⅰ」で習得した発音と会話を基礎としてしっかり定着させ、さらに実践向きの会話力を養成することを目的とする。さまざまな場面の日常会話の学習を通して、語彙を増やし、基本文型の範囲を広げ、会話の表現力と応用力を高める。あわせて、中国の文化やそこに暮らす人々の生活ぶり、中国人のものの考え方への理解を深める。	
	中国語Ⅱ(b)	「中国語Ⅱ(a)」で習得した発音と会話を基礎としてしっかり定着させ、さらに実践向きの会話力を養成することを目的とする。さまざまな場面の日常会話の学習を通して、語彙を増やし、基本文型の範囲を広げ、会話の表現力と応用力を高める。あわせて、中国の文化やそこに暮らす人々の生活ぶり、中国人のものの考え方への理解を深める。	
	スペイン語Ⅱ(a)	「スペイン語Ⅰ」で扱った文法項目（動詞の現在形、目的語、代名詞等）の基礎を確認しつつ、過去の事柄を表現できるようになることを含めて、より幅広いスペイン語能力の獲得を目指す。	
	スペイン語Ⅱ(b)	前期に引き続き、直説法現在形以外の時制を中心に学習する。未来の事柄を表現する時制とともに、直説法、命令法、接続法といった形にも触れていくことによって、より幅広いスペイン語能力の獲得を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	選択外国語科目	韓国語Ⅱ(a)	韓国語Ⅰで学んだ基本的な文法を用いて日常会話ができるようになることを目指す。初級後半レベルから中級レベルまでの重要文法・文型を身に付け、読む、書く、聞く・話す能力を高めていく。辞書を用いて韓国語の文章を読むことに慣れていく。そして韓国語の文章講読を通じて、韓国の文化や社会に対する理解が広がるよう授業を進める。さまざまな文章を講読しながら、文法や語彙を習得し、自然な表現などを身につけていく。	
		韓国語Ⅱ(b)	韓国語中級の文法及び語彙を学習しコミュニケーション能力を向上させることが授業の目的である。「話す、書く、聞く、読む」の4機能をバランスよく身に付けることを目指す。日常生活に活かせる基本会話能力を身につけることを目標とする。韓国の文化を理解し、発話場面に沿った適切な表現が使えるようになることを目指す。韓国語の文章講読を通じて、韓国の文化や社会に触れる。さまざまな文章を読み、いろいろな文体に慣れ、自然な表現などを身につけていく。	
		フランス語Ⅱ(a)	フランス語Ⅱ(a)では、フランスの社会や文化に触れながら、フランス語の基礎と応用力を身に付けていく。初級で学んだ文法項目も復習し、語彙をさらに増やし、日常会話や旅行会話ができるようなレベルに到達することを目標とする。また、フランス語能力検定やその他の公式フランス語の資格の取得も目指す。教科書を補助的に使いながら、授業ではよりよい発音ができるように練習し、フランス語が聞き取れるようになる訓練を行う。時折フランスの新聞やラジオを使って、できるだけ生のフランス語に慣れる訓練もする。	
		フランス語Ⅱ(b)	前期に引き続き、フランス語の実践力を高めていくことが主な目的である。語彙と表現をさらに増やし、こなれた会話レベルの習得を到達目標とする。前期同様に、授業では発音や聞き取り能力を磨いていく。また、文法を確実なものにしていき、フランス語能力の資格の取得を目指す。フランスの新聞やラジオのリスニングの練習も取り入れる。	
		ドイツ語Ⅱ(a)	文法の復習も兼ねながら、さまざまドイツ語の表現に触れる。ドイツ語は基本的な文法をマスターすれば読むのは比較的簡単だが、もちろん読むだけではなく、語彙を増やししながら、表現練習に多く時間を割くよう指導し、ドイツ語検定試験の4級の合格を目指す。	
		ドイツ語Ⅱ(b)	前期と同じテキストを使用しながら、さらに読解力をつけることを目的とする。聞き話す練習も当然ながら続けていき、できるだけ多くの例文を覚えるよう指導し、ドイツ語検定試験3級の合格を目指す。	
		ロシア語Ⅱ(a)	まずロシア語Ⅰをふり返って基礎を確認し、その後さらに会話文の語彙・文法の強化、発展を目指す。ロシア語能力検定も視野に入れて、話す・読む・書く力を鍛えていく。	
		ロシア語Ⅱ(b)	ロシア語Ⅱ(a)に引き続き、会話文を主とした語彙と文法の強化・発展を進めていく。ロシア語能力検定試験の問題にも取り組み、その時々に応じたテーマも扱っていく。	
		イタリア語Ⅱ(a)	初級文法を発展させ、会話・読解に結び付ける。イタリア語検定4級合格を目指して語彙を増やすことを目指す。	
		イタリア語Ⅱ(b)	ロシア語Ⅱ(b)に引き続き、初級文法を発展させ、会話・読解に結び付ける。イタリア語検定4級合格を目指して語彙を増やすことを目指す。	
		アラビア語Ⅱ(a)	この授業はアラビア語Ⅰの続編である。アラビア語Ⅰで学習した内容を復習し、さらに動詞の文法の学習を中心に行う。また、簡単なアラビア語読本や会話表現に関するテキストなども用いて、文法事項を確認しつつより幅広いアラビア語力の獲得を目指す。	
		アラビア語Ⅱ(b)	アラビア語Ⅱ(b)は、アラビア語をより実践的に使えるようになることを目的とする授業を目指し、会話表現や文章読解に挑むよう指導する。辞書の引き方と文章の読み方をまずは学習し、その後は児童向け絵本やアラブ圏の小学校教科書など平易なテキストを講読しつつ、アラビア語メディアなどにも挑戦させる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	選択外国語科目	ポルトガル語Ⅱ(a)	ポルトガル語Ⅰを履修した学生又は同等の知識を有する学生向け。これまで学んだポルトガル語を復習しながら、ポルトガル語Ⅰで十分に学ぶことができなかった文法や表現を身に付ける。また、新聞やビデオ、音楽等も活用しながらブラジルの習慣や文化に触れる。	
		ポルトガル語Ⅱ(b)	基本的なコミュニケーション技能（理解すること、話すこと、読むこと及び書くこと）を教え、教科書の練習、読書、映画及び音楽を通してポルトガル語を話す世界の文化を紹介する徹底的な初級コースである。本講義を受講することで、ブラジルの文化と社会性をより深く理解することができる。	
		ベトナム語Ⅱ(a)	ベトナム語Ⅰで学んだ基本文法を基に、ベトナム語の運用能力をさらにアップさせることを目指す。会話における丁寧・尊敬などの複雑な表現や、対人関係による呼称詞の使い分けを学び、どのような年齢層の人ともスムーズに会話できるような応用力を身に付ける。また、図書館にあるベトナム語の新聞や雑誌などを講読することによって、語彙を増やすと同時に、ベトナム時事問題にもアプローチできるようにする。	
		ベトナム語Ⅱ(b)	ベトナム語Ⅱ(a)に引き続き、ベトナム語Ⅰで学んだ基本文法を基に、ベトナム語の運用能力をさらにアップさせることを目指す。会話における丁寧・尊敬などの複雑な表現や、対人関係による呼称詞の使い分けを学び、どのような年齢層の人ともスムーズに会話できるような応用力を身に付ける。また、図書館にあるベトナム語の新聞や雑誌などを講読することによって、語彙を増やすと同時に、ベトナム時事問題にもアプローチできるようにする。	
		インドネシア語Ⅱ(a)	インドネシア語基礎Ⅰで学んだ内容を元に、より広くかつ深くインドネシア語を学ぶ。文法はこの基礎Ⅱで一応すべての説明を終え、単語は日常会話で使用するもののほか、雑誌などに登場する一段階上のものも覚える。会話は日常会話ができる程度まで進める予定である。	
		インドネシア語Ⅱ(b)	インドネシア語Ⅱ(a)に引き続き、インドネシア語基礎Ⅰで学んだ内容を元に、より広くかつ深くインドネシア語を学ぶ。文法はこの基礎Ⅱで一応すべての説明を終え、単語は日常会話で使用するもののほか、雑誌などに登場する一段階上のものも覚える。会話は日常会話ができる程度まで進める予定である。	
		タイ語Ⅱ(a)	タイ語の発音や文字に慣れること、また、基本的表現を使った日常生活におけるコミュニケーションが無理なく行えるようになることを目指す。	
		タイ語Ⅱ(b)	タイ語Ⅱ(a)に引き続き、タイ語の発音や文字に慣れること、また、基本的表現を使った日常生活におけるコミュニケーションが無理なく行えるようになることを目指す。	
		中国語Ⅲ(a)	中国語の基礎文法を習得済みの学生を対象とする。これまで把握した文法を復習しながら、より高度な聴解力、会話力及び作文力を身に付ける。また、中国語のレベルの向上を目指すと同時に中国社会、とりわけ文化生活方面の事情に対する理解も深める。	
		中国語Ⅲ(b)	中国語Ⅲ(a)に引き続き、これまで把握した文法を復習しながら、より高度な聴解力、会話力及び作文力を身に付ける。また、中国語のレベルの向上を目指すと同時に中国社会、とりわけ文化生活方面の事情に対する理解も深める。	
		スペイン語Ⅲ(a)	接続法・命令法を用いたコミュニケーションに焦点を当てる。接続法は多くの履修生が初めて学ぶ文法項目なので、1年間かけてじっくりと活用と用法を学習していく。併せて、直説法の復習やさまざまな構文の練習も行う。また、スペイン語検定4級、DELE (Diploma de Español como Lengua Extranjera) 入門～初級の取得を目指す。(※ DELE: Diploma de Español como Lengua Extranjera スペイン教育省のスペイン語検定)	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	選択外国語科目	スペイン語Ⅲ(b)	スペイン語Ⅲ(a)に引き続き、接続法・命令法を用いたコミュニケーションに焦点を当てる。接続法は多くの履修生が初めて学ぶ文法項目なので、1年間かけてじっくりと活用と用法を学習していく。併せて、直説法の復習やさまざまな構文の練習も行う。また、スペイン語検定4級、DELE(Diploma de Espanol como Lengua Extranjera)入門～初級の取得を目指す。	
		韓国語Ⅲ(a)	自然な韓国語の表現や語彙を学習し、コミュニケーション能力を向上させることが授業の目的である。作文の発表、討論、ニュース聴取などを通して、「書く、話す、聞く、読む」能力をバランスよく身につけると共に、韓国の文化、社会に関する理解も深めていく。	
		韓国語Ⅲ(b)	「韓国語Ⅲ(a)」の内容を引き継ぎ、さらに発展させつつ、韓国語の口頭表現能力を高める。	
		フランス語Ⅲ(a)	フランスの文化、社会、フランス人の日々の生活に関するテキストを読みながら、フランス語力をさらにアップしていく。ワインとシャンペン、フランスのマンガ・アニメブーム、エッフェル塔の120年、ハートのレストラン、フランス名物ストライキ、原発大国フランス、EUの牽引車フランス等々、さまざまなトピックを取り上げる。また、そのテーマに関する映像、映画、さらにインターネットのサイトにもアクセスし、授業を楽しく有益なものにしたい。自分の関心や好みを大切にしながら、フランスの言語文化が持つさまざまな側面に触れ、フランス語を学ぶことを通してどのような世界にアクセスできるのかを具体的に見ていく。	
		フランス語Ⅲ(b)	学期の後半になると、自由でもっと個人的な内容の会話を練習できるように指導する。自分のこと、家族のこと、友だちのこと、好きなこと、いつもしていること、これまでしてきたこと、これからしたいことを話す練習をすることにより、会話が豊かになり、いろいろな質問を相手にできるようになり、話題が広がる。あまり意識しなくても、言葉のながれで自然に相手の質問に答えられるようになる。	
		ドイツ語Ⅲ(a)	この授業は、新聞や雑誌の記事、文学作品などオリジナルのドイツ語を読むための力を養うことを目的とする。ドイツ語Ⅰ、Ⅱの授業ではあまり触れられなかった読解のポイント、例えば接続法、過去分詞の用法、前つづりの意味などに注意を払いながら、できるだけ多くの文章を読んでいく。地誌、歴史、旅行目的地など様々な内容を取り上げる。この授業を通して、ドイツとドイツ語についての関心がさらに高まるよう工夫する。	
		ドイツ語Ⅲ(b)	この授業は、ドイツ語Ⅲ(a)を引き継ぐ形で行われ、新聞や雑誌の記事、文学作品などオリジナルのドイツ語を読むための力を養うことを目的とする。ドイツ語Ⅰ、Ⅱの授業ではあまり触れられなかった読解のポイント、例えば接続法、過去分詞の用法、前つづりの意味などに注意を払いながら、できるだけ多くの文章を読んでいく。地誌、歴史、旅行目的地など様々な内容を扱う。この授業を通して、ドイツとドイツ語についての関心がさらに高まるよう工夫する。	
		イタリア語Ⅲ(a)	学生がイタリアの生活や文化を理解し、イタリア人とイタリア語でコミュニケーションがとれるようにすることを目的とする。いろいろな興味深いトピックについて、少人数グループやペアワークで会話練習やロールプレイをし、イタリア語を話すことに慣れる。また併せて中級レベルの文法も確実に身につくように学習する。	
G L A 基礎科目		イタリア語Ⅲ(b)	イタリア語Ⅲ(a)に引き続き、学生がイタリアの生活や文化を理解し、イタリア人とイタリア語でコミュニケーションがとれるようにすることを目的とする。いろいろな興味深いトピックについて、少人数グループやペアワークで会話練習やロールプレイをし、イタリア語を話すことに慣れる。また併せて中級レベルの文法も確実に身につくように学習する。	
		グローバル・ディスカバリーⅠ	1年次必修のグローバル課題学習と課題解決について考えるPBL(Project Based Learning)型の授業である。私たちを取り巻く世界はどんな世界なのか？どんな課題があるのか？そして、そのために私たちは何ができるのか？それを学んで考えるための第一歩として、最初の学期でグローバル・ディスカバリー(フィールドワーク)に参加する。この授業はそのための第一ステップとなる。グローバル課題に関する課題図書を読んでディスカッションをしたり、社会課題解決を実践している人物や団体を訪問し、協働学習を通して、学生が主体的に学び、行動するマインドセットを身につける。	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
G L A 基 礎 科 目	グローバル・ディスカバリーⅡ	1 年次必修のグローバル課題学習と課題解決について考える PBL(Project Based Learning)型授業の実践編、グローバル・ディスカバリー（フィールドワーク）の事前ならびに事後の学習を行う。グローバル・ディスカバリー（フィールドワーク）で訪問する国について、現地の歴史や宗教、かかえる社会課題や取り組みについて事前に調査し、インプットを行う。また、現地のグローバル・ディスカバリー（フィールドワーク）における心構え、調査の項目や期待される結果など、事前にスタディ・プランを策定する。グローバル・ディスカバリー（フィールドワーク）から帰ってきた後は、事後学習として、そこでの学びや気づきなどをグループごとにまとめて、スタディ・プランの成果を発表し、全員で共有する。また、そこからの学びを今後の学生生活にどう活かすか、今後、どのようなことを学びたいのかなど、大学でのスタディ・プランにつなげていく。	共同
	グローバル・ディスカバリー（フィールドワーク）	この授業科目では、入学直後の6～7月頃に、インド、リトアニアなどに赴き、異文化や異環境下での体験をさせるとともに、平和、多様性、多民族、格差、貧困からの脱却、移民・難民問題など、行く国・地域により課題設定をさせ、1 年次後期以降の学修の動機づけをさせることを目的とする。この授業科目に先立ち、グローバル・ディスカバリーⅠ、Ⅱ及びアドベンチャーコミュニケーションプログラムで事前・事後学習を行う。	
	グローバル・リベラルアーツ入門Ⅰ	【グローバル時代の教養とは何か】（オムニバス方式／全8回） グローバル・リベラルアーツ入門は、グローバル・リベラルアーツ学部カリキュラムの基本理念である「平和のためのグローバル教養（Global Liberal Arts for Peace）」の意味を学び、学生各自が4年間を通じての学びを自ら方向付けていくためのオリエンテーションとなる基礎的な科目である。この科目では、本学部で身につけられる探究の内容と知識の内容の基礎を学び、専門教養科目へ橋渡しすることを目指す。このような科目の目的により、授業は複数の教員が担当するオムニバス方式を採用。グローバル・リベラルアーツ入門Ⅰでは、グローバル時代の教養とは何であるかを考える。授業の各回では、文学、哲学、宗教学、歴史学、日本思想論、社会学の各学問領域の探究対象と考え方の講義とそれに基づくディスカッションを通じて、グローバル時代の教養とは何かを考えるとともに、学問的な知識と論理を支えに批判的に考えることの重要性を理解することを目指す。各回の担当者とテーマは以下の通りである。 （7 植田かおり／2回）イントロダクション／哲学の視点から：「教養」の原点と現代 （12 鈴木健太／1回）平和と共生のための歴史学 （14 知念渉／1回）共生社会の実現のために （9 吉田京子／1回）宗教について考える：伝統と現代 （24 松井佳子／1回）文学と共生 （10 上野太祐／1回）日本文化から何を学ぶか （6 石井雅章／1回）未来社会を考える	オムニバス方式
	グローバル・リベラルアーツ入門Ⅱ	【グローバル時代の平和について考える】（オムニバス方式／全15回） グローバル・リベラルアーツ入門は、グローバル・リベラルアーツ学部カリキュラムの基本理念である「平和のためのグローバル教養（Global Liberal Arts for Peace）」の意味を学び、学生各自が4年間を通じての学びを自ら方向付けていくためのオリエンテーションとなる基礎的な科目である。この科目では、本学部で身につけられる探究の内容と知識の内容の基礎を学び、専門教養科目へ橋渡しすることを目指す。このような科目の目的により、授業は複数の教員が担当するオムニバス方式を採用。グローバル・リベラルアーツ入門Ⅱは、言語・社会・国際関係の領域から「平和について考える」。テーマごとに授業2回を使って、ミニ講義・ワークシート・ディスカッションを通して、アクティブラーニング形式で授業を展開する。各回の担当者とテーマは以下の通りである。 （3 阪田恭代／3回）オリエンテーション・自己紹介・イントロダクション「平和とは何か」／グローバルな平和（1） （5 Park Siwon／2回）ことばと平和 （13 高橋麻奈／3回）グローバルな平和（2）／中間まとめ （2 興梠一郎／2回）地域と平和（アジア・中国と世界） （8 河越真帆／3回）地域と平和（ヨーロッパと世界）／まとめ （6 石井雅章／2回）コミュニティと平和	オムニバス方式

科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
G L A 基 礎 科 目		グローバル・ヒストリー	本授業では、16世紀以降の世界の近現代史がどのような歩みを辿ってきたのか、現在までの各時代において世界の動きを牽引した流れと中心的な事象を把握する。そして、そうした過程が現代の世界とどうつながり、今日の様々な現象と連関しているのかについて理解する。その際、とくにヨーロッパや西洋世界の事象に目を向けながらも、それが同時代において、日本を含めた世界の他地域の出来事とどのように結びついていたかに関してもまた考察を深める。そうしたヨーロッパと世界の関係から世界史を考える作業を通して、グローバル化が進む現代の私たちの社会・地域・世界において、過去とどう向き合い、現在の立ち位置をどのように理解し、捉え直すことができるのかについて、歴史的に考える視点や知見を学ぶ。	
		キャリアデザイン（GLA）	キャリアデザインとは、外部環境（国際経済・社会、技術革新）や労働環境（新卒・転職・起業）を理解したうえで、大学進学後の進路（ゴール）とその道筋（パス）を考えていく授業である。グローバルな舞台でグローバル・リベラルアーツ学部での学びを活かすにはどのような仕事があるのか。多国籍の人々が集まる組織ではどのような英語力が求められるのか。外国人と一緒に仕事をするために必要なことは何か。仕事と家庭・子育てをどう両立させるのか。おカネとどう向き合えばいいのか。講義やグループディスカッションを通して「人生100年時代」を見据えた仕事と人生について考えるとともに、グローバル人材としての資質も身に付けていく。外国人と英語で仕事をするための準備講座という性格上、授業は英語と日本語を併用する。	
		アドベンチャーコミュニケーションプログラム（GLA）	アドベンチャーコミュニケーションプログラムは協力が求められる身体活動やコミュニケーションアクティビティ、課題解決・意志決定を促す活動で構成され、グランドアクティビティやローエレメント(1)、ハイエレメント(2)などユニークな活動を体験する。これらはグループ活動が用いられ、グループの状態によって活動内容が異なる。それらの体験学習を通し、学びのプロセスを身に付け、お互いを認め、尊重し合うこと、柔軟な心でコミュニケーションができること、チャレンジの大切さを学ぶことを目標としている。 (1)ローエレメント：比較的地面に近い位置に設置されたロープスコース（人が互いに支え合い安全を確保する） (2)ハイエレメント：地上から高い位置に設置されたロープスコース（参加者が命綱（ビレイ）を使ったシステムで安全を確保する）	
		グローバル・キャリア	私たちはグローバル社会ではマイノリティーな存在である。そのマイノリティーがマジョリティーや、他のマイノリティーと組んで仕事をする時代に完璧な経営手法や唯一の組織論は存在しない。正解のないこのような状況において、自分らしいキャリアを確立するために、どのような資質や態度、考え方が必要なのか。この講義では、グローバル化する社会で自分のキャリアを確立し、世界にインパクトを与えているプロフェッショナルたちの事例から、自己流のキャリアを確立するための思考や態度を、講義やグループディスカッションを通じて学んでいく。また、現在の自分と彼等の比較を通じて、自己を客観視する力を身に付けるとともに、自身が描く卒業後のグローバル・キャリア像に対する課題を抽出し、アクションプランを立てることで、3年次後期の長期海外留学での実践に繋げていく。講義は英語と日本語を併用する。	
基 礎 教 養 科 目	A 群	歴史学Ⅰ	現代社会に地球市民として生きる私たちは、日本と世界の関わりがいかにあったかを常に意識し、理解することが求められる。それは、ビジネスを始めとする多くの場面においてコミュニケーションを図る上で最も重要な知識の一つである。本講義では、その一助となるために、近代日本の出発点となった明治維新史を世界史（国際関係史）の中に位置づけながら、国内政治史に留意しつつ様々な外交事象から詳解する。研究史や最新の研究動向にも言及するが、日本史の知識が十分でない受講生のために、歴史用語等の説明も十分に行う。	
		歴史学Ⅱ	高校までの日本史のイメージは、知識の供給＝暗記科目であろう。しかし歴史学の本質は、史料から過去の人間生活を探ることである。この講義では、鎌倉時代から江戸時代までの特色的な事項を対象として、過去の人間生活を再現することを目的とする。鎌倉時代以降になると、庶民の生活を知ることができる史料が残されており、人々がどのように生きていたのかわかるようになる。特に江戸時代は、我々の生活に直結するような暮らし方もされ、今日残る地名などからも歴史の手がかりを得ることができる。このような時代を、様々な史料から再現してみたい。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教養科目	A 群	哲学Ⅰ	哲学は、人間や世界についての根本的な問いを探究する営みとして古代ギリシアで始まり、そこから諸学問をも生み出してきた、およそ理性を用いた学問的営みの根幹となるものである。この授業では、哲学史の大きな流れを踏まえつつ、哲学的営みとはどのようなものであり、一般的な学問（科学）や宗教、芸術などの営みとどのように似て非なるものなのか、また哲学史上の主要な問いと探究方法はどのようなものか、先行する思想がどのように批判的に継承され新たな思想潮流を生み出したかなどの史的事例を通じて、哲学的営みの意義と価値を学ぶ。	
		哲学Ⅱ	この授業では、哲学史に大きな影響を与え思想潮流として範型を為してきた特定の哲学者や思想史上のテーマをめぐって講義し、その思想的営みの歴史的意味や重要な概念を学ぶと同時に、現代の我々も共有しうる思想的な普遍性について議論したい。これらを通じて、哲学することの生活上の意義や、現代に生きる我々が過去の哲学・思想から学ぶことの意義を考察する。	
		倫理学Ⅰ	生と死——これは、人間の、そして倫理の究極テーマである。この授業では日本の倫理思想を取り上げ、近現代から近世へとさかのぼり、先人たちがつかみ取ってきた生と死をめぐる真理の一端に内側から触れることを目指す。いまを生きる受講者が、真に人間らしく生き抜くことを問い続ける力を養う。	
		倫理学Ⅱ	ひととひとがかかわり合うとき、言葉と言葉が交差し、これにより意味が生まれたり、取り換えられたりする。言葉ひとつで、倫理はそのあり様を変えられてしまう。この講義では、言語と倫理の関係を、具体的に感じ取りつつ、考察する。倫理形成の基盤たる言語の働きに習熟することにより、様々な状況を比較総合し、おのれの倫理的立ち位置を自覚し表現できるようになることを目指す。	
		宗教学Ⅰ	現在地球上で大半の人々が何らかの宗教を信じている。したがって、今後国際社会で活躍しようとするならば、様々な宗教を信じる人々と交流していくことが要求される。宗教は文化の重要な構成要素であることが多く、異文化を理解するためにはそれぞれの宗教を学ぶことが不可欠である。本授業では、宗教を理解するための宗教学について講義する。	
		宗教学Ⅱ	この授業では、世界最大級の信仰共同体を構成する唯一神信仰（ユダヤ教、キリスト教、イスラーム）の諸特徴を宗教学的知見により解説する。世界32億人の人生観の基礎となる唯一神信仰の世界観を基礎概念より正確に理解することで、国際人としての教養を増やすことを目的とする。同時に日本人が無意識に持っている信仰感覚を顕在化することで、宗教色の強い世界における自分たちの立ち位置や意思表示のあり方を検討していく。	
		文学Ⅰ	世界の文学作品を通じて、異なる時代や地域に生きる人々の考え方や感じ方を探り、当該時代の生活や社会状況を知ることは、異文化を理解するための有効な手段である。そこでこの授業では、世界の様々な文学作品を鑑賞・分析し、それぞれの時代と地域の文学の特性を考察するとともに、文学作品からさまざまな世界観・価値観や問題意識を読み取っていく。（目的と授業方法は文学Ⅱと同じだが、扱う作家・作品・講義資料等は異なるため、重複して履修することが可能である。）	
		文学Ⅱ	世界の文学作品を通じて、異なる時代や地域に生きる人々の考え方や感じ方を探り、当該時代の生活や社会状況を知ることは、異文化理解のための有効な手段である。そこでこの授業では、世界の様々な文学作品を鑑賞・分析し、それぞれの時代と地域の文学の特性を考察するとともに、文学作品からさまざまな世界観・価値観や問題意識を読み取っていく。（目的と授業方法は文学Ⅰと同じだが、扱う作家・作品・講義資料等は異なるため、重複して履修することが可能である。）	
		美術史Ⅰ	インドにはじまる東洋諸地域（南アジア、東南アジア、中央アジア、東アジアただし日本を除く）の仏教美術について概説する。各地域の仏教美術の代表的作例、世界遺産等を取りあげ、その伝播と変遷の様相について理解を深めることを目的とする。	
		美術史Ⅱ	日本の仏教美術について概説する。飛鳥時代から鎌倉時代にいたる仏像彫刻の代表的作例、国宝等を取りあげ、同時代の東アジア仏教とその美術の様相に言及しつつ、日本の仏教美術の展開について理解を深めることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 教養 科目	A 群	言語学Ⅰ	人間の「ことば」について考える入門の授業である。その機能と構造はもちろんのこと、人間の認知能力とのかかわりや、社会、文化といった言語外との関係をも視野に入れた広い立場から考察していく。ただし、あくまでも身近な具体的事例を分析することを重んじる。すべての事柄をまんべんなく取り上げるのではなく、いくつかのトピックを取り上げる方式で授業を進める。ことばの研究がふつうに考えられているより広い地平へと通じていることを知ることもこの授業の目標の一つである。	
		言語学Ⅱ	「ことばの意味」について考える入門の授業である。ことばの意味とは何か、ことばの意味の構造はどのようなになっているかを、あくまでも身近な具体的事例を分析しながら考えていく。人間の認知能力との関わりや、社会、文化といった言語外との関係をも視野に入れた広い立場から考察していきたいと思う。すべての事柄をまんべんなく取り上げるのではなく、いくつかのトピックを取り上げる方式で授業を進める。ことばの研究がふつうに考えられているより広い地平へと通じていることを知ることもこの授業の目標の一つである。	
		心理学Ⅰ	人間を一種の情報処理システムとみなす認知心理学の観点から、主として環境から受け取った情報の処理、すなわち環境の認知の過程について概観する予定である。それにより、認知心理学の基本的知識を学ぶとともに、心理学の科学的性格を理解することを目指す。	
		心理学Ⅱ	社会の中で生きる人間の心理過程を扱う社会心理学の中で、主として帰属過程に関する領域について概観する予定である。それにより、社会心理学の基本的知識を学ぶとともに、心理学の科学的性格を理解することを目指す。	
		教育学	教育の理念、歴史、教育論、教育法等を学び、教育の重要性の理解、教職への使命感の高揚、教師としての基本的資質の修得を目指すとともに、現在の教育課題への理解を深め、教員として自主的・自律的に資質・能力向上を図る態度を養うことを目的とする。	
		社会学Ⅰ	社会学が扱うのは「社会=人と人との関わり」で、家族、教育、労働、宗教、経済、政治、犯罪など、私たちを取り巻く身近な環境にあるものすべてである。社会学は、このような人間に関する現象や人間生活のしくみ（制度）を観察し、分析し、理解することによって、現代がどのような社会なのかを明らかにしようとする学問である。本講義では、日常の身近な例を取り上げ、個人のパーソナリティや社会的行為に注目する「個人から社会へのアプローチ」と個人間の「相互作用から社会へのアプローチ」から社会のしくみを読み解き、社会学的な思考や考え方を学んでいく。	
		社会学Ⅱ	社会学の定義、根本概念、諸分野および社会学の歴史などの基礎知識を勉強させ、具体的な事例に基づいて人間、社会、社会学を理解してもらうことがこの授業の目的である。本講義では、自分の身の回りからより広い社会へと視野を広げ、背景にある社会構造の視点（社会から個人へのアプローチ）から現代社会のさまざまな現象や社会問題（例えば、学校教育、宗教、少子高齢化、格差と不平等、グローバル化、社会的ジレンマなど）について考えていく。	
		法学Ⅰ	法学の基本的な知識を得ることを目的とする。法学とは実際に社会で通用している「法律」を対象とする学問なので、社会に対して目を向け、そこから敏感に何かを感じ取るという姿勢が大切になる。そこで、本講義においては、具体的な模擬的事案を用いて、その事案の中に存在する法について学んでいくという手法を採る。進行状況によっては、テキスト内容とは別に時事問題について取り上げることもある。	
		法学Ⅱ	法学の基本的な知識を前提にして特に「判例」に着目して勉強を進める。判例には、裁判所に持ち込まれた争いを法律を用いて解決した際に下された判断について、結論に行き着いた理由や考え方が書かれている。そのため、判例は法と社会の関係や法についての考え方を学ぶ絶好の教材でもある。判例を通じてさまざまな法の基本原理を学びとっていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教養科目	A 群	憲法Ⅰ	憲法 Constitution の意義を理解することが最大の課題。特に憲法による人権保障の意義を理解することを目指す。果たして憲法は、他の法律同様、その時々多数派の意向に添って容易に改正されるべきものなのだろうか。近代憲法の原型をなすフランス人権宣言によれば、「権利の保障と権力の分立が確立されていない所に憲法はない」。それ以後、憲法には権利の保障を定める部分（人権論）と国家機関の種類と権限を定める部分（統治機構論）の二つの部分が不可欠とされてきた。したがって、人権と国家（機関）が憲法を考える場合の2大テーマとなる。いずれが欠けても憲法全体を学んだことにはならないのである。本講義では、このうち「人権」に焦点を当て、近代憲法にとってなぜこれが重要なのか、憲法がなぜ他の法令に優越した国家の「最高法規」としての地位をもつのか、その理由を考える。	
		憲法Ⅱ	憲法という「法律」は他の法令と少し違ったところがある。一言でいえば、憲法が立法者を決め、その作る法律に正統性を与えるものだからである。つまり、何が正統な「立法権者」であるかを決めているのが憲法なのである。もちろん、拘束力をもった判決を下す権限をだれがもつのかを決めているのも憲法であり、法的に言えば、そうした諸権限の総体、連鎖が「国家」であり、憲法なしに国家は存在しえない。具体的には、人権保障原理と並んで近代憲法の基本前提とされる「権力分立原理」とはどういうものか、日本国憲法においてはどのように実現されているか（あるいはされていないか）を見ていく。	
		政治学Ⅰ	選挙権年齢が引き下げられ、大学生であれば誰でも選挙に参加できるようになった。にもかかわらず、多くの学生が政治は難しいとか分からないという。それは日本の教育体制（これも政治の一環であるはず）に問題があるからではないか。教育の現場では遠ざけられてきたが、実は「政治は面白い」ものであり、完全に政治から距離をとることなどできないことを実感できるようにすることを目指す。本講では、主に現在から過去を振り返る視点に立ち、具体的な問題や事例を取り上げながら、国内政治の面白さと重要性に気づけるように配慮していく。	
		政治学Ⅱ	政治学Ⅰに引き続き、「政治は面白い」ものであり、完全に政治から距離をとることなどできないことを実感できるようにすることを目指す。本講では、主に現在から将来に向かう視点に立ち、具体的な問題や事例を取り上げながら、国際政治の面白さと重要性に気づけるように配慮していく。	
		経済学Ⅰ	経済学Ⅰでは、人々の意思決定や市場の機能について理解することを目指す。具体的には、市場経済における様々な品物（財・サービス）の価格や取引量の決まり方、市場が社会に果たす役割とその限界、そして市場を補う政府の役割について考える。	
		経済学Ⅱ	経済学Ⅱでは、国・地域全体の経済の仕組みや動きを理解することを目指す。具体的には、国内総生産の決まり方や、各種経済指標の読み方、金融・貨幣の果たす役割、そして経済の安定化を図る組織である中央銀行の機能などについて学ぶ。	
		経営学Ⅰ	この科目では、経営学の基礎を、人と組織の観点から学ぶ。また、経営を遠い世界のものとせず、グループ学習や課外活動の場でしばしば発揮が求められることへの気づきを得て“自分ごと化”するよき機会となる。	
		経営学Ⅱ	この科目では、経営学の基礎を、戦略の観点から学ぶ。また、経営を遠い世界のものとせず、グループ学習や課外活動の場でしばしば発揮が求められることへの気づきを得て“自分ごと化”するよき機会となる。	
		統計学Ⅰ	昨今、私たちのまわりには莫大なデータが溢れている。将来、グローバルな視点から仕事を進めていくためには、こうしたビッグデータを収集し、要約し、分析し、意思決定に重要なエビデンスを創出するスキルを身に付けておくことも必要である。基本的な統計学の考え方や手法を学ぶことにより、上述したエビデンス創出までの一連の手順を習得することができる。統計学Ⅰでは、はじめに統計学とは何かについて触れ、その後、データのまとめ方やまとめられたデータの解釈の仕方を身に付ける。さらに確率変数および確率分布の概念を学び、データの解釈から意志決定までの流れを理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教養科目	A 群	統計学Ⅱ	昨今、私たちのまわりには莫大なデータが溢れている。将来、グローバルな視点から仕事を進めていくためには、こうしたビッグデータを収集し、要約し、分析し、意思決定に重要なエビデンスを創出するスキルを身に付けておくことも必要である。統計学Ⅰは概念の理解を中心とした授業であるのに対し、統計学Ⅱでは実際に統計処理ソフトウェア(SPSS)を利用して、エビデンス創出までの一連の手順を習得する。はじめに、具体的な例題を用いてデータを整理する方法を身に付ける。その後、統計的推測の方法をいくつかのデータに応用し、根拠に基づく客観的な判断であるエビデンスの創出の仕方について習得する。	
		化学Ⅰ	『化学』という元素記号や反応式を思い出して、嫌だなと思う方もいることだろう。化学は物質の性質や反応を解き明かしていく学問である。最近、物質はこの宇宙を構成している要素のたった4%程度しかないということがわかってきたが、それでも私たちのまわりは物質であふれている。自然現象や日常生活の中にも化学はたくさん潜んでいるので、前期の授業では身近な物質や現象の中にある化学の基礎を解説していく。原子の構造や化学結合、溶液の濃度、pHなど化学の基礎が理解できることを目指す。	
		化学Ⅱ	化学Ⅰに引き続き、身近な物質や現象の中の化学を解説していく。身近な物質から宇宙にまで目を向け、生活や環境の中で、化学物質がどのような働きをしているかなど、化学の応用も理解できるようになることを目指す。	
		物理学Ⅰ	ミクロとマクロをテーマに19世紀までの近代物理学を文系的視点と生活者の立場で学び、生きる力を身につける。難しい数式を使わずに身近な事柄を通して自然科学を学び、論理的洞察などの科学的思考力を養い、非言語能力(図や記号、数字を読み解く力)としての数学のセンスも磨く。身に付けたことは就職でのSPI対策や留学のTOEFL対策にもなるのはもちろんのこと、自然を見る目が変わり、世界が今までと違って見えてくる。	
		物理学Ⅱ	時間と空間と確率をテーマに20世紀に明らかになった現代物理学を難しい数学を使わずに文系の視点から学ぶ。SPI対策や留学のTOEFL対策になることはもちろんのこと、時間と空間の科学は私たちの世界観を豊かにし、偶然に支配され観測にも依存する物質たちの挙動を知ると、物質にも生命の源を見いだすであろう。時間とは何だろうか？人の運命は決まっているのか？エネルギーって一体何だろうか？生命とは？授業の中で今まで知らなかった新しい発見がある。	
		生物学Ⅰ	人文系の学生でも「生物としての人間」という視点を持つことは重要である。どのような職業に就こうと、ヒトは生涯のうちにほぼ必ず病気をし、老いる。若いうちに生物学の知識を身につけておけば、自分と家族の健康を守るために必ず役に立つ。この講義では人体各器官の構造とはたらきについて学び、次いで細胞の構造と機能、特にエネルギーの獲得方法などについて理解を深めることを目的としている。演劇や朗読劇を取り入れて、理系科目が苦手な学生にも分かりやすく代謝などについて学ぶ。実利的な面以外にも、「私の身体は(細胞は)こんなすごいことを毎日やっていたのか!」と気付いてもらえればうれしい。講義時間外に、国立科学博物館自然教育園の見学により、生物相互の関係についても体験的に学ぶ。	
		生物学Ⅱ	遺伝、遺伝子、DNA、クローン、発癌性物質、などの用語を目にする機会は多い。しかしその実体を知らなければ、ニュースや記事を目にしても理解できず、例えば遺伝子組み換え大豆を使った食品を食べて良いかどうか、遺伝子診断を受けるかどうか、放射線をどの程度恐れるべきか、意志決定することも難しいのではないだろうか。この講義では生物の設計図である遺伝子とその働きについて、演劇ワークショップを取り入れつつ体験的に学ぶ。遺伝子のもつ情報によりタンパク質ができていくまでの精妙なしくみに、「私の細胞ってこんなすごいしかけを持っていたんだ!」と気付いてもらえればうれしい。放射線が遺伝子に与える影響や、細胞が癌化を防ぐしくみ、真核生物の進化についても解説する予定である。講義時間外に、国立科学博物館自然教育園の見学により、生物相互の関係について体験的に学ぶ。	
		自然科学概論Ⅰ	私たちにとって一番身近な「自然科学」である「医学・医療」をテーマにして、科学の発展と人間や社会との関係について考える。脳死・生体臓器移植、遺伝子医療、終末期医療、生殖補助医療、脳科学研究と精神疾患の倫理、再生医療の倫理などを題材として、受講生の皆さんの興味・関心を取り入れながら双方向の授業を展開する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教養科目	A 群	自然科学概論Ⅱ	私たちの身の回りは「自然科学」の産物で囲まれている。自動車もそうであり、携帯電話もそうある。この授業では「自然科学」とは何なのか、私たちの生活とどのように関わるのか、私たちが現代社会を生きる上で必要な科学の知識とはどういったものかを学習する。	
	B 群	数的思考法	本科目では、あらゆる場面で必要となる「数字を用いて物事を捉え、考える」ための手法を身につける。自然現象、心的現象及び社会的現象を適切に把握し、課題解決に向かうためには、様々な現象を数的に把握する能力が求められる。本科目では、ものごとの大きさ、変化、散らばり、要素間の関係、偶然性などを数的に「測る」と「比べる」ことに焦点をあて、様々な現象を数字を用いて説明できるような能力を身につけることを目指す。	
		デジタル・シチズンシップ論	本科目では、情報社会を生きる人間として不可欠な、情報を適切に創出・発信・受信するための知識、手法、態度及び価値観を身につける。インターネットを基盤とした現代の情報社会においては、アクセスできる情報を受容するだけでは与えられる情報に振り回されるリスクが増大し、適切な判断ができない可能性がある。本科目では、現在のICT環境において情報が創出・発信・加工・受信される過程を理解するとともに、それらを担う人間として身につけるべき手法、態度及び価値観を修得することを目指す。	
		データ・サイエンス概論	本科目では、適切な方法に基づいたデータ収集、整理、分析及び可視化に関する手法につけ、実際のデータを用いて統計学的に分析するプロセスについて学ぶ。データに基づいた議論及び意思決定のためには、適切な手法によって処理されたデータと分析目的に適合した統計学的手法を用いることが求められる。本科目では、社会において活用されている様々なデータの役割を理解するとともに、性質や形態の異なるデータからデータセットを作成し、統計分析をおこない、結果を可視化するための適切な手法を身につけることを目指す。	
		コンピュータ・サイエンス概論	本科目では、パソコンやスマートフォン等のデバイスを問わず、広くコンピュータと呼ばれるものが、どのように動き、なにをしているのかについての基本的な知識と考え方について身につける。私たちの生活はスマートフォンをはじめ数多くのICTによって支えられているが、これらのICTがどのようにして動き、なにをしているのかについて理解している人は少ない。本科目では、私たちの生活基盤となっているコンピュータが動くしくみを理解し、これからの社会においてコンピュータと適切に向き合うための考え方を身につけることを目指す。	
		ビッグデータ解析論	本科目では、ビッグデータと呼ばれる大規模データセットを用いた機械学習の手法を身につけるとともに、人工知能（AI）のしくみと適切な活用方法について学ぶ。コンピュータの処理能力拡大に伴い、各種の行動データや履歴等のビッグデータを分析し、課題解決やイノベーションの創出に活用する機会が増大している。本科目では、ビッグデータを利用した機械学習の概要を理解した上で、ビッグデータ解析の手法を身につけるとともに、人工知能（AI）と呼ばれるものがどのような動きをしているのかに関する知識の修得を目指す。	
		エビデンスと評価	本科目では、エビデンス（信頼性の高いデータ）に基づいた資料の読み方と意思決定の方法を身につけるとともに、適切な調査及び分析手法によるエビデンス作成の手法について学ぶ。具体的な方策や実践が課題解決に効果的であったかを判断するためには、適切に設計された調査と統計的な分析手法を用いる必要がある。本科目では、エビデンスに基づいた評価の全体像を理解するとともに、各種の資料をエビデンスの観点から吟味するための手法を修得することを目指す。	
専門教養科目	Humanities（人間と文化）	宗教文化論Ⅰ	この授業では、ヒンズー教、仏教、儒教、神道などの宗教文化を取り上げて、その思想と文化の基本的な概念と歴史を学び、宗教的・伝統的な世界観・倫理観の固有性と普遍性について考えることを通じて、実際に宗教文化に接触した際の適切な態度と、現代社会における宗教の問題や宗教の可能性について積極的に関心をもち考える態度を育成する。	
		宗教文化論Ⅱ	この授業では、「アブラハムの宗教」と呼ばれる三つの宗教（ユダヤ教、キリスト教、イスラーム）の宗教文化を取り上げて、その思想と文化の基本的な概念と歴史を学び、宗教的・伝統的な世界観・倫理観の固有性と普遍性について考えることを通じて、実際に宗教文化に接触した際の適切な態度と、現代社会における宗教の問題や宗教の可能性について積極的に関心をもち考える態度を育成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教養科目	H u m a n i t i e s (人間と文化)	芸術文化論Ⅰ	この授業では、芸術文化の伝統と革新をテーマに講義を行う。西洋近代の文化的所産である芸術概念から、いち早くグローバル化した現代芸術やエスニックアートまで幅広く取り上げて、芸術の伝統と革新について学ぶ。同時に文化の他の側面（宗教、思想、政治など）との歴史的な関係をも学ぶことを通じて芸術文化に対する理解を深め、芸術文化が人間の生にとってもつ意義や、社会に与える影響など様々な可能性を考察する。	
		芸術文化論Ⅱ	この授業では、日本文化における芸術と美意識をテーマに講義を行う。本講義の目的は二つある。ひとつは、学生の芸術文化への感受性を養うこと、もうひとつは、感じた文化性を適切な言葉で論じる思考力を磨くこと、である。ここでいう芸術文化とは、絵画や彫像に代表される狭義の芸術に限らない。歌・能・狂言・茶・花・香・浄瑠璃・歌舞伎・落語といった「道」の古典芸能、あるいはアニメーション・アイドルなど現代サブカルチャーの素材、さらには世捨て人・教寄人・武士などが抱いた特有の生き方の理念をも含む、きわめて豊かな概念である。善／悪、美／醜といった既定の価値観にとらわれることなくこれを吟味することで、批判・批評の作法を学ぶ。具体的には、九鬼周造、和辻哲郎など近代の文化論の着眼点を踏まえつつ、そこからこぼれ落ちたものも含め、日本の芸術文化を根源的かつ総合的に論じる自身なりの視角を構築させる。	
		人間と文学	世界の神話、詩、戯曲、小説など様々なジャンルの文学作品をとりあげ、言語芸術の多様性に触れる。文学に触れる体験は、日常生活のための利便を超えた言葉の可能性に気づかされる体験でもある。言葉の美的（感性的）効果や作品世界を作り出す力の価値を考えたい。さらに、個々の文学作品に映し出される文化的背景や固有の社会状況、および時代を越えた普遍的な問題意識について学ぶことを通じて、人間の生と社会における文学の存在意義や文化的可能性を考察する。	
		人間と思想	人間は、生き方や信念、目的意識を支える基本的な思想を文化背景としてもっており、その意味で、思想は生の基礎となる文化である。また思想は、歴史的に蓄積された思想史と、歴史を批判してその上に積み重なる新たな思想運動によって成り立つ。そこでこの科目では思想史と現代的課題の双方を視野に入れつつ、世界の様々な思想をその歴史的・社会的背景とともに学び、各思想文化の固有性と、それが世界の文脈においてどのような普遍的価値を持ちうるかを考察する。	
		世界近現代史	この授業では、近現代の世界の様々な動きや事象に関しての主な歴史的史料、そして歴史研究の知見と成果に触れながら、過去の出来事がどのような過程を経て、今日までの歴史的な叙述や語り、また歴史をめぐる解釈と議論を形成してきたかについて理解する。そのなかで、世界の歴史をとりまく史料と歴史家の営み、さらにはそれらと一般の歴史認識との関係について、具体的事例とともに理解を深める。そうした講義、また受講者間の議論を通じて、多様な歴史観や歴史解釈に対して、それらを相対化し、批判的に考察する思考を学ぶとともに、現代の私たちの世界が置かれた状況について、歴史的な文脈のなかで捉えることのできる感覚や視座を身につける。	
		文化人類学	文化人類学は地球上の多様な地域の人々の異なる価値観やアイデンティティが多様な形で構築されていることを探る学問である。この授業では、多様な社会の文化を比較考察していく。特に、アイデンティティ形成が、ジェンダーを通じて多様に構築されていることを検証していく。具体的には、ミクロネシア、ニューギニア、北アフリカ、アメリカ、日本などにおけるアイデンティティやジェンダーを扱う。異文化の固有性と同時に普遍性を理解するための初歩的文化人類学的理解や視点も紹介していく。	
	S (社会と共生)	共生社会論	人々はこれまでも、自然環境を加工するとともに、自分とは異なる思想や文化を持った人々＝他者と共存することによって生活してきた。しかし現代では、テクノロジーの進展によるリスクの増大や他者との遭遇可能性の高まりにともない、自然や他者との「共生」をより意識せざるを得ない。本講義では、現代において共生について考える意義や共生という理念を学ぶとともに、それが自分たちの生活とも深くつながっていることを理解するための視点や方法を身につける。	
		社会と多様性Ⅰ	この授業では、人権、平等、差別の問題を考える。現代社会においては、人種・民族、エスニシティ、宗教、ジェンダー、障がいなど、様々な側面から見たマイノリティの問題が課題となっている。マイノリティに対する差別撤廃を求めて社会運動が興隆した歴史も踏まえつつ、教員による講義だけでなく、実際の事例を取り上げて議論を行い、共生社会における市民のあり方について考える。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教養 科目	S o c i e t i e s (社会と共生)	社会と多様性Ⅱ	グローバル化が進んだ現代社会では、人・モノ・情報が国境を越えて移動するために、文化的、宗教的、政治的な対立や葛藤が顕在化しやすい。そのような社会において、価値観や思想の異なる社会集団が共生していくためにはどのようにすればよいのだろうか。本講義では特に現代日本における貧困層や移民の問題に焦点を当てて、教育制度や社会保障制度の現状と課題を明らかにし、多様な人々が暮らしやすい社会をどのように構想することができるのかについて考える。	
		社会とサステナビリティ	持続可能なローカルコミュニティとは何か。都市と地方、地域振興、観光、災害・防災など「住み続けられるまちづくり」(SDGs11)、について考える。日本は全国的に急速な人口減少に直面している。このなかで、多くの地方自治体が消滅の危機にある。この状況下で、サステナビリティをどのように考えていけるのか。世界の先進各国で採用されている高齢化社会化と人口減少への対処策は、移民の受け入れによる人口構造と経済活動の維持である。他方で、いま日本の地方自治体における一部の村落では、閉鎖に向けた準備を始めてもいる。日本での外国人労働者の受け入れはどの程度効果をあげるのか。今後の日本社会はどうなっていくのか。各国の移民政策・人口政策を参照しつつ、考察する。	
		現代社会とイノベーション	本科目では、人間社会と技術の相互関係に着目し、技術の発展及び変化が社会システムと人々の生活にどのような変容をもたらしてきたのかについて、歴史的な視点を踏まえながら考察する。さらに、高度な情報技術の進展と社会システムとの相互作用が現代社会においてどのように進展し、将来においていかなる変容をもたらしうるのかについて、リアルタイムに生じる事例による検討をつうじて、これらの可能性と問題点について客観的に分析する能力を身につけることを目指す。	
		言語・文化とコミュニケーション	この授業は英語で行われ、言語と文化がどのように関わりあって地域社会におけるコミュニケーションを可能にしているか、またグローバル社会において言語と文化がどのような役割を担っているかを理解することを目標とする。履修者は、文化が言語によってどのように伝達されるかについて学び、言語使用の社会的・政治的な側面について追究する。それによって履修者自身の文化的・社会的背景を理解し、異なる地域社会の人々とどのようにコミュニケーションを図るべきか理解を深める。履修者は興味のあるトピックについて個人ワークやグループ・プロジェクトを通じて調べ、プレゼンテーションとレポートによって結果をまとめる。	
		デジタル・メディアと社会	この授業ではデジタル・メディアを入り口に現代社会について学ぶ。メディア論、歴史社会学、情報社会論など複数のディシプリンに基づいてデジタル・メディアのあり方を検討する。メディア理論と実践の両側面から現代社会の可能性とリスクを理解し、自らの問題意識を養うことを目指す。具体的な学習目標は下記である。 1. デジタル・メディアに関するメディア論および社会情報学の論点を体系的に理解する。 2. デジタル・メディアとインターネットに関する様々な社会現象の意味を、理論と実践の両側面で的確に把握できる。	
		異文化コミュニケーション論	異文化へのイメージ、ステレオタイプ、また、その使い方の意味を読み取り、分析、理解する。この授業ではアメリカ、ヨーロッパ、アジア、日本の映画等を観ながら、話を進める。ここで扱う異文化の問題とは、異なるエスニシティに関わるだけではなく、少数集団やジェンダーの問題等を含めた広い意味で捉えることができる。私たちが意識的・無意識的に持っている異文化に対するイメージがどのように作られてきたか、またどのように人々に共有されているのかを見つめ直すことによって、異文化への新たな理解の第一歩を目指す。	
		グローバル・ガバナンスⅠ	「世界政府なきグローバル社会の統治」といわれるグローバル・ガバナンスとは何か。その思想、理念、制度やしくみについて概観する。グローバル化の進展に伴い、国境を越えたグローバルな課題に対処するためにどのようなしくみがあるのか。この授業ではグローバル・ガバナンスの思想・理念を紹介した後、グローバル・ガバナンスを担うアクター（国際機構・機関、地域機構・機関、国家・政府、企業、市民社会組織など）、規範・法、制度（レジーム）を紹介する。今日のグローバル課題に対処するには、様々なアクターがグローバル、リージョナル、ローカルなレベルで複合的なネットワークをつくり、協働して諸課題に取り組んでいる。また学生がグローバル・ガバナンスの担い手として何ができるのかについても考える機会とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教養科目	Global Studies (グローバル・スタディーズ)	グローバル・ガバナンスⅡ	この授業では、グローバル・ガバナンスの実践と課題について学ぶことを目標とする。グローバル・レベルで取り組むべき課題、すなわちグローバル・イシューにはどのようなものがあるか。グローバル社会が目指すべき世界とはどのようなものか。このような問いを通じて、国連が定めた「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」をはじめ、気候変動、人身売買、人権・平等、ジェンダーなどの課題を例にとりあげ、国際機関、政府及び市民社会等の様々な視点から、グローバル・ガバナンスの実践とその課題について理解することを目的とする。	
		地域とグローバル世界Ⅰ	本講義では、グローバル・パワーとなったアジアの大国、中国と世界との関わりについて考える。中国の台頭は、米国を中心とする戦後世界秩序に多大なインパクトを与えている。「中華民族の偉大なる復興」を掲げる習近平政権は、「一帯一路」政策のもと世界に進出し、それを警戒する米国との対立が深まっている。本講義は、こうした世界規模での地政学的変化を考察し、政治、経済、社会、文化、外交、安全保障など、様々な領域で複雑に絡み合うグローバル社会のダイナミズムへの理解を深めることを目指す。	
		地域とグローバル世界Ⅱ	本講義では、地域から見たグローバル世界との関わり、地域での国際関係や地域機構について、EU（欧州連合）の事例について学ぶ。EUが成立するに至る歴史を踏まえ、地域統合体として現在実施している諸政策や対外関係について理解する。その上で、EUをめぐる諸問題（ユーロ危機、移民・難民問題、英国の離脱等）に関して、これらの問題の諸要因を多角的に考察し、現状を広い視野から把握することを目的とする。現在の欧州が抱える政治・経済・社会の複雑な様相を総合的に理解することにつなげる。	
		グローバル平和論	21世紀のグローバル時代の平和とは何か。平和学からみれば消極的平和(negative peace)から積極的平和(positive peace)までを対象とする。国際関係学からみれば、リアリストの平和(realist peace)・国家の安全保障(national security)、リベラリストの平和(liberalist peace)・国際社会の安全保障(international security)、そしてグローバルリストの平和(globalist peace)・人間の安全保障(human security)などの平和と安全保障を対象とする。このような平和を幅広くとらえ、平和の思想・概念、理論、そして軍事・紛争、核兵器、人権、貧困・格差、環境など、様々な分野における平和の実践例や課題をとりあげる。	
		国際法	世界には190カ国以上の国々があるが、国際社会で各国が平和的かつ安全に暮らすためには国際社会独自のルールである国際法を知る必要がある。主権国家が生まれた17世紀のウェストファリア体制から現代に至る国際法の歴史をおさらいし、現代国際法学の分野のなかで、紛争、軍縮、経済、人権、環境、労働、移民など、人々の命と暮らしに重大な影響を与える分野に関する学習に重点を置く。また国際法は国際公務員や外交官の試験においても重要科目である。	
	Global Studies (グローバル・スタディーズ)	国際機構論	20世紀から21世紀にかけての国際社会の発展の中で多くの国際機構が国際社会をつなぐ役割を果たし、国際協力の担い手となっている。第一次世界大戦後に作られた国際連盟に続き、第二次世界大戦後に創設された国際連合（国連）が現代の国際機構の代表格であり、様々な機関のフォーラムとなってグローバル・ガバナンスを支えている。国連ならびに国連教育文化機関（UNESCO）など専門機関から成る国連システムの仕組みや課題について概説する。また国連の外の世界貿易機関（WTO）などの国際機関やAU（アフリカ連合）、ASEAN（東南アジア諸国連合）などの地域機構もとりあげる。さらに、アムネスティ・インターナショナルなどの国際的な非政府組織(NGO)の果たす役割もとりあげる。国際公務員や国際協力NGO職員を目指すなら国際機構論は必須知識である。	
		国際開発論	「開発」を英語に訳すとdevelopmentであるが、developmentを辞書で引くと日本語の「開発」のほかに「成長」「発展」といった意味を含むことがわかる。すなわち、「開発」とはヒトを「成長」させ、社会を「発展」に導くものでなければならないということがわかる。そして、その目標とするところは、「生活の質（QOL）」の向上と、「住み良い社会」の構築である。なぜ世界には豊かな国と貧しい国とがあるのだろうか。また、人類は貧困問題にどのように対処してきたのだろうか。本講義では、貧困の原因を概説しながら、「開発」という概念がどのように世界では理解され実践されてきたかを解説する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	基礎演習	アカデミック日本語Ⅰ	大学で学び、研究を行うために必要な日本語能力を高め、論理的に考える力を身に付ける。主に2つの能力の向上に努める。①論理的な思考能力と②レポート作成能力である。①については、主体的に考え、客観的な根拠を示しながら自分の考えを組み立てるプロセスを実践的に学び、道筋を立てて自分の考えを説明する訓練を行う。②については、レポート作成の基礎を学び、論点を定め、自分の考えを明確にし、文章化する訓練を行う。個人的な意見にならないよう、信頼性のある証拠を裏づけとして実証する必要があるため、文献の内容を正確に読み、要点を整理し、適正な形式で文章を要約する練習も行う。最終的には「グローバル・ディスカバリー（フィールドワーク）」で学修したことを口頭で発表し、文章にまとめることを目標とする。	
		アカデミック日本語Ⅱ	2年次以降の本格的な学修・研究に向けて主に2つの能力の向上に努める。①主体的な課題設定能力と②情報収集能力である。①については、自ら問いを立て、調査・分析し、根拠を示しながら論理的に自分の主張を伝える訓練を行う。一定の論理的根拠を持って他者にも正しいと受け入れられることを目指すため、自分とは異なる意見を批判的に検討する。②については、①の課題設定において必要な情報を収集し、信頼性のある情報を選択できるようにする。そのためには、信頼できる情報を多面的に調べる必要があり、大学図書館での文献の探し方なども含め、情報収集の方法を学ぶ。収集した情報を正確に読み取り、批判的に読む練習も行う。	
	講読演習	講読(HUM) (宗教文化)	「講読(HUM:HUMANITIES)」では、文献の精読・発表・議論を通じて、学問における協働的な探究姿勢とクリティカル・リーディングの方法を実践的に学ぶ。この授業では、個々の宗教文化を生み出す源である「教典」およびそれらに関する典型的テキストや代表的研究書の講読を行う。直に「教典」や信仰の文書、信仰に関わる研究書に触れることにより、宗教の基本原則、始源的メッセージのダイナミズムを感じると同時に、グローバル世界における多様性と協働の可能性を発表と議論を通じ模索していく。	
		講読(HUM) (芸術文化)	「講読(HUM:HUMANITIES)」では、文献の精読・発表・議論を通じて、学問における協働的な探究姿勢とクリティカル・リーディングの方法を実践的に学ぶ。この授業では、日本の芸術文化に関係する古典文献を味読する。日本の芸術文化の根源は、和歌・物語に帰着する。伝統的に幾度となくリフレインされ現在にまで受け継がれている原点となっている古典作品を素材とし、一字一句揺るがせにせず精確に読み取り、含意を噛みしめ、議論を通して解釈相（層）を豊かなものに耕していくことを目指す。その際、近世以前の読書作法は主として音読であったことを考慮し、時にゆっくりと古文を音読し、言の葉の調べを耳で味わうことをも重んじる。	
		講読(HUM) (文学/思想)	「講読(HUM:HUMANITIES)」では、文献の精読・発表・議論を通じて、学問における協働的な探究姿勢とクリティカル・リーディングの方法を実践的に学ぶ。この授業では、人生や世界をめぐる問いを探究する文学や思想の文献を読み、それぞれのテキストの問いと世界観、論理とはどのようなものかといった「テキストの意味」を読み取れるようになること、読解に必要な未知の知識について自分で調べられるようになること、そして、テキストと自分の距離を測りつつ、テキストや他の出席者と問いを共有すること、さらにそこから自らの問いを立て論じることができるようになることを目指す。	
		講読(HUM) (歴史)	「講読(HUM:HUMANITIES)」では、文献の精読・発表・議論を通じて、学問における協働的な探究姿勢とクリティカル・リーディングの方法を実践的に学ぶ。本授業では、歴史研究（歴史学）に関する文献講読を行う。歴史学に関する基本的な文献を精読し、歴史研究の知識や概念を得ながら、歴史を議論する際の基本的な視座や批判的な思考について把握する。また実際の史料やその用法にも触れつつ、歴史研究における問題意識、分析・解釈の方法、史料の扱い方などについても理解を深める。以上について、受講者による発表と議論を中心に進めながら、歴史的な視点を習得するとともに、歴史研究のために必要な研究文献および史料文献の読解力を身につけることをめざす。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	講読演習	講読(SOC) (社会と多様性)	「講読(SOC : SOCIETIES)」では、文献の精読・発表・議論を通じて、学問における協働的な探究姿勢とクリティカル・リーディングの方法を実践的に学ぶ。講読「社会と多様性」では、「多様性のある社会とは何か」をテーマに、「多様性(ダイバーシティ)」をキーワードとした基本的な文献を読み、内容を理解した上で、授業内での議論を通じて多角的な視点と深い洞察力を習得することを目的とする。	
		講読(SOC) (社会とサステナビリティ)	「講読(SOC : SOCIETIES)」では、文献の精読・発表・議論を通じて、学問における協働的な探究姿勢とクリティカル・リーディングの方法を実践的に学ぶ。講読「社会とサステナビリティ」では「持続可能な社会とは何か」をテーマに、「サステナビリティ」をキーワードとした基本的な文献を読み、内容を理解した上で、授業内での議論を通じて多角的な視点と深い洞察力を習得することを目的とする。	
		講読(SOC) (現代社会とイノベーション)	「講読(SOC : SOCIETIES)」では、文献の精読・発表・議論を通じて、学問における協働的な探究姿勢とクリティカル・リーディングの方法を実践的に学ぶ。講読「現代社会とイノベーション」では、産業革命と技術革新に対する社会のあり方をテーマに、「社会とイノベーション」をキーワードとした文献を読み、内容を理解した上で、授業内での議論を通じて多角的な視点と深い洞察力を習得することを目的とする。	
		講読(SOC) (言語・文化とコミュニケーション)	「講読(SOC : SOCIETIES)」では、文献の精読・発表・議論を通じて、学問における協働的な探究姿勢とクリティカル・リーディングの方法を実践的に学ぶ。講読「言語・文化とコミュニケーション」では、言語と文化がどのようにに関わりコミュニケーションを可能にしているか、社会や政治的なコミュニケーションにおける言語の役割をめぐる文献を読み、内容を理解した上で、授業内での議論を通じて多角的な視点と深い洞察力を習得することを目的とする。	
		講読(GS) (グローバル・ガバナンス)	「講読(GS : GLOBAL STUDIES)」では、文献の精読・発表・議論を通じて、学問における協働的な探究姿勢とクリティカル・リーディングの方法を実践的に学ぶ。講読「グローバル・ガバナンス」では、グローバル社会の「ガバナンス(governance)」(統治・協治)をキーワードとした文献を読み、内容を理解した上で、授業内での議論を通じて多角的な視点と深い洞察力を習得することを目的とする。	
		講読(GS) (地域とグローバル世界)	「講読(GS : GLOBAL STUDIES)」では、文献の精読・発表・議論を通じて、学問における協働的な探究姿勢とクリティカル・リーディングの方法を実践的に学ぶ。「講読(GS) (地域とグローバル世界)」では「中国と世界」、「ヨーロッパと世界」をめぐる文献を読み、内容を理解した上で、授業内での議論を通じて多角的な視点と深い洞察力を習得することを目的とする。	
	講読演習	講読(GS) (グローバル平和論)	講読(GS : GLOBAL STUDIES)」では、文献の精読・発表・議論を通じて、学問における協働的な探究姿勢とクリティカル・リーディングの方法を実践的に学ぶ。講読「グローバル平和論」では、「戦争と平和(war and peace)」をキーワードに、平和論をめぐる文献を読み、内容を理解した上で、授業内での議論を通じて多角的な視点と深い洞察力を習得することを目的とする。	
		研究演習 I	卒業研究に向けてのステップ1となる。人間と文化(HUMANITIES)、社会と共生(SOCIETIES)、グローバル・スタディーズ(GLOBAL STUDIES)の3つの専門領域のリサーチ・メソッドを学ぶ。研究テーマを学生自らが探すための第一歩として、研究の方法論(文献精読、ケース・スタディ、比較研究等)を学ぶとともに、「平和を創る」という目的と自己の関心が一致する研究の方向性を、演習での発表と議論、および教員による個別指導を通じて考えていく。 研究演習 I は、各領域を専門とする専任教員が担当する。 人間と文化(HUM) : 植田かおり 吉田京子 上野太祐 鈴木健太 社会と共生(SOC) : Park Siwon 石井雅章 知念渉 グローバル・スタディーズ(GS) : 興梠一郎 阪田恭代 河越真帆 高橋麻奈	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
演習科目	研究演習	研究演習Ⅱ	卒業研究に向けてのステップ2となる。より具体的なテーマの探究・設定、予備リサーチ（先行研究、基礎文献、資料収集）、文献の吟味から研究計画書の策定までを行う。学生はそれまでの本学部での学びを振り返るとともに、演習での発表と質疑応答を通じて自らの研究テーマの方向を定める。教員は授業でのグループ指導と個別指導を交えてその補助を行う。3年次後期のアメリカ留学もリサーチ期間の一環として位置づける。 研究演習Ⅱは、各領域を専門とする専任教員が担当する。 人間と文化（HUM）：植田かおり 吉田京子 上野太祐 鈴木健太 社会と共生（SOC）：Park Siwon 石井雅章 知念渉 グローバル・スタディーズ（GS）：興梠一郎 阪田恭代 河越真帆 高橋麻奈	
		研究演習Ⅲ	卒業研究に向けての最後のステップとなる。アメリカ（SUNY）留学から帰国後、4年次の1年間を通して、卒業研究に取り組む。卒業研究のテーマを確定し、研究計画に基づいてリサーチを進め、中間発表を経て、論文を執筆する。教員は授業でのグループ指導と個別指導を交えて卒業研究の補助を行う。 研究演習Ⅲは、各領域を専門とする専任教員が担当する。 人間と文化（HUM）：植田かおり 吉田京子 上野太祐 鈴木健太 社会と共生（SOC）：Park Siwon 石井雅章 知念渉 グローバル・スタディーズ（GS）：興梠一郎 阪田恭代 河越真帆 高橋麻奈	
		卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）	研究演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでの学修を踏まえて、「平和のためのグローバル教養」の3領域（Humanities, Societies, Global Studies）の知識を総合的に活かして、学生自身が設定した研究テーマに沿って、最終年度の卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）を完成させる。3年次までに培ったクリティカル・シンキング、リサーチ、ライティングを実践し、研究演習Ⅲ（4年次）で担当教員の指導を受けながら、論文を執筆する。研究の成果は中間発表会ならびに最終発表会にて報告し、研究演習Ⅲの担当教員とともに複数の教員からも指導を受け、多角的な観点から評価を受ける。	

（注）

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人佐野学園 届出に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神田外語大学				神田外語大学				
外国語学部				外国語学部				
英米語学科	400	2年次	1,710	英米語学科	340	2年次	1,470	定員変更（△60）
		10				10		
		3年次				3年次		
		40				40		
アジア言語学科	168	3年次	692	アジア言語学科	196	3年次	804	定員変更（28）
		10				10		
イペロアメリカ言語学科	128	3年次	524	イペロアメリカ言語学科	128	3年次	524	
		6				6		
国際コミュニケーション学科	197	2年次	863	国際コミュニケーション学科	197	2年次	863	
		15				15		
		3年次				3年次		
		15				15		
				グローバル・リベラルアーツ学部				学部の設置(届出)
				グローバル・リベラルアーツ学科	60	-	240	
		2年次				2年次		
		25				25		
計	893	3年次	3,789	計	921	3年次	3,901	
		71				71		
神田外語大学大学院				神田外語大学大学院				
言語科学研究科				言語科学研究科				
英語学専攻（M）	8	-	16	英語学専攻（M）	8	-	16	
日本語学専攻（M）	8	-	16	日本語学専攻（M）	8	-	16	
言語科学専攻（D）	2	-	6	言語科学専攻（D）	2	-	6	
計	18		38	計	18		38	
神田外語学院				神田外語学院				
昼間部2年制課程				昼間部2年制課程				
グローバルコミュニケーション科	80	-	160	グローバルコミュニケーション科	80	-	160	
英語専攻科	560	-	1,120	英語専攻科	560	-	1,120	
留学科	140	-	280	留学科	140	-	280	
アジア／ヨーロッパ言語科	200	-	400	アジア／ヨーロッパ言語科	200	-	400	
児童英語教育科	60	-	120	児童英語教育科	60	-	120	
国際ビジネスキャリア科	120	-	240	国際ビジネスキャリア科	120	-	240	
国際観光科	60	-	120	国際観光科	60	-	120	
国際ホテル科	60	-	120	国際ホテル科	60	-	120	
国際エアライン科	140	-	280	国際エアライン科	140	-	280	
昼間部1年制課程				昼間部1年制課程				
英語基礎養成科	40	-	40	英語基礎養成科	40	-	40	
英語コミュニケーション専科	40	-	40	英語コミュニケーション専科	40	-	40	
児童英語教育専科	10	-	10	児童英語教育専科	10	-	10	
国際エアライン専科	10	-	10	国際エアライン専科	10	-	10	
計	1,520		2,940	計	1,520		2,940	

大学所在地を示す広域地図



[大学所在地]

千葉県千葉市美浜区若葉 1 - 4 - 1

交通

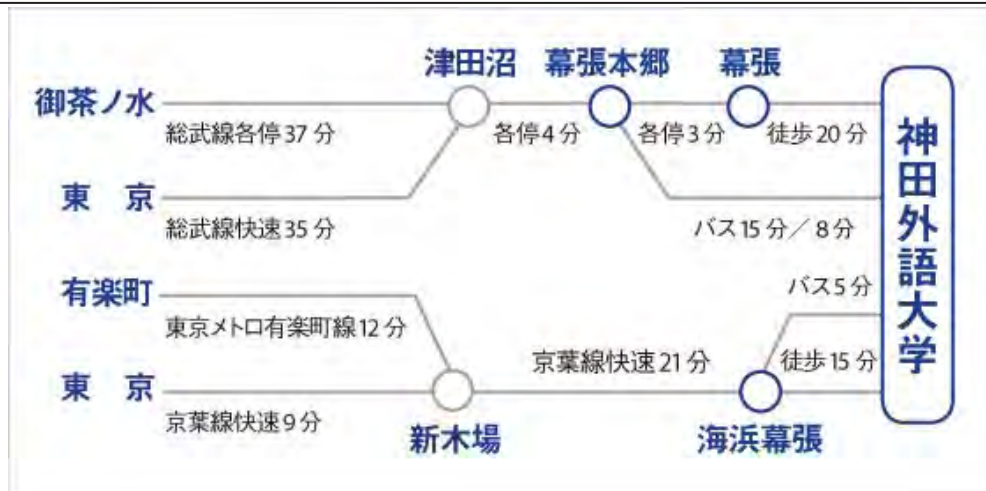
国内外への情報発信基地として、幕張は交通至便な地にあります。

様々なルートでアクセスできますが、最寄駅は2か所。JR 京葉線海浜幕張駅は、東京駅より葛西臨海公園駅、東京ディズニーランドのある舞浜駅などの観光スポットを通過して、快速で30分。その北口から徒歩の場合約15分、京成バスをご利用の場合は同じく北口の3番バス乗り場から約5分ほどで神田外大に到着します。

JR 総武線・京成電鉄ご利用の場合は、幕張駅南口下車徒歩約20分。なお、JR 幕張本郷駅南口6番バス乗り場からも京成バス(幕張学園循環線約15分、コロンブスシティ線約8分)を利用して、大学前まで来ることができます。

また、高速道路も整備されており、千葉方面から大学に來られる場合は、東関東自動車道・湾岸千葉ICで、東京方面から來られる方は、湾岸習志野ICをご利用いただくと便利です。
※オープンキャンパス、その他催し物等にお越しいただく際には、本学の駐車場をご利用いただけません。ご理解・ご了承の程、お願い申し上げます。

交通アクセス



幕張本郷駅から

幕 21 系統：15 分／幕 22 系統：8 分

幕 21 系統市町村アカデミー・神田外語大学方面幕張学園循環「神田外語大学下車」

幕 22 系統コロンブスシティ経由海浜幕張駅行「神田外語大学」下車

海浜幕張駅から

幕 22 系統神田外語大学・コロンブスシティ経由幕張本郷駅行「神田外語大学」下車

大学周辺地図



校舎部:

敷地面積: 98,841 m² 校舎面積: 42,083 m²



神田外語大学 学則（案）

第1章 総則

（目的）

第1条 神田外語大学（以下「本学」という。）は、広く一般知識を授け、深く専門学術を教授研究するとともに、わが国の伝統と文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材を育成することを目的とする。

（自己評価等）

第1条の2 本学の教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育活動の状況並びに研究について、自ら点検及び評価を行う。

2 前項の点検及び評価の実施に必要な事項は別に定める。

（教育研究活動等の情報公表）

第1条の3 本学は、次に掲げる教育研究活動等の状況についての情報を公表するものとする。

- （1）大学の教育研究上の目的に関すること
- （2）教育研究上の基本組織に関すること
- （3）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- （4）入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
- （5）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
- （6）学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関すること
- （7）校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- （8）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- （9）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- （10）その他教育上の目的に応じた学生が修得すべき知識及び能力に関する情報等

2 前項の情報の公表は、本学の刊行物やホームページへの掲載等により行って、広く周知を図る。

第2章 学部・学科・学生定員及び修業年限並びに大学院

（学部・学科・学生定員）

第2条 本学に次の学部を置く。

- （1）外国語学部
- （2）グローバル・リベラルアーツ学部

2 前項の学部 zu 置く学科及び入学定員を次のように定める。

学部	学科	入学定員	2年次	3年次	収容定員
			編入学定員	編入学定員	
外国語学部	英米語学科	340	10	40	1,470
	アジア言語学科	168	0	10	692

	イベロアメリカ言語学科	1 2 8	0	6	5 2 4
	国際コミュニケーション学科	1 9 7	1 5	1 5	8 6 3
	小計	8 3 3	2 5	7 1	3, 5 4 9
グローバル・リベラル ルーツ学部	グローバル・リベラル ルーツ学科	6 0	0	0	2 4 0
	合計	8 9 3	2 5	7 1	3, 7 8 9

3 前2項の各学部及び各学科の教育研究目的を次のとおり定める。

(1) 外国語学部

外国語学部は、多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の専攻地域言語運用能力を身につけさせるとともに、言語としての専攻地域言語及び同言語圏の様々な事柄に対する知識等を教授することにより、豊かな教養を有し真のコミュニケーション能力を身に着けた国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。

①英米語学科は、多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の英語運用能力を身につけさせるとともに、言語としての英語及び英語圏の様々な事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。

②アジア言語学科は、多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の専攻地域言語（中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語）の運用能力を身につけさせるとともに、英語運用能力養成にも力を注ぎ、また、言語としての専攻地域言語及び同言語圏の様々な事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。

③イベロアメリカ言語学科は、多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の専攻地域言語（スペイン語、ポルトガル語）の運用能力を身につけさせるとともに、英語運用能力養成にも力を注ぎ、また、言語としての専攻地域言語及び同言語圏の様々な事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。

④国際コミュニケーション学科は、多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の英語運用能力を身につけさせるとともに、IT関連の運用能力養成にも務め、豊かな教養を有し真のコミュニケーション能力を身につけた国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。

(2) グローバル・リベラルルーツ学部

グローバル・リベラルルーツ学部グローバル・リベラルルーツ学科は、広く一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解するための専門学術や技法を教授研究するとともに、高度の英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい、平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

(修業年限及び在学年限)

第3条 本学の修業年限は4年とする。

2 学生は8年をこえて在学することはできない。ただし1年次及び2年次の在学についてはそれぞれ2年をこえることができない。

3 第14条第1項より入学した学生は、同条第2項により定められた在学すべき年数の倍に相当する年数をこえて在学することはできない。

(大学院)

第3条の2 本学に大学院を置く。

2 大学院に関する規則は別に定める。

第3章 学年・学期及び休業日

(学年)

第4条 本学の学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第5条 学年を、次の2学期に分ける。

前期 4月1日から9月15日まで

後期 9月16日から翌年3月31日まで

2 前項に定める各学期の授業期間は、前半及び後半に分けることができる。

(休業日)

第6条 休業日は次のように定める。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(3) 創立記念日(10月18日)

(4) 春季休業日

(5) 夏季休業日

(6) 冬季休業日

2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認めたときは、臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することができる。

(授業日数)

第7条 授業日数は、定期試験の日数を含め、年間35週、210日を原則とする。

第4章 入学・休学・退学及び転科

(入学時期)

第8条 本学の入学時期は、毎学年の初めとする。

(入学資格)

第9条 本学に入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校卒業者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

(3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定した者

- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (7) その他本学において、相当の年令に達している者で高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

（入学志願手続）

第10条 本学に入学を志願する者は、大学所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。

2 入学手続の時期、方法及び書類等については別に定める。

（入学者の選考）

第11条 本学は、入学志願者に対し、選考の上、教授会の議を経て、学長が合格者を決定する。

2 入学選考において合格に影響を与えるような重大な事情があった場合は、合格を取り消すことがある。

3 入学者の選考方法については、別に定める。

（入学手続）

第12条 入学選考の結果、合格した者は、指定の期日までに入学金、授業料、その他の費用及び所定の書類を提出しなければならない。

2 入学手続の時期、方法及び種類については別に定める。

（入学許可）

第13条 入学手続を行い、誓約書及び身元保証書を指定の期日までに提出した者に対し、学長は入学を許可する。

（編入学及び再入学）

第14条 本学に編入学及び再入学を希望する者が所定の手続により志願したときは、特別の選考を行い、教授会の議を経て学長がこれを許可する。ただし編入学及び再入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

(1) 大学を卒業した者

(2) 他の大学において2年以上の課程を修了した者

(3) 短期大学を卒業した者

(4) 専修学校（2年以上、1,700時間以上の専門課程）を卒業した者

(5) 本学を退学し、再入学を希望する者

2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については教授会の議を経て、学長がこれを決定する。

3 編入学及び再入学に必要な事項は別に定める。

（転学部）

第15条 学生が他の学部への転学部を希望したときは、別に定めるところにより、転学部を許可することがある。

2 転学部に関する規則は別に定める。

(転科)

第15条の2 学生が所属学部内の他の学科への転科を希望したときは教育に支障のない限り、選考の上教授会の議を経て学長がこれを許可する。

2 転科に必要な事項は別に定める。

(休学)

第16条 病気、留学又は止むを得ない事由により引続き1学期以上修学困難な者は、学長に休学を願い出ることができる。

2 休学の許可は、学長が行う。

3 病気のため修学することが適当でないと認められる者については、学長は休学を命ずることができる。

4 休学期間は原則として1年以内とする。ただし、特別の事由がある場合には、2年を限度として、休学期間の延長を許可し、又は命ずることができる。

4の2 前項の規定にかかわらず、真に必要な事由がある場合には、学長は、1年をこえる休学を許可することができる。この場合の休学期間は3年を限度とし、延長は認めないものとする。

5 休学期間は、通算して3年をこえることができない。

6 休学期間は、第3条第2項の在学期間に算入しないものとする。

7 休学に必要な事項は別に定める。

(復学)

第17条 休学期間が満了し、又は休学期間中に休学事由が消滅した者が復学しようとするときは、学長に復学を願い出なければならない。

2 復学の許可は、学長が行う。

3 復学に必要な事項は別に定める。

(退学)

第18条 退学しようとする者は、学長に退学を願い出て、許可を受けなければならない。

2 退学に必要な事項は別に定める。

(転学)

第19条 他の大学に転学しようとする者は、学長に転学を願い出で許可を受けなければならない。

2 転学に必要な事項は別に定める。

(留学)

第20条 外国の大学での学修を希望する者は、学長に留学許可を願い出なければならない。

2 留学の許可は、学長が行う。

3 前項により許可を得て留学した期間は第30条第1項に定める在学期間に含めることができる。

4 第28条の規定は、外国の大学へ留学する場合に準用する。

5 留学に必要な事項は別に定める。

第5章 教育課程及び履修方法等

(授業科目の区分)

第21条 本学において開設する授業科目の区分は別に定める。

(教職科目)

第22条 前条に掲げる授業科目のほか、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）に定める教員の免許状を得ようとする者のために、教科及び教職に関する専門科目を開設する。

2 授与資格を得させることができる教員免許状の種類及び免許教科に関する規則は別に定める。

(単位の計算方法)

第23条 各授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室内及び教室外を合わせて45時間とし、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義については、毎週1時間15週の授業をもって1単位とする。ただし、外国語科目の講義については、毎週2時間15週の授業をもって1単位とする。

(2) 演習については、毎週2時間15週の授業をもって1単位とする。

(3) 実験、実習及び実技については、毎週3時間15週の授業をもって1単位とする。

(授業科目及び単位数)

第24条 本学で開設する授業科目及び単位数は別表第1のとおりとする。

2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行う。

3 前項の授業は、60単位を限度として、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

4 前項の規定により取得した単位については、教授会の議を経て、卒業の要件となる単位として認めることができる。

(卒業の条件)

第25条 本学を卒業するためには、学生は4年以上在学し、第24条に定める授業科目について、所定の教育課程に従って所定の単位以上修得しなければならない。

(研究コース)

第25条の2 外国語学部の学生は、所定の研究コースから一つを選択し、当該研究コース指定の授業科目を一定単位以上修得しなければならない。

(履修の方法)

第26条 第24条に定める授業科目は、必修及び選択科目とし、履修方法について必要な事項は別に定める。

(単位取得の認定)

第27条 授業科目の履修を修了した者には、認定の上単位を与える。

2 単位の認定は原則として定期試験による。

3 単位取得認定の方法について必要な事項は別に定める。

(他大学等における授業科目の履修等)

第28条 教育上有益と認めるときは、他の大学等との協議に基づき、他の大学、教育研究機関、企業等との協議に基づき学生に当該他大学等の授業科目を履修させることができる。

2 前項により取得した単位については、教授会の議を経て60単位を限度として、卒業の要件となる単位として認めることができる。

3 他大学等における授業科目履修等について必要な事項は別に定める。

(成績の評価)

第29条 各授業科目の成績は、A+、A、B、C及びFの5種に分け、A+、A、B、Cの成績を合格とする。

2 前項のほか、学生が他大学等で修得した授業科目、単位を認定する場合には、その成績を「P」と表記し、合格とすることができる。

第6章 卒業及び学位の授与

(卒業の認定)

第30条 本学に4年(第14条の規定により入学した者については、同条第2項により定められた在学すべき年数)以上在学し、第25条に定める単位を修得した者に対し、教授会の議を経て、学長は卒業を認定する。

(学位の授与)

第31条 卒業を認定された者に対し、学士の学位を授与する。

2 学位には、専攻分野の名称を付記するものとする。

3 前項の専攻分野の名称は、次のとおりとする。

英語・地域文化

中国語・地域文化

韓国語・地域文化

インドネシア語・地域文化

ベトナム語・地域文化

タイ語・地域文化

スペイン語・地域文化

ポルトガル語・地域文化

国際コミュニケーション

グローバル・リベラルアーツ

第7章 学費

(入学検定料等)

第32条 入学検定料、入学金及び授業料その他の諸費用は、別表第2のとおりとする。

2 入学金及び授業料その他の諸費用は、指定期間内に納入しなければならない。

3 編入学、再入学の者については別に定める。

4 学費の減免及び免除等の特例については別に定める。

(休学の場合の費用)

第33条 第16条の規定による休学期間中の者については、該当学期の学納金を免除し、

在籍料として1学期間に対して5万円を徴収する。

- 2 第20条の規定による留学において、大学が授業料を徴収しない場合は、留学管理料として1学期間に対して5万円を徴収する。

(退学・転学の場合の費用)

- 第34条 退学もしくは転学した者、除籍された者、または停学中の者も本章に定める費用を全納しなければならない。

(納入金の不還付)

- 第35条 既に納入した費用については、理由の如何にかかわらず返却しないものとする。

第8章 職員組織

(教育職員)

- 第36条 本学に次の教育職員を置く。

教授、准教授、講師及び助教

- 2 教育職員は、学生を教授し、その研究を指導し、研究に従事する。

(研究職員)

- 第36条の2 本学に次の研究職員を置くことができる。

(1) 研究員

(2) 研究助手

- 2 研究員は、本学の附属研究所等において、所属長の指示に従い、学問研究、教育及び研究所の諸活動に従事する。

- 3 研究助手は、本学の附属研究所等において、所属長の指示に従い、本学の研究、教育及びその他活動の補助及び庶務に従事する。

- 4 研究職員の雇用期間は、2年間の範囲内で定める。

(一般職員)

- 第37条 本学に次の一般職員を置く。

事務職員、技術職員

- 2 一般職員は、教務、学生事務、総務、経理、施設管理その他の業務をつかさどる。

(行政職員)

- 第38条 本学に学長、事務局長、その他の行政職員を置く。

- 2 学長は、本大学を代表し、校務をつかさどり学校法人佐野学園寄附行為施行細則に定められた職務を行う。

- 3 事務局長は、学長を補佐し、大学の事務を掌理し統轄する。

- 4 その他の行政職員については別に定める。

- 5 学長に事故のあるときは、理事長がその代理を定める。

第9章 教授会

(教授会の構成)

- 第39条 本学に教授会を置き、専任の教授、准教授、講師をもって組織する。

- 2 教授会に関する事項は別に定める。

- 第40条 (削除)

第41条 (削除)

第10章 科目等履修生等

(科目等履修生)

第42条 本学において、本学学生以外の者で一又は複数の授業科目を履修し、単位修得を希望する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生について必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第42条の2 本学において開講する授業科目のうち特定科目を選んで聴講を希望する者があるときは、本学の研究教育に支障のない限り、教授会の議を経て学長が許可する。

2 聴講生について必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第42条の3 大学間相互単位互換協定に基づき、本学において開講する授業科目のうち、特定科目の履修を希望する者(「特別聴講学生」という。)があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、教授会の議を経て学長が許可する。

2 特別聴講学生について必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第43条 外国人留学生(第9条第3号及び第7号に該当する外国人で、大学教育を受けるために来日した者をいい、学校教育法第1条に規定する高等学校又は、日本においてこれに相当する学校を卒業した者を除く。)については、特別に選考をし、教授会の議を経て、学長がこれを許可する。

2 外国人留学生につき必要な事項は、別に定める。

(帰国子女の入学について)

第44条 帰国子女とは、外国の教育制度に基づく正規の学校教育を受けた後、我が国に帰国する日本国籍を有する者をいう。

2 帰国子女の入学について特別に選考をし、教授会の議を経て学長がこれを許可する。

3 帰国子女の入学に関する事項は、別に定める。

第10章の2 客員研究員

(客員研究員)

第44条の2 本学は特定の研究を希望する学外の研究者を、客員研究員として受け入れることができる。

2 客員研究員について必要な事項は、別に定める。

第11章 賞罰等

(表彰)

第45条 学長は本学学生に対して表彰に価する行為のあったときは、表彰することができる。

(懲戒)

第46条 本学の教育の趣旨にそむき、学生の本分に反する行為のある学生に対して、学長は懲戒することができる。

2 懲戒は、譴責、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 学則に反し、学内の秩序をみだし、その他学生の本分にもとると認められる行為を行う者。

(2) 学業を怠り、成業の見込みのないと認められる者。

4 懲戒につき必要な事項は別に定める。

(除籍)

第47条 次の各号の一に該当する学生は学長が除籍する。

(1) 所定の登録手続をせず、又休学、退学の手続をしない者。

(2) 第3条第2項または第3項に定める在学年限をこえる者。

(3) 第16条に定める休学期間をこえても、なお復学もしくは退学しない者。

(4) 学費納入の義務を怠った者。

第12章 附属図書館

(附属図書館)

第48条 本学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する規則は別に定める。

第13章 附属研究所等

(言語教育研究所)

第49条 本学に言語教育研究所を置く。

2 言語教育研究所に関する規則は別に定める。

第50条 (欠番)

(日本研究所)

第51条 本学に日本研究所を置く。

2 日本研究所に関する規則は別に定める。

第52条 (欠番)

(体育・スポーツセンター)

第53条 本学に体育・スポーツセンターを置く。

2 体育・スポーツセンターに関する規則は別に定める。

(English Language Institute)

第54条 本学に English Language Institute (E L I と称す) を置く。

2 English Language Institute に関する規則は、別に定める。

(メディア教育センター)

第55条 本学にメディア教育センターを置く。

2 メディア教育センターに関する規則は、別に定める。

(キャリア教育センター)

第56条 本学にキャリア教育センターを置く。

2 キャリア教育センターに関する規則は、別に定める。

(言語教育コンサルタントセンター)

第57条 言語教育研究所に言語教育コンサルタントセンターを置く。

2 言語教育コンサルタントセンターに関する規則は別に定める。

(多言語コミュニケーションセンター)

第57条の2 本学に多言語コミュニケーションセンター（MULCと称す）を置く。

2 多言語コミュニケーションセンターに関する規則は、別に定める。

(児童英語教育研究センター)

第57条の3 本学に児童英語教育研究センターを置く。

2 児童英語教育研究センターに関する規則は、別に定める。

(グローバル・コミュニケーション研究所)

第57条の4 本学にグローバル・コミュニケーション研究所を置く。

2 グローバル・コミュニケーション研究所に関する規則は、別に定める。

(アカデミックサクセスセンター)

第57条の5 本学にアカデミックサクセスセンターを置く。

2 アカデミックサクセスセンターに関する規則は、別に定める。

(ボランティアセンター)

第57条の6 本学にボランティアセンターを置く。

2 ボランティアセンターに関する規則は、別に定める。

(グローバル推進室)

第57条の7 本学にグローバル推進室を置く。

2 グローバル推進室に関する規則は、別に定める。

(グローバル日本語センター)

第57条の8 本学にグローバル日本語センターを置く。

2 グローバル日本語センターに関する規則は、別に定める。

(言語メディア教育研究センター)

第57条の9 本学に言語メディア教育研究センターを置く。

2 言語メディア教育研究センターに関する規則は別に定める。

(Self-Access Learning Center)

第57条の10 本学に Self-Access Learning Center（SALC と称す）を置く。

2 Self-Access Learning Center に関する規則は、別に定める。

(自立学習教育研究所)

第57条の11 本学に自立学習教育研究所を置く。

2 自立学習教育研究所に関する規則は、別に定める。

(ミレニアムハウス)

第57条の12 本学にミレニアムハウスを置く。

2 ミレニアムハウスに関する規則は、別に定める。

第14章 留学生別科

(留学生別科)

第58条 本学に留学生別科を置く。

2 留学生別科に関する規則は別に定める。

第15章 生涯教育

(神田外語キャリアカレッジ)

第59条 本学に生涯教育機関として、神田外語キャリアカレッジを置く。

2 神田外語キャリアカレッジに関する規則は、別に定める。

第16章 出版局

(出版局)

第60条 本学に出版局を置く。

2 出版局に関する規則は別に定める。

第17章 学生寮

第61条 本学に学生寮を置く。

2 学生寮に関する事項は別に定める。

附則 この学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附則 この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

附則 この学則は、平成元年4月1日から施行する。

附則 この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附則 この学則は、平成3年4月1日から施行する。ただし、第2条第2項の規定にかかわらず、平成3年度から平成6年度の間の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
外国語学部	英米語学科	250
	スペイン語学科	30
	韓国語学科	30

附則

1. この学則は、平成4年4月1日から施行する。

ただし、第2条第2項及び平成3年4月施行の附則にかかわらず、平成4年度から平成11年度の間の入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入 学 定 員	
		平成4年度 ～平成6年度	平成7年度 ～平成11年度
外国語学部	英米語学科	390	340
	スペイン語学科	40	30

2. 第31条の規定は、平成4年1月23日から適用する。

附則 この学則は、平成４年５月２７日から施行し、平成４年４月２０日から適用する。

附則 この学則は、平成５年４月１日から施行する。

附則 この学則は、平成６年４月１日から施行する。

附則 この学則は、平成７年４月１日から施行する。ただし、第２条第２項及び平成４年４月１日施行の附則にかかわらず、英米語学科・スペイン語学科・韓国語学科の、平成７年度から平成１１年度の間入学定員は次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員
外国語学部	英米語学科	３９０
	スペイン語学科	４０
	韓国語学科	３０

附則 この学則は、平成８年４月１日から施行する。

附則 この学則は、平成９年４月１日から施行する。

附則 この学則は、平成１０年４月１日から施行する。

附則 この学則は、平成１１年４月１日から施行する。

附則 この学則は、平成１１年５月２８日から施行し、平成１１年４月１日から適用する。

附則 この学則は、平成１１年１２月１０日から施行する。

附則 この学則は、平成１２年４月１日から施行する。ただし、第２条第２項の規定にかかわらず、英米語学科・スペイン語学科・韓国語学科の平成１２年度から平成１６年度の間入学定員は次のとおりとする。

学 部	外 国 語 学 部		
学 科	入 学 定 員		
年 度	英米語学科	スペイン語学科	韓国語学科
平成１２年度	３６８	４０	３０
平成１３年度	３４６	４０	３０
平成１４年度	３２４	４０	３０
平成１５年度	３０２	４０	３０
平成１６年度	２８０	４０	３０

上記入学定員の変更に伴い、平成１２年度から平成１６年度の間学科及び学部の収容定員は次のとおりとする。

学 部	外 国 語 学 部				
学 科	収 容 定 員				
年 度	英米語 学 科	スペイン語 学科	韓国語 学 科	中国語 学 科	学 部 計
平成１２年度	１，５３８	１６０	１２０	２４０	２，０５８
平成１３年度	１，４９４	１６０	１２０	２４０	２，０１４
平成１４年度	１，４２８	１６０	１２０	２４０	１，９４８
平成１５年度	１，３４０	１６０	１２０	２４０	１，８６０
平成１６年度	１，２５２	１６０	１２０	２４０	１，７７２

附則 この学則は平成１３年４月１日から施行する。ただし、第２条第２項の規定にかか

わらず、英米語学科・スペイン語学科・韓国語学科の平成13年度から平成16年度の間の入学定員は次のとおりとする。

学 部	外 国 語 学 部		
学 科	入 学 定 員		
年 度	英米語学科	スペイン語学科	韓国語学科
平成13年度	346	40	30
平成14年度	324	40	30
平成15年度	302	40	30
平成16年度	280	40	30

上記の入学定員より、平成13年度から平成16年度の間の各学科及び学部全体の収容定員は次のとおりとする。

学 部	外 国 語 学 部						
学 科	収 容 定 員						
年 度	英米語学 科	中国語学 科	スペイン語学科	韓国語学 科	国際コミュニケーション学科	国際言語文化学科	学部計
平成13年度	1, 534	240	160	120	100	80	2, 234
平成14年度	1, 508	240	160	120	200	160	2, 388
平成15年度	1, 420	240	160	120	315	245	2, 500
平成16年度	1, 332	240	160	120	430	330	2, 612

収容定員には期間を付した定員及び編入学定員を含む。

附則 この学則は、平成13年5月29日から施行し、平成13年4月1日から適用する。

附則 この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附則 この学則は、平成14年3月27日から施行し、平成13年10月1日から適用する。

附則 この学則は、平成14年4月1日から施行する。ただし、第2条第2項の規定にかかわらず、英米語学科の平成14年度及び平成15年度の入学定員は次のとおりとする。

学 部	外 国 語 学 部
学 科	入 学 定 員
年 度	英 米 語 学 科
平成14年度	319
平成15年度	297

上記の入学定員より、平成14年度から平成20年度の間の各学科及び学部全体の収容定員は次のとおりとする。

学 部	外 国 語 学 部						
学 科	収 容 定 員						
年 度	英米語学 科	中国語学 科	スペイン語学科	韓国語学 科	国際コミュニケーション学科	国際言語文化学科	学部計

平成14年度	1, 503	240	170	115	200	160	2, 388
平成15年度	1, 410	240	180	110	315	245	2, 500
平成16年度	1, 317	240	190	105	430	330	2, 612
平成17年度	1, 246	240	200	100	430	330	2, 546
平成18年度	1, 202	240	200	100	430	330	2, 502
平成19年度	1, 180	240	200	100	430	330	2, 480
平成20年度	1, 180	240	200	100	430	330	2, 480

収容定員には期間を付した定員及び編入学定員を含む。

附則 この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附則 この学則は、平成16年4月1日から施行する。第2条第2項の規定により、平成16年度から平成20年度の間の各学科及び学部全体の収容定員は次のとおりとする。

学 部	外 国 語 学 部						
学 科 年 度	収 容 定 員						
	英米語 学 科	中国語 学 科	スペイン 語学科	韓国語 学 科	国際コミ ュニケー ション 学科	国際言語 文化学科	学部計
平成16年度	1, 326	231	190	105	430	330	2, 612
平成17年度	1, 264	222	200	100	430	330	2, 546
平成18年度	1, 229	213	200	100	430	330	2, 502
平成19年度	1, 216	204	200	100	430	330	2, 480
平成20年度	1, 216	204	200	100	430	330	2, 480

収容定員には期間を付した定員及び編入学定員を含む。

附則 この学則は、平成17年4月1日から施行する。第2条第2項の規定により、平成17年度から平成20年度の間の各学科及び学部全体の収容定員は次のとおりとする。

学 部	外 国 語 学 部						
学 科 年 度	収 容 定 員						
	英米語 学 科	中国語 学 科	スペイン 語学科	韓国語 学 科	国際コミ ュニケー ション 学科	国際言語 文化学科	学部計
平成17年度	1, 380	222	200	100	430	330	2, 662
平成18年度	1, 461	213	200	100	430	330	2, 734
平成19年度	1, 564	204	200	100	430	330	2, 828
平成20年度	1, 680	204	200	100	430	330	2, 944

収容定員には期間を付した定員及び編入学定員を含む。

附則 この学則は、平成18年4月1日から施行する。第2条第2項の規定により、平成

18年度から平成21年度の間各学科及び学部全体の収容定員は次のとおりとする。

学 部	外 国 語 学 部						
学 科 年 度	収 容 定 員						
	英米語 学 科	中国語 学 科	スペイン 語学科	韓国語 学 科	国際コ ミ ュニケー ション 学科	国際言語 文化学科	学部計
平成18年度	1, 461	213	200	100	490	320	2, 784
平成19年度	1, 564	204	200	100	550	310	2, 928
平成20年度	1, 680	204	200	100	610	300	3, 094
平成21年度	1, 680	204	200	100	670	290	3, 144

収容定員には期間を付した定員及び編入学定員を含む。

附則 この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附則 この学則は、平成20年4月1日から施行する。第2条第2項の規定により、平成20年度から平成23年度の間各学科及び学部全体の収容定員は次のとおりとする。

学 部	外 国 語 学 部						
学 科 年 度	収 容 定 員						
	英米語 学 科	中国語 学 科	スペイン 語学科	韓国語 学 科	国際コ ミ ュニケー ション 学科	国際言語 文化学科	学部計
平成20年度	1, 690	204	200	100	625	295	3, 114
平成21年度	1, 700	204	200	100	700	280	3, 184
平成22年度	1, 710	204	200	100	715	280	3, 209
平成23年度	1, 710	204	200	100	715	280	3, 209

収容定員には期間を付した定員及び編入学定員を含む。

附則 この学則は、平成20年5月28日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附則 この学則は、平成20年9月25日から施行し、平成20年4月1日から適用する。

附則 この学則は、平成21年4月1日から施行する。第2条第2項の規定により、平成21年度から平成24年度の間各学科及び学部全体の収容定員は次のとおりとする。

学 部	外 国 語 学 部						
学 科	収 容 定 員						
	英米語 学 科	中国語 学 科	スペイン 語学科	韓国語 学 科	国際コ ミ ュニケー	国際言語 文化学科	学部計

年 度					シヨン 学科		
平成 2 1 年度	1, 7 3 0	2 0 4	2 0 0	1 0 0	7 3 0	2 9 0	3, 2 5 4
平成 2 2 年度	1, 7 7 0	2 0 4	2 0 0	1 0 0	7 7 5	3 0 0	3, 3 4 9
平成 2 3 年度	1, 8 0 0	2 0 4	2 0 0	1 0 0	8 0 5	3 1 0	3, 4 1 9
平成 2 4 年度	1, 8 3 0	2 0 4	2 0 0	1 0 0	8 3 5	3 2 0	3, 4 8 9

収容定員には期間を付した定員及び編入学定員を含む。

附則 この学則は、平成 2 2 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この学則は、平成 2 3 年 9 月 2 9 日から施行する。

附則

(施行期日)

第 1 条 この学則は、平成 2 4 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

第 2 条 この学則による改正前の学則に定める中国語学科、スペイン語学科、韓国語学科及び国際言語文化学科は、改正後の学則第 2 条第 2 項の規定にかかわらず、当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間存続するものとする。

2 前項の規定に基づいて存続する各学科の平成 2 4 年度及び平成 2 5 年度の編入学定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	3 年次 編入学定員
外国語学部	中国語学科	2
	スペイン語学科	2
	韓国語学科	2
	国際言語文化学科	0

3 第 1 項の規定に基づいて存続する各学科の教育研究目的は次のとおりとする。

(1) 中国語学科は、多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の中国語運用能力を身につけさせると共に言語としての中国語及び中国語圏の様々な事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。

(2) スペイン語学科は、多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度のスペイン語運用能力を身につけさせると共に言語としてのスペイン語及びスペイン語圏の様々な事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。

(3) 韓国語学科は、多文化共生が求められる社会情勢のなかで、高度の韓国語運用能力を身につけさせると共に言語としての韓国語及び韓国語圏の様々な事柄に対する知識を教授することにより、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。

(4) 国際言語文化学科は、多文化共生が求められる社会情勢のなかで、専攻地域言語（イ

インドネシア語、タイ語、ベトナム語、ブラジル・ポルトガル語)の運用能力及びそれぞれの言語圏に対する様々な知識を教授すると共にもう一つの専攻語として英語運用能力養成にも力を注ぎ、豊かな教養を有し国際社会に貢献しうる自立した人材の養成を目的とする。

4 第1項の規定に基づいて存続する各学科で開設する授業科目及び単位数は、なお従前の例による。

5 第1項の規定に基づいて存続する各学科所定の教育課程を修了し、卒業を認定された者に対して授与する学位に付記する専攻分野の名称は、次のとおりとする。

中国語・地域文化

スペイン語・地域文化

韓国語・地域文化

国際言語文化(インドネシア語・英語、ベトナム語・英語、タイ語・英語、ブラジル・ポルトガル語・英語)

附則 この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附則 この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附則 この学則は、平成27年4月1日他から施行する。(平成26年3月27日決議)

附則 この学則は、平成27年4月1日から施行する。(平成27年3月26日決議)

附則 この学則は、平成27年5月26日から施行し、平成27年4月1日から適用する。
(平成27年5月26日決議)

附則 この学則は、平成27年6月1日から施行する。(平成27年5月26日決議)

附則 この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附則 この学則は、平成29年4月1日から施行する。ただし、第2条第2項の規定にかかわらず、平成29年度から平成32年度の間の収容定員は次のとおりとする。

学部 学科 年度	外国語学部				
	収容定員				
	英米語 学 科	アジア言語 学 科	イベロアメリ カ言語学科	国際コミュニ ケーション 学科	学部計
平成29年度	1, 710	554	432	863	3, 559
平成30年度	1, 710	596	460	863	3, 629
平成31年度	1, 710	644	492	863	3, 709
平成32年度	1, 710	692	524	863	3, 789

附則

1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。

2 附則中、中国語学科、スペイン語学科、韓国語学科及び国際言語文化学科に在学する者が在学しなくなるまでの間の経過措置は、これらの学科に在学する者が在学しなくな

ったことから、廃止する。

附則 この学則は、平成29年6月1日から施行する。

附則 この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附則 この学則は、平成30年5月25日から施行し、同年4月1日から適用する。

附則 この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附則 この学則は、令和元年12月4日から施行する。

附則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 神田外語大学研究職員雇用規程は廃止する。

附則

(施行期日)

第1条 この学則は、令和3年4月1日から施行する。

(経過措置)

第2条 この学則の改正後の学則第2条第2項の規定にかかわらず、令和3年度から令和6年度の間の収容定員は次のとおりとする。

学部	外国語学部				
学科 年度	英米語学科	アジア言語学科	イペロアメリカ言語学科	国際コミュニケーション学科	学部計
令和3年度	1,650	692	524	863	3,729
令和4年度	1,590	692	524	863	3,669
令和5年度	1,530	692	524	863	3,609
令和6年度	1,470	692	524	863	3,549

学部	グローバル・リベラルアーツ学部
学科 年度	グローバル・リベラルアーツ学科
令和3年度	60
令和4年度	120

令和5年度	1 8 0
令和6年度	2 4 0

別表 1 (第 2 4 条関連)

			科 目 名	単 位 数			
				必 修	選択必修	選 択	
外国語科目	英語科目	英米語学科					
		英語総合講座 I					
		Freshman English (a)			4		
		Freshman English (b)			4		
		Foundational Literacies: Reading & Writing (a)			2		
		Foundational Literacies: Reading & Writing (b)			2		
		English for Academic Purposes (a)			2		
		English for Academic Purposes (b)			2		
		英語総合講座 II					
		Media English (a)(英米)			2		
		Media English (b)(英米)			2		
		Academic Literacies: Reading (a)			2		
		Academic Literacies: Reading (b)			2		
		Academic Literacies: Writing (a)			2		
		Academic Literacies: Writing (b)			2		
		英語専門講読			4		
		英語総合講座 III			20		
		TOEFL ITP480 演習				1	
		TOEFL ITP520 演習				1	
		TOEFL ITP550 演習				1	
		TOEFL iBT68 演習 Listening/Reading				1	
		TOEFL iBT68 演習 Speaking/Writing				1	
		TOEFL iBT80 演習 Listening/Reading				1	
		TOEFL iBT80 演習 Speaking/Writing				1	

			時事英語 I		2	
			時事英語 II		2	
			ビジネス英語 I		2	
			ビジネス英語 II		2	
			Effective Language Learning Course 1		1	
			Effective Language Learning Course 2		1	
			Effective Learning Module 1		1	
			Effective Learning Module 2		1	
		アジア言語学科				
		(中国語専攻)	Freshman English (a) (CSK)	2		
		(韓国語専攻)	Freshman English (b) (CSK)	2		
			総合英語 I (a)	1		
			総合英語 I (b)	1		
			Sophomore English (a) (CSK)	2		
			Sophomore English (b) (CSK)	2		
			総合英語 II (a)	1		
			総合英語 II (b)	1		
			English for Multicultural Communication	8		
			時事英語 I		2	
			時事英語 II		2	
			ビジネス英語 I		2	
			ビジネス英語 II		2	
			Effective Language Learning Course 1		1	
			Effective Language Learning Course 2		1	
			Effective Learning Module 1		1	
			Effective Learning Module 2		1	
			TOEIC 基礎		1	
			TOEIC600 演習		1	
			TOEIC650 演習		1	
			TOEIC730 演習		2	
			TOEIC860 演習		2	
			検定試験(英語)		2～6	
		(インドネシア語専攻)	Freshman English I (ML)	2		
		(ベトナム語専攻)	Freshman English II (ML)	2		
		(タイ語専攻)	アカデミック英語 I	2		
			アカデミック英語 II	2		

			Sophomore English I (ML)	2		
			Sophomore English II (ML)	2		
			Media English I (ML)	2		
			Media English II (ML)	2		
			English for Multicultural Communication	8		
			時事英語 I		2	
			時事英語 II		2	
			ビジネス英語 I		2	
			ビジネス英語 II		2	
			Language Lab (ML)		1	
			Oral Communication		1	
			Effective Language Learning Course 1		1	
			Effective Language Learning Course 2		1	
			Effective Learning Module 1		1	
			Effective Learning Module 2		1	
			TOEIC 基礎		1	
			TOEIC600 演習		1	
			TOEIC650 演習		1	
			TOEIC730 演習		2	
			TOEIC860 演習		2	
		イペロアメリカ言語学科				
		(スペイン語専攻)	Freshman English (a) (CSK)	2		
			Freshman English (b) (CSK)	2		
			総合英語 I (a)	1		
			総合英語 I (b)	1		
			Sophomore English (a) (CSK)	2		
			Sophomore English (b) (CSK)	2		
			総合英語 II (a)	1		
			総合英語 II (b)	1		
			English for Multicultural Communication	8		
			時事英語 I		2	
			時事英語 II		2	
			ビジネス英語 I		2	
			ビジネス英語 II		2	
			Effective Language Learning Course 1		1	
			Effective Language Learning Course 2		1	
			Effective Learning Module 1		1	

			Effective Learning Module 2		1	
			TOEIC 基礎		1	
			TOEIC600 演習		1	
			TOEIC650 演習		1	
			TOEIC730 演習		2	
			TOEIC860 演習		2	
			検定試験(英語)		2～6	
		(ブラジル・ポルトガル語専攻)	Freshman English I (ML)	2		
			Freshman English II (ML)	2		
			アカデミック英語 I	2		
			アカデミック英語 II	2		
			Sophomore English I (ML)	2		
			Sophomore English II (ML)	2		
			Media English I (ML)	2		
			Media English II (ML)	2		
			English for Multicultural Communication	8		
			時事英語 I		2	
			時事英語 II		2	
			ビジネス英語 I		2	
			ビジネス英語 II		2	
			Language Lab (ML)		1	
			Oral Communication		1	
			Effective Language Learning Course 1		1	
			Effective Language Learning Course 2		1	
			Effective Learning Module 1		1	
			Effective Learning Module 2		1	
			TOEIC 基礎		1	
			TOEIC600 演習		1	
			TOEIC650 演習		1	
			TOEIC730 演習		2	
			TOEIC860 演習		2	
		国際コミュニケーション学科				
		(国際コミュニケーション専攻)	English for International Communication I (a)	4		
			English for International Communication I (b)	4		
			Reading/Writing I	4		

		Reading/Writing II	4		
		English for International Communication II (a)	2		
		English for International Communication II (b)	2		
		Media English I	2		
		Media English II	2		
		Advanced Reading I	2		
		Advanced Reading II	2		
		English for International Communication III	12		
		時事英語 I		2	
		時事英語 II		2	
		ビジネス英語 I		2	
		ビジネス英語 II		2	
		TOEIC 基礎		1	
		TOEIC600 演習		1	
		TOEIC650 演習		1	
		TOEIC860 演習		2	
		TOEFL iBT68 演習 Listening/Reading		1	
		TOEFL iBT68 演習 Speaking/Writing		1	
		TOEFL iBT80 演習 Listening/Reading		1	
		TOEFL iBT80 演習 Speaking/Writing		1	
		Effective Language Learning Course 1		1	
		Effective Language Learning Course 2		1	
		Effective Learning Module 1		1	
		Effective Learning Module 2		1	
	(国際ビジネス キャリア専攻)	English for International Communication I (a)	4		
		English for International Communication I (b)	4		
		Reading/Writing I	4		
		Reading/Writing II	4		
		English for International Communication II (a)	2		

		English for International Communication II (b)	2		
		Media English I	2		
		Media English II	2		
		Advanced Reading I	2		
		Advanced Reading II	2		
		English for International Communication III (IBC)	4		
		ビジネス英語 I		2	
		ビジネス英語 II		2	
		English for International Communication III		4	
		時事英語 I		2	
		時事英語 II		2	
		TOEIC 基礎		1	
		TOEIC600 演習		1	
		TOEIC650 演習		1	
		TOEIC860 演習		2	
		TOEFL iBT68 演習 Listening/Reading		1	
		TOEFL iBT68 演習 Speaking/Writing		1	
		TOEFL iBT80 演習 Listening/Reading		1	
		TOEFL iBT80 演習 Speaking/Writing		1	
		Effective Language Learning Course 1		1	
		Effective Language Learning Course 2		1	
		Effective Learning Module 1		1	
		Effective Learning Module 2		1	
	留学生履修可能科目	(留学生のみ対象)			
		日本語特別演習	2		
		日本語チュートリアル I		1	
		日本語チュートリアル II		1	
		日本語総合講座 I～V		各 2	
		日本語表現演習		2	
		ビジネス日本語 I・II		各 2	
		Guided Independent Study I	1		
		Guided Independent Study II	1		

			Intermediate English I	2		
			Intermediate English II	2		
			Academic Writing I	2		
			Academic Writing II	2		
			Basic English I		4	
			Basic English II		4	
			Guided Independent Study III		1	
			Guided Independent Study IV		1	
			Oral Communication I (EIS)		2	
			Oral Communication II (EIS)		2	
			Communicative Grammar I (EIS)		2	
			Communicative Grammar II (EIS)		2	
		(留学生履修 可能)	English for International Communication I (a)	4		
			English for International Communication I (b)	4		
			Reading/Writing I	4		
			Reading/Writing II	4		
			English for International Communication II (a)			2
			English for International Communication II (b)			2
			Media English I			2
			Media English II			2
			Advanced Reading I			2
			Advanced Reading II			2
			English for International Communication III			4
			時事英語 I			2
			時事英語 II			2
			ビジネス英語 I			2
			ビジネス英語 II			2
			Effective Language Learning Course 1			1
			Effective Language Learning Course 2			1
			Effective Learning Module 1			1
			Effective Learning Module 2			1
			TOEFL ITP480 演習			1
			TOEFL ITP520 演習			1
			TOEFL ITP550 演習			1

			TOEFL iBT68 演習 Listening/Reading			1
			TOEFL iBT68 演習 Speaking/Writing			1
			TOEFL iBT80 演習 Listening/Reading			1
			TOEFL iBT80 演習 Speaking/Writing			1
			TOEIC 基礎			1
			TOEIC600 演習			1
			TOEIC650 演習			1
			TOEIC730 演習			2
			TOEIC860 演習			2
			検定試験(英語)			2～4
	地域 言語 科目	アジア言語学科				
		(中国語専攻)	中国語総合 I (a)	3		
			中国語総合 I (b)	3		
			中国語作文 I (a)	1		
			中国語作文 I (b)	1		
			中国語会話 I (a)	2		
			中国語会話 I (b)	2		
			中国語総合 II-1 (a)	2		
			中国語総合 II-1 (b)	2		
			中国語総合 II-2 (a)	1		
			中国語総合 II-2 (b)	1		
			中国語作文 II (a)	1		
			中国語作文 II (b)	1		
			中国語会話 II (a)	1		
			中国語会話 II (b)	1		
			LL 中国語 (a)	1		
			LL 中国語 (b)	1		
			中国文学講読 I (a)		2	
			中国文学講読 I (b)		2	
			中国文学講読 II (a)		2	
			中国文学講読 II (b)		2	
			時事中国語 I (a)		2	
			時事中国語 I (b)		2	
			時事中国語 II (a)		2	
			時事中国語 II (b)		2	

			中国語翻訳法 I (a)		2	
			中国語翻訳法 I (b)		2	
			中国語翻訳法 II (a)		2	
			中国語翻訳法 II (b)		2	
			中国語討論・スピーチ I (a)		2	
			中国語討論・スピーチ I (b)		2	
			中国語討論・スピーチ II (a)		2	
			中国語討論・スピーチ II (b)		2	
			中国語表現法 I (a)		2	
			中国語表現法 I (b)		2	
			中国語表現法 II (a)		2	
			中国語表現法 II (b)		2	
		(韓国語専攻)	韓国語基礎 I	6		
			韓国語基礎 II	6		
			韓国語基礎 III	6		
			韓国語基礎 IV	6		
			韓国語口頭表現 I		2	
			韓国語口頭表現 II		2	
			韓国語通訳法 I		2	
			韓国語通訳法 II		2	
			韓国語翻訳法 I		2	
			韓国語翻訳法 II		2	
			時事韓国語 I		2	
			時事韓国語 II		2	
			韓国語講読 I		2	
			韓国語講読 II		2	
			韓国語対話文 I		2	
			韓国語対話文 II		2	
			韓国語上級会話 I		2	
			韓国語上級会話 II		2	
		(インドネシア語専攻)	インドネシア語基礎 I	5		
			インドネシア語基礎 II	5		
			インドネシア語基礎 III	5		
			インドネシア語基礎 IV	5		
			インドネシア語総合	8		
			インドネシア語応用 I	2		
			インドネシア語応用 II	2		

		(ベトナム語専攻)	ベトナム語基礎 I	5		
			ベトナム語基礎 II	5		
			ベトナム語基礎 III	5		
			ベトナム語基礎 IV	5		
			ベトナム語総合	8		
			ベトナム語応用 I	2		
			ベトナム語応用 II	2		
		(タイ語専攻)	タイ語基礎 I	5		
			タイ語基礎 II	5		
			タイ語基礎 III	5		
			タイ語基礎 IV	5		
			タイ語総合	8		
			タイ語応用 I	2		
			タイ語応用 II	2		
		イberoアメリカ言語学科				
		(スペイン語専攻)	スペイン語基礎 I (a)	6		
			スペイン語基礎 I (b)	6		
			スペイン語基礎 II (a)	6		
			スペイン語基礎 II (b)	6		
			スペイン語研究 I		4	
			スペイン語研究 II		4	
			スペイン語研究 III		4	
			スペイン語研究 IV		4	
			スペイン語研究 V		4	
			ポルトガル語特講 I			2
			ポルトガル語特講 II			2
			ポルトガル語特講 III			2
			ポルトガル語特講 IV			2
		(ブラジル・ポルトガル語専攻)	ポルトガル語基礎会話 I	2		
			ポルトガル語基礎会話 II	2		
			ポルトガル語基礎会話 III	2		
			ポルトガル語基礎会話 IV	2		
			ポルトガル語基礎文法 I	2		
			ポルトガル語基礎文法 II	2		
			ポルトガル語基礎文法 III	1		
			ポルトガル語基礎文法 IV	1		

選 択 外 国 語 科 目		ポルトガル語基礎講読Ⅰ	1		
		ポルトガル語基礎講読Ⅱ	1		
		ポルトガル語基礎講読Ⅲ	1		
		ポルトガル語基礎講読Ⅳ	1		
		ポルトガル語応用Ⅰ	2		
		ポルトガル語応用Ⅱ	2		
		ポルトガル語総合		2	
		スペイン語特講Ⅰ		2	
		スペイン語特講Ⅱ		2	
		スペイン語特講Ⅲ		2	
		スペイン語特講Ⅳ		2	
		中国語Ⅰ(a)		2	
		中国語Ⅰ(b)		2	
		中国語Ⅱ(a)			1～2
		中国語Ⅱ(b)			1～2
		中国語Ⅲ(a)			1～4
		中国語Ⅲ(b)			1～4
		韓国語Ⅰ(a)		2	
		韓国語Ⅰ(b)		2	
		韓国語Ⅱ(a)			1～2
		韓国語Ⅱ(b)			1～2
		韓国語Ⅲ(a)			1～4
		韓国語Ⅲ(b)			1～4
		インドネシア語Ⅰ(a)		2	
		インドネシア語Ⅰ(b)		2	
		インドネシア語Ⅱ(a)			1～2
		インドネシア語Ⅱ(b)			1～2
		ベトナム語Ⅰ(a)		2	
		ベトナム語Ⅰ(b)		2	
		ベトナム語Ⅱ(a)			1～2
		ベトナム語Ⅱ(b)			1～2
		タイ語Ⅰ(a)		2	
		タイ語Ⅰ(b)		2	
		タイ語Ⅱ(a)			1～2
		タイ語Ⅱ(b)			1～2
		スペイン語Ⅰ(a)		2	
		スペイン語Ⅰ(b)		2	
		スペイン語Ⅱ(a)			1～2

			スペイン語 Ⅱ (b)			1～2
			スペイン語 Ⅲ (a)			1～4
			スペイン語 Ⅲ (b)			1～4
			ポルトガル語 Ⅰ (a)		2	
			ポルトガル語 Ⅰ (b)		2	
			ポルトガル語 Ⅱ (a)			1～2
			ポルトガル語 Ⅱ (b)			1～2
			アラビア語 Ⅰ (a)		2	
			アラビア語 Ⅰ (b)		2	
			アラビア語 Ⅱ (a)			1～2
			アラビア語 Ⅱ (b)			1～2
			イタリア語 Ⅰ (a)		2	
			イタリア語 Ⅰ (b)		2	
			イタリア語 Ⅱ (a)			1～2
			イタリア語 Ⅱ (b)			1～2
			イタリア語 Ⅲ (a)			1～4
			イタリア語 Ⅲ (b)			1～4
			ドイツ語 Ⅰ (a)		2	
			ドイツ語 Ⅰ (b)		2	
			ドイツ語 Ⅱ (a)			1～2
			ドイツ語 Ⅱ (b)			1～2
			ドイツ語 Ⅲ (a)			1～4
			ドイツ語 Ⅲ (b)			1～4
			フランス語 Ⅰ (a)		2	
			フランス語 Ⅰ (b)		2	
			フランス語 Ⅱ (a)			1～2
			フランス語 Ⅱ (b)			1～2
			フランス語 Ⅲ (a)			1～4
			フランス語 Ⅲ (b)			1～4
			ロシア語 Ⅰ (a)		2	
			ロシア語 Ⅰ (b)		2	
			ロシア語 Ⅱ (a)			1～2
			ロシア語 Ⅱ (b)			1～2
特 別 演 習 科		国際コミュニケーション学科				
		(国際コミュニケーション専攻)	国際コミュニケーション入門	2		
			情報リテラシー演習 Ⅰ	2		
			情報リテラシー演習 Ⅱ	2		
			TOEIC 演習 (IC)	2		

目		(国際ビジネス キャリア専攻)	情報リテラシー演習 I	2		
			情報リテラシー演習 II	2		
			ビジネスリサーチ演習 I	2		
			ビジネスリサーチ演習 II	2		
			キャリア研究基礎	2		
			企業インターンシップ I	2		
			企業インターンシップ II	2		
			TOEIC 演習 (IC)	2		
		留学生対象	国際コミュニケーション入門	2		
			情報リテラシー演習 I	2		
			情報リテラシー演習 II	2		
導 入 科 目			基礎演習	2		
			発展基礎演習			2
			情報基礎 I			1
			情報基礎 II			1
			日本語表現力基礎			1
			本を読む			1
教 養 科 目			体育・スポーツ			1
			体育・スポーツ II			1
			歴史学 I			2
			歴史学 II			2
			哲学 I			2
			哲学 II			2
			倫理学 I			2
			倫理学 II			2
			宗教学 I			2
			宗教学 II			2
			文学 I			2
			文学 II			2
			美術史学 I			2
			美術史学 II			2
			言語学 I			2
			言語学 II			2
			社会学 I			2
			社会学 II			2
			法学 I			2
			法学 II			2
			政治学 I			2

		政治学Ⅱ			2
		経済学Ⅰ			2
		経済学Ⅱ			2
		心理学Ⅰ			2
		心理学Ⅱ			2
		教育学			2
		経営学Ⅰ			2
		経営学Ⅱ			2
		統計学Ⅰ			2
		統計学Ⅱ			2
		生物学Ⅰ			2
		生物学Ⅱ			2
		化学Ⅰ			2
		化学Ⅱ			2
		物理学Ⅰ			2
		物理学Ⅱ			2
		自然科学概論Ⅰ			2
		自然科学概論Ⅱ			2
研究科目					
研究 科目 開設	(総合文化研究分野)	英文学史Ⅰ			2
		英文学史Ⅱ			2
		米文学史Ⅰ			2
		米文学史Ⅱ			2
		Survey of American Literature			2
		英文学講義Ⅰ			2
		英文学講義Ⅱ			2
		米文学講義Ⅰ			2
		米文学講義Ⅱ			2
		Themes in American Literature			2
	(地域・国際研究分野)	英国研究入門Ⅰ			2
		英国研究入門Ⅱ			2
		米国研究入門Ⅰ			2
		米国研究入門Ⅱ			2
		オセアニア研究入門Ⅰ			2
		オセアニア研究入門Ⅱ			2
		カナダ研究入門Ⅰ			2
		カナダ研究入門Ⅱ			2
研	英米語学科				

究 科 目	(言語研究分野)	英語学概論	4		
		英語音声学		4	
		Outline of English Phonetics		4	
		英語音韻論		4	
		英語統語論 I		4	
		英語統語論 II			4
		英語意味論			4
		現代英文法		4	
		英語習得法		4	
		Ways of Learning English		4	
		第二言語習得研究		4	
		Issues in Second Language Acquisition		4	
		英語談話分析		4	
		Introduction to Discourse Analysis		4	
		英語史			4
		古期中期英語			4
		教育英文法基礎			2
		外国語評価法			2
		TESOL(英語教授法)海外研修		4	
		英語語法研究			4
		Introduction to English Sentence Structures		2	
		英語構文研究			4
		Introduction to Language and Communication		2	
		Issues in Applied Linguistics		4	
		Topics in Sociolinguistics		4	
		日英語対照研究			4
		認知発達と英語教育			4
		児童英語教育論			4
		児童英語指導法			4
		児童英語教育カリキュラムデザイン			4
		児童英語教育実習(船橋)			2
		児童英語教育実習(沖縄)			2
		児童英語海外実習			2
		中国語学概論 I			2
		中国語学概論 II			2
		中国語文法論 I			2

		中国語文法論Ⅱ			2
		中国語語彙論Ⅰ			2
		中国語語彙論Ⅱ			2
		中国語音韻論Ⅰ			2
		中国語音韻論Ⅱ			2
		中国語音声学Ⅰ			2
		中国語音声学Ⅱ			2
		中国語史Ⅰ			2
		中国語史Ⅱ			2
		日中比較言語Ⅰ			2
		日中比較言語Ⅱ			2
		広東語Ⅰ			2
		広東語Ⅱ			2
		福建語Ⅰ			2
		福建語Ⅱ			2
		韓国語学概論Ⅰ			2
		韓国語学概論Ⅱ			2
		韓国語文法論Ⅰ			2
		韓国語文法論Ⅱ			2
		日韓対照言語研究Ⅰ			2
		日韓対照言語研究Ⅱ			2
		韓国語学特講Ⅰ			2
		韓国語学特講Ⅱ			2
		韓国語社会言語学Ⅰ			2
		韓国語社会言語学Ⅱ			2
		韓国語文章表現法			2
		韓国語意味論			2
		韓国語史Ⅰ			2
		韓国語史Ⅱ			2
		東南アジア言語概論Ⅰ			2
		東南アジア言語概論Ⅱ			2
		スペイン語学概論Ⅰ			2
		スペイン語学概論Ⅱ			2
		スペイン語音声学Ⅰ			2
		スペイン語音声学Ⅱ			2
		スペイン語史Ⅰ			2
		スペイン語史Ⅱ			2
		アメリカスペイン語特殊研究Ⅰ			2

		アメリカスペイン語特殊研究Ⅱ			2
		日西語対照研究Ⅰ			2
		日西語対照研究Ⅱ			2
		商業スペイン語Ⅰ			2
		商業スペイン語Ⅱ			2
		ポルトガル語学概論Ⅰ			2
		ポルトガル語学概論Ⅱ			2
		The Languages of JapanⅠ			2
		The Languages of JapanⅡ			2
		日本語学概論			4
		日本語学Ⅰ			4
		日本語学Ⅱ			4
		日本語学特論			4
		日本語教育概論			2
		日本語教授法			4
		日本語教育実習			2
		日本語表現法Ⅰ			2
		日本語表現法Ⅱ			2
		社会言語学Ⅰ			4
		社会言語学Ⅱ			4
		心理言語学			4
		応用言語学			4
		意味・語用論			4
		言語学特別研究			4
		言語哲学Ⅰ			2
		言語哲学Ⅱ			2
		西洋古典語概論Ⅰ			2
		西洋古典語概論Ⅱ			2
	(コミュニケーション研究分野)	Public Speaking		4	
		Debate		4	
		Small Group Communication		4	
		日米コミュニケーション論			4
		英語オーラルインタープリテーション			4
		英語説得コミュニケーション論			4
		日英翻訳法Ⅰ			4
		日英翻訳法Ⅱ			4
		英日翻訳法Ⅰ		4	
		英日翻訳法Ⅱ			4

	英語通訳法Ⅰ		4	
	英語通訳法Ⅱ			4
	英語通訳法Ⅲ			4
	英語通訳法Ⅳ			4
	英語映像翻訳法			4
	コミュニティー英語通訳法			4
	Theories of Translation and Interpreting		4	
	通訳・翻訳理論(英語)		4	
	通訳演習(a)			2
	通訳演習(b)			2
	翻訳演習(a)			2
	翻訳演習(b)			2
	ビジネス中国語Ⅰ(a)			2
	ビジネス中国語Ⅰ(b)			2
	ビジネス中国語Ⅱ(a)			2
	ビジネス中国語Ⅱ(b)			2
	中国語通訳法Ⅰ(a)			2
	中国語通訳法Ⅰ(b)			2
	中国語通訳法Ⅱ(a)			2
	中国語通訳法Ⅱ(b)			2
	韓国語映像翻訳法Ⅰ			2
	韓国語映像翻訳法Ⅱ			2
	スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅰ			2
	スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅱ			2
	スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅠ			2
	スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅡ			2
	スペイン語通訳法Ⅰ			2
	スペイン語翻訳法Ⅰ			2
	スペイン語翻訳法Ⅱ			2
	スペイン語映像翻訳法Ⅰ			2
	スペイン語映像翻訳法Ⅱ			2
	コミュニケーション論Ⅰ			2
	コミュニケーション論Ⅱ			2
	異文化コミュニケーション論Ⅰ			2
	異文化コミュニケーション論Ⅱ			2
	組織コミュニケーション論Ⅰ			2
	組織コミュニケーション論Ⅱ			2
	メディア・コミュニケーション表現Ⅰ			2

		メディア・コミュニケーション表現Ⅱ			2
		デジタル・メディアとコミュニケーションⅠ			2
		デジタル・メディアとコミュニケーションⅡ			2
		メディア文化論Ⅰ			2
		メディア文化論Ⅱ			2
		非言語コミュニケーション論Ⅰ			2
		非言語コミュニケーション論Ⅱ			2
		対人コミュニケーション論			2
		Leadership CommunicationⅠ			2
		Leadership CommunicationⅡ			2
		国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅰ			2
		国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅱ			2
		日本語プレゼンテーション			4
		日本語ディベート			4
		日本語スモールグループ・コミュニケーション			4
		コミュニケーション論特講Ⅰ			2
		コミュニケーション論特講Ⅱ			2
		レトリカルコミュニケーション論			2
		多文化社会コミュニケーション論Ⅰ			2
		多文化社会コミュニケーション論Ⅱ			2
		通訳・翻訳への招待			2
		日中通訳法Ⅰ			4
		日中通訳法Ⅱ			4
		日韓・韓日通訳法Ⅰ			2
		日韓・韓日通訳法Ⅱ			2
		デジタル・メディアと社会Ⅰ			2
		デジタル・メディアと社会Ⅱ			2
		ジャーナリズム論Ⅰ			2
		ジャーナリズム論Ⅱ			2
		Media and Japanese Society			2
		メディアリテラシー			2
		メディア研究法Ⅰ			2
		メディア研究法Ⅱ			2
		ウェブデザインⅠ			2
		ウェブデザインⅡ			2
		メディア表現論Ⅰ			2
		メディア表現論Ⅱ			2

		ソフトウェアデザインⅠ			2
		ソフトウェアデザインⅡ			2
		グラフィックデザインⅠ			2
		グラフィックデザインⅡ			2
		プログラミングⅠ			2
		プログラミングⅡ			2
	(総合文化研究分野)	英文学研究Ⅰ			2
		英文学研究Ⅱ			2
		米文学研究Ⅰ			2
		米文学研究Ⅱ			2
		米国文化論Ⅰ		2	
		米国文化論Ⅱ		2	
		米国文化原書講読Ⅰ			2
		米国文化原書講読Ⅱ			2
		中国思想概論Ⅰ			2
		中国思想概論Ⅱ			2
		中国文化概論Ⅰ			2
		中国文化概論Ⅱ			2
		中国文学概論Ⅰ			2
		中国文学概論Ⅱ			2
		中国文学史Ⅰ			2
		中国文学史Ⅱ			2
		中国古典講読Ⅰ			2
		中国古典講読Ⅱ			2
		中国近世文学研究Ⅰ			2
		中国近世文学研究Ⅱ			2
		中国近代文学研究Ⅰ			2
		中国近代文学研究Ⅱ			2
		中国現代文学研究Ⅰ			2
		中国現代文学研究Ⅱ			2
		韓国文化概論Ⅰ			2
		韓国文化概論Ⅱ			2
		韓国の宗教・社会Ⅰ			2
		韓国の宗教・社会Ⅱ			2
		韓国文化特定研究Ⅰ			2
		韓国文化特定研究Ⅱ			2
		韓国映像文化論Ⅰ			2
		韓国映像文化論Ⅱ			2

	韓国現代文学研究Ⅰ		2
	韓国現代文学研究Ⅱ		2
	インドネシアの文化・芸術		2
	インドネシアの民族・地理		2
	ベトナムの文化・芸術		2
	ベトナムの民族・地理		2
	タイの文化・芸術		2
	タイの民族・地理		2
	東南アジアの宗教と文化Ⅰ		2
	東南アジアの宗教と文化Ⅱ		2
	スペイン文学史Ⅰ		2
	スペイン文学史Ⅱ		2
	スペイン文化研究Ⅰ		2
	スペイン文化研究Ⅱ		2
	現代スペイン文学Ⅰ		2
	現代スペイン文学Ⅱ		2
	現代ラテンアメリカ文学Ⅰ		2
	現代ラテンアメリカ文学Ⅱ		2
	ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅰ		2
	ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅱ		2
	ラテンアメリカの文化と文学		2
	スペイン美術史Ⅰ		2
	スペイン美術史Ⅱ		2
	ブラジルの文化・芸術		2
	ブラジルの宗教・社会		2
	日本文化論Ⅰ		2
	日本文化論Ⅱ		2
	日本近代思想史Ⅰ		2
	日本近代思想史Ⅱ		2
	日本倫理思想史Ⅰ		2
	日本倫理思想史Ⅱ		2
	日本の宗教Ⅰ		2
	日本の宗教Ⅱ		2
	日本美術史Ⅰ		2
	日本美術史Ⅱ		2
	日本芸能史Ⅰ		2
	日本芸能史Ⅱ		2
	日本文学論Ⅰ		2

	日本文学論Ⅱ			2
	日本大衆文化論			2
	Tourism and Local Cultures of Japan			2
	Japanese Religions			2
	The Literatures of Japan		2	
	Japanese Popular Cultures		2	
	民族と文化Ⅰ(a)			2
	民族と文化Ⅰ(b)			2
	民族と文化Ⅱ(a)			2
	民族と文化Ⅱ(b)			2
	文化について考える			2
	比較文明論Ⅰ			2
	比較文明論Ⅱ			2
	比較思想Ⅰ			2
	比較思想Ⅱ			2
	比較文学概論Ⅰ			2
	比較文学概論Ⅱ			2
	日英比較文化論Ⅰ		2	
	日英比較文化論Ⅱ		2	
	日米比較文化論Ⅰ		2	
	日米比較文化論Ⅱ		2	
	日米比較教育論			2
	民族・宗教問題研究			2
	キリスト教文化論Ⅰ			2
	キリスト教文化論Ⅱ			2
	イスラム文化論Ⅰ			2
	イスラム文化論Ⅱ			2
	文化心理学Ⅰ			2
	文化心理学Ⅱ			2
	スポーツ文化論Ⅰ			2
	スポーツ文化論Ⅱ			2
	文化人類学概論Ⅰ			2
	文化人類学概論Ⅱ			2
	文化人類学研究Ⅰ			2
	文化人類学研究Ⅱ			2
	身体運動文化論			2
	健康科学論			2
	人権論			2

		ジェンダー論			2
		アート・マネジメント			2
		児童文化論			4
		演劇「実技」Ⅰ			1
		演劇「実技」Ⅱ			1
	(地域・国際研究分野)	Topics in Oceanian Studies		2	
		Topics in Canadian Studies		2	
		英国文化実地研究		4	
		米国文化実地研究		4	
		オセアニア文化実地研究		4	
		カナダ文化実地研究		4	
		マレーシア文化実地研究(英語)		4	
		英国史概論Ⅰ		2	
		英国史概論Ⅱ		2	
		History of the United StatesⅠ		2	
		History of the United StatesⅡ		2	
		米国史概論Ⅰ		2	
		米国史概論Ⅱ		2	
		米国政治論Ⅰ		2	
		米国政治論Ⅱ		2	
		米国外交論Ⅰ		2	
		米国外交論Ⅱ		2	
		米国経済論Ⅰ		2	
		米国経済論Ⅱ		2	
		米国社会論Ⅰ		2	
		米国社会論Ⅱ		2	
		英米法Ⅰ			2
		英米法Ⅱ			2
		米国政治・外交研究特論Ⅰ			2
		米国政治・外交研究特論Ⅱ			2
		米国社会史研究特論Ⅰ			2
		米国社会史研究特論Ⅱ			2
		米国社会原書講読Ⅰ			2
		米国社会原書講読Ⅱ			2
		日米関係論Ⅰ			2
		日米関係論Ⅱ			2
		アジア研究入門			2
		中国社会事情Ⅰ			2

		中国社会事情Ⅱ			2
		中国史概論Ⅰ			2
		中国史概論Ⅱ			2
		中国現代史Ⅰ			2
		中国現代史Ⅱ			2
		中国経済概論Ⅰ			2
		中国経済概論Ⅱ			2
		中国政治外交概論Ⅰ			2
		中国政治外交概論Ⅱ			2
		中国社会研究Ⅰ			2
		中国社会研究Ⅱ			2
		中国経済研究Ⅰ			2
		中国経済研究Ⅱ			2
		中国政治外交研究Ⅰ			2
		中国政治外交研究Ⅱ			2
		海外華人論Ⅰ			2
		海外華人論Ⅱ			2
		日中関係論Ⅰ			2
		日中関係論Ⅱ			2
		韓国史概論Ⅰ			2
		韓国史概論Ⅱ			2
		日韓関係史Ⅰ			2
		日韓関係史Ⅱ			2
		韓国政治論Ⅰ			2
		韓国政治論Ⅱ			2
		韓国経済論Ⅰ			2
		韓国経済論Ⅱ			2
		韓国近代史Ⅰ			2
		韓国近代史Ⅱ			2
		韓国史特講Ⅰ			2
		韓国史特講Ⅱ			2
		インドネシア研究入門			2
		インドネシアの歴史			2
		インドネシアの宗教・社会			2
		インドネシアの政治・経済Ⅰ			2
		インドネシアの政治・経済Ⅱ			2
		ベトナム研究入門			2
		ベトナムの歴史			2

		ベトナムの宗教・社会			2
		ベトナムの政治・経済Ⅰ			2
		ベトナムの政治・経済Ⅱ			2
		タイ研究入門			2
		タイの歴史			2
		タイの宗教・社会			2
		タイの政治・経済Ⅰ			2
		タイの政治・経済Ⅱ			2
		東南アジア研究入門Ⅰ			2
		東南アジア研究入門Ⅱ			2
		東南アジア史Ⅰ			2
		東南アジア史Ⅱ			2
		東南アジア社会論Ⅰ			2
		東南アジア社会論Ⅱ			2
		東南アジア政治経済論Ⅰ			2
		東南アジア政治経済論Ⅱ			2
		イberoアメリカ研究入門			2
		イベリア史概論Ⅰ			2
		イベリア史概論Ⅱ			2
		現代イベリア研究Ⅰ			2
		現代イベリア研究Ⅱ			2
		イberoアメリカの法と文化Ⅰ			2
		イberoアメリカの法と文化Ⅱ			2
		ラテンアメリカ史概論Ⅰ			2
		ラテンアメリカ史概論Ⅱ			2
		現代ラテンアメリカ研究Ⅰ			2
		現代ラテンアメリカ研究Ⅱ			2
		ラテンアメリカ政治論Ⅰ			2
		ラテンアメリカ政治論Ⅱ			2
		ラテンアメリカ経済論Ⅰ			2
		ラテンアメリカ経済論Ⅱ			2
		メキシコ研究Ⅰ			2
		メキシコ研究Ⅱ			2
		ブラジル研究入門			2
		ブラジルの民族・地理			2
		ブラジルの歴史			2
		ブラジルの政治・経済Ⅰ			2
		ブラジルの政治・経済Ⅱ			2

		ポルトガル語圏の世界			2
		国際社会が見えてくる			2
		国際関係史Ⅰ			2
		国際関係史Ⅱ			2
		国際関係論Ⅰ			2
		国際関係論Ⅱ			2
		国際社会論Ⅰ			2
		国際社会論Ⅱ			2
		国際経済論Ⅰ			2
		国際経済論Ⅱ			2
		国際法Ⅰ			2
		国際法Ⅱ			2
		国際機構論Ⅰ			2
		国際機構論Ⅱ			2
		国際ビジネス法Ⅰ			2
		国際ビジネス法Ⅱ			2
		国際マーケティング論Ⅰ			2
		国際マーケティング論Ⅱ			2
		国際協力論Ⅰ			2
		国際協力論Ⅱ			2
		国際平和論Ⅰ			2
		国際平和論Ⅱ			2
		国際開発論Ⅰ			2
		国際開発論Ⅱ			2
		The History of Modern Japan		2	
		The History of Premodern Japan			2
		International Relations: Japan in the Asian Context			2
		Japanese Politics			2
		日本近代史			2
		日本現代史			2
		日本政治論Ⅰ			2
		日本政治論Ⅱ			2
		日本経済論Ⅰ			2
		日本経済論Ⅱ			2
		日本社会論Ⅰ			2
		日本社会論Ⅱ			2
		日本外交史Ⅰ			2

研 究 科		日本外交史Ⅱ			2
		東アジア政治経済論Ⅰ			2
		東アジア政治経済論Ⅱ			2
		ヨーロッパ政治経済論Ⅰ			2
		ヨーロッパ政治経済論Ⅱ			2
		アフリカ研究入門Ⅰ			2
		アフリカ研究入門Ⅱ			2
		地域研究			2
		社会思想史Ⅰ			2
		社会思想史Ⅱ			2
		現代国家論Ⅰ			2
		現代国家論Ⅱ			2
		社会調査法Ⅰ			2
		社会調査法Ⅱ			2
		環境科学Ⅰ			2
		環境科学Ⅱ			2
		企業研究Ⅰ			2
		企業研究Ⅱ			2
		簿記会計Ⅰ			2
		簿記会計Ⅱ			2
		国際経営論Ⅰ			2
		国際経営論Ⅱ			2
		マーケティングリサーチ			2
		アントレプレナーシップ論			2
		企業行動論Ⅰ			2
		企業行動論Ⅱ			2
		企業財務Ⅰ			2
		企業財務Ⅱ			2
		民法概論Ⅰ			2
		民法概論Ⅱ			2
		商法概論Ⅰ			2
		商法概論Ⅱ			2
		米国契約法			2
		法と国際ビジネス			2
	アジア言語学科				
	(研究入門)	アジア研究入門	2		
	(言語研究分野)	英語学概論			4

目	英語音声学			4
	Outline of English Phonetics			4
	英語音韻論			4
	英語統語論Ⅰ			4
	英語統語論Ⅱ			4
	英語意味論			4
	現代英文法			4
	英語習得法			4
	Ways of Learning English			4
	第二言語習得研究			4
	Issues in Second Language Acquisition			4
	英語談話分析			4
	Introduction to Discourse Analysis			4
	英語史			4
	古期中期英語			4
	教育英文法基礎			2
	外国語評価法			2
	TESOL(英語教授法)海外研修			4
	英語語法研究			4
	Introduction to English Sentence Structures			2
	英語構文研究			4
	Introduction to Language and Communication			2
	Issues in Applied Linguistics			4
	Topics in Sociolinguistics			4
	日英語対照研究			4
	認知発達と英語教育			4
	児童英語教育論			4
	児童英語指導法			4
	児童英語教育カリキュラムデザイン			4
	児童英語教育実習(船橋)			2
	児童英語教育実習(沖縄)			2
	児童英語海外実習			2
	中国語学概論Ⅰ		2	
	中国語学概論Ⅱ		2	
	中国語文法論Ⅰ			2
	中国語文法論Ⅱ			2

		中国語語彙論Ⅰ			2
		中国語語彙論Ⅱ			2
		中国語音韻論Ⅰ			2
		中国語音韻論Ⅱ			2
		中国語音声学Ⅰ			2
		中国語音声学Ⅱ			2
		中国語史Ⅰ			2
		中国語史Ⅱ			2
		日中比較言語Ⅰ			2
		日中比較言語Ⅱ			2
		広東語Ⅰ			2
		広東語Ⅱ			2
		福建語Ⅰ			2
		福建語Ⅱ			2
		韓国語学概論Ⅰ		2	
		韓国語学概論Ⅱ		2	
		韓国語文法論Ⅰ		2	
		韓国語文法論Ⅱ		2	
		日韓対照言語研究Ⅰ			2
		日韓対照言語研究Ⅱ			2
		韓国語学特講Ⅰ			2
		韓国語学特講Ⅱ			2
		韓国語社会言語学Ⅰ			2
		韓国語社会言語学Ⅱ			2
		韓国語文章表現法			2
		韓国語意味論			2
		韓国語史Ⅰ			2
		韓国語史Ⅱ			2
		東南アジア言語概論Ⅰ			2
		東南アジア言語概論Ⅱ			2
		スペイン語学概論Ⅰ			2
		スペイン語学概論Ⅱ			2
		スペイン語音声学Ⅰ			2
		スペイン語音声学Ⅱ			2
		スペイン語史Ⅰ			2
		スペイン語史Ⅱ			2
		アメリカスペイン語特殊研究Ⅰ			2
		アメリカスペイン語特殊研究Ⅱ			2

		日西語対照研究Ⅰ			2
		日西語対照研究Ⅱ			2
		商業スペイン語Ⅰ			2
		商業スペイン語Ⅱ			2
		ポルトガル語学概論Ⅰ			2
		ポルトガル語学概論Ⅱ			2
		The Languages of JapanⅠ			2
		The Languages of JapanⅡ			2
		日本語学概論			4
		日本語学Ⅰ			4
		日本語学Ⅱ			4
		日本語学特論			4
		日本語教育概論			2
		日本語教授法			4
		日本語教育実習			2
		日本語表現法Ⅰ			2
		日本語表現法Ⅱ			2
		社会言語学Ⅰ			4
		社会言語学Ⅱ			4
		心理言語学			4
		応用言語学			4
		意味・語用論			4
		言語学特別研究			4
		言語哲学Ⅰ			2
		言語哲学Ⅱ			2
		西洋古典語概論Ⅰ			2
		西洋古典語概論Ⅱ			2
	(コミュニケーション研究分野)	Public Speaking			4
		Debate			4
		Small Group Communication			4
		日米コミュニケーション論			4
		英語オーラルインタープリテーション			4
		英語説得コミュニケーション論			4
		日英翻訳法Ⅰ			4
		日英翻訳法Ⅱ			4
		英日翻訳法Ⅰ			4
		英日翻訳法Ⅱ			4
		英語通訳法Ⅰ			4

	英語通訳法Ⅱ		4
	英語通訳法Ⅲ		4
	英語通訳法Ⅳ		4
	英語映像翻訳法		4
	コミュニティー英語通訳法		4
	Theories of Translation and Interpreting		4
	通訳・翻訳理論(英語)		4
	ビジネス中国語Ⅰ(a)		2
	ビジネス中国語Ⅰ(b)		2
	ビジネス中国語Ⅱ(a)		2
	ビジネス中国語Ⅱ(b)		2
	中国語通訳法Ⅰ(a)		2
	中国語通訳法Ⅰ(b)		2
	中国語通訳法Ⅱ(a)		2
	中国語通訳法Ⅱ(b)		2
	韓国語映像翻訳法Ⅰ		2
	韓国語映像翻訳法Ⅱ		2
	スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅰ		2
	スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅱ		2
	スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅠ		2
	スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅡ		2
	スペイン語通訳法Ⅰ		2
	スペイン語翻訳法Ⅰ		2
	スペイン語翻訳法Ⅱ		2
	スペイン語映像翻訳法Ⅰ		2
	スペイン語映像翻訳法Ⅱ		2
	コミュニケーション論Ⅰ		2
	コミュニケーション論Ⅱ		2
	異文化コミュニケーション論Ⅰ		2
	異文化コミュニケーション論Ⅱ		2
	組織コミュニケーション論Ⅰ		2
	組織コミュニケーション論Ⅱ		2
	メディア・コミュニケーション表現Ⅰ		2
	メディア・コミュニケーション表現Ⅱ		2
	デジタル・メディアとコミュニケーションⅠ		2
	デジタル・メディアとコミュニケーションⅡ		2
	メディア文化論Ⅰ		2
	メディア文化論Ⅱ		2

		非言語コミュニケーション論Ⅰ			2
		非言語コミュニケーション論Ⅱ			2
		対人コミュニケーション論			2
		Leadership CommunicationⅠ			2
		Leadership CommunicationⅡ			2
		国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅰ			2
		国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅱ			2
		日本語プレゼンテーション			4
		日本語ディベート			4
		日本語スモールグループ・コミュニケーション			4
		コミュニケーション論特講Ⅰ			2
		コミュニケーション論特講Ⅱ			2
		レトリカルコミュニケーション論			2
		多文化社会コミュニケーション論Ⅰ			2
		多文化社会コミュニケーション論Ⅱ			2
		通訳・翻訳への招待			2
		日中通訳法Ⅰ			4
		日中通訳法Ⅱ			4
		日韓・韓日通訳法Ⅰ			2
		日韓・韓日通訳法Ⅱ			2
		デジタル・メディアと社会Ⅰ			2
		デジタル・メディアと社会Ⅱ			2
		ジャーナリズム論Ⅰ			2
		ジャーナリズム論Ⅱ			2
		Media and Japanese Society			2
		メディアリテラシー			2
		メディア研究法Ⅰ			2
		メディア研究法Ⅱ			2
		ウェブデザインⅠ			2
		ウェブデザインⅡ			2
		メディア表現論Ⅰ			2
		メディア表現論Ⅱ			2
		ソフトウェアデザインⅠ			2
		ソフトウェアデザインⅡ			2
		グラフィックデザインⅠ			2
		グラフィックデザインⅡ			2
		プログラミングⅠ			2

(総合文化研究分野)	プログラミングⅡ			2
	英文学研究Ⅰ			2
	英文学研究Ⅱ			2
	米文学研究Ⅰ			2
	米文学研究Ⅱ			2
	米国文化論Ⅰ			2
	米国文化論Ⅱ			2
	米国文化原書講読Ⅰ			2
	米国文化原書講読Ⅱ			2
	中国思想概論Ⅰ			2
	中国思想概論Ⅱ			2
	中国文化概論Ⅰ			2
	中国文化概論Ⅱ			2
	中国文学概論Ⅰ		2	
	中国文学概論Ⅱ		2	
	中国文学史Ⅰ			2
	中国文学史Ⅱ			2
	中国古典講読Ⅰ		2	
	中国古典講読Ⅱ		2	
	中国近世文学研究Ⅰ			2
	中国近世文学研究Ⅱ			2
	中国近代文学研究Ⅰ			2
	中国近代文学研究Ⅱ			2
	中国現代文学研究Ⅰ			2
	中国現代文学研究Ⅱ			2
	韓国文化概論Ⅰ		2	
	韓国文化概論Ⅱ		2	
	韓国の宗教・社会Ⅰ		2	
	韓国の宗教・社会Ⅱ		2	
	韓国文化特定研究Ⅰ			2
	韓国文化特定研究Ⅱ			2
	韓国映像文化論Ⅰ			2
	韓国映像文化論Ⅱ			2
	韓国現代文学研究Ⅰ			2
	韓国現代文学研究Ⅱ			2
	インドネシアの文化・芸術		2	
	インドネシアの民族・地理		2	
	ベトナムの文化・芸術		2	

		ベトナムの民族・地理		2	
		タイの文化・芸術		2	
		タイの民族・地理		2	
		東南アジアの宗教と文化Ⅰ			2
		東南アジアの宗教と文化Ⅱ			2
		スペイン文学史Ⅰ			2
		スペイン文学史Ⅱ			2
		スペイン文化研究Ⅰ			2
		スペイン文化研究Ⅱ			2
		現代スペイン文学Ⅰ			2
		現代スペイン文学Ⅱ			2
		現代ラテンアメリカ文学Ⅰ			2
		現代ラテンアメリカ文学Ⅱ			2
		ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅰ			2
		ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅱ			2
		ラテンアメリカの文化と文学			2
		スペイン美術史Ⅰ			2
		スペイン美術史Ⅱ			2
		ブラジルの文化・芸術			2
		ブラジルの宗教・社会			2
		日本文化論Ⅰ			2
		日本文化論Ⅱ			2
		日本近代思想史Ⅰ			2
		日本近代思想史Ⅱ			2
		日本倫理思想史Ⅰ			2
		日本倫理思想史Ⅱ			2
		日本の宗教Ⅰ			2
		日本の宗教Ⅱ			2
		日本美術史Ⅰ			2
		日本美術史Ⅱ			2
		日本芸能史Ⅰ			2
		日本芸能史Ⅱ			2
		日本文学論Ⅰ			2
		日本文学論Ⅱ			2
		日本大衆文化論			2
		Tourism and Local Cultures of Japan			2
		Japanese Religions			2
		The Literatures of Japan			2

	Japanese Popular Cultures		2
	民族と文化Ⅰ(a)		2
	民族と文化Ⅰ(b)		2
	民族と文化Ⅱ(a)		2
	民族と文化Ⅱ(b)		2
	文化について考える		2
	比較文明論Ⅰ		2
	比較文明論Ⅱ		2
	比較思想Ⅰ		2
	比較思想Ⅱ		2
	比較文学概論Ⅰ		2
	比較文学概論Ⅱ		2
	日英比較文化論Ⅰ		2
	日英比較文化論Ⅱ		2
	日米比較文化論Ⅰ		2
	日米比較文化論Ⅱ		2
	日米比較教育論		2
	民族・宗教問題研究		2
	キリスト教文化論Ⅰ		2
	キリスト教文化論Ⅱ		2
	イスラム文化論Ⅰ		2
	イスラム文化論Ⅱ		2
	文化心理学Ⅰ		2
	文化心理学Ⅱ		2
	スポーツ文化論Ⅰ		2
	スポーツ文化論Ⅱ		2
	文化人類学概論Ⅰ		2
	文化人類学概論Ⅱ		2
	文化人類学研究Ⅰ		2
	文化人類学研究Ⅱ		2
	身体運動文化論		2
	健康科学論		2
	人権論		2
	ジェンダー論		2
	アート・マネジメント		2
	児童文化論		4
	演劇「実技」Ⅰ		1
	演劇「実技」Ⅱ		1

(地域・国際研究分野)	Topics in Oceanian Studies			2
	Topics in Canadian Studies			2
	英国文化実地研究			4
	米国文化実地研究			4
	オセアニア文化実地研究			4
	カナダ文化実地研究			4
	マレーシア文化実地研究(英語)			4
	英国史概論Ⅰ			2
	英国史概論Ⅱ			2
	History of the United StatesⅠ			2
	History of the United StatesⅡ			2
	米国史概論Ⅰ			2
	米国史概論Ⅱ			2
	米国政治論Ⅰ			2
	米国政治論Ⅱ			2
	米国外交論Ⅰ			2
	米国外交論Ⅱ			2
	米国経済論Ⅰ			2
	米国経済論Ⅱ			2
	米国社会論Ⅰ			2
	米国社会論Ⅱ			2
	英米法Ⅰ			2
	英米法Ⅱ			2
	米国政治・外交研究特論Ⅰ			2
	米国政治・外交研究特論Ⅱ			2
	米国社会史研究特論Ⅰ			2
	米国社会史研究特論Ⅱ			2
	米国社会原書講読Ⅰ			2
	米国社会原書講読Ⅱ			2
	日米関係論Ⅰ			2
	日米関係論Ⅱ			2
	アジア研究入門			2
	中国社会事情Ⅰ	2		
	中国社会事情Ⅱ	2		
	中国史概論Ⅰ		2	
	中国史概論Ⅱ		2	
	中国現代史Ⅰ		2	
	中国現代史Ⅱ		2	

		中国経済概論Ⅰ		2	
		中国経済概論Ⅱ		2	
		中国政治外交概論Ⅰ		2	
		中国政治外交概論Ⅱ		2	
		中国社会研究Ⅰ			2
		中国社会研究Ⅱ			2
		中国経済研究Ⅰ			2
		中国経済研究Ⅱ			2
		中国政治外交研究Ⅰ			2
		中国政治外交研究Ⅱ			2
		海外華人論Ⅰ			2
		海外華人論Ⅱ			2
		日中関係論Ⅰ			2
		日中関係論Ⅱ			2
		韓国史概論Ⅰ		2	
		韓国史概論Ⅱ		2	
		日韓関係史Ⅰ		2	
		日韓関係史Ⅱ		2	
		韓国政治論Ⅰ			2
		韓国政治論Ⅱ			2
		韓国経済論Ⅰ			2
		韓国経済論Ⅱ			2
		韓国近代史Ⅰ			2
		韓国近代史Ⅱ			2
		韓国史特講Ⅰ			2
		韓国史特講Ⅱ			2
		インドネシア研究入門	2		
		インドネシアの歴史		2	
		インドネシアの宗教・社会		2	
		インドネシアの政治・経済Ⅰ		2	
		インドネシアの政治・経済Ⅱ		2	
		ベトナム研究入門	2		
		ベトナムの歴史		2	
		ベトナムの宗教・社会		2	
		ベトナムの政治・経済Ⅰ		2	
		ベトナムの政治・経済Ⅱ		2	
		タイ研究入門	2		
		タイの歴史		2	

	タイの宗教・社会		2	
	タイの政治・経済Ⅰ		2	
	タイの政治・経済Ⅱ		2	
	東南アジア研究入門Ⅰ			2
	東南アジア研究入門Ⅱ			2
	東南アジア史Ⅰ			2
	東南アジア史Ⅱ			2
	東南アジア社会論Ⅰ			2
	東南アジア社会論Ⅱ			2
	東南アジア政治経済論Ⅰ			2
	東南アジア政治経済論Ⅱ			2
	イベロアメリカ研究入門			2
	イベリア史概論Ⅰ			2
	イベリア史概論Ⅱ			2
	イベロアメリカの法と文化Ⅰ			2
	イベロアメリカの法と文化Ⅱ			2
	ラテンアメリカ史概論Ⅰ			2
	ラテンアメリカ史概論Ⅱ			2
	現代ラテンアメリカ研究Ⅰ			2
	現代ラテンアメリカ研究Ⅱ			2
	ラテンアメリカ政治論Ⅰ			2
	ラテンアメリカ政治論Ⅱ			2
	ラテンアメリカ経済論Ⅰ			2
	ラテンアメリカ経済論Ⅱ			2
	メキシコ研究Ⅰ			2
	メキシコ研究Ⅱ			2
	ブラジル研究入門			2
	ブラジルの民族・地理			2
	ブラジルの歴史			2
	ブラジルの政治・経済Ⅰ			2
	ブラジルの政治・経済Ⅱ			2
	ポルトガル語圏の世界			2
	国際社会が見えてくる			2
	国際関係史Ⅰ			2
	国際関係史Ⅱ			2
	国際関係論Ⅰ			2
	国際関係論Ⅱ			2
	国際社会論Ⅰ			2

		国際社会論Ⅱ			2
		国際経済論Ⅰ			2
		国際経済論Ⅱ			2
		国際法Ⅰ			2
		国際法Ⅱ			2
		国際機構論Ⅰ			2
		国際機構論Ⅱ			2
		国際ビジネス法Ⅰ			2
		国際ビジネス法Ⅱ			2
		国際マーケティング論Ⅰ			2
		国際マーケティング論Ⅱ			2
		国際協力論Ⅰ			2
		国際協力論Ⅱ			2
		国際平和論Ⅰ			2
		国際平和論Ⅱ			2
		国際開発論Ⅰ			2
		国際開発論Ⅱ			2
		The History of Modern Japan			2
		The History of Premodern Japan			2
		International Relations: Japan in the Asian Context			2
		Japanese Politics			2
		日本近代史			2
		日本現代史			2
		日本政治論Ⅰ			2
		日本政治論Ⅱ			2
		日本経済論Ⅰ			2
		日本経済論Ⅱ			2
		日本社会論Ⅰ			2
		日本社会論Ⅱ			2
		日本外交史Ⅰ			2
		日本外交史Ⅱ			2
		東アジア政治経済論Ⅰ			2
		東アジア政治経済論Ⅱ			2
		ヨーロッパ政治経済論Ⅰ			2
		ヨーロッパ政治経済論Ⅱ			2
		アフリカ研究入門Ⅰ			2
		アフリカ研究入門Ⅱ			2

研 究 科 目		地域研究			2
		社会思想史Ⅰ			2
		社会思想史Ⅱ			2
		現代国家論Ⅰ			2
		現代国家論Ⅱ			2
		社会調査法Ⅰ			2
		社会調査法Ⅱ			2
		環境科学Ⅰ			2
		環境科学Ⅱ			2
		企業研究Ⅰ			2
		企業研究Ⅱ			2
		簿記会計Ⅰ			2
		簿記会計Ⅱ			2
		国際経営論Ⅰ			2
		国際経営論Ⅱ			2
		マーケティングリサーチ			2
		アントレプレナーシップ論			2
		企業行動論Ⅰ			2
		企業行動論Ⅱ			2
		企業財務Ⅰ			2
		企業財務Ⅱ			2
		民法概論Ⅰ			2
		民法概論Ⅱ			2
		商法概論Ⅰ			2
		商法概論Ⅱ			2
		米国契約法			2
		法と国際ビジネス			2
	イペロアメリカ言語学科				
	(研究入門)	イペロアメリカ研究入門	2		
	(言語研究分野)	英語学概論			4
		英語音声学			4
		Outline of English Phonetics			4
		英語音韻論			4
		英語統語論Ⅰ			4
		英語統語論Ⅱ			4
		英語意味論			4
		現代英文法			4
		英語習得法			4

		Ways of Learning English			4
		第二言語習得研究			4
		Issues in Second Language Acquisition			4
		英語談話分析			4
		Introduction to Discourse Analysis			4
		英語史			4
		古期中期英語			4
		教育英文法基礎			2
		外国語評価法			2
		TESOL(英語教授法)海外研修			4
		英語語法研究			4
		Introduction to English Sentence Structures			2
		英語構文研究			4
		Introduction to Language and Communication			2
		Issues in Applied Linguistics			4
		Topics in Sociolinguistics			4
		日英語対照研究			4
		認知発達と英語教育			4
		児童英語教育論			4
		児童英語指導法			4
		児童英語教育カリキュラムデザイン			4
		児童英語教育実習(船橋)			2
		児童英語教育実習(沖縄)			2
		児童英語海外実習			2
		中国語学概論Ⅰ			2
		中国語学概論Ⅱ			2
		中国語文法論Ⅰ			2
		中国語文法論Ⅱ			2
		中国語語彙論Ⅰ			2
		中国語語彙論Ⅱ			2
		中国語音韻論Ⅰ			2
		中国語音韻論Ⅱ			2
		中国語音声学Ⅰ			2
		中国語音声学Ⅱ			2
		中国語史Ⅰ			2
		中国語史Ⅱ			2

		日中比較言語Ⅰ			2
		日中比較言語Ⅱ			2
		広東語Ⅰ			2
		広東語Ⅱ			2
		福建語Ⅰ			2
		福建語Ⅱ			2
		韓国語学概論Ⅰ			2
		韓国語学概論Ⅱ			2
		韓国語文法論Ⅰ			2
		韓国語文法論Ⅱ			2
		日韓対照言語研究Ⅰ			2
		日韓対照言語研究Ⅱ			2
		韓国語学特講Ⅰ			2
		韓国語学特講Ⅱ			2
		韓国語社会言語学Ⅰ			2
		韓国語社会言語学Ⅱ			2
		韓国語文章表現法			2
		韓国語意味論			2
		韓国語史Ⅰ			2
		韓国語史Ⅱ			2
		東南アジア言語概論Ⅰ			2
		東南アジア言語概論Ⅱ			2
		スペイン語学概論Ⅰ		2	
		スペイン語学概論Ⅱ		2	
		スペイン語音声学Ⅰ			2
		スペイン語音声学Ⅱ			2
		スペイン語史Ⅰ			2
		スペイン語史Ⅱ			2
		アメリカスペイン語特殊研究Ⅰ			2
		アメリカスペイン語特殊研究Ⅱ			2
		日西語対照研究Ⅰ			2
		日西語対照研究Ⅱ			2
		商業スペイン語Ⅰ			2
		商業スペイン語Ⅱ			2
		ポルトガル語学概論Ⅰ		2	
		ポルトガル語学概論Ⅱ		2	
		The Languages of JapanⅠ			2
		The Languages of JapanⅡ			2

		日本語学概論			4
		日本語学Ⅰ			4
		日本語学Ⅱ			4
		日本語学特論			4
		日本語教育概論			2
		日本語教授法			4
		日本語教育実習			2
		日本語表現法Ⅰ			2
		日本語表現法Ⅱ			2
		社会言語学Ⅰ			4
		社会言語学Ⅱ			4
		心理言語学			4
		応用言語学			4
		意味・語用論			4
		言語学特別研究			4
		言語哲学Ⅰ			2
		言語哲学Ⅱ			2
		西洋古典語概論Ⅰ			2
		西洋古典語概論Ⅱ			2
	(コミュニケーション研究分野)		Public Speaking		
		Debate			4
		Small Group Communication			4
		日米コミュニケーション論			4
		英語オーラルインタープリテーション			4
		英語説得コミュニケーション論			4
		日英翻訳法Ⅰ			4
		日英翻訳法Ⅱ			4
		英日翻訳法Ⅰ			4
		英日翻訳法Ⅱ			4
		英語通訳法Ⅰ			4
		英語通訳法Ⅱ			4
		英語通訳法Ⅲ			4
		英語通訳法Ⅳ			4
		英語映像翻訳法			4
		コミュニティー英語通訳法			4
		Theories of Translation and Interpreting			4
		通訳・翻訳理論(英語)			4
		ビジネス中国語Ⅰ(a)			2

		ビジネス中国語Ⅰ (b)			2
		ビジネス中国語Ⅱ (a)			2
		ビジネス中国語Ⅱ (b)			2
		中国語通訳法Ⅰ (a)			2
		中国語通訳法Ⅰ (b)			2
		中国語通訳法Ⅱ (a)			2
		中国語通訳法Ⅱ (b)			2
		韓国語映像翻訳法Ⅰ			2
		韓国語映像翻訳法Ⅱ			2
		スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅰ			2
		スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅱ			2
		スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅠ			2
		スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅡ			2
		スペイン語通訳法Ⅰ			2
		スペイン語通訳法Ⅱ			2
		スペイン語翻訳法Ⅰ			2
		スペイン語翻訳法Ⅱ			2
		スペイン語映像翻訳法Ⅰ			2
		スペイン語映像翻訳法Ⅱ			2
		コミュニケーション論Ⅰ			2
		コミュニケーション論Ⅱ			2
		異文化コミュニケーション論Ⅰ			2
		異文化コミュニケーション論Ⅱ			2
		組織コミュニケーション論Ⅰ			2
		組織コミュニケーション論Ⅱ			2
		メディア・コミュニケーション表現Ⅰ			2
		メディア・コミュニケーション表現Ⅱ			2
		デジタル・メディアとコミュニケーションⅠ			2
		デジタル・メディアとコミュニケーションⅡ			2
		メディア文化論Ⅰ			2
		メディア文化論Ⅱ			2
		非言語コミュニケーション論Ⅰ			2
		非言語コミュニケーション論Ⅱ			2
		対人コミュニケーション論			2
		Leadership CommunicationⅠ			2
		Leadership CommunicationⅡ			2
		国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅰ			2
		国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅱ			2

		日本語プレゼンテーション			4
		日本語ディベート			4
		日本語スモールグループ・コミュニケーション			4
		コミュニケーション論特講Ⅰ			2
		コミュニケーション論特講Ⅱ			2
		レトリカルコミュニケーション論			2
		多文化社会コミュニケーション論Ⅰ			2
		多文化社会コミュニケーション論Ⅱ			2
		通訳・翻訳への招待			2
		日中通訳法Ⅰ			4
		日中通訳法Ⅱ			4
		日韓・韓日通訳法Ⅰ			2
		日韓・韓日通訳法Ⅱ			2
		デジタル・メディアと社会Ⅰ			2
		デジタル・メディアと社会Ⅱ			2
		ジャーナリズム論Ⅰ			2
		ジャーナリズム論Ⅱ			2
		Media and Japanese Society			2
		メディアリテラシー			2
		メディア研究法Ⅰ			2
		メディア研究法Ⅱ			2
		ウェブデザインⅠ			2
		ウェブデザインⅡ			2
		メディア表現論Ⅰ			2
		メディア表現論Ⅱ			2
		ソフトウェアデザインⅠ			2
		ソフトウェアデザインⅡ			2
		グラフィックデザインⅠ			2
		グラフィックデザインⅡ			2
		プログラミングⅠ			2
		プログラミングⅡ			2
	(総合文化研究分野)	英文学研究Ⅰ			2
		英文学研究Ⅱ			2
		米文学研究Ⅰ			2
		米文学研究Ⅱ			2
		米国文化論Ⅰ			2
		米国文化論Ⅱ			2

		米国文化原書講読Ⅰ			2
		米国文化原書講読Ⅱ			2
		中国思想概論Ⅰ			2
		中国思想概論Ⅱ			2
		中国文化概論Ⅰ			2
		中国文化概論Ⅱ			2
		中国文学概論Ⅰ			2
		中国文学概論Ⅱ			2
		中国文学史Ⅰ			2
		中国文学史Ⅱ			2
		中国古典講読Ⅰ			2
		中国古典講読Ⅱ			2
		中国近世文学研究Ⅰ			2
		中国近世文学研究Ⅱ			2
		中国近代文学研究Ⅰ			2
		中国近代文学研究Ⅱ			2
		中国現代文学研究Ⅰ			2
		中国現代文学研究Ⅱ			2
		韓国文化概論Ⅰ			2
		韓国文化概論Ⅱ			2
		韓国の宗教・社会Ⅰ			2
		韓国の宗教・社会Ⅱ			2
		韓国文化特定研究Ⅰ			2
		韓国文化特定研究Ⅱ			2
		韓国映像文化論Ⅰ			2
		韓国映像文化論Ⅱ			2
		韓国現代文学研究Ⅰ			2
		韓国現代文学研究Ⅱ			2
		インドネシアの文化・芸術			2
		インドネシアの民族・地理			2
		ベトナムの文化・芸術			2
		ベトナムの民族・地理			2
		タイの文化・芸術			2
		タイの民族・地理			2
		東南アジアの宗教と文化Ⅰ			2
		東南アジアの宗教と文化Ⅱ			2
		スペイン文学史Ⅰ		2	
		スペイン文学史Ⅱ		2	

		スペイン文化研究Ⅰ			2
		スペイン文化研究Ⅱ			2
		現代スペイン文学Ⅰ			2
		現代スペイン文学Ⅱ			2
		現代ラテンアメリカ文学Ⅰ			2
		現代ラテンアメリカ文学Ⅱ			2
		ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅰ			2
		ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅱ			2
		ラテンアメリカの文化と文学			2
		スペイン美術史Ⅰ			2
		スペイン美術史Ⅱ			2
		ブラジルの文化・芸術		2	
		ブラジルの宗教・社会		2	
		日本文化論Ⅰ			2
		日本文化論Ⅱ			2
		日本近代思想史Ⅰ			2
		日本近代思想史Ⅱ			2
		日本倫理思想史Ⅰ			2
		日本倫理思想史Ⅱ			2
		日本の宗教Ⅰ			2
		日本の宗教Ⅱ			2
		日本美術史Ⅰ			2
		日本美術史Ⅱ			2
		日本芸能史Ⅰ			2
		日本芸能史Ⅱ			2
		日本文学論Ⅰ			2
		日本文学論Ⅱ			2
		日本大衆文化論			2
		Tourism and Local Cultures of Japan			2
		Japanese Religions			2
		The Literatures of Japan			2
		Japanese Popular Cultures			2
		民族と文化Ⅰ (a)			2
		民族と文化Ⅰ (b)			2
		民族と文化Ⅱ (a)			2
		民族と文化Ⅱ (b)			2
		文化について考える			2
		比較文明論Ⅰ			2

		比較文明論Ⅱ			2
		比較思想Ⅰ			2
		比較思想Ⅱ			2
		比較文学概論Ⅰ			2
		比較文学概論Ⅱ			2
		日英比較文化論Ⅰ			2
		日英比較文化論Ⅱ			2
		日米比較文化論Ⅰ			2
		日米比較文化論Ⅱ			2
		日米比較教育論			2
		民族・宗教問題研究			2
		キリスト教文化論Ⅰ			2
		キリスト教文化論Ⅱ			2
		イスラム文化論Ⅰ			2
		イスラム文化論Ⅱ			2
		文化心理学Ⅰ			2
		文化心理学Ⅱ			2
		スポーツ文化論Ⅰ			2
		スポーツ文化論Ⅱ			2
		文化人類学概論Ⅰ			2
		文化人類学概論Ⅱ			2
		文化人類学研究Ⅰ			2
		文化人類学研究Ⅱ			2
		身体運動文化論			2
		健康科学論			2
		人権論			2
		ジェンダー論			2
		アート・マネジメント			2
		児童文化論			4
		演劇「実技」Ⅰ			1
		演劇「実技」Ⅱ			1
	(地域・国際研究分野)	Topics in Oceanian Studies			2
		Topics in Canadian Studies			2
		英国文化実地研究			4
		米国文化実地研究			4
		オセアニア文化実地研究			4
		カナダ文化実地研究			4
		マレーシア文化実地研究(英語)			4

		英国史概論 I			2
		英国史概論 II			2
		History of the United States I			2
		History of the United States II			2
		米国史概論 I			2
		米国史概論 II			2
		米国政治論 I			2
		米国政治論 II			2
		米国外交論 I			2
		米国外交論 II			2
		米国経済論 I			2
		米国経済論 II			2
		米国社会論 I			2
		米国社会論 II			2
		英米法 I			2
		英米法 II			2
		米国政治・外交研究特論 I			2
		米国政治・外交研究特論 II			2
		米国社会史研究特論 I			2
		米国社会史研究特論 II			2
		米国社会原書講読 I			2
		米国社会原書講読 II			2
		日米関係論 I			2
		日米関係論 II			2
		アジア研究入門			2
		中国社会事情 I			2
		中国社会事情 II			2
		中国史概論 I			2
		中国史概論 II			2
		中国現代史 I			2
		中国現代史 II			2
		中国経済概論 I			2
		中国経済概論 II			2
		中国政治外交概論 I			2
		中国政治外交概論 II			2
		中国社会研究 I			2
		中国社会研究 II			2
		中国経済研究 I			2

		中国経済研究Ⅱ			2
		中国政治外交研究Ⅰ			2
		中国政治外交研究Ⅱ			2
		海外華人論Ⅰ			2
		海外華人論Ⅱ			2
		日中関係論Ⅰ			2
		日中関係論Ⅱ			2
		韓国史概論Ⅰ			2
		韓国史概論Ⅱ			2
		日韓関係史Ⅰ			2
		日韓関係史Ⅱ			2
		韓国政治論Ⅰ			2
		韓国政治論Ⅱ			2
		韓国経済論Ⅰ			2
		韓国経済論Ⅱ			2
		韓国近代史Ⅰ			2
		韓国近代史Ⅱ			2
		韓国史特講Ⅰ			2
		韓国史特講Ⅱ			2
		インドネシア研究入門			2
		インドネシアの歴史			2
		インドネシアの宗教・社会			2
		インドネシアの政治・経済Ⅰ			2
		インドネシアの政治・経済Ⅱ			2
		ベトナム研究入門			2
		ベトナムの歴史			2
		ベトナムの宗教・社会			2
		ベトナムの政治・経済Ⅰ			2
		ベトナムの政治・経済Ⅱ			2
		タイ研究入門			2
		タイの歴史			2
		タイの宗教・社会			2
		タイの政治・経済Ⅰ			2
		タイの政治・経済Ⅱ			2
		東南アジア研究入門Ⅰ			2
		東南アジア研究入門Ⅱ			2
		東南アジア史Ⅰ			2
		東南アジア史Ⅱ			2

		東南アジア社会論Ⅰ			2
		東南アジア社会論Ⅱ			2
		東南アジア政治経済論Ⅰ			2
		東南アジア政治経済論Ⅱ			2
		イベリア史概論Ⅰ		2	
		イベリア史概論Ⅱ		2	
		現代イベリア研究Ⅰ			2
		現代イベリア研究Ⅱ			2
		イベロアメリカの法と文化Ⅰ			2
		イベロアメリカの法と文化Ⅱ			2
		ラテンアメリカ史概論Ⅰ		2	
		ラテンアメリカ史概論Ⅱ		2	
		現代ラテンアメリカ研究Ⅰ			2
		現代ラテンアメリカ研究Ⅱ			2
		ラテンアメリカ政治論Ⅰ			2
		ラテンアメリカ政治論Ⅱ			2
		ラテンアメリカ経済論Ⅰ			2
		ラテンアメリカ経済論Ⅱ			2
		メキシコ研究Ⅰ			2
		メキシコ研究Ⅱ			2
		ブラジル研究入門	2		
		ブラジルの民族・地理		2	
		ブラジルの歴史		2	
		ブラジルの政治・経済Ⅰ		2	
		ブラジルの政治・経済Ⅱ		2	
		ポルトガル語圏の世界		2	
		国際社会が見えてくる			2
		国際関係史Ⅰ			2
		国際関係史Ⅱ			2
		国際関係論Ⅰ			2
		国際関係論Ⅱ			2
		国際社会論Ⅰ			2
		国際社会論Ⅱ			2
		国際経済論Ⅰ			2
		国際経済論Ⅱ			2
		国際法Ⅰ			2
		国際法Ⅱ			2
		国際機構論Ⅰ			2

		国際機構論Ⅱ			2
		国際ビジネス法Ⅰ			2
		国際ビジネス法Ⅱ			2
		国際マーケティング論Ⅰ			2
		国際マーケティング論Ⅱ			2
		国際協力論Ⅰ			2
		国際協力論Ⅱ			2
		国際平和論Ⅰ			2
		国際平和論Ⅱ			2
		国際開発論Ⅰ			2
		国際開発論Ⅱ			2
		The History of Modern Japan			2
		The History of Premodern Japan			2
		International Relations: Japan in the Asian Context			2
		Japanese Politics			2
		日本近代史			2
		日本現代史			2
		日本政治論Ⅰ			2
		日本政治論Ⅱ			2
		日本経済論Ⅰ			2
		日本経済論Ⅱ			2
		日本社会論Ⅰ			2
		日本社会論Ⅱ			2
		日本外交史Ⅰ			2
		日本外交史Ⅱ			2
		東アジア政治経済論Ⅰ			2
		東アジア政治経済論Ⅱ			2
		ヨーロッパ政治経済論Ⅰ			2
		ヨーロッパ政治経済論Ⅱ			2
		アフリカ研究入門Ⅰ			2
		アフリカ研究入門Ⅱ			2
		地域研究			2
		社会思想史Ⅰ			2
		社会思想史Ⅱ			2
		現代国家論Ⅰ			2
		現代国家論Ⅱ			2
		社会調査法Ⅰ			2

研 究 科 目		社会調査法Ⅱ			2
		環境科学Ⅰ			2
		環境科学Ⅱ			2
		企業研究Ⅰ			2
		企業研究Ⅱ			2
		簿記会計Ⅰ			2
		簿記会計Ⅱ			2
		国際経営論Ⅰ			2
		国際経営論Ⅱ			2
		マーケティングリサーチ			2
		アントレプレナーシップ論			2
		企業行動論Ⅰ			2
		企業行動論Ⅱ			2
		企業財務Ⅰ			2
		企業財務Ⅱ			2
		民法概論Ⅰ			2
		民法概論Ⅱ			2
		商法概論Ⅰ			2
		商法概論Ⅱ			2
		米国契約法			2
		法と国際ビジネス			2
	国際コミュニケーション学科				
	(言語研究分野)	英語学概論			4
		英語音声学			4
		Outline of English Phonetics			4
		英語音韻論			4
		英語統語論Ⅰ			4
		英語統語論Ⅱ			4
		英語意味論			4
		現代英文法			4
		英語習得法			4
		Ways of Learning English			4
		第二言語習得研究			4
		Issues in Second Language Acquisition			4
		英語談話分析			4
		Introduction to Discourse Analysis			4
		英語史			4
		古期中期英語			4

		教育英文法基礎			2
		外国語評価法			2
		TESOL(英語教授法)海外研修			4
		英語語法研究			4
		Introduction to English Sentence Structures			2
		英語構文研究			4
		Introduction to Language and Communication			2
		Issues in Applied Linguistics			4
		Topics in Sociolinguistics			4
		日英語対照研究			4
		認知発達と英語教育			4
		児童英語教育論			4
		児童英語指導法			4
		児童英語教育カリキュラムデザイン			4
		児童英語教育実習(船橋)			2
		児童英語教育実習(沖縄)			2
		児童英語海外実習			2
		中国語学概論Ⅰ			2
		中国語学概論Ⅱ			2
		中国語文法論Ⅰ			2
		中国語文法論Ⅱ			2
		中国語語彙論Ⅰ			2
		中国語語彙論Ⅱ			2
		中国語音韻論Ⅰ			2
		中国語音韻論Ⅱ			2
		中国語音声学Ⅰ			2
		中国語音声学Ⅱ			2
		中国語史Ⅰ			2
		中国語史Ⅱ			2
		日中比較言語Ⅰ			2
		日中比較言語Ⅱ			2
		広東語Ⅰ			2
		広東語Ⅱ			2
		福建語Ⅰ			2
		福建語Ⅱ			2
		韓国語学概論Ⅰ			2

	韓国語学概論Ⅱ		2
	韓国語文法論Ⅰ		2
	韓国語文法論Ⅱ		2
	日韓対照言語研究Ⅰ		2
	日韓対照言語研究Ⅱ		2
	韓国語学特講Ⅰ		2
	韓国語学特講Ⅱ		2
	韓国語社会言語学Ⅰ		2
	韓国語社会言語学Ⅱ		2
	韓国語文章表現法		2
	韓国語意味論		2
	韓国語史Ⅰ		2
	韓国語史Ⅱ		2
	東南アジア言語概論Ⅰ		2
	東南アジア言語概論Ⅱ		2
	スペイン語学概論Ⅰ		2
	スペイン語学概論Ⅱ		2
	スペイン語音声学Ⅰ		2
	スペイン語音声学Ⅱ		2
	スペイン語史Ⅰ		2
	スペイン語史Ⅱ		2
	アメリカスペイン語特殊研究Ⅰ		2
	アメリカスペイン語特殊研究Ⅱ		2
	日西語対照研究Ⅰ		2
	日西語対照研究Ⅱ		2
	商業スペイン語Ⅰ		2
	商業スペイン語Ⅱ		2
	ポルトガル語学概論Ⅰ		2
	ポルトガル語学概論Ⅱ		2
	The Languages of JapanⅠ		2
	The Languages of JapanⅡ		2
	日本語学概論		4
	日本語学Ⅰ		4
	日本語学Ⅱ		4
	日本語学特論		4
	日本語教育概論		2
	日本語教授法		4
	日本語教育実習		2

		日本語表現法Ⅰ			2
		日本語表現法Ⅱ			2
		社会言語学Ⅰ			4
		社会言語学Ⅱ			4
		心理言語学			4
		応用言語学			4
		意味・語用論			4
		言語学特別研究			4
		言語哲学Ⅰ			2
		言語哲学Ⅱ			2
		西洋古典語概論Ⅰ			2
		西洋古典語概論Ⅱ			2
	(コミュニケーション研究分野)	Public Speaking			4
		Debate			4
		Small Group Communication			4
		日米コミュニケーション論			4
		英語オーラルインタープリテーション			4
		英語説得コミュニケーション論			4
		日英翻訳法Ⅰ			4
		日英翻訳法Ⅱ			4
		英日翻訳法Ⅰ			4
		英日翻訳法Ⅱ			4
		英語通訳法Ⅰ			4
		英語通訳法Ⅱ			4
		英語通訳法Ⅲ			4
		英語通訳法Ⅳ			4
		英語映像翻訳法			4
		コミュニティー英語通訳法			4
		Theories of Translation and Interpreting			4
		通訳・翻訳理論(英語)			4
		ビジネス中国語Ⅰ(a)			2
		ビジネス中国語Ⅰ(b)			2
		ビジネス中国語Ⅱ(a)			2
		ビジネス中国語Ⅱ(b)			2
		中国語通訳法Ⅰ(a)			2
		中国語通訳法Ⅰ(b)			2
		中国語通訳法Ⅱ(a)			2
		中国語通訳法Ⅱ(b)			2

		韓国語映像翻訳法Ⅰ			2
		韓国語映像翻訳法Ⅱ			2
		スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅰ			2
		スペイン語圏マス・コミュニケーション論Ⅱ			2
		スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅠ			2
		スペイン語スピーチ・コミュニケーションⅡ			2
		スペイン語通訳法Ⅰ			2
		スペイン語通訳法Ⅱ			2
		スペイン語翻訳法Ⅰ			2
		スペイン語翻訳法Ⅱ			2
		スペイン語映像翻訳法Ⅰ			2
		スペイン語映像翻訳法Ⅱ			2
		コミュニケーション論Ⅰ	2		
		コミュニケーション論Ⅱ			2
		異文化コミュニケーション論Ⅰ	2		
		異文化コミュニケーション論Ⅱ			2
		組織コミュニケーション論Ⅰ			2
		組織コミュニケーション論Ⅱ			2
		メディア・コミュニケーション表現Ⅰ			2
		メディア・コミュニケーション表現Ⅱ			2
		デジタル・メディアとコミュニケーションⅠ			2
		デジタル・メディアとコミュニケーションⅡ			2
		メディア文化論Ⅰ			2
		メディア文化論Ⅱ			2
		非言語コミュニケーション論Ⅰ			2
		非言語コミュニケーション論Ⅱ			2
		対人コミュニケーション論			2
		Leadership CommunicationⅠ		2	
		Leadership CommunicationⅡ		2	
		国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅰ			2
		国際ビジネス・コミュニケーション論Ⅱ			2
		日本語プレゼンテーション			4
		日本語ディベート			4
		日本語スモールグループ・コミュニケーション			4
		コミュニケーション論特講Ⅰ			2
		コミュニケーション論特講Ⅱ			2
		レトリカルコミュニケーション論			2

		多文化社会コミュニケーション論Ⅰ			2
		多文化社会コミュニケーション論Ⅱ			2
		通訳・翻訳への招待			2
		日中通訳法Ⅰ			4
		日中通訳法Ⅱ			4
		日韓・韓日通訳法Ⅰ			2
		日韓・韓日通訳法Ⅱ			2
		デジタル・メディアと社会Ⅰ			2
		デジタル・メディアと社会Ⅱ			2
		ジャーナリズム論Ⅰ			2
		ジャーナリズム論Ⅱ			2
		Media and Japanese Society			2
		メディアリテラシー			2
		メディア研究法Ⅰ			2
		メディア研究法Ⅱ			2
		ウェブデザインⅠ			2
		ウェブデザインⅡ			2
		メディア表現論Ⅰ			2
		メディア表現論Ⅱ			2
		ソフトウェアデザインⅠ			2
		ソフトウェアデザインⅡ			2
		グラフィックデザインⅠ			2
		グラフィックデザインⅡ			2
		プログラミングⅠ			2
		プログラミングⅡ			2
	(総合文化研究分野)	英文学研究Ⅰ			2
		英文学研究Ⅱ			2
		米文学研究Ⅰ			2
		米文学研究Ⅱ			2
		米国文化論Ⅰ			2
		米国文化論Ⅱ			2
		米国文化原書講読Ⅰ			2
		米国文化原書講読Ⅱ			2
		中国思想概論Ⅰ			2
		中国思想概論Ⅱ			2
		中国文化概論Ⅰ			2
		中国文化概論Ⅱ			2
		中国文学概論Ⅰ			2

	中国文学概論Ⅱ		2
	中国文学史Ⅰ		2
	中国文学史Ⅱ		2
	中国古典講読Ⅰ		2
	中国古典講読Ⅱ		2
	中国近世文学研究Ⅰ		2
	中国近世文学研究Ⅱ		2
	中国近代文学研究Ⅰ		2
	中国近代文学研究Ⅱ		2
	中国現代文学研究Ⅰ		2
	中国現代文学研究Ⅱ		2
	韓国文化概論Ⅰ		2
	韓国文化概論Ⅱ		2
	韓国の宗教・社会Ⅰ		2
	韓国の宗教・社会Ⅱ		2
	韓国文化特定研究Ⅰ		2
	韓国文化特定研究Ⅱ		2
	韓国映像文化論Ⅰ		2
	韓国映像文化論Ⅱ		2
	韓国現代文学研究Ⅰ		2
	韓国現代文学研究Ⅱ		2
	インドネシアの文化・芸術		2
	インドネシアの民族・地理		2
	ベトナムの文化・芸術		2
	ベトナムの民族・地理		2
	タイの文化・芸術		2
	タイの民族・地理		2
	東南アジアの宗教と文化Ⅰ		2
	東南アジアの宗教と文化Ⅱ		2
	スペイン文学史Ⅰ		2
	スペイン文学史Ⅱ		2
	スペイン文化研究Ⅰ		2
	スペイン文化研究Ⅱ		2
	現代スペイン文学Ⅰ		2
	現代スペイン文学Ⅱ		2
	現代ラテンアメリカ文学Ⅰ		2
	現代ラテンアメリカ文学Ⅱ		2
	ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅰ		2

		ラテンアメリカ文学特殊研究Ⅱ			2
		ラテンアメリカの文化と文学			2
		スペイン美術史Ⅰ			2
		スペイン美術史Ⅱ			2
		ブラジルの文化・芸術			2
		ブラジルの宗教・社会			2
		日本文化論Ⅰ		2	
		日本文化論Ⅱ			2
		日本近代思想史Ⅰ			2
		日本近代思想史Ⅱ			2
		日本倫理思想史Ⅰ			2
		日本倫理思想史Ⅱ			2
		日本の宗教Ⅰ			2
		日本の宗教Ⅱ			2
		日本美術史Ⅰ			2
		日本美術史Ⅱ			2
		日本芸能史Ⅰ			2
		日本芸能史Ⅱ			2
		日本文学論Ⅰ			2
		日本文学論Ⅱ			2
		日本大衆文化論			2
		Tourism and Local Cultures of Japan			2
		Japanese Religions			2
		The Literatures of Japan			2
		Japanese Popular Cultures			2
		民族と文化Ⅰ(a)			2
		民族と文化Ⅰ(b)			2
		民族と文化Ⅱ(a)			2
		民族と文化Ⅱ(b)			2
		文化について考える			2
		比較文明論Ⅰ			2
		比較文明論Ⅱ			2
		比較思想Ⅰ			2
		比較思想Ⅱ			2
		比較文学概論Ⅰ			2
		比較文学概論Ⅱ			2
		日英比較文化論Ⅰ			2
		日英比較文化論Ⅱ			2

		日米比較文化論Ⅰ			2
		日米比較文化論Ⅱ			2
		日米比較教育論			2
		民族・宗教問題研究			2
		キリスト教文化論Ⅰ			2
		キリスト教文化論Ⅱ			2
		イスラム文化論Ⅰ			2
		イスラム文化論Ⅱ			2
		文化心理学Ⅰ			2
		文化心理学Ⅱ			2
		スポーツ文化論Ⅰ			2
		スポーツ文化論Ⅱ			2
		文化人類学概論Ⅰ			2
		文化人類学概論Ⅱ			2
		文化人類学研究Ⅰ			2
		文化人類学研究Ⅱ			2
		身体運動文化論			2
		健康科学論			2
		人権論			2
		ジェンダー論			2
		アート・マネジメント			2
		児童文化論			4
		演劇「実技」Ⅰ			1
		演劇「実技」Ⅱ			1
	(地域・国際研究分野)	Topics in Oceanian Studies			2
		Topics in Canadian Studies			2
		英国文化実地研究			4
		米国文化実地研究			4
		オセアニア文化実地研究			4
		カナダ文化実地研究			4
		マレーシア文化実地研究(英語)			4
		英国史概論Ⅰ			2
		英国史概論Ⅱ			2
		History of the United StatesⅠ			2
		History of the United StatesⅡ			2
		米国史概論Ⅰ			2
		米国史概論Ⅱ			2
		米国政治論Ⅰ			2

		米国政治論Ⅱ			2
		米国外交論Ⅰ			2
		米国外交論Ⅱ			2
		米国経済論Ⅰ			2
		米国経済論Ⅱ			2
		米国社会論Ⅰ			2
		米国社会論Ⅱ			2
		英米法Ⅰ			2
		英米法Ⅱ			2
		米国政治・外交研究特論Ⅰ			2
		米国政治・外交研究特論Ⅱ			2
		米国社会史研究特論Ⅰ			2
		米国社会史研究特論Ⅱ			2
		米国社会原書講読Ⅰ			2
		米国社会原書講読Ⅱ			2
		日米関係論Ⅰ			2
		日米関係論Ⅱ			2
		アジア研究入門			2
		中国社会事情Ⅰ			2
		中国社会事情Ⅱ			2
		中国史概論Ⅰ			2
		中国史概論Ⅱ			2
		中国現代史Ⅰ			2
		中国現代史Ⅱ			2
		中国経済概論Ⅰ			2
		中国経済概論Ⅱ			2
		中国政治外交概論Ⅰ			2
		中国政治外交概論Ⅱ			2
		中国社会研究Ⅰ			2
		中国社会研究Ⅱ			2
		中国経済研究Ⅰ			2
		中国経済研究Ⅱ			2
		中国政治外交研究Ⅰ			2
		中国政治外交研究Ⅱ			2
		海外華人論Ⅰ			2
		海外華人論Ⅱ			2
		日中関係論Ⅰ			2
		日中関係論Ⅱ			2

		韓国史概論Ⅰ			2
		韓国史概論Ⅱ			2
		日韓関係史Ⅰ			2
		日韓関係史Ⅱ			2
		韓国政治論Ⅰ			2
		韓国政治論Ⅱ			2
		韓国経済論Ⅰ			2
		韓国経済論Ⅱ			2
		韓国近代史Ⅰ			2
		韓国近代史Ⅱ			2
		韓国史特講Ⅰ			2
		韓国史特講Ⅱ			2
		インドネシア研究入門			2
		インドネシアの歴史			2
		インドネシアの宗教・社会			2
		インドネシアの政治・経済Ⅰ			2
		インドネシアの政治・経済Ⅱ			2
		ベトナム研究入門			2
		ベトナムの歴史			2
		ベトナムの宗教・社会			2
		ベトナムの政治・経済Ⅰ			2
		ベトナムの政治・経済Ⅱ			2
		タイ研究入門			2
		タイの歴史			2
		タイの宗教・社会			2
		タイの政治・経済Ⅰ			2
		タイの政治・経済Ⅱ			2
		東南アジア研究入門Ⅰ			2
		東南アジア研究入門Ⅱ			2
		東南アジア史Ⅰ			2
		東南アジア史Ⅱ			2
		東南アジア社会論Ⅰ			2
		東南アジア社会論Ⅱ			2
		東南アジア政治経済論Ⅰ			2
		東南アジア政治経済論Ⅱ			2
		イベロアメリカ研究入門			2
		イベリア史概論Ⅰ			2
		イベリア史概論Ⅱ			2

	現代イベリア研究Ⅰ		2
	現代イベリア研究Ⅱ		2
	イベロアメリカの法と文化Ⅰ		2
	イベロアメリカの法と文化Ⅱ		2
	ラテンアメリカ史概論Ⅰ		2
	ラテンアメリカ史概論Ⅱ		2
	現代ラテンアメリカ研究Ⅰ		2
	現代ラテンアメリカ研究Ⅱ		2
	ラテンアメリカ政治論Ⅰ		2
	ラテンアメリカ政治論Ⅱ		2
	ラテンアメリカ経済論Ⅰ		2
	ラテンアメリカ経済論Ⅱ		2
	メキシコ研究Ⅰ		2
	メキシコ研究Ⅱ		2
	ブラジル研究入門		2
	ブラジルの民族・地理		2
	ブラジルの歴史		2
	ブラジルの政治・経済Ⅰ		2
	ブラジルの政治・経済Ⅱ		2
	ポルトガル語圏の世界		2
	国際社会が見えてくる		2
	国際関係史Ⅰ		2
	国際関係史Ⅱ		2
	国際関係論Ⅰ		2
	国際関係論Ⅱ		2
	国際社会論Ⅰ		2
	国際社会論Ⅱ		2
	国際経済論Ⅰ		2
	国際経済論Ⅱ		2
	国際法Ⅰ		2
	国際法Ⅱ		2
	国際機構論Ⅰ		2
	国際機構論Ⅱ		2
	国際ビジネス法Ⅰ		2
	国際ビジネス法Ⅱ		2
	国際マーケティング論Ⅰ		2
	国際マーケティング論Ⅱ		2
	国際協力論Ⅰ		2

		国際協力論Ⅱ			2
		国際平和論Ⅰ			2
		国際平和論Ⅱ			2
		国際開発論Ⅰ			2
		国際開発論Ⅱ			2
		The History of Modern Japan			2
		The History of Premodern Japan			2
		International Relations: Japan in the Asian Context			2
		Japanese Politics			2
		日本近代史		2	
		日本現代史		2	
		日本政治論Ⅰ			2
		日本政治論Ⅱ			2
		日本経済論Ⅰ			2
		日本経済論Ⅱ			2
		日本社会論Ⅰ			2
		日本社会論Ⅱ			2
		日本外交史Ⅰ			2
		日本外交史Ⅱ			2
		東アジア政治経済論Ⅰ			2
		東アジア政治経済論Ⅱ			2
		ヨーロッパ政治経済論Ⅰ			2
		ヨーロッパ政治経済論Ⅱ			2
		アフリカ研究入門Ⅰ			2
		アフリカ研究入門Ⅱ			2
		地域研究			2
		社会思想史Ⅰ			2
		社会思想史Ⅱ			2
		現代国家論Ⅰ			2
		現代国家論Ⅱ			2
		社会調査法Ⅰ			2
		社会調査法Ⅱ			2
		環境科学Ⅰ			2
		環境科学Ⅱ			2
		企業研究Ⅰ	2		
		企業研究Ⅱ	2		
		簿記会計Ⅰ	2		

		簿記会計Ⅱ	2		
		国際経営論Ⅰ		2	
		国際経営論Ⅱ			2
		マーケティングリサーチ		2	
		アントレプレナーシップ論		2	
		企業行動論Ⅰ		2	
		企業行動論Ⅱ		2	
		企業財務Ⅰ			2
		企業財務Ⅱ			2
		民法概論Ⅰ			2
		民法概論Ⅱ			2
		商法概論Ⅰ			2
		商法概論Ⅱ			2
		米国契約法			2
		法と国際ビジネス			2
研究 演 習		研究演習			4
卒 業 研 究		卒業研究			4
自 由 選 択 科 目		キャリアデザイン			2
		キャリア開発			1
		ビジネス・インターンシップⅠ			2
		ビジネス・インターンシップⅡ			2
		学習支援活動ボランティア			1
		外国語学習における個別学習指導論			2
		国際ボランティア体験			2
		海外実地研修(ビジネス)			1～6
		海外実地研修(英語)			1～6
		海外実地研修(中国語)			1～6
		海外実地研修(韓国語)			1～6
		海外実地研修(スペイン語)			1～6
		海外実地研修(ポルトガル語)			1～6
		海外実地研修(インドネシア語)			1～2
		海外実地研修(ベトナム語)			1～2

	海外実地研修(タイ語)			1～2
	日本語総合講座Ⅱ			2
	日本語総合講座Ⅳ			2
	日本語総合講座Ⅴ			2
	日本語表現演習			2
	トライ・中国語			1
	トライ・スペイン語			1
	トライ・韓国語			1
	トライ・フランス語			1
	トライ・ドイツ語			1
	トライ・イタリア語			1
	トライ・ロシア語			1
	トライ・アラビア語			1
	トライ・ベトナム語			1
	トライ・インドネシア語			1
	トライ・ポルトガル語			1
	トライ・タイ語			1
	トライ・ことばと文化			1
	検定試験（英語）			2～6
	検定試験（中国語）			2～6
	検定試験（韓国語）			2～6
	検定試験（インドネシア語）			2～4
	検定試験（スペイン語）			1～6
	検定試験（ポルトガル語）			1～4
	検定試験（アラビア語）			1～2
	検定試験（イタリア語）			1～3
	検定試験（ドイツ語）			1～3
	検定試験（日本語）			2～4
	検定試験（フランス語）			2～4
	TOEIC 基礎			1
	TOEIC 600 演習			1
	TOEIC 650 演習			1
	TOEIC 730 演習			2
	TOEIC 860 演習			2
	TOEFL ITP 480 演習			1
	TOEFL ITP 520 演習			1
	TOEFL ITP 550 演習			1
	TOEFL iBT68 演習 Listening/Reading			1

	TOEFL iBT68 演習 Speaking/Writing			1
	TOEFL iBT80 演習 Listening/Reading			1
	TOEFL iBT80 演習 Speaking/Writing			1
教 職 科 目	教育原理			2
	教師論			2
	教育社会学			2
	教育心理学			2
	特別支援教育			1
	教育課程論			2
	道德教育の指導法			2
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			2
	教育方法の理論と実践			2
	生徒指導・進路指導論			2
	教育相談			2
	教育事前事後実習			2
	教育実践実習Ⅰ			2
	教育実践実習Ⅱ			2
	教職実践演習(中・高)			2
	介護等体験実習			1
	英語科教育法Ⅰ			2
	英語科教育法Ⅱ			2
	英語科教育法Ⅲ			2
	英語科教育法Ⅳ			2
	中国語科教育法Ⅰ			2
	中国語科教育法Ⅱ			2
	スペイン語科教育法Ⅰ			2
	スペイン語科教育法Ⅱ			2
	韓国語科教育法Ⅰ			2
	韓国語科教育法Ⅱ			2

(2) グローバル・リベラルアーツ学部

		科目名	単位数		
			必修	選択	自由
外国語科目	英語科目	Academic Reading (a)	1		
		Academic Reading (b)	2		
		Academic Writing (a)	1		
		Academic Writing (b)	2		
		Academic Discussions & Presentations (a)	1		
		Academic Discussions & Presentations (b)	2		
		English for Academic Purposes (a)	2		
		English for Academic Purposes (b)	2		
		Self-Directed Learning	1		
		TOEFL ITP 演習	1		
		Critical Reading (a)	2		
		Critical Reading (b)	2		
		Advanced Writing (a)	2		
		Advanced Writing (b)	2		
		English for GLA I (Introduction to Global Issues)	2		
		English for GLA II (Media Literacy)	2		
		English for GLA III (Global Communication)	2		
		English for GLA IV (Peace Studies)	2		
		English for GLA V (Sustainable Development Goals)	2		
	選択外国語科目	中国語 I (a)		2	
		中国語 I (b)		2	
		スペイン語 I (a)		2	
		スペイン語 I (b)		2	
		韓国語 I (a)		2	
		韓国語 I (b)		2	
		フランス語 I (a)		2	
		フランス語 I (b)		2	
		ドイツ語 I (a)		2	
		ドイツ語 I (b)		2	
		ロシア語 I (a)		2	

		ロシア語Ⅰ(b)		2	
		イタリア語Ⅰ(a)		2	
		イタリア語Ⅰ(b)		2	
		アラビア語Ⅰ(a)		2	
		アラビア語Ⅰ(b)		2	
		ポルトガル語Ⅰ(a)		2	
		ポルトガル語Ⅰ(b)		2	
		ベトナム語Ⅰ(a)		2	
		ベトナム語Ⅰ(b)		2	
		インドネシア語Ⅰ(a)		2	
		インドネシア語Ⅰ(b)		2	
		タイ語Ⅰ(a)		2	
		タイ語Ⅰ(b)		2	
		中国語Ⅱ(a)			1
		中国語Ⅱ(b)			1
		スペイン語Ⅱ(a)			1
		スペイン語Ⅱ(b)			1
		韓国語Ⅱ(a)			1
		韓国語Ⅱ(b)			1
		フランス語Ⅱ(a)			1
		フランス語Ⅱ(b)			1
		ドイツ語Ⅱ(a)			1
		ドイツ語Ⅱ(b)			1
		ロシア語Ⅱ(a)			1
		ロシア語Ⅱ(b)			1
		イタリア語Ⅱ(a)			1
		イタリア語Ⅱ(b)			1
		アラビア語Ⅱ(a)			1
		アラビア語Ⅱ(b)			1
		ポルトガル語Ⅱ(a)			1
		ポルトガル語Ⅱ(b)			1
		ベトナム語Ⅱ(a)			1
		ベトナム語Ⅱ(b)			1
		インドネシア語Ⅱ(a)			1
		インドネシア語Ⅱ(b)			1
		タイ語Ⅱ(a)			1
		タイ語Ⅱ(b)			1
		中国語Ⅲ(a)			1

		中国語Ⅲ(b)			1
		スペイン語Ⅲ(a)			1
		スペイン語Ⅲ(b)			1
		韓国語Ⅲ(a)			1
		韓国語Ⅲ(b)			1
		フランス語Ⅲ(a)			1
		フランス語Ⅲ(b)			1
		ドイツ語Ⅲ(a)			1
		ドイツ語Ⅲ(b)			1
		イタリア語Ⅲ(a)			1
		イタリア語Ⅲ(b)			1
GLA 基礎科目		グローバル・ディスカバリー I	1		
		グローバル・ディスカバリー II	1		
		グローバル・ディスカバリー(フィールドワーク)	4		
		グローバル・リベラルアーツ入門 I	1		
		グローバル・リベラルアーツ入門 II	2		
		グローバル・ヒストリー	4		
		キャリアデザイン(GLA)	2		
		アドベンチャーコミュニケーションプログラム(GLA)	1		
		グローバル・キャリア	2		
基礎教養科目	A 群	歴史学 I		2	
		歴史学 II		2	
		哲学 I		2	
		哲学 II		2	
		倫理学 I		2	
		倫理学 II		2	
		宗教学 I		2	
		宗教学 II		2	
		文学 I		2	
		文学 II		2	
		美術史学 I		2	
		美術史学 II		2	
		言語学 I		2	
		言語学 II		2	
		心理学 I		2	
		心理学 II		2	

		教育学		2	
		社会学Ⅰ		2	
		社会学Ⅱ		2	
		法学Ⅰ		2	
		法学Ⅱ		2	
		憲法Ⅰ		2	
		憲法Ⅱ		2	
		政治学Ⅰ		2	
		政治学Ⅱ		2	
		経済学Ⅰ		2	
		経済学Ⅱ		2	
		経営学Ⅰ		2	
		経営学Ⅱ		2	
		統計学Ⅰ		2	
		統計学Ⅱ		2	
		化学Ⅰ		2	
		化学Ⅱ		2	
		物理学Ⅰ		2	
		物理学Ⅱ		2	
		生物学Ⅰ		2	
		生物学Ⅱ		2	
		自然科学概論Ⅰ		2	
		自然科学概論Ⅱ		2	
	B群	数的思考法		2	
		デジタル・シチズンシップ論		2	
		データ・サイエンス概論		2	
		コンピュータ・サイエンス概論		2	
		ビッグデータ解析論		2	
		エビデンスと評価		2	
専門教養科目	Humanities (人間と文化)	宗教文化論Ⅰ		2	
		宗教文化論Ⅱ		2	
		芸術文化論Ⅰ		2	
		芸術文化論Ⅱ		2	
		人間と文学		2	
		人間と思想		2	
		世界近現代史		2	
		文化人類学		2	

	Societies (社会と共生)	共生社会論		2	
		社会と多様性Ⅰ		2	
		社会と多様性Ⅱ		2	
		社会とサステナビリティ		2	
		現代社会とイノベーション		2	
		言語・文化とコミュニケーション		2	
		デジタル・メディアと社会		2	
		異文化コミュニケーション論		2	
	Global Studies (グローバル・スタディーズ)	グローバル・ガバナンスⅠ		2	
		グローバル・ガバナンスⅡ		2	
		地域とグローバル世界Ⅰ		2	
		地域とグローバル世界Ⅱ		2	
		グローバル平和論		2	
		国際法		2	
		国際機構論		2	
		国際開発論		2	
演習科目	演習 基礎	アカデミック日本語Ⅰ	2		
		アカデミック日本語Ⅱ	2		
	講読演習	講読(HUM)(宗教文化)		2	
		講読(HUM)(芸術文化)		2	
		講読(HUM)(文学/思想)		2	
		講読(HUM)(歴史)		2	
		講読(SOC)(社会と多様性)		2	
		講読(SOC)(社会とサステナビリティ)		2	
		講読(SOC)(現代社会とイノベーション)		2	
		講読(SOC)(言語・文化とコミュニケーション)		2	
		講読(GS)(グローバル・ガバナンス)		2	
		講読(GS)(地域とグローバル世界)		2	
		講読(GS)(グローバル平和論)		2	
	研究演習	研究演習Ⅰ	2		
		研究演習Ⅱ	2		
		研究演習Ⅲ	4		
		卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)	4		

別表 2（第 3 2 条関連）

（1）外国語学部

（単位：円）

項目	平成 4 年度入 学者に適用	平成 5 年度入 学者に適用	平成 6 年度入 学者に適用	平成 7 年度入 学者に適用	平成 6 年度入 学者に適用	平成 7 年度入 学者に適用
	金額	金額	金額	金額	金額	金額
入学検定料	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
入学金	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
授業料	780,000	840,000	870,000	890,000	870,000	890,000
施設設備費	190,000	190,000	200,000	230,000	200,000	230,000

（単位：円）

項目	平成 8 年度入 学者から適用	平成 11 年度入 学者から適用	平成 20 年度入 学者から適用	平成 27 年度入 学者から適用	平成 28 年度入 学者から適用
	金額	金額	金額	金額	金額
入学検定料	30,000	35,000	35,000	35,000	35,000
入学金	250,000	250,000	200,000	200,000	200,000
授業料	890,000	890,000	930,000	980,000	980,000
施設設備費	250,000	250,000	220,000①	220,000②	240,000③

①施設設備費は 1 年次 220,000 円、2 年次以降 300,000 円とする。

②平成 2 7 年度入学者から施設設備費は 1 年次 220,000 円、2 年次以降 300,000 円とする。

③平成 2 8 年度入学者から施設設備費は 1 年次 240,000 円、2 年次以降 320,000 円とする。

（2）グローバル・リベラルアーツ学部

（単位：円）

項目	令和 3 年度入学者に適用
	金額
入学検定料	35,000
入 学 金	200,000
授 業 料	1,160,000①
施設設備費	320,000②

① 3 年次は、580,000 円とする。

② 1 年次は、240,000 円とする。

神田外語大学 教授会規則

(趣旨)

第1条 神田外語大学学則第41条の規定に基づき神田外語大学教授会（以下「教授会」という。）の組織及び運営については、この規則の定めるところによる。

(組織)

第2条 教授会は、専任の教授、准教授、講師をもって組織する。

2 前項の講師は、満56歳に達する年度以降については、教授会の構成員とはならない。

(審議事項)

第3条 教授会は、学長が次の各号に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(運営)

第4条 教授会は学長が招集し、その議長となる。

2 教授会は構成員の半数以上の出席がなければ議事を開き議決することができない。

3 議事は出席者の過半数をもって決する。可否同数のときは、議長の決するところによる。

(議事録)

第5条 議長は、教授会の議事録を作成し、次回以降の教授会において承認を得なければならない。

(構成員以外の出席)

第6条 議長は、必要があると認めるときは、関係する教職員を教授会に出席させ意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 教授会の事務は教務部において行う。

(その他)

第8条 この規則に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は別に定める。

- 附則 この規則は、昭和 6 2 年 4 月 1 日から施行する。
- 附則 この規則は、平成 1 7 年 4 月 1 日から施行する。
- 附則 この規則は、平成 1 8 年 1 2 月 7 日から施行する。
- 附則 この規則は、平成 1 9 年 4 月 1 日から施行する。
- 附則 この規則は、平成 2 7 年 4 月 1 日から施行する。
- 附則 この規則は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	1
2. 学部・学科等の特色	5
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	6
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	6
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	14
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	16
7. 施設、設備等の整備計画	21
8. 入学者選抜の概要	24
9. 海外語学研修の具体的計画	25
10. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画	33
11. 管理運営	34
12. 自己点検・評価	36
13. 情報の公表	37
14. 教育内容等の改善を図るための組織的な取組	39
15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	42

設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 神田外語大学の概要（設置の背景）

1987年に設立された神田外語大学（以下「本学」という。）は、現在1学部4学科で構成され、入学定員は893名である。建学の理念である「言葉は世界をつなぐ平和の礎」の下、「英米語学科」、「アジア言語学科」及び「イベロアメリカ言語学科」については、8つの地域言語ごとに、各言語の高い言語運用能力を身につけさせるとともに各地域の事情や文化理解を醸成する教育を行ってきた。また、「国際コミュニケーション学科」においては、英語とITを基礎に異文化コミュニケーション能力の高い人材の養成に努めてきた。

その結果、創設以来30年にわたり数多の言語と文化のスペシャリストが輩出され、卒業生は、学んだ言語や専門力を生かし、国内外で活躍している。

しかしながら、18歳人口が今後も減少し、高等教育を取り巻く状況が大きく変化するなかで、大学間や学校種別間の競争はさらに激化が想定される。

本学が、開学50年を経た20年後の2040年においても、常に高校生に選ばれる大学として存在し続けるためには、現在の高等教育を取り巻く状況や受験生の動向を十分に踏まえたうえで、これまでの教育成果に基づく「強み」をさらに伸ばし、揺るぎない評価を得ることが何よりも重要である。

このような基本的な認識の下、新学部の設置をはじめとする大学改革に取り組むこととした。

(2) グローバル・リベラルアーツ学部設置の趣旨・必要性

2013年5月の教育再生実行会議の提言「これからの大学教育等の在り方について（第三次提言）」においては、「社会の多様な場面でグローバル化が進む中、大学は、教育内容と教育環境の国際化を徹底的に進め世界で活躍できるグローバル・リーダーを育成すること、グローバルな視点をもって地域社会の活性化を担う人材を育成すること」が求められた。

また、2019年5月の同会議の提言「技術の進展に応じた教育の革新、新時代に対応した高等学校改革について（第十一次提言）」においても、人、物、情報が国境を越えて行き交うグローバル化が急激に進展し、Society5.0の基盤となるAI、IoTなどの技術の開発に関する国際的な競争が激化する中で、幅広い分野で新しい価値を提供できる人材を養成することが求められている。

一方、今、地球上では、依然として紛争は収束せず、安全保障や通商摩擦、宗教対立、移民・難民問題、地球温暖化や新型感染症をはじめとする様々な解決困難な課題が噴出し、他方、日本国内でも、アジア諸国を中心とするインバウンドの爆発的増大など、一昔前の欧米が基軸であった対外関係から考えられなかったようなグローバルな状況が展開している。

このような現代社会では、多様な価値観や考え方を相互に理解し尊重しながら、共生を図って行くことなしには、平和と安定、発展はあり得ないと考える。わずかなコミュニケーション・ギャップにより、意図しない、人類にとって悲惨な結果が起きることが否定できない。

直近の例として取り上げたいのが、今回、世界的な規模で発生した新型コロナウイルス感染症への対応である。当初、各国は国境を閉ざし人の出入りを制限するというグローバル化の価値観に逆行する対策でこの危機を乗り越えようとした。しかし、試行錯誤や科学的知見の積み重ねの結果、結局、世界に広がった感染症を収束に向かわせるためには、もはや一国だけでの対応では不十分である。仮に、特定の国だけで収束したとしても、他の国や地域で蔓延していれば、現代世界は成り立っていない。つまり、国や地域、体制などの違いを超えグローバルな視座に立って協力することが重要であることを人類は再認識し、現在、世界の潮流は再びそのような方向に向かおうとしている。

人類の想像を超えてめまぐるしく変化する現代世界において、本学は、建学の理念に深く想いを寄せ、高い英語力と幅広い教養を身につけ、海外での多様な活動を体験することで、グローバルな視座に立って発想し、世界と日本の困難な課題に立ち向かい、その平和の希求と繁栄の維持に主体的に貢献できる人材、言わば、「現代社会が求める真のグローバル人材」を育てることが使命と考え、この30年間で培ってきた教育をさらに深化させるとともに、新たな取組にチャレンジするための「グローバル・リベラルアーツ学部」(以下「本学部」という。)を2021年4月に開設することとした。

なお、本学は、設立以降これまで、「外国語学部」1学部の体制を保持してきたが、「グローバル・リベラルアーツ学部」は、英語教育に加え、リベラルアーツ教育に力を入れるとともに、目的の異なる2回の留学必修など、これまでの学部教育では取り入れて来なかった新たな教育上の取組にチャレンジする観点から、外国語学部のなかの「学科」ではなく、新たな「学部」として設置することが適切と判断したものである。

(3) 養成する人材像と卒業後の進路

本学部で養成する人材像は、建学の理念である「言葉は世界をつなぐ平和の礎」を踏まえ、グローバル社会において不可欠な高度の英語運用能力とAIやデータサイエンスなどを含む幅広い教養とともに、論理的・批判的思考力、異文化を尊重する姿勢及び異環境適応力を身につけ、グローバルな事象を多面的に理解し、現代社会が直面する様々な諸課題の平和的な解決にリーダーシップを発揮して立ち向かうことのできる自立した人材を養

成することとしている。また、本学部の教育研究目的は、「広く一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解するための専門学術や技法を教授研究するとともに、高度の英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい、平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る能力を身につけさせること」（学則第2条第3項第2号）としている。

この「養成する人材像」及び「教育研究上の目的」を踏まえ、次のとおり学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めた。

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部では、以下の能力を身につけることを目的として編成された教育課程において、定められた卒業要件単位を取得した場合に、卒業を認定し、学位を授与する。

- (1) 多様な学問領域にわたる幅広い教養
- (2) 人間と文化、社会と共生、平和にかかわるグローバルな事象に対する深い理解
- (3) グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力
- (4) 論理的かつ批判的な思考力
- (5) 社会的な課題の発見と解決に貢献する力
- (6) 異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

本学部は、これらの能力を身につけ、現代社会が直面する諸問題を平和的に解決するべく、リーダーシップを発揮して立ち向かうことができる自立した人材を育成する事を目的とする。

本学部では、この養成する人材像とディプロマ・ポリシーに基づき、卒業後の主な進路として、社会貢献や地球規模の課題解決に力を入れて取り組む企業、国家公務員（外務省など）・非営利団体（国際協力機構（JICA）や国際交流基金など）及び国際公務員（国連事務局、国連開発計画など）の3つを目指すキャリア形成（進路）を想定している。

（４）組織として研究対象とする中心的な学問分野

本学部が研究対象とする中心的な学問分野は、「①Humanities（人間と文化）」、「②Societies（社会と共生）」、「③Global Studies（グローバル・スタディーズ）」で、具体的には以下のとおりである。

① Humanities（人間と文化）

平和を考える人文学的素養の育成を目的として、人間の精神活動から生まれた思想・文学・芸術・宗教などの比較研究を通じて、文化全般に対する幅広い関心に応え、文化を通じて人間はどう共存しうるのかを研究する。

② Societies (社会と共生)

平和に向けての現代社会の諸相を把握するために、「共生」、「多様性」、「持続 (サステナビリティ)」、「イノベーション」をキーワードに、社会科学的アプローチを駆使し、社会の多様性や実情、現代社会が抱える諸問題等について研究する。

③ Global Studies (グローバル・スタディーズ)

国際社会における平和への取組の習得を目的として、「ガバナンス (統治・協治)」、「地域とグローバル世界」、「戦争と平和」、「国際開発」をキーワードに、国際関係の仕組みやガバナンス手法、グローバル・レベルで取り組むべき諸問題等を総合的に研究する。

(5) 教育研究上の数量的・具体的な到達目標

本学部では、前述のディプロマ・ポリシーで掲げる修得すべき資質・態度・能力のうち、高度な英語運用能力に対する卒業時の到達目標を以下のとおり定め、数量的到達目標を TOEFL ITP580 (TOEFL iBT92 相当) とする。

① Comprehension (理解)

自然な速さで標準的な発音の英語で話されていれば、現代社会や専門分野のトピックについて、話者の意図を理解することができる。自分の専門分野の論文や資料、もしくは記事やレポートなどのやや複雑な文章を一読し、文章の重要度を判断することができる。綿密な読みが必要と判断した場合は、読む速さや読み方を変えて、正確に読むことができる。

② Speaking and Presentation (表現)

一般的な分野から、文化、学術などの専門的な分野まで、幅広いトピックの会話に積極的に参加し、自分の考えを正確かつ流暢に表現することができる。要点とそれに関連する詳細の両方に焦点を当てながら、流暢にプレゼンテーションができ、また、あらかじめ用意されたテキストから自然にはなれて、聴衆が興味のある点に対応してプレゼンテーションの内容を調整し、流暢に容易に表現できる。

③ Writing (文章作成)

自分の専門分野や関心のある事柄であれば、複雑な内容を含む報告書や論文などを、原因や結果、仮定的な状況も考慮しつつ、明瞭かつ詳細な文章で書くことができる。

2. 学部・学科等の特色

本学部・学科は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」が提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえ、「幅広い職業人養成」と「総合的教養教育」の機能に重点を置く学部として位置付けられる。

本学部・学科は、その教育研究上の目的及び養成する人材像に基づき、以下の特色をもった学部・学科とする計画である。

① 幅広い教養教育と専門教養教育

授業科目は、外国語科目、GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目及び演習科目（卒業研究を含む）に区分され、これらを適切な年次に配当することによって、高度な英語運用能力、数理・データサイエンス分野も含めた幅広い教養のほか、「Humanities」、「Societies」、「Global Studies」の3領域に関し、平和について深く学ぶカリキュラムを構成する。

② 学修の強い動機付けの契機

入学直後に「グローバル・チャレンジ・ターム」を設け、自身に関心を持つテーマを掘り下げ、加えて、異文化・異環境を知ることを目的とした「海外スタディ・ツアー」を基軸に、文化・歴史、宗教・平和、多様性についての基本的な知識を修得することにより、大学における4年間の学びを方向付けるなど、学修の強い動機付けの契機とする。

③ 高度な英語運用能力

英語の授業については、文献の理解、スピーキング・プレゼンテーション、ライティングなど、総合的な言語運用能力の向上のために必要な各分野の到達目標を定め、継続性、統合性、個性を重視した教育により、段階的に目標達成に取り組む。

④ 2回の留学を必修に

1年次前期までに培った語学及び専門教養の学修成果を基に、リベラルアーツについて更に学修を深めるため、3年次後期にニューヨーク州立大学（SUNY）へ半年間留学し、海外スタディ・ツアーと合わせて、教育目的が異なる2回の留学を必修とする。

⑤ 自律的な学修

1年次の基礎演習、2年次後期からの講読演習及び研究演習などゼミを効果的に配置し、卒業研究へと結びつける。また、アクティブラーニングを授業の基本とすることで、生涯にわたり自立的に学習する姿勢の獲得を目指す。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 学部・学科の名称

本学部・学科は、本学の建学の理念を踏まえ、高度な英語運用力と幅広い教養を身につけ、グローバルな視座に立って発想し、世界と日本の困難な課題に立ち向かい、その平和の希求と繁栄の維持に主体的に貢献できる人材の育成をめざしている。この教育方針を端的に表す日本語名称として「グローバル・リベラルアーツ学部」、「グローバル・リベラルアーツ学科」とする。

英語名称については、日本語名との整合性及び国際的通用性から、「Faculty of Global Liberal Arts」、「Department of Global Liberal Arts」とする。

(2) 学位に付記する専攻分野

学位の名称は、本学部の教育・研究の目的及び学部名称に基づき、学士（グローバル・リベラルアーツ）（英語名称：Bachelor of Global Liberal Arts）とする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程編成の基本方針

本学部の教育研究目的は、「広く一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解するための専門学術や技法を教授研究するとともに、高度の英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい、平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る能力を身につけさせること」（学則第2条第3項第2号）としていること、また、上記「1. 設置の趣旨及び必要性」及び「2. 学部・学科等の特色」を踏まえ、以下のとおり教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）を定めている。

神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や能力を備えた人材を育成するため、以下の点を重視し、体系的にカリキュラムを編成する。

① 教育内容

(ア) 多様な学問領域にわたる幅広い教養

GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目及び演習科目（卒業研究を含む）に区分された各科目を適切な年次に配当し、人文科学、社会科学、自然科学、数理・データサイエンス分野などの幅広い学問領域をバランスよく学ぶカリキュラムを提供する。加えて、1年次前期の海外スタディ・ツアー、3年次後期のニ

ニューヨーク州立大学 (SUNY) への留学において、日本国内では得られない様々な体験や、地域、言語、宗教、価値観などの異なる文化背景を持つ人々との交流を通じて、広義の教養を身につけることを目指す。

(イ) 人間と文化、社会と共生、平和にかかわるグローバルな事象に対する深い理解

1 年次前期に「グローバル・チャレンジ・ターム」を設け、異文化・異環境を知することを目的とした入学直後の海外スタディ・ツアーを基軸に、関心のあるテーマを掘り下げ、大学4年間における学びを方向付けるための教育を提供する。2 年次以降に、文化、歴史、宗教、社会や共同体、国際関係やガバナンスなどについての知識に基づき、深い文脈でグローバルな事象を理解する力を養う。具体的には、カリキュラムの中核をなす3 領域の専門教養科目群 (“Humanities”、“Societies”、“Global Studies”) を設置し、人文科学と社会科学のさまざまな知識と方法論を身につけ、それらを総合的に活用する能力を研鑽する教育を提供する。

(ウ) グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力

1 年次前期の英語の授業では、プレゼンテーション/ディスカッション、ライティングなど、スキルごとの到達目標を定め、継続性、統合性、個性を重視した指導により、段階的に目標達成に取り組む。1 年次後期から2 年次にかけては内容・言語統合型学習 (CLIL: Content and Language Integrated Learning) の授業や英語で行われる専門教養科目を展開することで高度な英語運用能力を身につけさせるとともに、3 年次後期には SUNY への半年間の留学の機会を提供する。

(エ) 論理的かつ批判的な思考力

1 年次に大学での学びに必要な基本的な読解力と言語表現力を養成する科目「基礎演習 (アカデミック日本語)」を配置し、文献や情報の収集・読解の方法とレポートの書き方を学ぶ。2～3 年次にはアクティブラーニングを基本とする演習形式の授業「講読演習」、「研究演習」と、英語による “Discussions and Presentations”、“Media Literacy”、“Global Communication” 等の授業を配置し、日本語と英語の両方における読解力、対話力、言語表現力を高めていくことで総合的に論理的・批判的思考力を研鑽する。さらに3 年次後期には SUNY への半年間の留学を設定し、異文化環境において多角的で柔軟な思考力を修練する。最終的には4 年次に取り組む卒業研究においてそれぞれの能力を十分に発揮することを目指す。

(オ) 社会的な課題の発見と解決に貢献する力

1 年次は、異文化環境において各地域の現状を見聞し、その体験の意味とその後の学修の方向性を学生自らが考察するための問題解決型の授業「グローバル・ディスカバリー」、オムニバス講義で平和や共生に対してどのように各学問領域からのアプローチが可能かを考える「グローバル・リベラルアーツ入門」、身体活動やアクティビティを通じて他者との協働性を実践的に培う「アドベンチャーコミュニケーションプログラム (GLA)」を置く。これらの学びと研究の方向性に従って、「専門教養科目」において具体的な課題発見・解決の方法や知識を修得し、その成果を「卒業研究」にまとめていく。また、1 年次に「キャリアデザイン (GLA)」を、3 年次前期に「グローバル・キャリア」を置き、学生がグローバル社会で自己のキャリアをいかに確立し社会と関わっていくかを考察する機会を設ける。

(カ) 異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

異なる文化や価値観、社会の多様性に対する理解を深めるため、GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目、演習科目といったグローバルな視野を身につける科目を配置する。また、学生が異文化や共生社会を理解し尊重する姿勢を修得するために、異なる環境での適応力育成の機会となる、入学直後の「グローバル・チャレンジ・ターム」や、3 年次後期の SUNY への半年間の留学の機会を提供する。

② 教育方法

- ・授業では、アクティブラーニングを導入することにより、学生の専門知識とその運用能力、思考力と積極的な学修態度を養う。
- ・1～2 年次はスキルを中心とした英語授業を展開し、1 年次後期からは CLIL の授業を履修させることで、「英語を」学ぶよりも「英語で」実践的かつ専門的な学修・運用能力を高める機会を提供する。
- ・学生の主体的な学修態度と学修能力を養うため、問題解決型授業を実施する。学生が課題を発見し、具体的な解決策を考えることができる教育を提供する。発表の場を通じて、学生のコミュニケーション能力やチームワーク、リーダーシップを養成する。
- ・現代のグローバル社会に必要な幅広い教養を身につけるため、外国語科目の他、GLA 基礎科目、基礎教養科目、専門教養科目、演習科目を教育課程に含める。基礎教養科目 B 群では、AI やデータサイエンスを身につけるための科目を含み、文理融合の教養を育む。

③ 学修成果の評価

- ・学修成果は、学生の授業科目の履修状況、各教育課程で達成した成果、および学士課程全般の成果を、教職員を中心として行う直接評価と、学生が自己の学修成果を主観的に判断する自己評価等の間接評価を通じて定期的に評価することとする。
- ・学生の学修状況は量と質の双方から観察し、学修ポートフォリオに記載させるなど、学修成果の可視化を図るとともに、学生の4年間の成長を段階的に評価する。

(2) 教育課程・教育内容の特色

本学部の教育課程は、①外国語科目、②GLA 基礎科目、③基礎教養科目、④専門教養科目、⑤演習科目及び⑥卒業研究(キャップストーン・プロジェクト)に体系的に区分され、次のとおり編成している【資料1、2】。

① 外国語科目

(ア) 英語科目

英語運用能力の養成に力を注ぎ、オンライン授業を活用しつつ、順次性のある体系的な教育課程を編成する。本学部では、2回の留学を念頭に置き、英語4技能(「聞く(listening)」、「読む(reading)」、「話す(speaking)」、「書く(writing)」)習得のための授業に加え、コンテンツ・ベースの英語(CLIL)科目を設置する。CLILは、海外留学の準備として、様々な専門分野の入門レベルの内容を英語で学ぶ科目である。

(イ) 選択外国語科目

選択外国語科目として、中国語、韓国語、インドネシア語、ベトナム語、タイ語、スペイン語、ポルトガル語、アラビア語、イタリア語、ドイツ語、フランス語、ロシア語を履修可能とする。2年次以降の履修が必修である。

② GLA基礎科目

1年次の必修科目として、「グローバル・ディスカバリーⅠ・Ⅱ」(グローバル課題学習及び課題解決型授業)、「グローバル・リベラルアーツ入門Ⅰ」(グローバル時代の教養について学ぶ)、「グローバル・リベラルアーツ入門Ⅱ」(グローバル時代の平和について学ぶ)、「キャリアデザイン(GLA)」(アドベンチャー・コミュニケーションプログラム(GLA))(協力が求められる身体活動及びコミュニケーション・アクティビティ)、「グローバル・ヒストリー」がある。「海外スタディ・ツアー」に必要なGLA基礎科目を事前・事後に履修し、1年次の「グローバル・チャレンジ・ターム」のプログラムの一環とする。

3年次前期では、「グローバル・キャリア」を必修とし、3年次後期の海外留学とそ

の後のキャリア・プランを学生が見据えることをねらいとする。

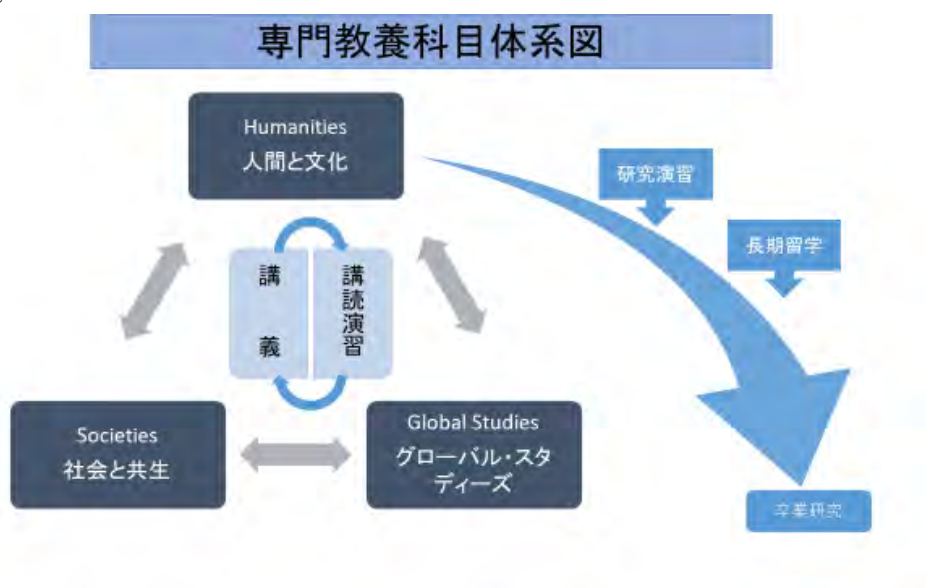
③ 基礎教養科目

A 群(外国語学部と共有する科目群)では、人文科学分野(「歴史学」、「哲学」等)、社会科学分野(「社会学」、「法学」等)、自然科学分野(「自然科学概論」、「生物学」等)の科目を設定する。

B 群は本学部独自の科目群で、「数的思考法」、「デジタル・シチズンシップ論」、「データ・サイエンス概論」、「コンピュータ・サイエンス概論」、「ビッグデータ解析論」、「エビデンスと評価」の科目を設定し、文理融合の教養教育を涵養する。

④ 専門教養科目

専門教養科目は、「Humanities (人間と文化)」「Societies (社会と共生)」「Global Studies (グローバル・スタディーズ)」の科目群から構成される。「Humanities」では、「宗教文化論」、「芸術文化論」、「人間と文学」、「人間と思想」、「世界近現代史」、「文化人類学」から選択履修する。「Societies」では、「共生社会論」、「社会と多様性」、「社会とサステナビリティ」、「現代社会とイノベーション」、「言語・文化とコミュニケーション」、「デジタル・メディアと社会」、「異文化コミュニケーション論」から選択履修する。「Global Studies」では、「グローバル・ガバナンス」、「地域とグローバル・世界」、「グローバル平和論」、「国際法」、「国際機構論」、「国際開発論」の科目からの選択履修が可能である。なお、これら3つの講義科目群に対応した演習科目(講読演習)が用意されており、これにより研究演習、そして卒業研究へと専門性が深化する仕組みとなっている。



⑤ 演習科目（アカデミック日本語、研究演習）及び卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）の必修化

1年次の基礎演習として、「アカデミック日本語Ⅰ・Ⅱ」を通年で実施し、日本語能力の向上のほか、論理的思考と課題設定能力を育成する。

2年次後期以降は、「講読演習」を履修する。「講読演習」には、専門教養科目同様の3つの科目群（「Humanities」、「Societies」、「Global Studies」）があり、各科目に関連して文献精読・発表・議論を行う。今まで履修した科目で得た知識を深め、学生が主体的かつ実践的に学ぶことを目的とする。

本学部の学生は、3科目（半期科目の「研究演習Ⅰ」・「研究演習Ⅱ」と、通年科目の「研究演習Ⅲ」）の研究演習（ゼミ）を履修する。本学部では、ゼミは必修であり、2～4年次にかけてゼミを漸次履修することにより、学生の関心のあるテーマを設定し、適切な方法論を用いた卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）へと円滑につなげる。

⑥ 卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）

本学部では、卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）の履修は、文章（文献）を読む力、討論する力、文章を書く力、論理的に考え、分析する力を育成する上においても有意義であるとの考えに基づき、研究演習の履修とともに必修である。本学部では、大学生活の学びの集大成（Capstone）として卒業研究を完成させる。

GLA学部教育課程の概要						
授業科目／学年		概要	1年	2年	3年	4年
外国語科目	英語科目	高度な英語運用能力の獲得	→	→	→	
	選択外国語科目	もう一つの言語運用能力の獲得		→	→	→
GLA基礎科目		リベラル・アーツを知る、学ぶ スタディツアーの準備、振り返り	→	→	→	
基礎教養科目	A群	幅広い教養を身につける	→	→	→	→
	B群	AIやデータサイエンスを身につける	→	→	→	→
専門教養科目	Humanities(人間と文化)	3分野にわたり、発展的な教養を講義と演習(講読)により身につける	→	→	→	→
	Societies(社会と共生)		→	→	→	→
	Global Studies(グローバル・スタディーズ)		→	→	→	→
演習科目	基礎演習	日本語能力の向上、論理的思考と課題設定能力を育成	→	→	→	→
	講読演習	既習科目で得た知識を深め、学生が主体的かつ実践的に学ぶ		→	→	→
	研究演習	学生の関心のあるテーマを設定し、卒業研究へとつなげる		→	→	→

また、本学部での教育課程編成上の特色は以下の9点である。

① 建学の理念に基づく「平和」についての徹底的な学修

- ・本学は「言葉は世界をつなぐ平和の礎」を建学理念としている。この本学の建学理念である「平和」を学部教育の根幹に据えて、言語・コミュニケーションを含む幅広い観点から学修する。

② 高度な英語運用能力の修得

- ・グローバル化の時代に不可欠な英語力を高め、卒業時まで TOEFL ITP580 (TOEFL iBT92 相当) を達成することを目標とする。

③ これからの社会で必要とされる幅広い教養教育の涵養

- ・人文・社会科学から数理・自然科学にわたる教養科目を設置し、文理融合の教育を実践する。

④ 徹底した少人数教育

- ・英語科目のうち言語運用能力そのものの向上を目的とした授業については原則として20名以下、内容・言語統合型学習(CLIL)の授業の場合は30名以下にする。
- ・専門教養科目については1クラスの人数を、20～40名程度となるよう開講する。
- ・「研究演習」は1クラス10名程度を標準とする。

⑤ 演習科目及び卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）の必修化

- ・学生による自発的学習の場である演習科目は必修とする。
- ・入学時は「アカデミック日本語」の履修により日本語での「考える力」と「書く力」の強化を図る。また、2～4年次では「研究演習」（ゼミ）を継続して履修することにより、「卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）」につなげるなど、演習科目を大幅に拡充する。

⑥ 課題解決型学習、アクティブラーニングによる授業編制

- ・一般科目についても、出来る限り、ゼミ形式又はアクティブラーニング形式で実施する。

⑦ 「グローバル・チャレンジ・ターム」導入

- ・1年次前期を本格的な大学教育に先立つ「ギャップ・ターム期間」として位置づけ、特別なカリキュラムを設定する。

- ・期間の中核に「海外スタディ・ツアー」を位置づけ、事前学修・事後学修を併せた効果的なプログラムを構築する。

⑧ 2回の留学を必修化

- ・入学直後の「海外スタディ・ツアー」(必修)は、異文化・異環境を体験し、グローバルな感性・多文化共生の観念を身につけ、将来を見据えた学修の目標立てに資することがねらいである。
- ・3年次後期に長期留学(SUNY: 1セメスター)を必修にする。さらに海外ボランティア等の活動を推奨する。

⑨ 教育成果の可視化

- ・各種の学修成果の可視化と大学時代に大学の内外で学修した成果を証明する仕組み(ポートフォリオ形式など)を構築する。

(3) 教養教育(リベラルアーツ教育)に関する方針

本学部教育の基幹をなすリベラルアーツ教育の重要性は、これまでの中央教育審議会の答申でも数次にわたり提言されてきた。また、日本学術会議の提言でも、国民国家の枠組みにとどまらない現代の国際社会における諸問題を国際的視点から解決する価値を創造できる人材の育成のため教養教育が重要である旨が述べられている。加えて、経済界においても認識は同一で、日本経済団体連合会では、これからの社会で求められる人材には、リテラシー、論理的思考力と規範的判断力、課題発見・解決能力、未来社会の構想・設計力、高度専門職に必要な知識・能力が求められ、これらを身につけるためには、基盤となるリベラルアーツ教育が重要である旨を強調している。

21世紀に生きる若者に必要な教養は、これまでの大学教育でともすれば力点が置かれてきた、学問・研究の成果としての知の総体である「学問知」と学術的な文章作成能力や言語的・非言語的な表現能力・コミュニケーション能力などの「技法知」に加え、様々な困難な課題に直面した際に、その課題解決に資する能力、言い換えれば、それぞれの現場での確な判断を下すことができる認識と実践力、すなわち「実践知」の3つから構成されるものと考えている。学生は、この3つの「知」を身につけることで、「本源的公共性」、「市民的公共性」、そして「社会的公共性」についての理解を深め、その実現に向けたさまざまな活動やプロジェクトに参加するとともに、連帯・協働していく素養である現代のグローバル社会における「市民的教養」を獲得することが可能になると考える。

本学部は、高等教育機関として、もとより、「学問知」と「技法知」の修得に力を注ぐことは言うまでもないが、とりわけ「実践知」にフォーカスをあて、最終的に、現代社会で活かすための「実践知」を涵養することにも力点をおいた、言わば、「行動する教養」を身につけた人材を養成するためのリベラルアーツ教育を展開することを目指している。

このような背景から、まずはリベラルアーツを理解するための「GLA 基礎科目」を 18 単位分配置し、初年次に教養教育の重要性や意義の理解を促すカリキュラムとしている。また、奥行きと深みのある教養を学生が主体的かつ体系的に探究できるように「基礎教養科目」及び「専門教養科目」を設定し、単位配当をそれぞれ 18 単位、30 単位、計 48 単位としている。さらに、リベラルアーツ教育の根幹を支える対話を中心とする授業科目として「演習科目」を設置し、教養科目同様、学生の自発的な学びを効果的に促すために「基礎演習」、「講読演習」、「研究演習」に分類し、単位配分をそれぞれ 4 単位、8 単位、12 単位、計 24 単位とすることで、「学問知」、「技法知」、「実践知」からなる知の体系を網羅的に修得するカリキュラムとなっている。英語科目においても、コンテンツ・ベースの科目（「English for GLA I～V」：10 単位分）を設置し、様々な専門分野の入門レベルの内容を英語で学ぶことができるようになっていることから、教養教育の重要性を十分配慮したカリキュラムであると認識している。

【資料 1】

グローバル・リベラルアーツ学部（Global Liberal Arts）カリキュラム・マップ

【資料 2】

グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）カリキュラム全体図

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

（1）教員配置の考え方

本学部では、多様な学問領域にわたる幅広い教養とグローバルな事象を多面的に理解するための専門的知識を有する人材を育むために、各専門分野で博士号もしくはそれに準じる専門的な知識・経験を有する者を教員として採用・配置する。

また、英語を含む語学の授業では少人数のクラス編成を基本としており、このようなクラス編成が可能となるよう手厚い教員配置を行う。特に、各言語の教授法やコミュニケーション学等の修士号取得者を中心に、英語ネイティブ教員を積極的に採用、配置する。

なお、本学部の教育を実施する専任教員総数は 14 名で、教授 5 名、准教授 4 名、講師 5 名からなる。また、学位取得者は、博士号 11 名、修士号 3 名であり、78.6%が博士の学位を有している。

（2）教員配置への配慮

本学部で開講する主要授業科目（GLA 基礎科目、専門教養科目、演習科目）には基本的に教授または准教授を配置することとしているほか、次のとおり授業科目への教員配置に配慮している。

① 英語科目

「英語科目」の中で初年次教育の一環として重要視される「English for Academic Purposes」、「Self-Directed Learning」においては、英語教育を専門とする教授又は准教授の専任教員を配置し、きめ細かい指導を行う。

② GLA 基礎科目

本学部ならではの科目区分として、本学部での学びとキャリアを学生自身が主体的に考え方向づけることを目的とした「GLA 基礎科目」のうち、特に主要な科目として位置づける「グローバル・ディスカバリーⅠ・Ⅱ」、「キャリアデザイン (GLA)」、「グローバル・キャリア」については、その重要性から学長、学部長、教授が科目を担当する。

③ 専門教養科目

2～4年次に配当される「Humanities (人間と文化)」、「Societies (社会と共生)」、「Global Studies (グローバル・スタディーズ：地域研究と国際関係)」の3領域にわたる「専門教養科目」(24科目)のうち、13科目を教授・准教授が担当する。

④ 研究科目

本学部のリベラルアーツ教育を代表する「研究科目」は、「卒業研究」(キャップストーン・プロジェクト)(4年次)を学びの集大成として位置づけ、「研究演習」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(2～4年次)を通してその準備を進めることになるが、その教育研究指導は本学部専任の教授3名、准教授4名、講師3名の計10名体制で行う。

(3) 研究体制

本学部では、グローバル時代の教養の養成にふさわしい、「Humanities (人間と文化)」、「Societies (社会と共生)」、「Global Studies (グローバル・スタディーズ)」の3分野に、人文学と社会科学の領域を専門とする専任教員を配置し研究教育を推進する。

具体的には、Humanities 分野の担当者として歴史学(1名)、哲学(1名)、日本倫理思想(1名)、宗教学(1名)の専門家を、Societies 分野の担当者として社会学(2名)、社会言語学(1名)の専門家を、Global Studies 分野の担当者として政治学・国際政治学・国際経済学(3名)、国際法(1名)の専門家を配置する。この3分野及び学際的な研究を行うための会議体を設け、これら領域における研究活動の促進を図るほか、「専門教育科目」及び「演習科目(講読演習)」の科目調整も行う。

また、学生の研究活動に必要な学術的な日本語基礎力の養成と、海外の大学において学修・研究を行うに足る高度な英語力の養成のために、日本語教育を専門とする専任教員(1名)と英語教育及び英語言語学を専門とする外国人専任教員(2名)を配置する。

なお、本学部の専任教員は、教授5名、准教授4名、講師5名からなる。うち、11名が

博士号を、3名が修士号を取得しており、博士号取得者の割合は78.6%である。

(4) 年齢構成

本学教員定年年齢は、神田外語大学教育職員定年規程により、2004年4月1日以降に新たに任期の定めのない契約が適用される教育職員は、教授65歳、准教授60歳、講師60歳と定められている【資料3】。また、2004年4月1日より前に任期の定めのない契約が適用される教育職員は、教授70歳、准教授65歳、講師60歳と定められている。

この規定を踏まえ、本学部教員の学部完成年度における年齢構成は、60歳以上2人、50～59歳7人、40～49歳5人であり、本学部完成年度までに定年となる教員はおらず、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。

なお、神田外語大学教育職員定年規程運用細則に、附属図書館長、その他附属研究教育機関の長、学科主任及び大学院研究科長については、その在任中は定年を延長することができる旨、また、大学開学時及び大学院・学部・学科等の新增設時に任用された教育職員が学年進行中に定年に達した場合は、完成年度の翌学年度末まで定年を延長することができる旨規定している【資料4】。

【資料3】

神田外語大学教育職員定年規程

【資料4】

神田外語大学教育職員定年規程運用細則

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 授業の方法・学生数・配当年次

本学部における、授業の方法・学生数・配当年次などは次のとおり。

① 教育方法

本学部では、学生自身が主体的・協働的に学ぶことによって知識とその応用力や批判的思考力、協働性やコミュニケーション力を身につけることを目的として、授業において学生相互間及び学生と教員間のインタラクションを重視し、学生自身が課題や問題点を発見・解決する課題解決型の教育手法を多数の授業で採用する。英語科目については、英語を使って英語を学ぶことで効果的に言語運用能力を高めるとともに、高度かつ実践的な英語力の修得を目的として、英語を使って専門的な内容を学ぶ内容・言語統合型学習（CLIL）を取り入れる。また、本学のSALC(Self-Access Learning Center)と連携し、学生の自立学習スキルの修得をアドバイザーが支援する体制を整えている。

② 教育効果を十分に上げることのできるクラス編成

本学部では、学生各自が主体的に学ぶと同時に、輪読、グループワーク、プレゼンテーションなどの協働学習を通じてリーダーシップを身につけ発揮することを目指しており、それに適した環境として少人数のクラス編成を基本とする。英語科目のうち言語運用能力そのものの向上を目的としたものについては原則として1クラス20名以下、内容・言語統合型学習(CLIL)の授業については30名以下とする。専門教養科目については1クラスの人数が20～40名程度となるよう開講することとする。また、「研究演習」は1クラス10名程度を標準とする。

③ 科目の配当年次

本学部では、世界に貢献しうる人材の育成に向け、現代のグローバル社会に求められる教養の修得を目標として、科目の配当年次を次のとおり設定する。

(ア) 1年次には、グローバルな事象の歴史的背景や課題について学ぶと同時にその後の大学での学びを学生各自が方向づけることを目的としたGLA基礎科目（「グローバル・ディスカバリーⅠ・Ⅱ」、「グローバル・リベラルアーツ入門Ⅰ・Ⅱ」、「グローバル・ヒストリー」、「キャリアデザイン（GLA）」など）、アカデミックな英語の技能と効果的な自立学習スキルの習得を目的とした英語科目（「Academic Reading」、「Academic Writing」、「Academic Discussions & Presentations」、「English for Academic Purposes」、「Self-directed Learning」など）、大学での学修・研究に必要なリテラシーの基本を身につけるための基礎演習（「アカデミック日本語Ⅰ・Ⅱ」）を配当する。

科目区分	履修単位数の目安
外国語科目（英語科目）	15
GLA 基礎科目	16
演習科目（基礎演習「アカデミック日本語」）	4
計	35

(イ) 2年次から3年次には、幅広い教養と人文・社会科学領域の専門知識や方法を身につけ、それらを土台に学生各自が自らの学修・研究の方向性を見出していくことを目的として、選択外国語科目、基礎教養科目、専門教養科目を配当する。加えて、2年次後期以降には、学生主体の学修・研究活動の比重を大きくし、読解力・表現力などの技能や批判的思考力、他者と協働して課題に取り組む能力などを総合的に高めていくことを目的として、「講読演習」及び「研究演習」の2種類の演習科目を配当する。2年次及び3年次前期に配当する英語科目は、3年次後期の海外留学で必要となる高度な英語力の育成に重点を置くこととし、言語運用能力そのものの向上を

目的とした科目に加えて、内容・言語統合型学習（CLIL）の科目を多く配当する。3年次前期には、本学での学びを各自が卒業後どのように社会で活かすことができるかを考える GLA 基礎科目（「グローバル・キャリア」）も配当する。なお、外国語科目、基礎教養科目、専門教養科目のそれぞれの単位には3年次後期におけるニューヨーク州立大学（SUNY）留学中の修得単位（括弧内）を含める。

科目区分	修得単位数の目安
外国語科目（英語科目）	20（2）
外国語科目（選択外国語科目）	4
GLA 基礎科目	2
基礎教養科目	16（4）
専門教養科目	22（10）
演習科目（講読演習）	4
演習科目（研究演習）	4
計	72

（ウ） 4年次にはそれまでの学修の成果を卒業研究にまとめることを目的として、主に専門教養科目、講読演習、研究演習（「卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）」4単位分を含む）を配当する。

科目区分	履修単位数の目安
基礎教養科目	2
専門教養科目	8
演習科目（講読演習）	4
演習科目（研究演習）	8
計	22

（2）卒業要件

本学部における卒業要件は、次の所定の科目別単位数の合計 129 単位以上を修得することとする。

その内訳は、英語科目 35 単位（留学包括認定 2 単位含む）、選択外国語科目 4 単位、GLA 基礎科目 18 単位、基礎教養科目：A 群 12 単位（留学包括認定 4 単位含む）、B 群 6 単位、専門教養科目 30 単位（留学包括認定 10 単位含む）、演習科目：基礎演習 4 単位、講読演習 8 単位、研究演習 12 単位（卒業研究（キャップストーン・プロジェクト）4 単位を含む）となっている。

なお、3年次後期長期留学中の取得単位（英語科目 2 単位、基礎教養科目 A 群 4 単位、

専門教養科目 10 単位) を包括認定とする。

卒業要件単位一覧

科目区分		単位数		備 考
外国語科目	英語科目	必修	35	留学包括認定 2 単位含む
	選択外国語科目	選択必修	4	
GLA 基礎科目		必修	18	
基礎教養科目	A 群	選択必修	12	留学包括認定 4 単位含む
	B 群	選択必修	6	
専門教養科目	Humanities 人間と文化	選択必修	30	留学包括認定 10 単位含む
	Societies 社会と共生			
	Global Studies グローバル・スタディーズ			
演習科目	基礎演習	必修	4	
	講読演習	選択必修	8	
	研究演習	必修	12	卒業研究 4 単位含む
計			129	

※英語科目の「Self-directed Learning」(必修科目、1 単位) は、多様なメディアを利用して行う授業である。

(3) 履修モデル

本学部では、国家公務員や地方公務員の国際交流担当部門、外務省専門職員、国連などの国際機関や NGO 職員、独立行政法人職員、大学院進学、グローバル企業などの、主として非営利・公務部門への進路を想定している【資料 5】。

① 国際公務員、国際 NGO や NPO、研究所・シンクタンク職員 (プログラム・オフィサー含む) 志望者の履修モデル

国際公務員、国際 NGO や NPO、研究所・シンクタンク職員としてのキャリアを目指す履修モデルは、幅広い教養を基盤に、専門的知識では安全保障、人権、開発など、国際協力・グローバル協力の側面、国際機構等で働くための必要な素養を重視する。専門領域では「人間と文化 (Humanities)」と「社会と共生 (Societies)」の科目で異文化を踏まえつつ、「グローバル・スタディーズ (Global Studies)」の科目に比重をおいた履修モデルである。

1 年次で GLA 基礎科目を履修した後の 2 年次以降、基礎教養科目の中から「哲学」、「政治学」、「経済学」、「デジタル・シチズンシップ論」等の選択科目を履修する。専門

教養科目では、「宗教文化論」や「世界近現代史」等を学ぶとともに、「共生社会論」や「社会と多様性」「社会とサステナビリティ」、「グローバル・ガバナンス」、「グローバル平和論」、「地域とグローバル世界」等の科目を通じて現代社会の課題を主体的に学ぶ。第2外国語の履修によって、グローバル・キャリアでも役立つ多言語能力を身につける。このほかに必修科目の「キャリアデザイン (GLA)」と「グローバル・キャリア」を履修して、実践的知識を身につけ、人的交流を行い、国際機関やNGO・NPO、研究所・シンクタンクなどに就職する進路を目指す。なお、国際公務員等の場合、修士号が最低要件となるため、専門領域の大学院進学も想定して、キャリア・プランを立てる。

② 国家公務員や地方公務員、外務省専門職員、独立行政法人・NPO職員志望者の履修モデル

グローバル化の進む日本国内において国家公務員や地方公務員、外務省専門職員、独立行政法人・NPO職員を目指す履修モデルは、幅広い教養を基盤としつつ、現代社会の課題についての専門的知識と課題解決力を身につけることに軸足を置いたモデルである。「人間と文化 (Humanities)」の科目で多様な文化や歴史に対する正確な知識と相対的視点を身につけ、「グローバル・スタディーズ (Global Studies)」の科目で地域とグローバル世界の間接的関係、「社会と共生 (Societies)」の科目で社会と多様性の関係や社会と技術革新の関係などを学びながら、課題解決型の授業を通じて課題解決力を身につけていく。1年次でGLA基礎科目を履修した後の2年次以降、基礎教養科目の中から「憲法」、「倫理学」、「社会学」、「データ・サイエンス概論」等の選択科目を履修する。専門教養科目では、「芸術文化論」、「人間と文学」、「宗教文化論」、「地域とグローバル世界」、「共生社会論」、「社会と多様性」、「現代社会とイノベーション」等の科目を履修する。このほかに必修科目の「キャリアデザイン (GLA)」と「グローバル・キャリア」を履修し、社会で働くことについての実践的知識を実務経験者から学び、自らの大学での学修とキャリアをいかに結びつけるかを探究して、国家公務員や地方公務員、外務省専門職員、独立行政法人・NPO職員などの職種への進路を目指す。

③ グローバル企業（社会貢献系）志望者の履修モデル

グローバル企業で働くことを目指す履修モデルは、幅広い教養を基盤に、グローバルな事業を展開する企業活動の理解という側面を重視する。「人間と文化 (Humanities)」の科目で異文化環境でのビジネスに必要な教養を身につけた上で、「社会と共生 (Societies)」と「グローバル・スタディーズ (Global Studies)」の科目を同等に履修するモデルである。1年次でGLA基礎科目を履修した後の2年次以降、基礎教養科目の中から「文学」、「経済学」、「経営学」、「コンピュータ・サイエンス概論」等の選択科目を履修する。専門教養科目では、「文化人類学」、「宗教文化論」等を学ぶとともに、「デジタル・メディアと社会」や「社会と多様性」、「現代社会とイノベーション」、「地

域とグローバル世界」、「国際開発論」等の科目を通じて現代社会の課題を主体的に学ぶ。このほかに必修科目の「キャリアデザイン (GLA)」と「グローバル・キャリア」を履修して、実践的知識を身につけ、人的交流を行い、グローバルに事業を展開する日本企業や外資系企業などに就職する進路を目指す。

(4) 履修科目の登録上限など

本学部における履修登録単位数の上限は、20 単位（1 年次後期、2 年次前期・後期、3 年次前期）、30 単位（4 年次前期・後期）とする。また、他大学における履修については、3 年次の後期に提携する外国の大学（SUNY）で留学した際に修得した単位を、最大 16 単位まで卒業要件単位として認定する。そのほか、入学前及び在学中に他の大学及び大学設置基準等に定める教育施設で履修した授業科目について、教育上有益と認められる場合は、学生からの申請を受けて講義内容を確認のうえ、類似科目への振替認定を行う（提携する外国の大学での修得単位と合計して 30 単位を上限とする）。

【資料 5】

グローバル・リベラルアーツ学部履修モデル

7. 施設、設備等の整備計画

本学は、1987 年の開学時に、その校地、校舎等の施設及び設備等につき、教育にふさわしい環境を整備して以降も、随時その充実に努めるとともに、適切な維持管理及び改修等を行ってきた。現時点における校地、運動場、校舎等施設、図書等の資料及び図書館の状況は次のとおりであり、本学部に必要なスペースなどを改修により確保しながら引き続き教育にふさわしい水準を維持していく。

(1) 校地、運動場の整備計画

本学は千葉市幕張新都心に隣接する文教地区に所在する。周辺は広い埋め立て地で、その上に綿密な都市計画によって、商業業務地区、住居地区、道路、公園緑地、人口河川がバランス良く整備配置され、優れた景観と快適な環境が創出されている。

本学は、1987 年に校地面積 40,000 m²で開学し、以来現在の 98,841 m²まで段階的に校地を拡大してきた。この間、周辺環境との調和に努め、キャンパス内でも学生や教員に快適な憩いの空間を提供すべく造園緑化に力を入れ、自由に散策し語り合える英国風庭園（オーチャードガーデン）や人工池を設け維持管理を行っている。

新学部設立後もこの方針を変えることなく、時代の変化、学生のニーズに応えるべく環境整備に取り組んでいく。

また本学の校地のうち運動場は 30,223 m²あり、人工芝サッカー場、テニスコート、天然芝グラウンドを配置し、体育授業や学生の体力向上に寄与している。

(2) 校舎等施設の整備計画

現在の本学の校地全体の面積のうち校舎敷地は 37,680 m²あり、当該敷地に全 8 棟延べ 42,083 m²の校舎を有している。

本学では実践的な言語運用能力の養成に適するとの考えに基づき、少人数のクラス編成を基本としていることから、収容人数が 30 人程度の小規模な教室を中心に置いているが、一方で、収容人数が 400 名超の大教室、70 名～150 名の中教室も備えている。

教室の確保については、本学部新設に伴う定員増は行わないことから、2019 年度における教室数に対する曜日・時限ごとの教室使用状況により、新学部稼働後も充足すると見込んでいる【資料 6】。このことから、校舎の新築は行わず既存校舎（3 号棟）の改修によって、本学部のため、60 人の教室 1 室と 30 人の教室 2 室を確保する。また、一部使用が集中する状況にある曜日・時限については、教員の協力を得て調整を行うなど改善を図っていく。

2019 年度 教室 使用状況

時限	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
1 限	41%	61%	54%	73%	68%	4%
2 限	89%	91%	68%	92%	87%	5%
3 限	84%	88%	68%	91%	89%	3%
4 限	72%	88%	60%	82%	77%	2%
5 限	48%	52%	27%	32%	26%	0%

3 号棟の一部改修により、新任教員の研究室、及び共同研究室を新たに設置することで、教室のほか、学部所属の専任教員に対する研究室及びそれをサポートする事務体制も十分確保できると考えている。

また、国際社会に貢献し得る人材の育成を目的とする本学は、コミュニケーション能力、問題解決力の養成にも力を入れており、2003 年度の文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に採択された SACLA を発展させた SALC(Self-Access Learning Center)、ELI(English Learning Institute) 等の本学が先進的と自負する自立学習施設を整備し日夜充実に取り組んでいる。同時にこれらの能力育成に資するため少人数教室においても、学生用にアクティブラーニングに適する可動型の机椅子の導入を進めている。

また、本学では語学教育には ICT 能力及び言語運用能力の養成が重要と考えており、これらの教室には IT・AV 機器等を設置し定期的に更新している。

本学の運動場以外の体育施設は、体育館(アリーナ、トレーニング・ルーム、柔剣道場)、

ダンス・スクエア、弓道場等、延べ 41,199 m²を整備し、授業や部活動等の各種活動に利用されている。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学附属図書館（以下「本館」という。）は、キャンパス内の 7 号館 1 階に位置し、3,820 m²の面積を有している。蔵書数は、図書約 135,000 冊、雑誌 700 種類を所蔵し、あわせて電子書籍約 320 点、電子ジャーナル約 6,600 種を契約して提供している。これらは全て、Web 環境で検索できる目録データベースとして整備している。閲覧環境としては、座席数 350 席の閲覧スペースに加え、2 つのグループ室とより自由に活用できる Co-working space を設置している。

館内には利用者用のパソコンを計 32 台、プリンター 3 台を設置し、資料検索や学習・研究に活用することができる。あわせて、キャンパス内共通の Wi-Fi が利用可能であり学生が必携する iPad も同様に利用することができる。

また、学外の有料データベース、電子ジャーナル、電子書籍といった電子資料を積極的に導入し、利用資格を持つ学生教職員の学習・研究活動に大いに資している。

学外データベースは、基本的な教養・知識を網羅的に提供することを目的にした「Japan Knowledge」、「Encyclopedia Britannica」、「日経テレコン」、「朝日新聞「聞蔵」」、「読売新聞「ヨミダス文書館」」、さらに言語学分野や海外の学術論文を広範囲に提供する「LLBA」、「EBSCO Academic Search Elite」、「KISS」、「DBpia」などを導入している。また、電子書籍や電子ジャーナルに関しては、電子資料として契約・購入できるものは原則として電子資料としてアグリゲーターや出版社から導入している。

学生に対する利用教育として、新入生（外国語学部）の必修科目である「基礎演習」の授業の中で図書館職員が「情報検索講座」を実施し、学習や研究に必要な情報の収集方法についての説明を行っている。そのほかには、語学専任教員からの求めに応じて 2 年生を対象とした英語文献の探し方「英語文献講習」や、学年を問わず教員からの個別依頼により授業内容にあわせてカスタマイズした講習も実施している。本学部においても同様の利用教育を予定している。

大学図書館相互利用は、千葉工業大学との包括的提携協定に基づき、それぞれの学生・教職員が学生証・教職員証の提示により相互に図書館を利用することが可能である。また、近隣の独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所とは、連携協定に基づき、本学の学生教職員とアジア経済研究所の研究者は相互に図書館を利用することが可能である。

なお、本学部の設置に伴い、これまでの言語学や語学教育分野を中心とした資料に加えて、新学部の学修に必要な国際関係分野の資料の収集に重点を置きつつ一般的な教養分野についても整備をすすめる予定である。特に、データベースでは「Gale in Context: Global Issue」、「Gale in Context: Opposing Viewpoint」、電子ジャーナルでは「Journal of Conflict Resolution」、「Journal of Peace Research」、「International Journal of

Law in Context」,「Cultural Studies」などの導入を予定している。

【資料6】

グローバル・リベラルアーツ学部 時間割表 2021～2024

8. 入学者選抜の概要

(1) 入学者受入れの方針

本学部は、以下のとおり、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を定めている。

神田外語大学の理念は、「言葉は世界をつなぐ平和の礎」である。これを受け、グローバル・リベラルアーツ学部の教育は、「高度な英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る人材を育成」することを目的としている。

本学部では、次のような学生を広く求める。

- (1) 幅広い教養を身につける意欲を持ち、生涯にわたって自立学習者であろうとする人
- (2) グローバルな視点から現代社会の課題に取り組み、平和に貢献する意欲を持つ人
- (3) 本学部での学修に必要な一定程度の英語能力を修得している人
- (4) 本学部での学修に必要な基礎的学力としての知識・技能・思考力を備える人
- (5) 他者と積極的にコミュニケーションを図り、協働する姿勢を持つ人
- (6) 留学を通じて自己を成長させようとする強い意志を持つ人

(2) 入学者選抜の方法等

上記のようなアドミッション・ポリシーに基づいて、本学部での学修に必要な、一定程度の英語能力を修得していること、論理的・批判的・創造的思考力を有していること、大学での学修を通じて更にそれを伸ばし、生涯にわたって自立学習者たりえること、グローバルな事象に関心を持ち、将来、世界の平和と発展に積極的に貢献する意思を有すること、留学を通じて自己を成長させる意思を有し、異文化を尊重し、異環境下で他者と共存できること、幅広い分野について学修を深めたいという意思を有することを確認するため、大きく分けて以下の6つの方式で入学者選抜を実施する。

入試区分	募集人員	対象	選抜方法
総合型選抜	15名	・本学部が定める英語資格基準を満たす者	書類審査+プレゼンテーション（質

学校推薦型選抜	15 名	・本学部を第一志望とし学校長の推薦がある者 ・当該年度に高等学校（中等教育学校を含む）卒業見込みの者、及び高等専門学校の3年次以上を修了見込みの者 ・本学部が定める高等学校等の評定基準を満たす者 ・本学部が定める英語資格基準を満たす者	疑応答を含む） ＋個別面接等
海外経験特別選抜	若干名	・高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）3年間のうち1学年に相当する期間を外国において修了した者及び修了見込みの者 ・本学部が定める英語資格基準を満たす者	
一般選抜	10 名	・高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した者及び当該年度卒業見込みの者、高等学校卒業程度認定試験合格者及び合格見込み者等	個別学力試験＋個別面接
共通テストプラス入試	5 名		個別学力試験＋大学入学共通テスト＋個別面接
共通テスト利用入試	15 名		大学入学共通テスト＋個別面接
合計	60 名		

（３）入学者選抜の実施体制

本学の入学試験制度に関する方針及び選抜方法等に関する審議は、学長を委員長とする「入学試験委員会」において行っている。「入学試験委員会」は、学長、学力検査実施教科・科目等の各科目の出題・採点責任者、全学科主任、全専攻長、各学科・専攻を代表する教員並びに学長が必要と認め指名した教員で組織されており、入試問題の作成は、学長の委嘱を受けた本学の専任教員が機密性を厳重に保持しながら作成し、検証を重ねて精度を高めている。本学部の入試についても同様の実施体制で行うこととしている。

9. 海外語学研修の具体的計画

本学部では、ディプロマ・ポリシーをふまえ、短期海外研修及び長期留学の計2回の留学を必修としている。1回目は、入学直後の1年次の6～7月にかけて行われる約3週間

の「海外スタディ・ツアー」であり、2回目は、3年次の後期のニューヨーク州立大学（SUNY）への1セメスター留学である。

（１）海外スタディ・ツアー

① 目的・概要

本学部独自の取組として、入学後のセメスターにおいて、「海外スタディ・ツアー」をコア・カリキュラムとする「グローバル・チャレンジ・ターム」を設定する。

このタームは、いわゆる「ギャップ・ターム」としてとらえており、本格的な学部教育がスタートする前の半年間で、何のために学ぶのか、どう自身の能力や関心を涵養するのか、また、学んだことを用い社会でどう自己実現していくかなどを、学生に深く考えさせるための時間として位置づけ、特別なカリキュラム編制を行っている。

そのカリキュラムの中核となるのが、地域ごとに特色のあるフィールドワークを組み込んだ「海外スタディ・ツアー」であり、入学直後の第1年次の6～7月に約3週間の日程で実施する。

「海外スタディ・ツアー」は、以下の諸点を目的として実施する。

（ア）入学後間もない時期に実施することから、第一義的に、異文化にふれることで刺激（カルチャー・ショック）を与えるとともに、異環境下での生活・学修を体験することで、グローバルな感性、多文化共生力の涵養、新たな課題や困難に直面した際の問題解決能力の醸成を図ること

（イ）建学の理念である平和について深く学ぶこと、また、地域によっては、学校、児童養護施設などでボランティア活動を行うことにより、格差、貧困、環境、移民・難民問題などグローバル化した現代社会が抱える課題について、自分自身その解決に何ができるか考えさせること

（ウ）各国・地域ごとに、専門教養科目で学ぶ「人間と文化」、「社会と共生」、「グローバル・スタディーズ」の各分野の課題やSDGsに関連したテーマを深く学び、1年次後期からの学修の方向性や動機づけを図ること

このようなことから、「海外スタディ・ツアー」では、本学部の学修内容に合致し、かつ、通常、大学初年次では渡航する機会が限られると思われるインド、リトアニア、エルサレム、マレーシア・ボルネオに学生を派遣することとしている。

なお、学生を海外に送るにあたっては、今般の新型コロナウイルス感染に伴う情収束状況を慎重に見極めるほか、これら地域の状況の変化やその他感染症の発生など、安全対策が最大の課題と認識しており、この点に最大限配慮して実施することとしている。

② 留学先と受け入れ可能人数

(ア) リトアニア

主な研修地	カウナス
受 入 人 数	最大 30 名
提 携 大 学	ヴィータウタス・マグヌス大学（国立・1922 年設置）
研修テーマ	◎人道支援、○歴史理解、○対立・紛争・連帯、など
特 徴	バルト 3 国の一つであり、第 2 次世界大戦時にソ連やナチス・ドイツに侵略された歴史をもつリトアニアの旧首都カウナスは、日本の外交官である杉原千畝氏が職を賭してユダヤ人にビザを発給した地でもある。そのカウナスで、杉原記念館やホロコーストに関する歴史遺産でのフィールドワークを行い、「人道支援」をテーマに深く学ぶとともに、「20 世紀以降の中東欧史」や「紛争と対立からの脱却」などに関し学修する。

(イ) インド

主な研修地	プネ
受 入 人 数	最大 30 名
提 携 大 学	シンバイオシス大学（私立・1956 年設置）
研修テーマ	◎多文化共生、○宗教、○貧困と格差、など
特 徴	宗教や思想、食文化や風習など様々な面で日本と異なるインドは、文化や宗教の異なる多数の民族が共存して暮らす国であり、深刻な貧困や教育の問題を抱える一方で、IT 先進国でもある。今後、日本との関係はますます強くなっていくと考えられる。そのインド中部に位置するインドでも屈指の治安の良さを誇る学園都市のプネで、「多文化共生」に関し学修するとともに、学校に通えない子どもたちに教育の場を提供する NGO でのフィールドワークも含め「貧困と格差」や「宗教の多様性」についても学修する。

(ウ) エルサレム

主な研修地	エルサレム
受 入 人 数	最大 30 名
提 携 大 学	ヘブライ大学（国立・1918 年設置）
研修テーマ	◎宗教、○歴史理解、○人道支援、など
特 徴	エルサレムは、過去幾多の迫害にあったユダヤ人が建国した国家イスラエルの中心地であり、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の

	聖地でもある。一方で、現在ではパレスチナをめぐる対立が続いており、各国が支援をおこなっている。そのエルサレムで、「宗教の多様性」や「イスラエル・パレスチナの歴史」に関し深く学修するとともに、JICA 等の日本の支援機関でのフィールドワークを通じ「人道支援の現状」を学修する。
--	---

(エ) マレーシア・ボルネオ

主な研修地	(半島部) クアラルンプール近郊 (ボルネオ) クチン
受 入 人 数	最大 15 名
提 携 大 学	(半島部) プトラ大学 (国立・1931 年設置) (ボルネオ) スウィンバーン大学 (私立・2000 年設置)
研修テーマ	◎サステナビリティ、○宗教、○多文化共生、など
特 徴	古くから親日的な国として知られる、マレー系、中華系、インド系及び先住民族からなるマレーシアでは、首都クアラルンプールがある半島部で「多文化共生」や「宗教の多様性」について学修する。他方、同国のスマトラ島は世界有数の熱帯雨林や生物多様性が特徴の地域である。スマトラ島では、熱帯雨林再生プロジェクトなどのフィールドワークに取り組み、SDGs のテーマである「開発とサステナビリティの両立」について深く学修する。

③ 留学先との連携体制

4つの国・地域ごとに、提携する大学とは、すべて承諾書にて締結したうえで、すでに綿密な打合せをしており、プログラムの計画と実施のための全面的な協力について確約を得ている【資料7】。このことにより、本学からの要望と相手側の特色をふまえたプログラムの構築が可能になるものと考えている。

④ 成績評価体制及び単位認定方法

「海外スタディ・ツアー」は、授業科目「グローバル・ディスカバリー (フィールドワーク)」として設定されており、この授業科目に先立ち設定された「グローバル・ディスカバリーⅠ・Ⅱ」及び「アドベンチャーコミュニケーションプログラム (GLA)」での事前・事後学修をふまえ、4単位が認定される。

(2) 長期留学

① 目的・概要

本学部では、3年次前期までに培った語学及び専門教養の学修成果を基に、リベラル

アートについて更に学修を深めるため、全学部生が3年次後期にニューヨーク州立大学（SUNY）へ半年間留学する。

SUNY とは、アメリカ合衆国ニューヨーク州に立地する 64 校からなる州立大学機構の総称である。ニューヨーク州全域で、研究重点大学からリベラルアーツ、教員養成系大学、そしてコミュニティー・カレッジまで、機能や特色が異なる 64 校を有し、6,000 を超える学科と 40 万を超える学生を有する全米有数の巨大大学群である。

本学では、そのうちの 7 大学と協定を結び、学生を留学させることとしている【資料 8、9、10】。SUNY に本学部の学生を留学させるのは、主として、以下に記載のメリットがあることによる。

- (ア) 公立大学機構として評価が高く、今回協定を締結する 7 校をはじめ傘下の各校は適切な教育水準を保っていること
- (イ) 7 校はそれぞれに特徴があるが、基本的にリベラルアーツを主体とする大学群で、人文・社会科学分野において幅広い科目が設定されており、学生は、本学で学修した専攻分野に関する知識の幅を広げ、専門性を高めることが可能であること
- (ウ) 7 校は、基本的に治安や環境に恵まれた場所に立地しており、勉学に最適であること
- (エ) 7 校は学生数が 3,000～7,000 人規模で、本学とほぼ同じであり、教員と学生間の距離がなく、留学生に対してきめ細かな対応が行われていること
- (オ) 7 校は全てキャンパス内に十分な室数の寮が完備されており、本学部の学生は必ず入寮できること
- (カ) 7 校は、これまでニューヨーク州の出身学生を優先して受け入れてきたことから、日本人留学生が極めて少数で、英語を学ぶ環境として最適であり、寮の 2 人部屋では、ルームメイトは必ず現地の学生を充ててくれること
- (キ) ニューヨーク州立大学は他州の州立大学や私立のリベラルアーツカレッジと比べ学費が低廉であり、アメリカで学ぶうえで、コスト・パフォーマンスに優れていること
- (ク) ニューヨーク州の中心であるニューヨーク・シティー(NYC)は世界最高水準の美術・音楽・芸術等を鑑賞できる都市であるが、各校で提供しているマンハッタンへの

エクスカッションなどの機会を通し、優れた文化にふれる機会に恵まれていること、また、NYC には国連本部があり、マンハッタンの SUNY Global Center でのセミナーや国連でのインターンシップに参加する機会が開かれていること

このような特徴を有する SUNY への留学は、従来型の学生の自主性にまかせる交換留学とは一線を画している。7校のなかには平和学で定評のある大学も含まれており、留学先で学修する分野については、事前に本学部教員等の綿密な指導のもとに選択させることとしている。したがって、本学部の学生は、日本で専攻する分野を、SUNY でさらに深めたうえで帰国し、本学部の4年次の学修でそれを完結させることが可能である。

本学部の長期留学は、上述のとおり、4年間のカリキュラムの一環として重要な位置づけとなっている。

② 留学先と受け入れ可能人数

(ア) SUNY フレドニア校

創 設 年	1826 年
立 地	ニューヨーク州最西部、エリー湖畔
学 生 数	4,431 名
受入予定数	20 名
特 徴	ニューヨーク州西部、カナダ国境に近いエリー湖に沿った小さな町に立地する典型的なリベラルアーツカレッジ。もともと教員養成校として設置された関係から、日本の大学とは、愛知教育大学、新潟大学と協定を結び学生の交流を行っている。フレドニア校の独自の特色は、International Pathway Program を有することで、英語力が十分でない学生が正規課程に編入するための英語予備教育を行っている。

(イ) SUNY ジェネシオ校

創 設 年	1871 年
立 地	ニューヨーク州西部
学 生 数	5,494 名
受入予定数	20 名
特 徴	ニューヨーク州西部の山間の小さな町に、町と大学がほぼ一体化し立地しているリベラルアーツカレッジ。非常に広範な学問分野を開設しており、時として、私立の著名なリベラルアーツカレッジと比肩されて語られることがあり、各種の大学ランキングにおい

	でも高く評価されている。
--	--------------

(ウ) SUNY コートランド校

創 設 年	1868 年
立 地	ニューヨーク州中部
学 生 数	6,343 名
受入予定数	20 名
特 徴	ニューヨーク州西部の小さな町に立地する教員養成大学を前身とするリベラルアーツカレッジ。現在では、卓越したスポーツビジネス分野を有し、学生スポーツが盛んで、スポーツ業界からの寄付で財政が潤沢であり、各種の機器やコートを備えた巨大なスポーツジムも擁する。

(エ) SUNY デルハイ校

創 設 年	1922 年
立 地	ニューヨーク州中部、山岳地帯
学 生 数	3,238 名
受入予定数	20 名（予定）
特 徴	ニューヨーク州中部のキャッツキル山系の谷間の小さな村に立地し、SUNY 7 校のなかでは、唯一のテクノロジー・カレッジに分類される。周辺環境は自然に囲まれ極めて良い。工業系の技術教育が主体であるが、獣医学・看護学分野で高い評価を得ており、ゴルフ・マネジメントやホテル、イベントなどの各種ホスピタリティー系マネジメントなどでも知られている。一方で、リベラルアーツ教育にも力を入れている。

(オ) SUNY ニューパルツ校

創 設 年	1828 年
立 地	ニューヨーク州東部、ハドソン川流域
学 生 数	6,692 名
受入予定数	特に定めなし
特 徴	マンハッタンから北に 2 時間ほどの、ニューヨーク州で最も早く開拓された歴史のある町に立地するリベラルアーツカレッジ。今回の 7 校のなかで、もっとも規模が大きく、開設されている分野も最多で評価が高い大学である。マンハッタンから遠くないという

	利点を生かし、国連と連携した「国連インパクト・プログラム」と称するインターンシップ・プログラムを実施している。併せて、同校ではアジア研究の学科があり、日本語専攻が設置されている。なお、同校は、SUNY でも顕著な Pathway 教育を実施する Haggerty Program を有している。
--	---

(カ) パーチェス・カレッジ

創 設 年	1967 年
立 地	ニューヨーク市北郊(ウエストチェスター)
学 生 数	4,134 名
受入予定数	10 名
特 徴	写真・映像・演劇・ダンスなどの芸術分野で秀でたりベラルアーツカレッジである。一方で、生物学や人文・社会科学分野にも力を入れている。日本からの留学生は、ほぼ全員が、芸術分野で学んでいる。校舎の廊下など、あらゆるところに学生や卒業生の作品が掲示されている。今回の 7 校のなかでは、マンハッタンから北へ 40 分ほどのところに立地しており、ニューヨーク・シティーにもっとも近いというメリットを享受することができる大学である。

(キ) SUNY オールド・ウエストバリー校

創 設 年	1965 年
立 地	ニューヨーク市北郊(ロングアイランド)
学 生 数	4,784 名
受入予定数	20 名 (予定)
特 徴	ニューヨーク東郊のロングアイランドに立地する大学。JFK 空港からもっとも近く、マンハッタンにも 1 時間程度で出ることが可能。その立地の特性からも、移民の子女を積極的に受け入れており、極めて多様性に富む大学である。

③ 留学先との連携体制

今回学生を留学させる予定の 7 校とは、すでに綿密な打合せを行うとともに、プログラムの計画と実施のための全面的な協力について確約を得ている。このうち 5 校とは「大学間国際交流協定 (MOU)」を締結済みである。また、他の 2 校については先方の署名と返送を待っている状況である (2020 年 4 月現在、ニューヨーク州立大学は新型コロナウイルス感染症対策のため事務局が閉鎖中である)。

これらのことにより、本学からの要望と相手側の特色をふまえたプログラムの構築

が可能になるものと考えている。

④ 成績評価体制及び単位認定方法

長期留学した際に修得する単位については、最大 16 単位（語学科目 2 単位、教養教育科目（A 群）4 単位、専門教養科目 10 単位）までを卒業要件単位として認定する。

【資料 7】

海外スタディ・ツアー受入承諾書

【資料 8】

ニューヨーク州立大学(SUNY)提携校の概要

【資料 9】

State University of New York (SUNY)提携 7 校 所在地

【資料 10】

長期留学受入承諾書

10. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる 場合の具体的計画

本学部におけるメディアを利用した講義として、「Self-directed Learning」を設置している。この科目はオンラインを利用した非同時双方向型（オンデマンド型）の授業であり、初年次教育の一環として 1 年次前期に開講される（1 単位）。言語の効果的な学び方、学習への自主的な取り組み方、SALC(Self-Access Learning Center)の効果的な利用方法について学び、自分で自分の目標や興味にあった学習プランを立て、実行することで、語学スキルの向上を目指す。

SALC のモジュールは自律学習者になるための方法を学ぶコースであり、いつ、どこで、どのように学習するかを、ラーニングアドバイザーのサポートを受けながら学生自身が決めることができ、平成 13 年文部科学省告示第 51 号に定める十分な指導を併せ行うことができる。また、本学学則では、第 24 条第 3 項に、「60 単位を限度として、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。」と定めており、実施する授業単位数についてもこの範囲内となっている。

1 1. 管理運営

(1) 教授会

本学部に関する教学面の意思決定を行う機関として、「教授会（グローバル・リベラル・アーツ学部教授会）」を置く。教授会は、学則及び教授会規則の規程に基づき、次のとおり開催される。

教授会は、専任の教授、准教授、講師（満 56 歳に達する年度以降は除く。）をもって組織され、長期休暇期間等を除き、基本的に毎月一回開催する。審議事項は、学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与のほか、教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものである【資料 11】。

(2) 委員会等

教授会の審議は、教授会の下に設置されている委員会及び学長の諮問機関である「学務審議会」での審議を経た後に行われる。委員会には、現行の外国語学部には「入学試験委員会」、「教務委員会」、「学生委員会」、「国際交流委員会」、「キャリア教育委員会」、「プロフェSSIONAL・ディベロップメント委員会」等があり、各学科で担当を割り振り、それぞれの委員会に参加する形をとっている。各委員会の目的は以下のとおりである。

① 学務審議会

「神田外語大学学務審議会規則」に基づき、学長、各学科主任、教養教育運営部会長及び各研究分野長、学長が指名した者、事務局長並びに教務部長をもって組織され、学務の重要事項について学長を補佐し、教育と研究に資することを目的としている。

② 入学試験委員会

「神田外語大学入学試験委員会規則」に基づき、学長、学力検査実施教科・科目等の各科目の出題・採点責任者、全学科主任、全専攻長、各学科・専攻を代表する教員並びに学長が必要と認め指名した教員で組織される。主な審議事項は、本学学部の学力試験の実施教科・科目及び実施方法に関する事、外国人留学生の入学選抜に関する事、推薦・特別選抜入試に関する事、合否判定の基準に関する事等である。

③ 教務委員会

「神田外語大学教務委員会規則」に基づき、各学科、教養教育運営部会、各研究分野の教員のうちから選出された者各 1 人、学長の指名した教員及び教務部職員数人をもって組織され、教育課程及び授業に関する事、学生の学内試験、進級、卒業等の成績に関する事、学籍に関する事並びに教務に関するその他の事項（入学試験に関するものを除く）を審議する。

④ 学生委員会

「神田外語大学学生委員会規則」に基づき、各学科から選出された教員、教務部長、学生課職員及びメディカルセンター職員で構成され、大学公認となる課外活動団体の新規申請の承認や、学生主催の学内イベント等をはじめとする学生生活全般に関わる案件について情報共有及び討議・審議を行う。

⑤ 国際交流委員会

「神田外語大学国際交流委員会規則」に基づき、各学科若しくは各専攻運営単位の教員のうちから選出され者、学長の指名した教員、教務部職員で構成され、主に、本学生の海外研修・留学に関すること、外国人留学生の受入れに関すること、国際協力事業に関すること、国際交流の連絡、調整並びに企画、調査などに関すること等を審議する。

⑥ キャリア教育委員会

「神田外語大学キャリア教育委員会規則」に基づき、各学科若しくは各専攻運営単位のうちから選出された者、キャリア教育センターから選出された者で構成され、主に、学生のキャリア教育に関する事項、学生職業相談及び職業斡旋に関する事項、学生のキャリアデザインに関する事項等を審議する。

⑦ プロフェッショナル・ディベロップメント委員会

「神田外語大学プロフェッショナル・ディベロップメント委員会規則」に基づき、各学科、教養教育運営部会及び各研究分野会議を代表する教員、学長の指名した者、事務局で構成され、主に、PD についての研究、企画運営に関すること、PD に関わる情報収集及び他の教育機関との連携に関すること、PD 活動の報告に関わることについて審議する。

本学部においては、上記の各種委員会のうち、教学の重要事項を審議する学務審議会の構成員となるが、学部の特異性と学生数を踏まえ、外国語学部と共通の全学委員会（例えば、「学生委員会」、「キャリア教育委員会」、「プロフェッショナル・ディベロップメント委員会」、「入学試験委員会」等）と学部独自で運営するもの（例えば、「教務委員会」、「国際交流委員会」等）とで構成する計画である。

【資料 11】

神田外語大学 教授会規則

12. 自己点検・評価

(1) 実施方法など

本学では、学則第1条の2に「本学の教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育活動の状況並びに研究について、自ら点検及び評価を行う」と定めている。2012年以降は、同点検・評価を通して明らかになった改善点を中期経営計画に落とし込み、PDCAサイクルにより、改善・改革に取り組んでいる。

自己点検・評価項目は、「神田外語大学質保証・質向上に関する規則」第5条に次のとおり定めている。

- ・使命、目的及び教育目的
- ・キャリア支援
- ・教育課程
- ・学生支援
- ・学生の受入れ
- ・施設・設備及び環境
- ・教育研究組織及び教職員
- ・管理運営
- ・内部質保証
- ・前各号に掲げるもののほか、質保証・質向上委員会が適当と判断する重要事項

(2) 実施体制

学内に、自己点検・評価の実施並びにその結果の活用及び公表に関する業務を統轄する質保証・質向上委員会を設置している。教職員一体となった全学的な取組を担保するため、同委員会の構成員は、副学長、学部長、研究科長、附属図書館長、各学科の主任、教養教育運営部会長、各分野長、教務委員長、事務局長、大学改革室長及び学長が指名した者となっている【資料12】。

(3) 第三者評価

本学は、2005年度及び2012年度に引き続き、2019年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による第3回目の認証評価（第三者評価）を受審し、同機構が定める大学評価基準に「適合」としているとの評価を得ている。実施にあたっては、自己点検・評価同様に、質保証・質向上委員会が行い、その事務は総務部で行うこととしている。

【資料12】

神田外語大学 質保証・質向上に関する規則

13. 情報の公表

本学は、学校教育法第113条及び学校教育法施行規則第172の2第3項の規定に基づき、教育研究に関わる公的な機関として社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育研究活動の質の向上を図り、成果を広く社会に提供し、社会の発展に寄与することであることを認識していることから、積極的にその成果等を公表している。

情報公開の方法は、主として学内外からのアクセス及び最新情報の更新が容易なホームページ上での公表を基本とし、その他対象者に応じて紙媒体等で情報を公表している。

(情報公表一覧) <https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/announcement/>

なお、ホームページは各ステークホルダー（在学生、受験生、卒業生、保護者、一般・企業の採用担当者、一般市民）に対してコンテンツが分類されており、それぞれのステークホルダーが欲しい情報が容易に参照できる工夫がなされている。本学部においても各々のステークホルダーが求める情報とともに、本学部の教育研究活動にかかる公表事項をホームページ上に掲載することで、適切な情報発信に努める。

以下、ホームページ上で公表されている教育研究活動等に関する情報である。

① 大学の教育研究上の目的に関すること

神田外語大学のビジョン・ミッション、外国語学部・大学院のアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、並びにディプロマ・ポリシーの紹介

- ・ 神田外語大学のビジョン・ミッション／ポリシー

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/vision/>

TOP>大学概要>ビジョン・ミッション／ポリシー

② 教育研究上の基本組織に関すること

- ・ 組織図

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/organization/>

TOP>大学概要>組織図

③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・ 神田外語大学・大学院の教員、名誉教授の紹介

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/faculty/>

TOP>大学概要>教員紹介

④ 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関するこ

と

- ・アドミッション・ポリシー

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/vision/>

TOP>大学概要>ビジョン・ミッション／ポリシー

- ・学部・大学院・留学生別科収容定員

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/announcement/>

TOP>大学概要>情報公表一覧

- ・学生数統計情報（入学者数、在籍者数、修了者数）

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/statistics/>

TOP>大学概要>学生数統計情報

- ・就職状況、就職先

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/job/graduate/>

TOP>就職・進路サポート>就職状況、就職先

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・外国語学部・大学院の紹介

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/department/>

TOP>外国語学部・大学院

⑥ 学習の成果にかかる評価及び卒業又は修了の認定にあたっての基準に関すること

- ・全学科カリキュラム&4つの研究コース

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/department/curriculum/>

TOP>外国語学部・大学院>全学科カリキュラム&4つの研究コース

⑦ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

- ・施設案内

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/campuslife/facilities/>

TOP>キャンパスライフ>施設案内

⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

- ・学費の納入についてのご案内

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/announcement/>

TOP>大学概要>情報公表一覧

⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康にかかる支援に関すること

- ・就職・進路サポート

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/job/>

TOP>就職・進路サポート

- ・施設案内 - メディカルセンター

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/campuslife/facilities/medical/>

TOP>キャンパスライフ>施設案内 施設案内 - メディカルセンター

⑩ その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果 等）

- ・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/vision/>

TOP>大学概要>ビジョン・ミッション／ポリシー

- ・学則等各種規程

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/regulation/>

TOP>大学概要>学則及び任期付教員の任期に関する規則

- ・設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/document/>

TOP>大学概要>取扱規程・設置届出書

- ・自己点検・評価報告書、認証評価の結果

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/about/evaluation/>

TOP>大学概要>第三者評価

1 4. 教育内容等の改善を図るための組織的な取組

本学では、「神田外語大学プロフェッショナル・ディベロップメント委員会規則」に基づき、「プロフェッショナル・ディベロップメント委員会」を設置し、PD（Professional Development）活動の組織的な実施に努めている（本学では、FD を PD と称す）【資料 13】。同委員会は、副学長 3 人（うち 1 人が委員長）、各学科主任、各研究分野長（言語研究分

野・総合文化研究分野・コミュニケーション研究分野・地域国際研究分野)、教務学監、大学院研究科長、ELI ディレクター、SALC ディレクター、PD ワーキンググループメンバー6人(ELI 所属教員を含む)、関連部署の職員で構成されている。2020 年度 PD 委員会は、最低4回の開催を予定しており、PD ワーキンググループは定期的にメンバーを招集し、PD の企画・調整を行う予定である【資料 14】。本学部の PD 活動は、学部長(兼副学長)が中心となり、全学的な取組としての PD 及び本学部独自の PD を推進する計画である。特に本学部が目指すアクティブラーニングによる授業、及び感染症拡大の影響によるオンラインでの効果的な授業手法について、今年度から専任・兼任教員を対象に PD を行う計画である。またこれまで外国語学部(全学)を対象とした以下の PD 活動についても、PD 委員会が運営のもと、本学部でも実施する。

(1) 学生による授業評価アンケートの実施と授業改善

「教務委員会」が中心となり、各学期末に、基本的に全開講科目を対象として、学生に「授業評価アンケート」を実施している(教育の質保証への学生の参画)。同結果は各担当教員にフィードバックし、各授業の有効性を検証するとともに、当該検証結果を踏まえて恒常的・継続的な授業改善を行っている。

(2) 教職員による授業参観

再任審査対象(テニュアトラック)の教員、特任教員、語学専任講師、留学生別科教員及び新任の全非常勤講師を対象として授業参観を行っている。当該授業科目を管理する教学組織(学科、専攻、「研究分野会議」、「教養教育運営部会」等)の教員が、複数名で授業参観を実施し、その結果をフィードバックして授業改善に役立てている。また、2012 年度からは職員による授業参観も行っており、終了後は、改善や工夫に資するべく、担当教員にオブザーベーションレポートを提出している。

(3) PD 講演会

言語教育研究所が主催する「Bag Lunch Seminar」は、PD 講演会の一環として行われており、開学以来、延べ 200 回近い開催実績がある。このセミナーの発表者は学内の教員が中心であるが、ELI コンサルタントを含む外部講師による発表も行われ、研究成果が共有されており、本学部の根幹を担う高度な言語教育を提供するうえで、教員同士の学び合いの場となっている。このほか、きめ細やかな学生支援に欠かせないメンタルヘルスに関わる基礎知識やカウンセリング手法を学ぶ研修会(メディカルセンター主催)や、研究資金を獲得するうえで欠かせない研究力の向上に資するセミナー(学術・研究支援部主催)などを実施している。

（４）奉職時（入職時）研修会

本学教育職員としてのキャリアを円滑にスタートできるように、専任の新任教員（参加義務）及び非常勤教員（任意）を対象に、理事長・学長の講話、テニユアになった教員による対談及び事務局説明を行う。また、1月下旬を目途に、着任後に生じた課題等についてテニユア教員と対話ができるフォローアップ研修会を実施する予定である。

なお、職員の資質・能力の向上を目的とする SD（Staff Development）については、本学園「学校法人佐野学園就業規則」第 47 条に、「学園は、その建学の精神による『人材を育成する』という使命を達成するために職員一人ひとりの進歩と向上が、何よりも必要であると考え、職員教育を積極的に行うものとする」と規定し、その方針のもと、法人本部人事部が主体となって、年度毎の「学校法人佐野学園職員研修プログラム」を策定し、学園全体として計画的に SD を遂行している【資料 15】。同プログラムは、インハウス型の階層別研修・目的別研修、外部オープンセミナー、技能研修により構成されている。目的別研修においては、本学園の教育研修施設である「ブリティッシュ・ヒルズ」（在福島県岩瀬郡天栄村）を利用し、1泊2日で実施する「新入職員ブリティッシュ・ヒルズ研修」並びに学園の専任職員、嘱託職員及び理事・監事が一同に会して開催する「年末研修会」が特徴的な研修である。

「新入職員ブリティッシュ・ヒルズ研修」では、理事長、法人本部長兼人事部長、副学長及び事務局長も同行し、新入職員によるプレゼンテーションに助言を行うなど、本学園及び本学の執行部が密接に関わる研修となっている。「年末研修会」は、職員及び理事・監事が同じテーマについて考える機会であるとともに、部門を越えた情報交換の場としても有効に機能している。本学部担当職員（行政職員を含む）に対しても、同人事部が組織する一連の計画的・段階的な SD プログラムへの参加が求められるため、大学及び本学部の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るために必要な知識・技能の習得とともに、コミュニケーション力などについても高めることができる。

【資料 13】

神田外語大学プロフェッショナル・ディベロップメント委員会規則

【資料 14】

神田外語大学 2020 年度会議スケジュール

【資料 15】

平成 31 年度 学校法人佐野学園 職員研修プログラム

15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内の取組

本学部における教育課程内の取組として、以下2つの科目、「キャリアデザイン(GLA)」(1年次後期)と「グローバル・キャリア」(3年次前期)を必修科目として設置している。

① 「キャリアデザイン (GLA)」(1年次後期必修)

本科目は、外部環境(国際政治、経済、社会、技術革新)や労働環境(新卒・転職・起業)を理解したうえで、大学進学後の進路(ゴール)とその道筋(パス)を考えていくための授業である。グローバルな舞台でグローバル・リベラルアーツ学部での学びを活かすにはどのような仕事があるのか。多国籍の人々が集まる組織ではどのような英語力が求められるのか。外国人と一緒に仕事をするために必要なことは何か。仕事と家庭・子育てをどう両立させるのか。おカネとどう向き合えばいいのか。講義やグループディスカッションを通して「人生100年時代」を見据えた仕事と人生について考えるとともに、グローバル人材としての資質も身に付けていく。外国人と英語で仕事をするための準備講座という性格上、授業は英語と日本語を併用する。

② 「グローバル・キャリア」(3年次前期必修)

本科目では、グローバル化する社会で自分のキャリアを確立し、世界にインパクトを与えているプロフェッショナルたちの事例から、自己流のキャリアを確立するための思考や態度を、講義やグループディスカッションを通じて学んでいく。また、現在の自分と彼等プロフェッショナルとの比較を通じて、自己を客観視する力を身に付けるとともに、自身が描く卒業後のグローバル・キャリア像に対する課題を抽出し、アクションプランを立てることで、3年次後期の長期海外留学での実践に繋げていく。講義は英語と日本語を併用する。

(2) 教育課程外の取組

本学部において養成する人材像は、

- (1) 多様な学問領域にわたる幅広い教養
- (2) 人間と文化、社会と共生、平和にかかわるグローバルな事象に対する深い理解
- (3) グローバル社会で活躍するために不可欠な高度な英語運用能力
- (4) 論理的かつ批判的な思考力
- (5) 社会的な課題の発見と解決に貢献する力
- (6) 異なる文化や価値観、社会の多様性を理解し尊重する姿勢

としており、これらの能力を身につけ、現代社会が直面する諸問題を平和的に解決するべく、リーダーシップを発揮して立ち向かうことができる自立した人材を育成する事を

目的としている。

この養成する人材像に基づき、社会貢献に力を入れて取り組む企業、国家公務員（外務省など）・非営利団体（JICA や国際交流基金など）及び国際公務員（国連事務局、国連開発計画など）の3つのキャリア（進路）に対し、効果的に学生を輩出すべく、本学部、キャリア教育センター、そしてキャリア教育委員会の3組織からなる支援体制を構築する【資料 16】。また、「動機付け」、「選択」、「専念」からなる3つのキャリア形成フェーズを設定し、各フェーズにおいて独自のキャリア支援を促すことで、さらに効果的なキャリア支援が可能になるものと考えている【資料 17】。

① 第1フェーズ：「動機付け」（入学前から1年次まで）

キャリア・アドバイザーやメンターとの接触を通じ、早期から学生に3つのキャリア領域を意識づける段階である。具体的な取組は以下のとおり。

- ・3つのキャリア形成への意識付けを目的とした「入学前スタートアップセミナー」及び「入学時オリエンテーションキャンプ」（全員参加）
- ・キャリアを見据えた4年間の学修・学生生活をサポートする「担任制度」の導入
- ・社会起業家やCSV（Creating Shared Value: 共通価値の創造）企業、あるいは JICA や政府機関などによる「キャリア講座」、「キャリアセミナー」の実施（全員参加）

② 第2フェーズ：「選択」（2年次）

卒業後のキャリアを具体的に選択する段階。具体的な取組は以下のとおり。

- ・3つのキャリア領域で活躍している現役社会人などによる「社会人ゼミ」の実施
- ・3つのキャリア領域における「インターンシップ」などの実践機会の提供。

③ 第3フェーズ：「専念」（3年次から4年次）

卒業後のキャリア形成に向けて必要な資質・スキルの取得に集中的に取り組む段階（特に長期留学帰国後の3年次2月～3月の期間を利用する予定）。具体的な取組は以下のとおり。

- ・履修モデルを参考とした科目履修の推奨
- ・スキルアップ・キャリア対策講座（「PC スキルアップ講座」、「公務員対策講座」、「在外公館派遣員勉強会」、「大学院進学セミナー」など）の実施

（3）実施体制の整備状況

教育課程内の取組では、全学体制で学生の就職を支援するため、各学科から選出された教授会構成員の教員及び「キャリア教育センター」所属の教職員で構成される「キャリア教育委員会」を設置している【資料 18】。学生の社会的・職業的自立に関する情報は、同委員会内で共有されるのみならず、随時、教授会等の場でキャリア教育委員長から報告され、教職員間で情報の共有が図られている。キャリア科目の追加・変更プロセスは、本学

部のキャリア教育委員が同委員会へ付議し、その後、教務委員会での審議を経て、教授会での承認とする。

教育課程外の取組では、キャリアサポートに関わる組織として、「キャリア教育センター」を設置している。「キャリア教育センター」は、センター長・副センター長各1人及び職員14人の合計16人が、学生支援にあたっている。ここでは、就職ガイダンス、就活直前講座、職員面談、SPI対策講座や業界説明会・合同企業説明会などを実施しているほか、職員のうちの3人が、東京・神田の法人本部に常駐して企業訪問を行い、学生に自信を持って推薦できる企業の開拓に注力している。

また本学部では、これらの支援に加え、本学部が重点をおく国際公務員、NGO、NPOなど公共系のグローバル・キャリアを目指す学生を支援するために、GLAキャリア・コーディネーターの設置を検討するなど、さらに整備を進めていく【資料19】。

【資料16】

教育課程内外の取組の支援体制

【資料17】

教育課程内外の取組（全体像）

【資料18】

神田外語大学 キャリア教育センター規則

【資料19】

教育課程外 担任（アドバイザー）制度 支援領域

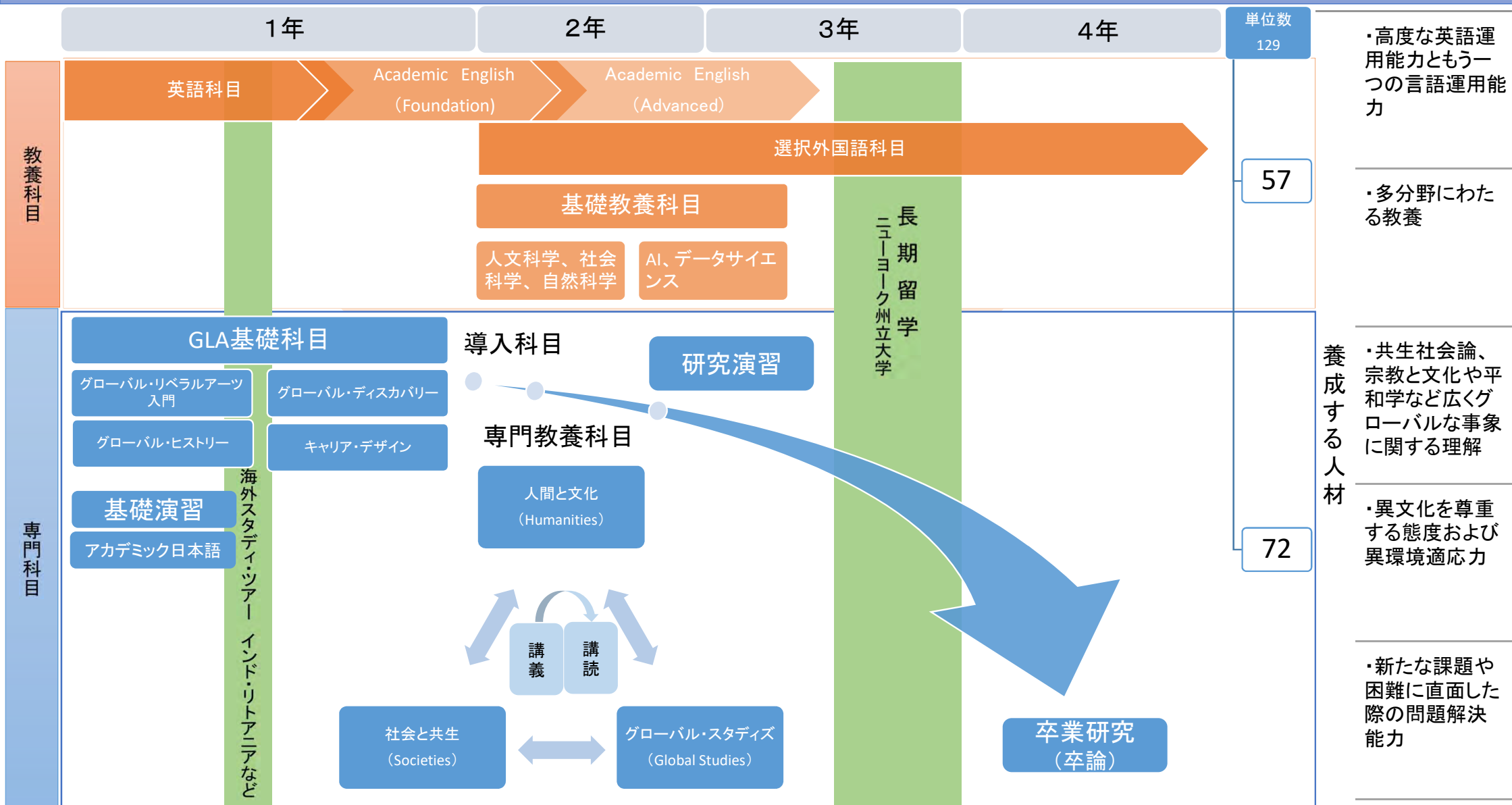
資料目次

- 資料 1. グローバル・リベラルアーツ学部 (Global Liberal Arts) カリキュラム・マップ
- 資料 2. グローバル・リベラルアーツ学部 (仮称) カリキュラム全体図
- 資料 3. 神田外語大学教育職員定年規程
- 資料 4. 神田外語大学教育職員定年規程運用細則
- 資料 5. グローバル・リベラルアーツ学部履修モデル
- 資料 6. グローバル・リベラルアーツ学部時間割表 2021～2024
- 資料 7. 海外スタディ・ツアー受入承諾書
- 資料 8. ニューヨーク州立大学(SUNY)提携校の概要
- 資料 9. State University of New York (SUNY)提携 7 校 所在地
- 資料 10. 長期留学受入承諾書
- 資料 11. 神田外語大学 教授会規則
- 資料 12. 神田外語大学 質保証・質向上に関する規則
- 資料 13. 神田外語大学 プロフェッショナル・ディベロップメント委員会規則
- 資料 14. 神田外語大学 2020 年度会議スケジュール
- 資料 15. 平成 31 年度 学校法人佐野学園 職員研修プログラム
- 資料 16. 教育課程内外の取組の支援体制
- 資料 17. 教育課程内外の取組 (全体像)
- 資料 18. 神田外語大学 キャリア教育センター規則
- 資料 19. 教育課程外 担任 (アドバイザー) 制度 支援領域

資料1 グローバル・リベラルアーツ学部 (Global Liberal Arts) カリキュラム・マップ

		1 年次		2 年次		3 年次		4 年次			
		前期 (Global Challenge Term)		後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
		第 1 ターム	第 2 ターム								
外国語科目	英語科目	Academic Reading (a) 2コマ1単位	海外スタ ディ・ ツアー 4単位	Academic Reading (b) 2コマ2単位	Critical Reading (a) 2コマ2単位	Critical Reading (b) 2コマ2単位	English for GLA V 2コマ2単位	長期留学 (SUNY)			35単位 (留学2単位含む)
		Academic Writing (a) 2コマ1単位		Academic Writing (b) 2コマ2単位	Advanced Writing (a) 2コマ2単位	Advanced Writing (b) 2コマ2単位					
	Academic Discussions & Presentations (a) 2コマ1単位	Academic Discussions & Presentations (b) 2コマ2単位									
	English for Academic Purposes (a) 第1ターム2コマ、第2ターム3コマ第7週と第8週のみ4コマ 2単位	English for Academic Purposes (b) 2コマ2単位		English for GLA I 2コマ2単位	English for GLA Ⅲ 2コマ2単位						
	Self-Directed Learning オンライン科目1単位	Self-Directed Learning の続き		TOEFL ITP 演習 1コマ1単位	English for GLA Ⅱ 2コマ2単位	English for GLA IV 2コマ2単位					
選択外国語科目					以下の外国語科目の中から 1 言語を選択 中国語 スペイン語 韓国語 フランス語 ドイツ語 ロシア語 イタリア語 アラビア語 ポルトガル語 ベトナム語 インドネシア語 タイ語						4単位
GLA基礎科目		グローバル・ディメンションⅠ 1コマ1単位	グローバル・ディメンションⅡ 2コマ1単位	グローバル・ディメンションⅡの続き	グローバル・ヒストリー 2コマ4単位						18単位
		グローバル・リベラルアーツ入門Ⅰ 1コマ1単位	グローバル・リベラルアーツ入門Ⅱ 1コマ1単位	グローバル・リベラルアーツ入門Ⅱの続き	グローバル・リベラルアーツ入門Ⅲ 1コマ2単位						
			グローバル・リベラルアーツ入門Ⅲ (GLA) 4コマ1単位		キャリアデザイン(GLA) 1コマ2単位		グローバル・キャリア 1コマ2単位				
基礎教養科目	A 群				人文科学分野 (100番台) 歴史学Ⅰ 歴史学Ⅱ 哲学Ⅰ 哲学Ⅱ 倫理学Ⅰ 倫理学Ⅱ 宗教学Ⅰ 宗教学Ⅱ 文学Ⅰ 文学Ⅱ 美術史学Ⅰ 美術史学Ⅱ 言語学Ⅰ 言語学Ⅱ 心理学Ⅰ 心理学Ⅱ 教育学						12単位 (留学4単位含む)
					社会科学分野 (100番台) 社会学Ⅰ 社会学Ⅱ 法学Ⅰ 法学Ⅱ 憲法Ⅰ 憲法Ⅱ 政治学Ⅰ 政治学Ⅱ 経済学Ⅰ 経済学Ⅱ 経営学Ⅰ 経営学Ⅱ 統計学Ⅰ 統計学Ⅱ						
	B 群				自然科学分野 (100番台) 化学Ⅰ 化学Ⅱ 物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 生物学Ⅰ 生物学Ⅱ 自然科学概論Ⅰ 自然科学概論Ⅱ						6単位
					現代・近未来的教養科目群(仮称) (100番台) 数的思考法 データサイエンス概論 ビッグデータ解析論 デジタル・シチズンシップ論 コンピュータ・サイエンス概論 エビデンスと評価						
専門教養科目	Humanities 人間と文化				講義 (200番台) 宗教文化論Ⅰ 宗教文化論Ⅱ 芸術文化論Ⅰ 芸術文化論Ⅱ 人間と文学 人間と思想 世界近現代史 文化人類学						30単位 (留学10単位含む)
	Societies 社会と共生				講義 (200番台) 共生社会論 社会と多様性Ⅰ 社会と多様性Ⅱ 社会とサステナビリティ 現代社会とイノベーション 言語・文化とコミュニケーション デジタル・メディアと社会 異文化コミュニケーション論						
	Global Studies グローバル・スタディーズ				講義 (200番台) グローバル・ガバナンスⅠ グローバル・ガバナンスⅡ 地域とグローバル世界Ⅰ 地域とグローバル世界Ⅱ グローバル平和論 国際法 国際機構論 国際開発論						
演習	基礎演習	アカデミック日本語演習Ⅰ 第1ターム1コマ第2ターム1コマ+発表3コマ 2単位		アカデミック日本語演習Ⅰの続き	アカデミック日本語演習Ⅱ 1コマ2単位						4単位
	講読演習					講読 (300番台) Humanities (人間と文化) 宗教文化 芸術文化 文学/思想 歴史 Societies (社会と共生) 社会と多様性 社会とサステナビリティ 現代社会とイノベーション 言語・文化とコミュニケーション Global Studies (グローバル・スタディーズ) グローバル・ガバナンス 地域とグローバル世界 グローバル平和論					8単位
						研究演習Ⅰ (300番台) 1コマ2単位	研究演習Ⅱ (300番台) 1コマ2単位			研究演習Ⅲ (400番台) 1コマ4単位	12単位
	研究演習									卒業研究 (テーマ・アドバイザー) 4単位	
履修コマ数 (目安)		11コマ	10コマ	11コマ	14コマ	14コマ程度	15コマ程度	10コマ程度	6コマ程度	7コマ程度	5コマ程度
修得単位数 (目安)		8単位	7単位 (+オンライン1単位)	19単位	18単位程度	20単位程度	18単位程度	16単位	14単位程度	10単位程度	129単位
(注)		で示したのは必修科目、		は選択必修科目							
履修上限		必修のみ	必修のみ	必修のみ	20単位	20単位	20単位	16単位	30単位	30単位	

資料2 グローバル・リベラルアーツ学部(仮称) カリキュラム全体図



資料3 神田外語大学 教育職員定年規程

(趣旨)

第1条 学校法人佐野学園専任職員就業規則第46条第1項ただし書に基づき、教育職員の定年はこの規程にて定める。

(定年の時期)

第2条 平成16年4月1日以降に、新たに任期の定めのない契約が適用される教育職員の定年は次のとおりとする。ただし、講師の給与等の処遇については、55歳に達した以後60歳の期間は、別に定める

教 授	65歳
准教授	60歳
講 師	60歳
無期転換した非常勤講師	70歳

2 平成16年4月1日の前に、任期の定めのない契約が適用される教育職員の定年は次のとおりとする。

教 授	70歳
准教授	65歳
講 師	60歳

(定年時の退職の時期)

第3条 定年に達した者は、その日の属する年度の学年末をもって退職とする。ただし、大学に特に必要と認めた場合には、理事会の決定により定年を延長することができる。

(任期付教育職員の契約期限)

第4条 任期付教育職員の契約期限は、第2条第1項にある定年の時期を超えることはできない。

(適用除外)

第5条 本規程に基づく定年規程の適用を除外する場合は、運用細則等の規定による。

附則 この規程は、昭和62年4月1日から施行する。

附則 この規程は、平成2年4月1日から施行する。

附則 この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附則 この規程は、平成18年9月1日から施行する。

附則 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附則 この規程は、平成25年7月18日から施行する。

附則 この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附則 この規程は、令和2年4月1日から施行する

資料4 神田外語大学 教育職員定年規程運用細則

第1条 この細則は、神田外語大学教育職員定年規程の運用について、必要な事項を定める。

第2条 附属図書館長、その他附属研究教育機関の長、学科主任及び大学院研究科長については、その在任中は定年を延長することができる。

第3条 大学開学時及び大学院・学部・学科等の新增設のため任用された教育職員が学年進行中に定年に達した場合は、完成年度の翌学年度末まで定年を延長することができる。

第4条 （削除）

第5条 この運用細則に定めるもののほか、この運用細則の実施について必要な事項は理事長が定める。

附則 この細則は、平成2年4月1日から施行する。

附則 この細則は、平成4年4月1日から施行する。

附則 この細則は、平成25年7月18日から施行する。

資料 5

① グローバル・リベラルアーツ学部履修モデル

		前期 (Global Challenge Term)		1年		前期		2年		前期		3年		前期		4年		単位数 計129	想定される 進路		
		第1ターム		第2ターム		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期			
外国語科目	英語科目	高度な英語運用能力		6	9	・Academic Reading(b) ・Academic Writing(b) ・Academic Discussions & Presentations(b) ・English for Academic Purposes(b) ・TOEFL ITP 演習 (GLA)		8		8		2						35 (留学2 含む)	国際公務員 (国連事務局、国連開発計画など)、 国際 NGO や NPO		
		・Academic Reading(a) ・Academic Writing(a) ・Academic Discussions & Presentations(a) ・English for Academic Purposes(a) ・Self-Directed Learning---				2		2								4					
GLA 基礎科目	基礎教養科目	研修の準備、振返り ・グローバル・ディスカバリー I、II ・アドベンチャー・コミュニケーション・プログラム (GLA)		3	8	選択外国語科目 フランス語 I (a)		2		2								18			
		リベラル・アーツを知る・ ・グローバル・リベラルアーツ入門 I				2		2								12 (留学 4含む)					
専門教養科目・ 演習科目	基礎教養科目	3分野にわたり、発展的な教養を講義と演習(講読)により身につける		4	8	A群:幅広い教養を身につける 哲学 I 自然科学概論 I		4		2		2		2		2		6			
		B群:AIやデータサイエンスを身につける				2		2		2		2		2		6					
専門教養科目・ 演習科目	基礎教養科目	人間と文化 (Humanities)		3	8	宗教文化論 I		2		2								講義30 (留学10 含む) 講読8			
		社会と共生 (Societies)				共生社会論		2				2				2					
専門教養科目・ 演習科目	基礎教養科目	グローバル・スタディーズ (Global Studies)		3	8	グローバル・ガバナンス I		2		2		2		2		2		16			
		グローバル・ガバナンス II				2		2		2		2		2							
専門教養科目・ 演習科目	基礎教養科目	基礎演習科目 ・アカデミック日本語演習 I		2	2	・アカデミック日本語演習 II		2		2		2		8		研究演習Ⅲ、卒業研究					

②グローバル・リベラルアーツ学部履修モデル

前期 (Global Challenge Term)										1年	2年				3年		4年		単位数 計129	想定される 進路			
第1ターム		第2ターム		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期							
外国語科目	英語科目	高度な英語運用能力		6	9		8		8		2		ニューヨーク州立大学 長期留学				35 (留学2 含む)						
		・Academic Reading(a) ・Academic Writing(a) ・Academic Discussions & Presentations(a) ・English for Academic Purposes(a)----- ・Self-Directed Learning---		→ →	・Academic Reading(b) ・Academic Writing(b) ・Academic Discussions & Presentations(b) ・English for Academic Purposes(b) ・TOEFL ITP 演習 (GLA)		・Critical Reading(a) ・Advanced Writing(a) ・English for GLA I ・English for GLA II		・Critical Reading(b) ・Advanced Writing(b) ・English for GLAⅢ ・English for GLAⅣ		・English for GLAⅤ												
			選択外国語 科目		中国語Ⅰ (a)		中国語Ⅰ (b)																
GLA 基礎科目	研修の準備、振り返り ・グローバル・ディスカバ リーⅠ、Ⅱ ----- ・アドベンチャー・コミュニ ケーション・プログラム (GLA) -----		3														4						
	リベラル・アーツを知る・ ・グローバル・リベラルア ーツ入門Ⅰ		→ →	学ぶ ・グローバル・ヒストリー ・グローバル・リベラルア ーツ入門Ⅱ、・キャリア・デザイン													18						
基礎 教養科目			1			A群:幅広い教養を身につける		憲法Ⅰ 倫理学Ⅰ		社会学Ⅰ							経済学Ⅱ		12(留学 4含む)				
						B群:AIやデータサイエンスを 身につける		デジタル・シティズ ンシップ論		データ・サイエンス 概論							エビデンスと評価		6				
専門 教養科目 ・ 演習科目	3分野 にわたり、発 展的 な教 養を講 義と演 習(講 読)に より身 につける		4	人間と文化 (Humanities)		講義 講読		宗教文化論Ⅰ		芸術文化論Ⅱ		芸術文化					人間と文学		世界近現代史		講義30 (留学10 含む) 講読8		
				社会と共生 (Societies)		講義 講読		社会と多様性Ⅰ		社会とサステナビリ ティ		共生社会論					現代社会とイノベ ーション		現代社会とイノベ ーション				
				グローバル ・スタディズ (Global Stu dies)		講義 講読				社会と多様性							地域とグローバル 世界Ⅰ		国際法				
														地域とグローバル世 界									
				基礎演習科目		2	→		・アカデミック日本語演習Ⅱ		研究演習Ⅰ		研究演習Ⅱ		研究演習Ⅲ、卒業研究		16						

③グローバル・リベラルアーツ学部履修モデル

		1年		2年		3年		4年		単位数 計129	想定される 進路
		前期 (Global Challenge Term) 第1ターム	後期 第2ターム	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
外国語科目	英語科目	高度な英語運用能力 ・Academic Reading(a) ・Academic Writing(a) ・Academic Discussions & Presentations(a) ・English for Academic Purposes(a)----- ・Self-Directed Learning---		6 9 ・Academic Reading(b) ・Academic Writing(b) ・Academic Discussions & Presentations(b) ・English for Academic Purposes(b) ・TOEFL ITP 演習 (GLA)		8 8 ・Critical Reading(a) ・Advanced Writing(a) ・English for GLA I ・English for GLA II ・Critical Reading(b) ・Advanced Writing(b) ・English for GLA III ・English for GLA IV		2 ・English for GLA V		35 (留学2含む)	グローバル企業(社会貢献に力を入れて取り組む企業)
		→ →		選択外国語科目		2 2 スペイン語 I (a) スペイン語 I (b)				4	
GLA 基礎科目		3 研修の準備、振り返り ・グローバル・ディスカバリー I、II ----- ・アドベンチャー・コミュニケーション・プログラム (GLA) -----		8 学ぶ ・グローバル・ヒストリー ・グローバル・リベラルアーツ入門 II、・キャリア・デザイン		2 ・グローバル・キャリア				18	
		1 リベラル・アーツを知る・ ・グローバル・リベラルアーツ入門 I		8 学ぶ ・グローバル・ヒストリー ・グローバル・リベラルアーツ入門 II、・キャリア・デザイン		2 ・グローバル・キャリア				12(留学4含む)	
基礎教養科目		海外スタディ・ツアー インド・リトアニアなど		2 A群:幅広い教養を身につける B群:AIやデータサイエンスを身につける		2 文学 I 倫理学 II		2 経営学 I		6	
		3分野にわたり、発展的な教養を講義と演習(講読)により身につける		2 数的思考法 コンピュータ・サイエンス概論		2 文化人類学 宗教文化論 I		2 ビッグデータ解析論 歴史		講義30(留学10含む)講読8	
専門教養科目・演習科目		4 人間と文化 (Humanities) 社会と共生 (Societies) グローバル・スタディズ (Global Studies)		2 デジタル・メディアと社会 異文化コミュニケーション論 社会と多様性 I 現代社会とイノベーション		2 文化人類学 宗教文化論 I		2 宗教文化論 II 社会と多様性 国際開発論 グローバル平和論		16	
		2 基礎演習科目 ・アカデミック日本語演習 I		2 研究演習 I 研究演習 II		2 グローバル・ガバナンス I 地域とグローバル世界 研究演習 III、卒業研究		8 研究演習 III、卒業研究			
		→		2 ・アカデミック日本語演習 II		2 研究演習 I 研究演習 II		8 研究演習 III、卒業研究			

資料6 グローバル・リベラルアーツ学部時間割表2021(～2024)
英語3クラス、日本語3クラス

前期第1ターム

1年	月		火		水		木		金	
1	E-1	R			ALL	グローバルリベラルアーツ 入門Ⅰ	E-1	R		
	E-2	W					E-2	W		
	E-3	D&P					E-3	D&P		
2	E-1	W					E-1	W	E-1	D&P
	J-2	アカデミック日本語Ⅰ							E-2	R
	E-3	R					E-3	R	E-3	W
3	J-1	アカデミック日本語Ⅰ								
	E-2	EAP					E-2	EAP		
	E-3	EAP					E-3	EAP		
4			E-1	EAP	E-1	D&P				
			E-2	D&P	E-2	R				
					E-3	W				
5									E-1	EAP
			ALL	グローバル・ディスカバリーⅠ					E-2	D&P
									J-3	アカデミック日本語Ⅰ

E1	J1
E2	J2
E3	J3

後期

英語3クラス、TOEFL2クラス、日本語3クラス

1年	月		火		水		木		金	
1	E-1	R			ALL	グローバルリベラルアーツ入門Ⅱ	E-1	R		
	E-2	W					E-2	W		
	E-3	D&P					E-3	D&P		
2	E-1	W				TOEFL A	E-1	W	E-1	D&P
	J-2	アカデミック日本語Ⅱ			NG				E-2	R
	E-3	R					E-3	R	E-3	W
3	J-1	アカデミック日本語Ⅱ			NG					
	E-2	EAP	ALL	グローバル・ヒストリー			E-2	EAP	ALL	グローバル・ヒストリー
	E-3	EAP				TOEFL B	E-3	EAP		
4			E-1	EAP	E-1	D&P				
			E-2	D&P	E-2	R				
					E-3	W				
5									E-1	EAP
			ALL	キャリアデザイン (GLA)					E-2	D&P
									J-3	アカデミック日本語Ⅱ

グローバル・リベラルアーツ学部時間割表2022

前期

英語3クラス

2年	月		火		水		木		金	
1	E-1	CR					E-1	CR		
	E-2	AW					E-2	AW		
	E-3	EGLA I					E-3	EGLA I		グローバル・ガバナンス I 高橋
2	E-1	AW	E-1	EGLA I	E-1	AW			E-1	EGLA I
	E-2	EGLA II	E-2	CR	E-2	EGLA II		現代社会とイノベーション 石井	E-2	CR
	E-3	CR	E-3	EGLA II	E-3	CR			E-3	EGLA II
3				宗教文化論 I 和田		ベトナム語I(a)				人間と文学 松井
				数的思考法 石井				共生社会論 知念 社会と多様性 I 松井 デジタルメディアと社会 金		
								国際機構論 高橋		地域とグローバル社会 I 興梠
4		ベトナム語I(a)		憲法IB 城					E-1	EGLA II
				デジタル・シチズンシップ論 石井				文化人類学 吉田(光)	E-2	EGLA I
								グローバル平和論 阪田	E-3	AW
5			E-1	EGLA II						
			E-2	EGLA I						
			E-3	AW						国際法 城

E1	J1
E2	J2
E3	J3

後期

英語3クラス

2年	月		火		水		木		金	
1	E-1	CR					E-1	CR		
	E-2	AW					E-2	AW		
	E-3	EGLAⅢ					E-3	EGLAⅢ		グローバル・ガバナンスⅡ 高橋
2	E-1	AW	E-1	EGLAⅢ	E-1	AW			E-1	EGLAⅢ
	E-2	EGLAⅣ	E-2	CR	E-2	EGLAⅣ		言語・文化とコミュニケーション Park 講読(SOC)(現代社会とイノベーション) 石井	E-2	CR
	E-3	CR	E-3	EGLAⅣ	E-3	CR			E-3	EGLAⅣ
3		芸術文化論Ⅱ 上野 人間と思想 植田		講読(HUM)(宗教文化)和田 宗教文化論Ⅱ 吉田(京)		ベトナム語Ⅱ(a)		社会学ⅡA 渋谷		
		異文化コミュニケーション 塙 講読(SOC)(社会と多様性)知念		データ・サイエンス概論				社会と多様性Ⅱ 知念 社会とサステイナビリティ 小野塚		
		地域とグローバル社会Ⅱ 河越						講読(GS)(グローバル・ガバナ ンス) 高橋 国際開発論 高木		講読(GS)(地域とグローバル社 会)A 興梠
4		ベトナム語Ⅱ(a)		コンピュータ・サイエンス概論					E-1	EGLAⅣ
									E-2	EGLAⅢ
								講読(GS)(グローバル平和論) 坂田	E-3	AW
5		世界近現代史 鈴木	E-1	EGLAⅣ	ALL	研究演習Ⅰ A/B/C/D/E/F				
			E-2	EGLAⅢ						
			E-3	AW						

E1	J1
E2	J2
E3	J3

グローバル・リベラルアーツ学部時間割表2023

前期

英語3クラス

3年	月		火		水		木		金	
1										
	E-3	EGLA V					E-3	EGLA V		グローバル・ガバナンスⅠ 高橋
2			E-1	EGLA V					E-1	EGLAⅠ
								講読(SOC)(言語・文化とコミュニケーション) Park 現代社会とイノベーション 石井		
3		講読(HUM)(芸術文化)土野 講読(HUM)(文学/思想)植田		宗教文化論Ⅰ 和田 講読(HUM)(宗教文化)吉田(泉)				共生社会論 知念 講読(SOC)(社会とサステナビリティ)小野塚 社会と多様性Ⅰ 松井 デジタルメディアと社会 金		人間と文学 松井
				ビッグデータ解析論				国際機構論 高橋		
		講読(GS)(地域とグローバル社会)B 河越								地域とグローバル社会Ⅰ 興梠
4				エビデンスと評価				文化人類学 吉田(光) グローバル平和論 阪田		
			E-2	EGLAⅠ					E-2	EGLAⅠ
5		講読(HUM)(歴史)鈴木								
			ALL	グローバル・キャリア	ALL	研究演習Ⅱ A/B/C/D/E/F				
										国際法 城

E1	J1
E2	J2
E3	J3

後期

SUNY留学

3年	月		火		水		木		金	
1										
2										
3										
4										
5										

E1	J1
E2	J2
E3	J3

グローバル・リベラルアーツ学部時間割表2024

前期

4年	月		火		水		木		金	
1										
										グローバル・ガバナンスⅠ 高橋
2							自然科学概論ⅠB 中澤			
							講読(SOC)(言語・文化とコミュニケーション)Park 現代社会とイノベーション 石井			
3		講読(HUM)(芸術文化)土野 講読(HUM)(文学/思想)植田		宗教文化論Ⅰ 和田 講読(HUM)(宗教文化)吉田(泉)			共生社会論 知念 講読(SOC)(社会とサステナビリティ)小野塚 社会と多様性Ⅰ 松井 デジタルメディアと社会 金		人間と文学 松井	
							国際機構論 高橋			
		講読(GS)(地域とグローバル社会)B 河越							地域とグローバル社会Ⅰ 興梠	
4							文化人類学 吉田(光)			
							グローバル平和論 阪田			
5		講読(HUM)(歴史)鈴木								
							ALL	研究演習Ⅲ A/B/C/D/E/F		
										国際法 城

E1	J1
E2	J2
E3	J3

後期

4年	月		火		水		木		金	
1										
2									グローバル・ガバナンスⅡ 高橋	
							言語・文化とコミュニケーション Park 講読(SOC)(現代社会とイノベーション)石井			
3		芸術文化論Ⅱ 上野 人間と思想 植田		講読(HUM)(宗教文化)和田 宗教文化論Ⅱ 吉田(京)						
		異文化コミュニケーション 塙 講読(SOC)(社会と多様性)知念					社会と多様性Ⅱ 知念 社会とサステイナビリティ 小野塚			
		地域とグローバル社会Ⅱ 河越					講読(GS)(グローバル・ガバナ ンス) 高橋 国際開発論 高木		講読(GS)(地域とグローバル社 会)A 興梠	
4										
							講読(GS)(グローバル平和論) 阪田			
5		世界近現代史 鈴木					ALL	研究演習Ⅲ A/B/C/D/E/F		

E1	J1
E2	J2
E3	J3

資料7 海外スタディ・ツアー 受入承諾書 概要一覧

大学名	所在国	締結日	協定内容
シンバイオシス大学	インド	2019/10/18	夏季3週間プログラムの提供、上限30名受け入れ
ヴィータウタスマグヌス大学	リトアニア	2019/11/5	夏季3週間プログラムの提供、上限30名受け入れ
スウィンバーン工科大学サラワク校	マレーシア	2019/12/18	夏季3週間プログラムの提供、上限20名受け入れ
サラワク大学	マレーシア	2019/12/19	夏季3週間プログラムの提供、上限20名受け入れ
ヘブライ大学	イスラエル	2019/12/23	夏季3週間プログラムの提供、上限30名受け入れ
プトラ大学	マレーシア	2020/1/9	夏季3週間プログラムの提供、受け入れ上限なし（20名程度）

資料8 ニューヨーク州立大学(SUNY)提携校の概要

	SUNY Fredonia	SUNY Geneseo	SUNY Cortland	SUNY Delhi	SUNY New Paltz	Purchase College	SUNY Old Westbury
概 観							
創 設 年	1826年	1871年	1868年	1922年	1828年	1967年	1965年
立 地	ニューヨーク州最西部、エリー湖畔	ニューヨーク州西部	ニューヨーク州中部	ニューヨーク州中部山岳地帯	ニューヨーク州東部、ハドソン川流域	ニューヨーク市北郊(ウエストチェスター)	ニューヨーク市東郊(ロングアイランド)
最 寄 り 空 港	バッファロー空港	バッファロー空港	シラキュース空港	オルバーニ空港	ニューヨークJFK空港	ニューヨークJFK空港	ニューヨークJFK空港
大 学 の 形 態	University College	University College	University College	Technology College	University College	University College	University College
Passway設置	○	×	×	×	○	×	×
学 部 学 生 数	4,431	5,494	6,343	3,238	6,692	4,134	4,784
留 学 生 数	約100	73	110	約30	235	96	約70
日本人学生数	4~5	35	3	7	19	10	約10
大 学 ラ ン キ ング	50位 / 196校 Best Regional Colleges North Rankings	14位 / 196校 Best Regional Colleges North Rankings	68位 / 196校 Best Regional Colleges North Rankings	18位 / 196校 Best Regional Colleges North Rankings	41位 / 196校 Best Regional Colleges North Rankings	172位 / 233校 National Liberal Arts College Ranking	142位 / 196校 Best Regional Colleges North Rankings
High School GPA	86 - 93	90 - 95	87 - 92	83 - 90	90 - 95	86 - 90	83 - 90
SAT SCORE	1,040 - 1,220	1,170 - 1,300	1,100 - 1,230	1,000 - 1,170	1,150 - 1,300	-	1,000 - 1,140
ENGLISH SCORE	TOEFL iBT 79 ~ Passway 60 ~	TOEFL iBT 79 ~	TOEFLのScoreは要求しない *所定の書式により本学教員が証明すれば可	TOEFL iBT 54 ~	TOEFL iBT 80 ~ Passwayは特にScoreの定めなし	TOEFL iBT 80 ~	TOEFL iBT 61 ~
学 費 (1セメスター)	授 業 料 \$8,490 授 業 料 付 帯 経 費 \$1,003 SUNY留学生保険料 \$657 寮 費 居 室 寮 \$3,800 食 費 \$2,330	授 業 料 \$8,490 授 業 料 付 帯 経 費 \$904 SUNY留学生保険料 \$657 寮 費 居 室 寮 \$4,185 食 費 \$2,268	授 業 料 \$8,490 授 業 料 付 帯 経 費 \$856 SUNY留学生保険料 \$657 寮 費 居 室 寮 \$3,990 食 費 \$1,210 奨学金(授業料減免) \$3,000	授 業 料 \$8,490 授 業 料 付 帯 経 費 \$880 SUNY留学生保険料 \$657 寮 費 居 室 寮 \$3,750 食 費 \$2,700	授 業 料 \$8,325 授 業 料 付 帯 経 費 \$692 SUNY留学生保険料 \$657 寮 費 居 室 寮 \$4,564 食 費 \$2,400	授 業 料 \$8,490 授 業 料 付 帯 経 費 \$942 SUNY留学生保険料 \$658 寮 費 居 室 寮 \$4,549 食 費 \$2,725	授 業 料 \$8,490 授 業 料 付 帯 経 費 \$929 SUNY留学生保険料 \$657 寮 費 居 室 寮 \$3,830 食 費 \$1,935
	合計額 \$16,280 食費を除く合計額 \$13,950	合計額 \$16,504 食費を除く合計額 \$14,236	合計額 \$12,203 食費を除く合計額 \$10,993	合計額 \$16,447 食費を除く合計額 \$13,747	合計額 \$16,638 食費を除く合計額 \$14,238	合計額 \$17,364 食費を除く合計額 \$14,639	合計額 \$15,841 食費を除く合計額 \$13,906
受入予定人数	20	20	20		特に定めなし	10	
特 徴	ニューヨーク州西部、カナダ国境に近いエリー湖に沿った小さな町に立地する典型的なリベラルアーツカレッジ。もともと教員養成校として設置された関係から、日本の大学とは、愛知教育大学、新潟大学と協定を結び学生の交流を行っている。フレドニア校の独自の特色は、International Passway Programを有することで、英語力が十分でない学生が正規課程に編入するための英語予備教育を行っている。	ニューヨーク州西部の山間の小さな町に、町と大学がほぼ一体化し立地しているリベラルアーツカレッジ。非常に広範な学問分野を開設しており、時として、私立の著名なリベラルアーツカレッジと比肩されて語られることがあり、各種の大学ランキングにおいても高く評価されている。他校と比べると日本人留学生が多い。	ニューヨーク州西部の小さな町に立地する教員養成大学を前身とするリベラルアーツカレッジ。現在では、卓越したスポーツビジネス分野を有し、学生スポーツが盛んで、スポーツ業界からの寄付で財政が潤沢、各種の機器やコートを備えた巨大なスポーツジムは一見の価値がある。SUNY 7校のうち、唯一、1セメスターの留学生に対しても奨学金が支給される。	ニューヨーク州中部のキャッツキル山系の谷間の小さな村に立地する。SUNY7校のなかでは、唯一のテクノロジー・カレッジに分類される。環境は極めて良く、言わば、天栄村の羽鳥湖周辺に立地しているかのような印象を与える。工業系の技術教育が主体であるが、獣医学・看護学分野で高い評価を得ており、ゴルフ・マネージメントやホテル、イベントなどの各種ホスピタリティ系マネージメントなどでも知られている。一方で、リベラルアーツ教育にも力を入れている。	マンハッタンから北に2時間ほどの、ニューヨーク州で最も早く開拓された歴史のある町に立地するリベラルアーツカレッジ。今回の7校のなかで、もっとも規模が大きく、解説されている分野も最多で評価が高い大学である。マンハッタンから遠くないという利点を生かし、国連と連携した「国連インバクト・プログラム」と称するインターンシップ・プログラムを実施している。併せて、同校ではアジア研究の学科があり、日本語専攻が設置されている。なお、同校には、SUNYでも顕著なPassway教育を実施するHaggerty Programを有している。	写真・映像・演劇・ダンスなどの芸術分野で秀でたリベラルアーツカレッジである。一方で、生物学や人文・社会科学分野にも力を入れている。日本からの留学生は、ほぼ全員が、芸術分野で学んでいる。校舎の廊下など、あらゆるところに学生や卒業生の作品が掲示されている。今回の7校のなかでは、マンハッタンから北へ40分ほどのところに立地しており、ニューヨーク・シティーにもっとも近いというメリットを享受することができる大学である。	ニューヨーク東郊のロングアイランドに立地する大学。JFK空港からもっとも近く、マンハッタンにも1時間程度で出ることが可能。その立地の特性からも、移民の子女を積極的に受け入れており、極めて多様性に富む大学である。そのこともあり、入学の際の基準となる英語スコアは他校より低めに設定されている。

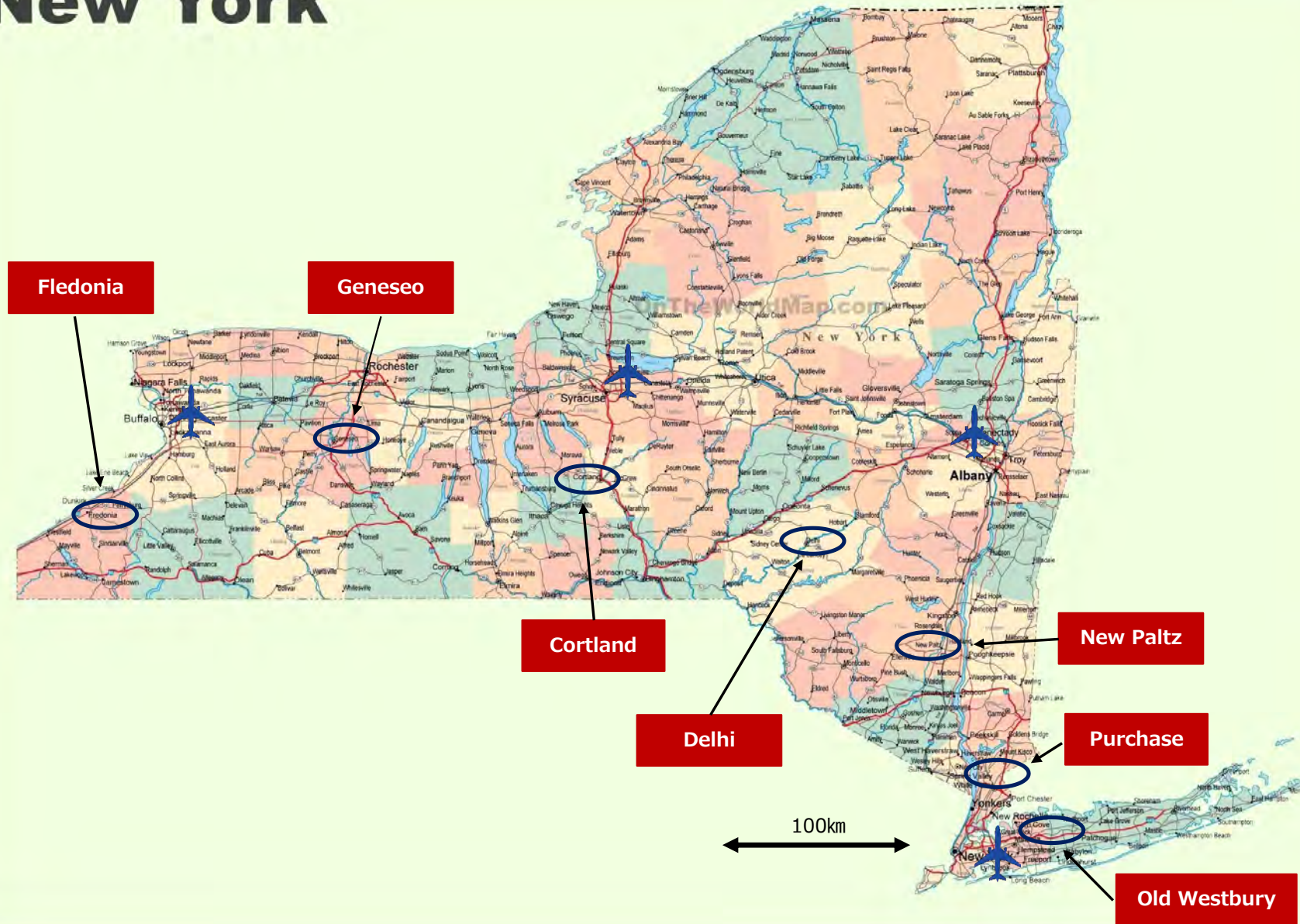
GLAの学生に
適切と
考えられる
専攻分野
(人文・社会系)

SUNY Fredonia	SUNY Geneseo	SUNY Cortland	SUNY Delhi	SUNY New Paltz	Purchase College	SUNY Old Westbury
African American Studies	American Studies	African American Studies	Environmental Studies (AS)	Asian Studies	Media Studies	American Studies
Communications	Black Studies	Communication Studies	General Studies (AA,AS)	Black Studies	Art History	English
Creative writing	Communication	English	Humanities & Social Science (AA)	Communication Studies	History	History
English	Comparative Literature	Geography		English	Journalism	Liberal Arts
Enviromental Studies	English	History		Geography	Literature	Media & Communications
History	Geography	International Studies		History	Philosophy	Philosophy & Religion
International Studies	History	Political Science		Jewish Studies	Economics	Sociology
Journalism	International Relations	Social Philosophy		Languages, Literatures & Cultures	Environmental Studies	Spanish Language, Hispanic Literatue & Culture
Leadership Studies	Political Science	Sociology		Latin American & Caribian Studies	Psychology	
Multi-Ethnic Studies	Sociology	Center for Ethics, Peace and Social Justice		Native American Studies	Sociology	
Native American Studies	Women and Gender Studies			Philosophy		
Philosophy	African Studies			Political Science & International Relations		
Political Science	American Studies			Religious Studies		
Sociology	Asian Studies			Sociology		
Statistics	Human Development			Women's, Gender & Sexuality Studies		
Womens' Gender Studies	Latin America Studies					
	Native American Studies					
	Religious Studies					
	Urban Studies					
	War and Peace Studies Track					

- (注) 1. 内容は、今回のSUNY 7校訪問における聞き取りや入手した資料、SUNYのホームページから作成
2. 大学ランキングは、US NEWS 2019年版ランキングより引用
3. Passwayとは、一種のESL教育で、英語スコアが足りずに大学の正規学士課程に入れない学生に編入に必要な教育を行うものである。
4. 専攻分野に関しては、Purchase Collegeに関しては同校より具体的な提示があったが、他の6校に関してはHPより可能と思われるものを列記したものである。

資料9 State University of New York (SUNY)提携7校 所在地

New York



資料 1 0 長期留学受入承諾書 概要一覧

大学名	所在国	締結日	協定内容
ニューヨーク州立大学フレドニア校	アメリカ	2019/10/21	学術協定、交換協定、学習プログラムの共同開発・実施 受け入れ上限なし（15名程度）
ニューヨーク州立大学ジェネシオ校	アメリカ	2019/10/21	学術協定、交換協定、学習プログラムの共同開発・実施 1学期上限30名受け入れ
ニューヨーク州立大学コートランド校	アメリカ	2019/10/22	学術協定、交換協定、学習プログラムの共同開発・実施 1学期上限20名受け入れ
ニューヨーク州立大学パーチェス校	アメリカ	2019/10/28	学術協定、交換協定、学習プログラムの共同開発・実施 受け入れ上限なし（15名程度）
ニューヨーク州立大学ニューポルツ校	アメリカ	2019/10/29	学術協定、交換協定、学習プログラムの共同開発・実施 受け入れ上限なし（15名程度）

資料11

神田外語大学 教授会規則

（趣旨）

第1条 神田外語大学学則第41条の規定に基づき神田外語大学教授会（以下「教授会」という。）の組織及び運営については、この規則の定めるところによる。

（組織）

第2条 教授会は、専任の教授、准教授、講師をもって組織する。

2 前項の講師は、満56歳に達する年度以降については、教授会の構成員とはならない。

（審議事項）

第3条 教授会は、学長が次の各号に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

（1）学生の入学、卒業及び課程の修了

（2）学位の授与

（3）前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

（運営）

第4条 教授会は学長が招集し、その議長となる。

2 教授会は構成員の半数以上の出席がなければ議事を開き議決することができない。

3 議事は出席者の過半数をもって決する。可否同数のときは、議長の決するところによる。

（議事録）

第5条 議長は、教授会の議事録を作成し、次回以降の教授会において承認を得なければならない。

（構成員以外の出席）

第6条 議長は、必要があると認めるときは、関係する教職員を教授会に出席させ意見を聴くことができる。

（事務）

第7条 教授会の事務は教務部において行う。

（その他）

第8条 この規則に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附則 この規則は、昭和 6 2 年 4 月 1 日から施行する。
附則 この規則は、平成 1 7 年 4 月 1 日から施行する。
附則 この規則は、平成 1 8 年 1 2 月 7 日から施行する。
附則 この規則は、平成 1 9 年 4 月 1 日から施行する。
附則 この規則は、平成 2 7 年 4 月 1 日から施行する。
附則 この規則は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

資料12 神田外語大学質保証・質向上に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、神田外語大学学則第1条の2第2項及び神田外語大学大学院学則第2条の2第2項の規定に基づき、神田外語大学（以下「本学」という。）が自ら行う点検及び評価（以下「自己点検・評価」という。）並びに自己点検・評価を通した質保証・質向上に関し必要な事項を定めるものとする。

(質保証・質向上委員会)

第2条 自己点検・評価を通した質保証・質向上を円滑に実施するため、本学に質保証・質向上委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次の各号に掲げる業務を統轄する。

- (1) 質保証・質向上に向けた全学的な取り組みに関する基本方針の企画立案及び実施にすること
- (2) 自己点検・評価の実施並びにその結果の活用及び公表に関すること
- (3) 自己点検・評価及び認証評価の結果を受けた全学的な改善・改革に関すること
- (4) その他質保証・質向上に関すること

3 委員会は、研究科会議、後期課程会議及び教授会の下に設置されている各種委員会に対し、質保証・質向上に向けて必要な措置を講じるよう勧告するとともに、当該結果について報告を徴することができる。

4 委員会の事務は、総務部総務課において行う。

(委員会の組織・運営)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 研究科長
- (4) 附属図書館長
- (5) 学科主任、専攻長、教養教育運営部会長及び研究分野長
- (6) 教務委員長
- (7) 事務局長
- (8) 大学改革室長
- (9) 総務部長
- (10) 学長が指名した者

2 委員会に委員長を置き、学長をもってこれにあてる。

3 委員会は委員長が招集し、その議長となる。

(自己点検・評価の目的)

第4条 自己点検・評価は、教育・研究・運営など、本学の全般的な活動状況に関する点検・評価を通して、改善すべき課題等を明らかにすることにより、必要な改善・改革活動を組

組織的に実施し、本学の教育研究その他の活動の質保証・質向上を図ることを目的とする。

(自己点検・評価項目)

第5条 自己点検・評価の基本項目は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 使命、目的及び教育目的
- (2) キャリア支援
- (3) 教育課程
- (4) 学生支援
- (5) 学生の受入れ
- (6) 施設・設備及び環境
- (7) 教育研究組織及び教職員
- (8) 管理運営
- (9) 内部質保証
- (10) 前各号に掲げるものの他、委員会が適当と判断する重要事項

(自己点検・評価の実施方法)

第6条 自己点検・評価は、前条各号に掲げる項目のうち、委員会が必要と認めた項目について実施する。

- 2 自己点検・評価は、原則として、3年以内に1回の頻度で実施する。ただし、委員会が必要と認めた場合には、随時、実施することを妨げるものではない。

(結果の活用及び公表)

第7条 本学の教職員は、自己点検・評価の結果を踏まえ、本学の教育研究水準のさらなる向上に努めるものとする。

- 2 自己点検・評価の結果に関する情報は、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができする方法によって、積極的に提供するものとする。

附則 この規則は、平成22年5月27日から施行する。

附則 この規則は、平成30年10月1日から施行する。

資料13

神田外語大学 プロフェッショナル・ディベロップメント委員会規則

(設置)

第1条 本学に所属する全ての教員の職務に於ける能力向上を図るため神田外語大学プロフェッショナル・ディベロップメント（PD）委員会（以下「委員会」という）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 各学科、教養教育運営部会及び各研究分野会議を代表する教員
- (2) 学長の指名した教員
- (3) 事務局より数名

(任期)

第3条 前条第1号及び第2号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。但し、後任の委員の任期は前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会には委員長を置く。

- 2 委員長は、第2条に掲げる委員のうちから学長が指名するものとする。
- 3 委員長の任期は2年とする。但し、任期の途中で委員長の交代があるときは、後任の委員長の任期は前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第5条 委員会においては、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) PDについての研究、企画運営に関すること。
- (2) PDに関わる情報収集および他の教育機関との連携に関すること。
- (3) PD活動の報告に関すること。
- (4) その他PDに関すること。

(会議)

第6条 委員長は、委員会を招集しその議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開くことが出来ない。
- 3 議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数の時は議長が決するところによる。
- 4 委員会は、必要に応じ委員以外の者を出席させて意見を聞くことが出来る。

(事務)

第7条 委員会の事務は学事部で行う。

附則 この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附則 この規則は、平成 27 年 5 月 26 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

附則 この規則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附則 この規則は、平成 30 年 10 月 1 日から施行する。

資料14			2020年度 会議スケジュール				※＝大学院	
月	日	曜日	9:00～10:30	10:40～12:10	12:10～13:10	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～
3	31	火	10:00～(辞令交付)	教務委員会	拡大多言語教育運営小委員会	教授会(13:40-14:40)	学科別ミーティング (14:50-16:00)	キックオフミーティング (16:15-17:30)
4	1	水	(入学式)					
	8	水		4月科会	PD委員会	4月分野会議	教務委員会 学生委員会	入試委員会
	15	水		国際交流委員会 図書館運営委員会 研究不正防止委員会		学務審議会 教職課程委員会	紀要委員会 GLA設置準備委員会	教養教育運営部会
	22	水		キャリア教育委員会 ※研究科会議 図後期課程会議	留学生別科運営会議	研究助成委員会 SALC運営委員会	教授会	
	29	水(祝)	4/29、5/4～6 ゴールデンウィーク祝日授業実施日					
5	6	水(祝)						
	13	水		5月科会		5月分野会議	教務委員会 学生委員会	
	20	水		※研究科会議 ※後期課程会議	留学生別科運営会議	学務審議会	多言語教育運営小委員会 GLA設置準備委員会	入試委員会
	21	木	(理事会)					
	22	金	(評議員会)					
	27	水		CSK英語運営小委員会	CPJS運営小委員会	ボランティアセンター運営委員会	教授会	
6	3	水		6月科会	教養教育運営部会	6月分野会議	学生委員会	
	10	水		国際交流委員会 図書館運営委員会		教務委員会	入試委員会	
	17	水		CSK英語運営小委員会 GLA設置準備委員会		学務審議会	研究助成委員会 体育・スポーツ運営委員会	
	24	水		※研究科会議 ※後期課程会議	留学生別科運営会議	多言語教育運営小委員会 教職課程委員会	教授会	
7	1	水		7月科会	PD委員会	7月分野会議	教養教育運営部会	
	8	水		国際交流委員会	CPJS運営小委員会	教務委員会	学生委員会	
	15	水		キャリア教育委員会		学務審議会	多言語教育運営小委員会 GLA設置準備委員会	
	16	木	(理事会・評議員会)					
	22	水		※研究科会議 ※後期課程会議	留学生別科運営会議	入試委員会	教授会	
	29	水						
8	1	土	8/3 ～ 8/16 事務局夏期休暇に伴う閉鎖期間					
	16	日						
9	9	水	大学運営連絡会(10:00～12:00)					
	11	金	(定期健康診断)(8:30～14:00)			9月科会(14:00-15:00)	教務委員会	教授会
	14	月	後期授業開始					
	16	水		※研究科会議口 ※後期課程会議			学生委員会 GLA設置準備委員会	
	18	金	(9月学位授与式)(10:00～)					
	23	水		教養教育運営部会	留学生別科運営会議	教務委員会	入試委員会	教授会(成績確認判定)
	24	木	(理事会)					
			(仮)10月3日(土)～4日(日)学部総合型選抜(旧プレゼン型入試)					
10	3	土	(仮)10月3日(土)～4日(日)学部総合型選抜(旧プレゼン型入試)					
	7	水		10月科会	PD委員会	10月分野会議	CSK英語運営小委員会	
	10	土	(仮)入試予備日:10月10日(土)～11日(日)学部総合型選抜(前期)入試(旧プレゼン型)					
	14	水		国際交流委員会 図書館運営委員会	※研究科会議 ※後期課程会議	教職課程委員会 多言語教育運営小委員会	教務委員会 学生委員会	
	18	日	(創立記念日)					
	21	水		キャリア教育委員会 GLA設置準備委員会	留学生別科運営会議	CPJS運営小委員会	ボランティアセンター運営委員会	
	28	水		教養教育運営部会 研究助成委員会	入試委員会	学務審議会	教授会	
			(仮)10月3日(土)～4日(日)学部総合型選抜(旧プレゼン型入試)					
11	4	水		11月科会		11月分野会議	学生委員会	教養教育運営部会
	11	水		国際交流委員会		教務委員会	※研究科会議 ※後期課程会議 GLA設置準備委員会	CSK英語運営小委員会
	18	水			留学生別科運営会議	学務審議会	体育・スポーツ運営委員会	
	22	日	11月22日～25日 学部推薦型選抜、特別選抜、総合型選抜(後期)入試					
			(仮)10月3日(土)～4日(日)学部総合型選抜(旧プレゼン型入試)					
12	1	火	(理事会)					
	2	水		12月科会		12月分野会議	入試委員会	教授会(16:20～)
	9	水		多言語教育運営小委員会 GLA設置準備委員会 ※研究科会議 ※後期課程会議	PD委員会	学務審議会	国際交流委員会 教務委員会	CSK英語運営小委員会 学生委員会
	16	水		教職課程委員会	留学生別科運営会議	教授会	大学入学共通テスト試験監督者打合せ①	
	17	木					大学入学共通テスト試験監督者打合せ②	
	22	火	12/22 ～ 1/3 年末年始休暇に伴う事務局閉鎖期間					
1	3	日	(仮)10月3日(土)～4日(日)学部総合型選抜(旧プレゼン型入試)					
	6	水		1月科会	学生委員会	1月分野会議	GLA設置準備委員会	※賀詞交歓会(16:00～)
	13	水		キャリア教育委員会 ※研究科会議 ※後期課程会議	CPJS運営小委員会	学務審議会	教養教育運営部会	
	20	水		国際交流委員会 図書館運営委員会	留学生別科運営会議	教務委員会	教授会	
	27	水						
2	3	水	(仮)2月3日(水)・5日(金)・6日(土)学部一般選抜(前期)(旧一般入試)					
	10	水	* (仮)入試判定日程	学科主任会議(10:30～)		科会(13:00～)	入試委員会(15:00～)	教授会(16:20～) ※研究科会議(18:00～)
	16	火				教務委員会	教授会(卒業判定会議)	
	24	水		※研究科会議				
3	3	水	(仮)3月3日(水)学部一般選抜(後期)(旧一般入試)					
	4	木	* (仮)入試判定日程	学科主任会議(11:00～)		科会(13:00～) 教務委員会(14:00～)	入試委員会(15:00～)	教授会(16:00～)
	10	水	大学運営連絡会(10:00～12:00)					
	12	金		GLA設置準備委員会		教務委員会	教授会(卒業・進級再試験判定会議)	
	20	土	(3月卒業式)					
	23	火	(理事会・評議員会)					
			(仮)10月3日(土)～4日(日)学部総合型選抜(旧プレゼン型入試)					

★一般入試前期予定 2月3日(水)5日(金)6日(土)、後期予定 3月3日(水)

資料15 平成31年度 学校法人佐野学園 職員研修プログラム

種別	研修名	研修概要	研修会社等	実施日程	場所	申込方法	備考(対象者等)
オープン セミナー	JMA大学SDフォーラム(年間20講座)						
	コンセプトual・ナレッジ(企画・改革力)		JMA(日本能率協会)		国際ファッショ ンセンタービル (東京・墨田 区)	別途案内	
	目標・計画設定基本セミナー	目標・計画の構造と策定から評価・改善までの要諦～PDCAをわかりやすく解説します。「客観的」「定量的」な目標、指標設定の考え方、事例を紹介します。		10/3(木) 13:00～16:30			若手職員～中堅職員
	業務改善入門セミナー	組織視点での業務改善の考え方、進め方を理解し、業務の見える化の手法を習得します。		6/17(月) 13:00～16:30			若手職員～中堅職員
	タイム・マネジメント基礎セミナー	業務特性に合った時間管理のアプローチ、目標を達成するための計画とスケジューリングのポイントを紹介します。		6/20(木) 13:00～16:30			若手職員～管理者
	ロジカル・シンキング基本セミナー	ロジカル・シンキング(論理的思考力)の基本を学び、問題や課題を構造的に原因究明するスキル、そして解決策を探求する手法などを研究します。		12/3(火) 13:00～16:30			若手職員～中堅職員
	企画書・報告書の作成ポイントセミナー	企画書・報告書に必要な不可欠な5W1Hなどの要素と作成方法の基本について、講義・演習を通じて解説します。		11/26(火) 13:00～16:30			若手職員
	女性リーダーのためのワークショップ ～自己を知り、自己の強みを活かしたリーダー像を考える～	リーダーとは何かを考え、課や係のリーダーとして自己の強みを活かし、どのように目標に向かい成果を上げていくか。各種ワークを通し、自らの気づき、そして今後のパフォーマンス向上を目指します。		9/10(火) 13:00～16:30			中堅女性職員
	ヒューマン・ナレッジ(人間力)					別途案内	
	アンガーマネジメント基本セミナー	イライラや怒りの感情などをつまづコントロールし、対人関係や仕事を円滑に進めるのに有効なアンガーマネジメントについて、その基本的な考え方や手法を学びます。		6/12(水) 13:00～16:30			若手職員～管理者
	対人折衝スキル基本セミナー	円滑な業務推進のために欠かせない対人折衝の基本を学び、折衝力を向上させるための練習を行います。		7/31(水) 13:00～16:30			若手職員～管理者
	ファシリテーションセミナー	ロールプレイを通じて、相手の意見を引き出すコミュニケーションスキルや、意見を出しやすい場づくりと結論を導くプロセスを学びます。		7/16(火) 13:00～16:30			若手職員～管理者
	コーチングセミナー	マネージャーとしてメンバーひとりひとりのやる気と可能性を引き出すためには、相手の話を聴きながら、効果的な質問を意識的に行なう、高いレベルのコミュニケーションスキル(コーチングスキル)が不可欠です。当セミナーでは、コーチングの前提となるマインドを理解した上で、現場で即活用できるコーチングモデルをご紹介します。		10/17(木) 13:00～16:30			若手職員～管理者
	チームワーク向上のための「報・連・相」基本セミナー	業務遂行、職場の良好な風土づくりに不可欠な「報・連・相」(報告・連絡・相談)の重要性と波及効果を体系的に学び、場面に応じた対応やスキルを身につけ職場での実践につなげます。		8/9(金) 13:00～16:30			若手職員～中堅職員
	ストレスマネジメント基礎セミナー	心理学や脳科学をベースに「ストレス」と「メンタルヘルス」のメカニズムについて解説し、メンタルヘルス不全に陥らない為に工夫できること(未然対策)を紹介します。ストレスセルフマネジメントのための心と体のためのトレーニングをします。		9/30(月) 13:00～16:30			若手職員～管理者
	テクニカル・ナレッジ(業務知識・遂行力)					別途案内	
	高等教育政策と大学改革の動向研究セミナー	大学制度・大学の変遷を鳥瞰するとともに、近年の高等教育政策の動向とポイントを確認。職員の機能と役割を再認識する契機とします。		11/1(金) 13:00～16:30			若手職員～管理者
	IR(インスティテューショナル・リサーチ)の基本と活用事例研究セミナー	学内外の情報収集およびデータ分析を通し、教育・学生支援、マネジメント等に活用していくIRの基本的な考え方と事例について研究します。		8/19(月) 13:00～16:30			中堅職員～管理者
	会計情報の戦略的活用セミナー	学校法人会計の特徴や機能を分かりやすく紹介し、学校会計の基本を理解した上で、会計情報を大学運営・経営判断に資する情報にアウトプットする手法を学びます。		11/18(月) 13:00～16:30			若手職員～管理者
	管理者のための人事評価研究ワークショップ	多くの大学において職員の目標管理、能力・行動評価等を組み合わせた人事評価の普及が進んでいます。評価者となる管理職を対象として、人事評価の基本的な知識や指導能力をケースとワークショップを通じて研究します。	JMA(日本能率協会)	12/2(月) 13:00～16:30	国際ファッショ ンセンタービル (東京・墨田 区)	別途案内	中堅職員～管理者
	学生窓口対応力向上セミナー	選ばれる大学であるためには、すべての学生の学ぶ意欲を高め、人間としての成長を実現することが必要です。窓口対応でもその重要な役割を担わなければなりません。そのための窓口対応の実践方法について学びます。		7/8(月) 13:00～16:30			若手職員～管理者
	トピック(新課題・重要テーマ研究)					別途案内	
	大学をネットトラブルから守る「ネット炎上・誹謗中傷・情報漏洩」対策セミナー	ソーシャルメディアを通じて露呈する大学不祥事などネットトラブルの事例を紹介し、「学生、教職員を守る」ための対策を考察します。ソーシャルメディアを通じて露呈する大学不祥事などネットトラブルの事例を紹介し、「学生、教職員を守る」ための対策を考察します。		6/28(金) 13:00～16:30			広報、学生支援、総務、ITセキュリティ他の部門担当者
	大学におけるハラスメント事例対応研究セミナー	ハラスメント問題の最新事情を学ぶとともにそのリスクの大きさや影響を研究します。併せて、管理者自身の行動も含め、より良い職場づくりに必要な考え方や対処方法の基礎を学びます。		10/25(金) 13:00～16:30			若手職員～管理者
	RPA活用と導入事例セミナー	大学における生産性向上の一つの手段として、昨今民間企業中心に導入が進んでいるRPA(Robotic Process Automation)の活用について、早稲田大学での導入事例に基づき、その効果や進め方等を具体的に説明します。		6/25(火) 13:00～16:30			若手職員～管理者
	SDセミナー Quon Academy(年間16講座)						
	実務スキル						
	大学教務事務入門 ～ワークとケースを通して学ぶ～	教務事務の基本を理解し、自分が勤務する大学の課題やその解決への取り組みを、主体的に考えるきっかけになることを目標とします。		5月24日(金) 13:00～17:00			新入職員～若手職員

平成31年度 学校法人佐野学園 職員研修プログラム

種別	研修名	研修概要	研修会社等	実施日程	場所	申込方法	備考(対象者等)
	大学職員のための学生対応力向上セミナー	大学で学生の窓口対応を行う機会をもつ職員を対象に、基本姿勢や心構えについて理解するところから始めます。そして様々な背景を持つ学生への対応や、一筋縄ではいかないトラブルも含めた対応など、普段の業務で経験し感じていることを改めて振り返るきっかけをつくります。大学で一番身近な大人である職員が学生の成長を支援するための窓口対応であることを再認識し、振り返った事例を用いながら、学生にとって最良の窓口対応のあり方はどのようなものか、ということを実体的に検討していきます。	早稲田大学アカデミックソリューション	6月10日(月) 13:00～17:00	早稲田大学 早稲田キャンパス19号館	別途案内	新入職員～若手職員
	情報セキュリティの基礎セミナー	情報セキュリティに関して幅広い視点から知識を身に付けると共に、実務における情報セキュリティリスクを低減するための策を立案することを目指します。		6月21日(金) 13:00～17:00			若手職員～管理職職員
	大学職員のためのインストラクショナルデザイン入門	職員が「教えることに関する理論や技術」をなぜ身につけていく必要があるのか概観します。そのうえで、職員が学びの場をコーディネートしたり、大学の教育のあり方を変革したりしていくために必要なインストラクショナルデザインに関する知見をご紹介します。		6月28日(金) 13:00～17:00			若手職員～管理職職員
	高等教育政策と課題をわかりやすく紐解く	近年の高等教育政策や課題を網羅的かつわかりやすく紐解いていきます。また、海外大学の特徴を概観し日本の大学の特徴と対比しながら、日本の大学の強みや課題に関する理解を深めます。		7月11日(木) 13:00～17:00			新入職員～管理職職員
	絶対に使える！英文eメール作成術セミナー	英文eメール作成の基礎とマナーを同時に学ぶことができます。今まで我流で書いていた方、もう一度基礎から学び直したい方、これから英文eメールでのやりとりの機会があるので準備をしたい方も、ご参加いただくことができるプログラムのエッセンスをご紹介します。		9月6日(金) 13:00～17:00			新入職員～管理職職員
	カリキュラムマネジメントの理解と実践	カリキュラム編成とマネジメントに関する高等教育政策動向を概観します。カリキュラムマネジメントを学内で有効に機能させるために必要なポイントについて、各種調査や成功事例を例に挙げながら解説します。		9月30日(月) 13:00～17:00			本テーマに関心のある大学教職員
	研究支援業務の基礎	研究支援業務の概要と大学職員に求められている能力についてご紹介をしながら、よりよい研究の実現に貢献するためにどのような具体的な行動を取っていく必要があるのかを一緒に考えていきます。		12月10日(火) 13:00～17:00			若手職員～中堅職員
	ジェネリックスキル						
オープン セミナー	グローバルマインド醸成セミナー	異なる文化をもつ人々について理解し、文化の違いに関する構造について考えるため、シミュレーションを通して異文化状況を実際に体感していただきます。	早稲田大学アカデミックソリューション	7月25日(木) 13:00～17:00	早稲田大学 早稲田キャンパス19号館	別途案内	若手職員～中堅職員
	フォローアップ強化セミナー ～チームパフォーマンスを高めるための課題発見力と提案推進力～	フォローアップの基本的な考え方をお伝えしたうえで、実際の職場で関係者を支えチーム力を最大化するために求められる行動や姿勢について考えていただきます。		9月25日(水) 13:00～17:00			若手職員～中堅職員
	EQコミュニケーションセミナー ～心と心を繋ぐコミュニケーション～	EQが人間関係に及ぼす影響について学び、EQ能力を高める練習を行います。同時に、心のしくみを理解し、信頼関係の築き方を学ぶことで人間関係の向上を図ることができますようになります。体験学習方式を用いて様々なエクササイズを行いますので、即実践に活かすことのできるコミュニケーション能力を楽しみながら身に付けることができます。		11月15日(金) 13:00～17:00			若手職員～中堅職員
	マネジメントスキル						
	労務管理の基礎 ～持続可能な成長を実現するために～	管理職が、部下やスタッフの心身の健全性の維持向上を支援しながらチームの風土を向上させ成果を上げていくための労務管理のありかたを、ケーススタディも交えながら学習していただきます。		5月31日(金) 13:00～17:00		別途案内	中堅職員～管理職職員
	教員の働き方改革を通じた 大学教育・研究・経営の質向上	教員の働き方改革、長時間労働の抑制に焦点を当てています。社会的、政治的な動向など外部環境に関する基礎的な理解を深めたのち、現状と課題についてシェアをしていただきます。		7月29日(月) 13:00～17:00			大学教員を労務管理する立場にある大学教職員 本テーマに関心のある大学教職員
	プロスポーツの事例から学ぶ 大学スポーツのリスクマネジメント	大学運動部活動においてリスクマネジメントが求められる背景について理解を深めたのち、発生しうるリスクおよびその影響度とそれを防ぐためにとらる組織的な対応策について考えていきます。		8月6日(火) 13:00～17:00			学生支援担当部署、運動部統括部署に所属する大学教職員 運動部指導者を務める大学教職員
	新たな時間を創出するための 業務効率化セッション	様々な視点とレベルで業務を見直し、削減可能な要素やその発生原因を把握し、対策を講じていくプロセスと手法をグループワーク形式で実践、習得します。		10月4日(金) 13:00～17:00			中堅職員～管理職職員
	問題解決ファシリテーション	具体的なファシリテーションの活用シーン(会議)を想定してレクチャーと演習をバランスよく組み合わせることで、現場ですぐに実践できるスキルを身につけます。		10月25日(金) 13:00～17:00			中堅職員～管理職職員
	事務ミス防止のためのマネジメント	ヒューマンエラー発生メカニズムに関する講義を通じて、リスクが日頃の業務の中に潜んでいることを改めて認識し、危機意識を持っていただきます。同時に事務ミスを起こしにくい組織環境を醸成するために必要なマネジメントの手法を学びます。		11月7日(木) 13:00～17:00			中堅職員～管理職職員
	プロジェクトマネジメントセミナー	より少ない資源でより大きな成果を上げるためのプロジェクトマネジメントの知見を整理してお伝えしつつ、職場で実際に抱える課題達成のためのプロジェクト計画策定の演習を通じて、マネジメントの勘所を体験的にご理解いただけます。		11月27日(水) 13:00～17:00			若手職員～中堅職員
	リーダーシップ入門	この時代に求められるリーダーシップのあり方を概観しつつ、ビジョン構築と浸透、そしてメンバーの自律性を引き出すためのプロセスを、体感型ワークを多く取り入れながら、身につけていただきます。		12月5日(木) 13:00～17:00			中堅職員～管理職職員

資料16 教育課程内外の取組の支援体制

進路 1

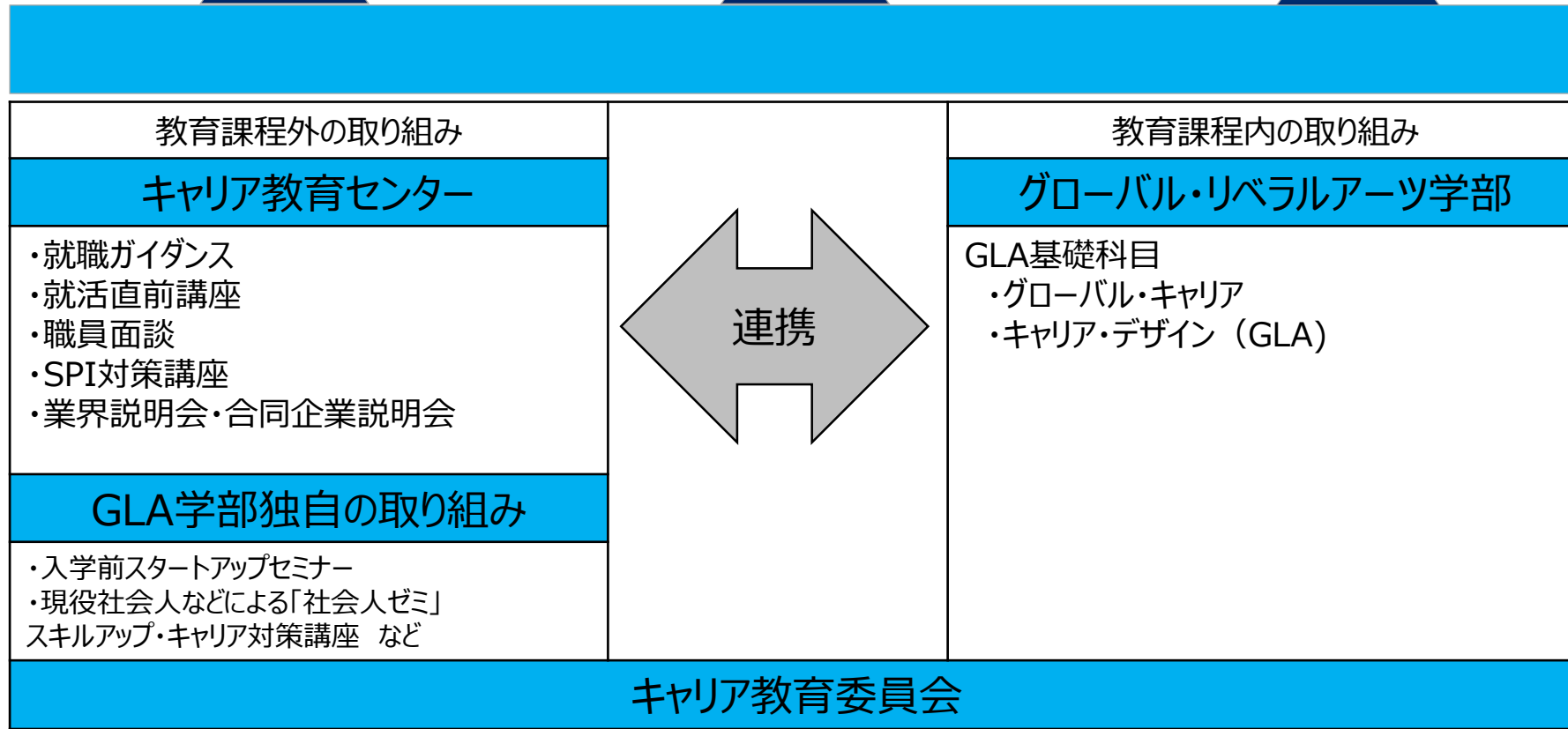
- 社会貢献に力を入れて取り組む企業（社会起業家やCSV企業など）

進路 2

- 国家公務員（外務省など）・非営利団体（JICAや国際交流基金など）

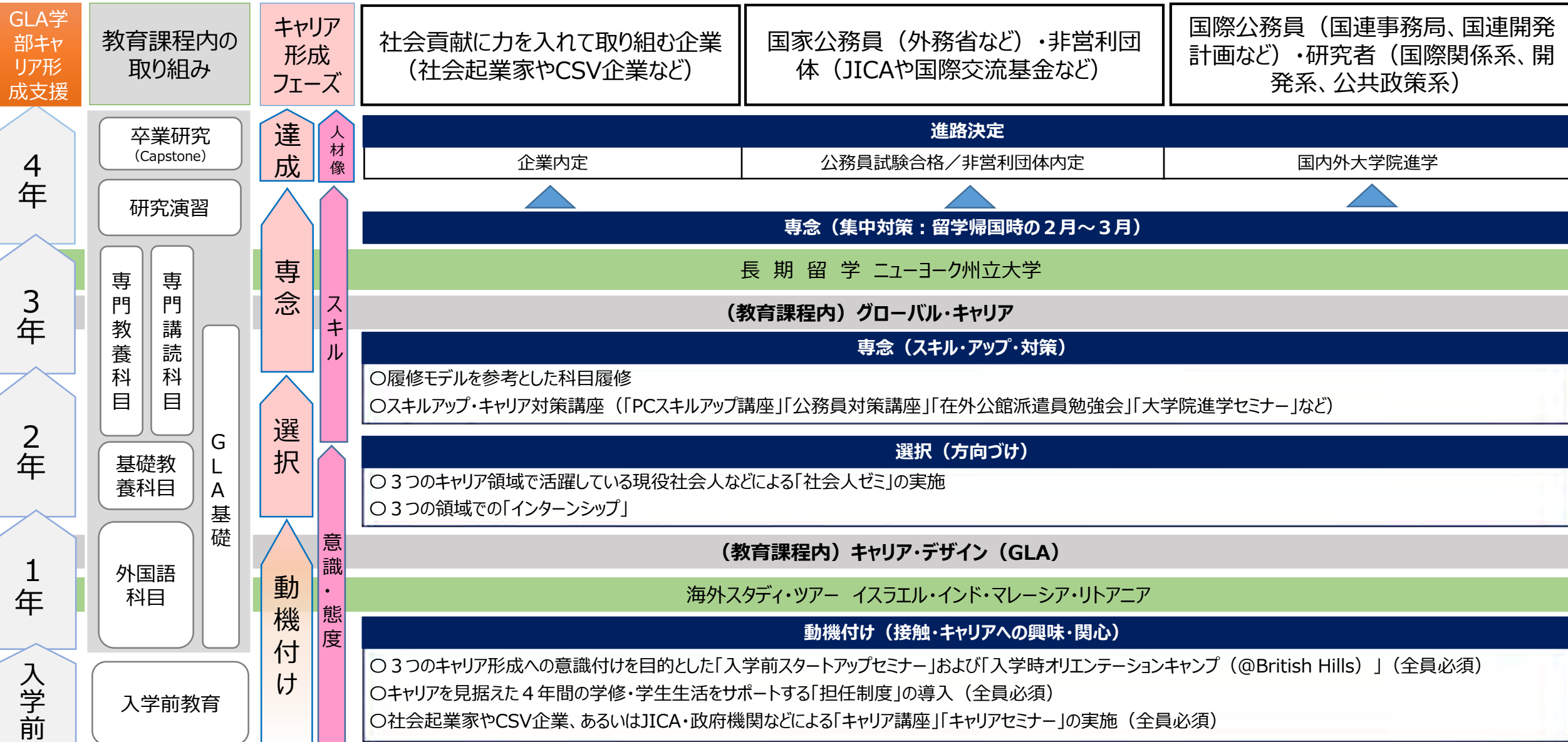
進路 3

- 国際公務員（国連事務局、国連開発計画など）・研究者（国際関係系、開発系、公共政策系）



資料17 教育課程内外の取組（全体像）

幅広い教養、広くグローバルな事象に関する専門知識、高度な英語運用能力、論理的思考に基づくコミュニケーション能力、批判的・論理的思考力、課題発見・解決能力、多様性を理解し尊重する姿勢を身につけ、現代社会が直面する諸問題を解決するべく、リーダーシップを発揮して立ち向かうことができる自立した人材



資料18 神田外語大学 キャリア教育センター規則

(趣旨)

第1条 神田外語大学学則第56条の第2項の規定に基づく神田外語大学キャリア教育センター（以下「センター」という。）の組織および運営については、この規則に定めるところによる。

(目的)

第2条 センターは学生のキャリア形成に資するようなキャリア教育及びキャリア支援をすることを目的とする。そのために必要な調査研究を企業・官公庁あるいはその他研究機関と協力して行う。

(業務)

第3条 センターは前条の目的を達成するために次の業務を行う。

- (1) キャリア教育の企画および実施
- (2) キャリア教育の企画のための調査研究
- (3) キャリア教育に関わる研修会、セミナー、講演会等の実施
- (4) キャリア教育に関わる企業・官公庁と協力あるいは提携した定期的な研究会の開催
- (5) キャリア支援活動の企画及び実施
- (6) キャリア支援に関する企業説明会、企業訪問、セミナー等の企画及び実施
- (7) キャリア教育委員会への出席及び報告
- (8) その他のキャリア教育及び支援に関する事項

(組織)

第4条 センターには次の職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 顧問
- (3) 教育職員
- (4) 研究員
- (5) その他必要な職員

(職務)

第5条 センター長はセンターの職務を掌理する。

2 職員はセンター長の命を受けて業務を行う。

(連絡会議)

第6条 センター運営に関することを協議し、キャリア教育企画実施上の問題を検討するために連絡会議を置く。

2 連絡会議の構成員は次のとおりとする。

- (1) センター長
- (2) センター顧問
- (3) センター教育職員
- (4) キャリア教育委員会委員より同委員長とセンター長が協議して指名した委員
- (5) その他センター長が指名した者

(職員の任期)

第7条 センター長及び顧問の任期は2年とする。ただし、年度途中に選出されたセンター長及び顧問の任期は、その翌年度の3月31日までとする。

2 センター長及び顧問は再任することができる。

3 センター長及び顧問を除く職員の任期は別に定める。

(運営の細目)

第8条 この規則に定めるものの他、必要な事項は別に定める。

附則

1. この規則は、平成17年4月1日から施行する。

2. 「神田外語大学キャリアセンター規則」(平成16年4月1日制定)は廃止する。

附則 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附則 この規則は、平成20年4月1日から施行する。

資料19 教育課程外 担任（アドバイザー）制度 支援領域

1. EAP担当教員（英語必修）GLA専任およびGLAキャリアコーディネーターとともに、アカデミック・サポートを行う。
2. GLA専任教員（演習担当）入学時からGLA入門等を通じて、学生の探求活動を支援。以降は卒業まで研究指導を行う。
3. GLAキャリアコーディネーター：入学時から卒業まで、GLAが輩出を目指すキャリアへの段階的なサポートを行う。
4. 学生アドバイザー（SA）：SAは学生生活全般や履修に関する相談のほか、教職員と学生の橋渡しを行う。



学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況・・・・・・ 5

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）・・ 8

(2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであること
の客観的な根拠・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み

a 定員設定の考え方

新設するグローバル・リベラルアーツ学部（以下「本学部」という。）は、本学の強みである高度の英語運用能力の教授に加え、グローバル社会において不可欠な幅広い教養を教授し、論理的・批判的思考力、異文化を尊重する姿勢及び異環境適応力を身につけさせることを主な目的としている。

この目的を達成するため、授業において学生相互間及び学生と教員間のインタラクションを重視し、学生自身が課題や問題点を発見・解決する課題解決型の教育手法を多数の授業で採用する必要がある。そのためには、教育効果を十分に上げることのできるクラス編成が不可欠であるが、輪読、グループワーク、プレゼンテーションなどの協働学習を推進するためには、少人数の編成が必要である。その観点から、本学部の主要科目のうち「外国語科目」については1クラス20名以下、内容・言語統合型学習(CLIL)の授業については30名以下のクラス編成が望ましい。また、「専門教養科目」は1クラス20名程度、「演習科目」は1クラス10名程度を標準としている。従って、最適な学年のサイズは、主要科目を効果的に運用できる60名が様々な授業編成に対応できるため望ましい。

また、本学部生必修の1年次前期の海外スタディ・ツアー及び3年次後期のニューヨーク州立大学(SUNY)留学は、受け入れ先の確実な確保や渡航中のきめ細やかなサポートが必要であり、このことを考慮すると、60名という定員規模は適切である。

そのため、これらの事情を総合的に勘案し、本学部定員を60名に設定した。

b 定員を充足する見込み

本学部の設置に関し本学への進学者が多い首都圏及び北関東の高等学校2年生に対して調査を行い、5,306名の有効回答を得た。

その結果、16.2%にあたる862人がグローバル・リベラルアーツ学部を受験したいと回答し、その理由として「興味・関心がある分野だから」「学びの特徴やカリキュラムに共感できるから」「希望する進路や就職に近づけると思うから」と回答した。

このなかで、予定される入学定員 60 名の 6.3 倍となる 380 人が合格した場合に（併願大学の結果によらず）入学したいと回答した。

これらのことから、本学部の専攻分野として高校生からの関心も高く、入学意向も確認できるため、十分な学生確保の見込みがあると考えられる。

② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

a 長期的に学生を確保できる見通し（社会的な動向）

私立大学の学部系統別の志願者等の動向をまとめた「私立大学・短期大学等入学志願動向」（日本私立学校振興・共済事業団）によれば、グローバル・リベラルアーツ学部と学問分野が近い国際教養学部について、志願者数、入学定員充足率ともに堅調な状況がうかがえる（下表参照）。

これによると、志願者数は年による変動があるものの漸増傾向であり、志願倍率についてもおおむね 7 倍～10 倍となっており、入学定員充足率も 29 年度以降 3 年連続で 100 を超えている。このような状況から、本学部も長期的に学生を安定的に確保できると推測される。

＜表 国際教養学部の入学定員、志願者数、入学者数、入学定員充足率の推移＞

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
入学定員	2,374	2,381	2,609	2,499	2,574
志願者数	16,937	23,860	17,328	17,659	21,591
入学者数	2,328	2,344	2,612	2,623	2,580
入学定員充足率	98.06	98.45	100.11	104.96	100.23
志願倍率※	7.13	10.02	6.64	7.07	8.39

出典：平成 27 年度～31 年度 私立大学・短期大学等入学志願動向（日本私立学校振興・共済事業団）

※志願倍率のみ本学により追記した

また、本学部のアドミッション・ポリシーは、幅広い教養を身につける意欲、グローバルな視点から現代社会の課題に取り組み、平和に貢献する意欲、他者と積極的にコミュニケーションを図り、協働する姿勢、留学を通じて自己を成長させようとする強い意志を持つ者に入学資格を与えることとしているが、これは国際バカロレア認定校（以下、IB 校）における教育のミッションと一致している。

我が国の IB 校の推移をみると、「日本再興戦略-JAPAN is BACK」（2013 年 6 月）において、2018 年までに IB 校を 200 校へ増加させる政府方針が出されたのを契機に、54 校（2013 年 4 月時点）から、155 校（2020 年 3 月 31 日時点）と右肩上がりに認定校が増加している傾向が看取できる（文部科学省 IB 教育

推進コンソーシアム HP)。

こうした IB 校の卒業生の増加に伴い、卒業後の進路としてリベラルアーツ教育を実践し留学を必須とする大学が選択されることにより、国際教養系学部の志願者が増加し、ひいては本学部の志願者の確保も十分できるものと考えている。

b 本学の志願者をめぐる動向

本学外国語学部の志願動向は、2016～2020 年度において、入学定員の 9 倍程度の志願者を確保しており、安定的に入学定員を満たしている。また、2019 年度については、前年度を 1,050 人上回る 8,997 人の志願者を確保し、志願倍率も 10.1 倍に上昇している。

このことから、本学の教育内容については、国際・グローバル分野への関心の高まりに応じた、高度な専攻言語運用能力を身につけるための充実したカリキュラム・設備、留学への手厚い支援などにより、学生から高い支持を受けているものと考えられる（表 1）。

（表 1）＜外国語学部の志願者、合格者、入学者等の推移＞

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
募集人数①	823	893	893	893	893
志願者数②	7,889	7,548	7,947	8,997	8,484
志願倍率③ (②÷①)	9.6	8.5	8.9	10.1	9.5
受験者数④	7,744	7,406	7,807	8,838	8,321
合格者数⑤	2,622	2533	2,627	2,481	2,666
入学者数⑥	912	952	1,071	980	924
定員超過率 (⑥÷①)	1.1	1.1	1.2	1.1	1.03

c 高校生へのアンケート調査

i アンケート調査の概要

本学部の学生確保の見通しを、大学外の公正な第三者機関により測ることを目的とし、以下のアンケート調査を実施した。

調査の概要は以下のとおり。

◆調査機関：KEI アドバンス

◆調査日時：2019 年 10 月

◆調査対象：2021 年度の大学（学部）入試を受験・入学する可能性が最も高い 2019 年度現在の高校 2 年生

◆調査方法：本学への入学者の出身都道府県として 76.7%を占める首都圏（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）及び北関東（茨城県、群馬県、栃木県）に所在する高校のうち、過去に神田外語大学への入学実績がある 50 高校にアンケートを送付。各校の教員が調査対象である高校 2 年生にアンケート用紙を配布の上、回答後その場で回収した。

◆実施校：48 校（実施率 96.0% / 送付対象校数 50 校）

◆有効件数：5,306 件（回収件数 5,309 件 / 有効件数率 99.9%）

◆添付資料：新学部パンフレット（学部の理念、カリキュラムのコンセプト、カリキュラムマップ、想定される卒業後の進路、留学に関する情報、定員・学費、大学の基本情報）

【資料 1】設置構想に係るアンケート調査 報告書

ii アンケート調査から測定される志願者の見込み

アンケート調査の回答者のうち、興味のある学問分野として「外国語」を選択した者が全体の 29.8%（1,583 人）と最も多く、次いで「国際・グローバル」を選択した者が 28.5%（1,514 人）となるなど、3 割の高校生が本学部を対象とする学問分野と親和性の高い学問分野に興味があると回答した（複数回答有り）。

さらに、有効回答の 16.2%にあたる 862 人が本学部を受験したいと回答した（入学定員の 14.4 倍）。これらの者について、合格した場合の入学意欲を質問したところ、予定される入学定員 60 名の 6.3 倍となる 380 人が「入学したい」、468 人が「併願大学の結果によっては入学したい」と回答した。

このように、第一志望の層に限っても入学定員を大きく上回る志望者が認められることから、適切な入学者選抜を行ったうえで、入学定員を充足する学生を確保することが可能であると判断できる。

③ 学生納付金の設定の考え方

本学部の初年度学生納付金の総額は 1,600,000 円であり、その内訳は、入学金 200,000 円、授業料 1,160,000 円、施設設備費 240,000 円となっている。このうち、入学金、施設整備費は、既存の外国語学部の各学科と同額に設定している。授業料については、外国語学部の各学科の設定額（980,000 円）より高額となっているが、後期に半年間の留学を必修としている 3 年次の学費は半額の 580,000 円（別途留学管理料 50,000 円）としている。この授業料には、3 年

次後期の半年間の留学費用（200 万円程度）は含まれていないが、1 年次前期の海外スタディ・ツアー（3 週間程度の海外大学での短期研修）の額（40 万円～50 万円程度）は含まれている。

本学部では、論理的・批判的思考力、生涯にわたって自立学習者たりえる力を修得させるため、全ての学年で演習を取り入れるなど、少人数での課題解決型の授業を基本とし、その他の授業においても可能な限りアクティブ・ラーニングの形式で行うなど、入学から卒業まできめ細かな指導を行う点を特徴としていること、また、学生の自立学習を支援するための SALC（Self-Access Learning Center。（2）③で後述）、選択外国語の学習を支援する MULC（Multilingual Communication Center。（2）③で後述）など、学生の学びを支援する環境整備も充実しており、こうした本学部独自の教育体制や極めて手厚い教育環境を提供していることに鑑み、他大学の留学を必修としている類似学部における学生納付金額と比較においても、本学部の学生納付金は適切な水準と考える（表 2）。

（表 2）＜他大学の類似学部における学生納付金額＞

類似の大学学部名	初年度学生納付金	備 考
早稲田大学（国際教養学部）	1, 593, 000	1 年の留学期間は学費不要
青山学院大学 （地球社会共生学部）	1, 585, 000	
法政大学（国際文化学部）	1, 580, 000	留学期間は学費不要
立教大学（GLAP）	2, 003, 500	留学先の学費不要
東洋大学（国際学部グローバル・イノベーション学科）	1, 260, 000	

（2）学生確保に向けた具体的な取組状況

① 入試における取組

本学部のアドミッション・ポリシーに基づき、本学部での学修に必要な、一定程度の英語能力を習得していること、論理的・批判的・創造的思考力を有していること、大学での学修を通じて更にそれを伸ばし、生涯にわたって自立学習者たりえること、グローバルな事象に関心を持ち、将来、世界の平和と発展に積極的に貢献する意思を有すること、留学を通じて自己を成長させる意思を有し、異文化を尊重し、異環境下で他者と共存できること、幅広い分野について学修を深めたいという意思を有することを確認するため、総合型選抜、学校

推薦型選抜、海外経験特別選抜、一般選抜、共通テストプラス入試及び共通テスト利用入試の6つの方式で入学者選抜を実施する。

② 新学部の情報

2021年4月のグローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科の設置に向け、その理念や学びの方向性・カリキュラムについて学生に知ってもらい、その魅力を伝えることを目的として、以下の取組を実施する。

a オープンキャンパスにおける情報活動

本学では、昨年度において29回のオープンキャンパスを開催しており、キャンパスツアーや大学紹介ムービーの上映などを通じて、カリキュラムや学習環境、留学制度を伝えている。ここでは、在学生による各専攻語でのスピーチや学長、教員による学部紹介など、高校生に対し、当該地域の魅力を伝える活動にも積極的に取り組んでいる。

また、オープンキャンパスの一環で、教育内容を伝えるため世界で何が起こっているかといった国際問題について高校生と共に考えるワークショップ形式のイベントを開催している。

なお、今般のコロナウィルス感染症拡大の影響により、対面式でのオープンキャンパスをオンラインへ切り替える予定である。その場合、これまで地理的な事情によりオープンキャンパスに参加できない全国の生徒が、容易に参加することが可能となる。今後、学部の授業について、オンライン授業を順次組み込んでいく予定であり、オンラインによる模擬授業への展開も可能となる。本学の授業をオンキャンパスでしか体験できなかった者が、オンライン授業の提供により、オフキャンパスでも体験できるようになるため、オンラインによる模擬授業を積極的に展開する計画を立てている。

b ホームページや印刷媒体等による情報活動

以下のホームページやパンフレットを含む多様な媒体において、本学におけるカリキュラム・大学生活の状況、進路・課外活動等の情報を発信している。

i 神田外語大学ホームページ

「言葉は世界をつなぐ平和の礎」という建学の理念、学長からのメッセージを核に、グローバル人材育成のために本学が実現しようとする内容について、ビジョンや3つのポリシーを交えながら包括的に説明するため、ホームページを開設している。受験生にキャンパスライフがイメージしやすいよう、動画・画像を織り交ぜ、本学の学びの特色、キャリア支援やサークルなど

の課外の大学生活を紹介している。

本学部に関しては特設ページを用意し、コンセプトやカリキュラム内容を伝えるだけでなく、本学部の特色である 2 回の留学先の街並みや学びの内容を紹介する動画を作成し、高校生の期待感を醸成するとともに、入学後のキャリアを明確にしている。また世界の通学路や教室といった高校生に身近なテーマを扱い、世の中で何が起こっているのかを伝えて行く。

〈特設ページ〉

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/department/gla/>

ii パンフレット 学科・カリキュラム BOOK2021「ACADEMICS」

全学部・学科の概要をコンパクトにまとめるとともに、到達目標やモデルカリキュラムを掲載している。各学科教員からのメッセージや育てたい人物像、具体的なカリキュラム内容を明確に伝えることで高校生の進路選択の助けとなっている。本学部の情報も同様に掲載する予定である。また、同パンフレットとは別に、本学部の特徴やカリキュラム、キャリア支援制度をまとめた「GLA ガイドブック」（40 ページ程度）を 2020 年 5 月に発行する予定である。

c 高校訪問等の実施

東日本出身の学生が入学者の大多数を占めていることを踏まえ、関東を中心に北海道、新潟県、長野県など 13 の都道府県の高校との連携を意識して年間 3 回、約 1,200 校の高校訪問に取り組んでいる。

その他、オープンキャンパスに参加できない学生を対象とした平日の学内見学（2019 年度 53 回）や、高等学校単位の団体見学（2019 年度 56 回）、遠方の学生のため全国 39 都市で行う進学ガイダンスへの参加など、本学に関心を持っている高校生へきめ細かな周知活動を行い、本学の魅力を発信している。

今般のコロナウィルス感染症拡大の影響により、2020 年 3 月～4 月までに予定していたガイダンスはほぼ中止・延期となったが、オンライン・ガイダンスの切り替えを進めることで、上記エリアの生徒だけでなく、西日本のエリアへもアクセスが可能となった。受験生と対面での接触機会は減少するが、オンライン上での接触は増加すると考えており、魅力あるコンテンツを制作することで、高校訪問に代わる本学部の魅力を訴求する新たな機会としている。

③ 施設整備

外国語を学修・習得するにあたっては、コミュニケーションの頻度や学習に

対するモチベーションが非常に重要となっている。この観点から、本学では授業以外の時間においても、学習・教養を深める場の整備に努めている。

i SALC (Self-Access Learning Center)

学生が自ら課題を発見し、他者との協働学習を通して、主体的に解決していく「自立学習者」に成長するために、授業時間以外での学びもサポートする「理想的な教育環境」を整えるため、SALC (Self-Access Learning Center)、ELI (English Language Institute)を設けている。SALC は、ラーニングアドバイザーと相談できる Study Rooms や教員や他の学生と英語での会話を楽しむ English Lounge、ELI は、プレゼンテーションの指導を受けることができる Presentation Area、ELI に所属する教員と授業の相談等が可能な Consultation Area といった特徴的な設備・環境を備えている。

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/kuis8/>

ii MULC (Multilingual Communication Center)

MULC は、現地に旅し留学する感覚を味わいながら、言語と文化を学ぶユニークな空間として設置されており、韓国語を含むアジア言語学科及びイベロアメリカ言語学科の専攻言語をカバーした7つの言語エリアには、各々の生活文化を代表する街並みや建物が再現されている。また、各言語のネイティブ教員が在籍し、豊富な書籍やCD、DVD、衛星放送、さらには留学生との交流など、現地さながらの外国語環境に浸り、異文化コミュニケーション力を身に付けることが可能となっている。

<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/campuslife/facilities/mulc/>

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

① 本学の設置目的

本学の建学の理念は、「言葉は世界をつなぐ平和の礎」である。この建学の理念の下、本学は、「広く一般知識を授け、深く専門学術を教授研究するとともに、わが国の伝統と文化を究明し、諸外国の文化を理解し、国際社会の一員として世界に貢献し得る人材を育成すること」（神田外語大学学則第1条）を目的としている。

② グローバル・リベラルアーツ学部を設置目的

グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科は、広く

一般知識を授け、国家や国民の枠組みでとらえることが困難な事象を多面的に理解するための専門学術や技法を教授研究するとともに、高度の英語運用能力と多文化共生力を備え、わが国と世界の困難な課題に立ち向かい、平和と繁栄の招来に主体的に貢献し得る能力を身につけさせることを教育研究上の目的とする。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

① 社会的な需要動向

2013年5月の教育再生実行会議の提言「これからの大学教育等の在り方について（第三次提言）」においては、「社会の多様な場面でグローバル化が進む中、大学は、教育内容と教育環境の国際化を徹底的に進め世界で活躍できるグローバル・リーダーを育成すること、グローバルな視点をもって地域社会の活性化を担う人材を育成すること」が求められた。

また、2019年5月の同会議の提言「技術の進展に応じた教育の革新、新時代に対応した高等学校改革について（第十一次提言）」においても、人、物、情報が国境を越えて行き交うグローバル化が急激に進展し、Society5.0の基盤となるAI、IoTなどの技術の開発に関する国際的な競争が激化する中で、幅広い分野で新しい価値を提供できる人材を養成することが求められている。

本学部のカリキュラムは、幅広いグローバルな事象に関心をもって、現代社会が直面する様々な諸課題の平和的な解決に、リーダーシップを発揮して立ち向かうことのできる自立した人材を養成することを主眼にしており、論理的・批判的・創造的な思考力、課題解決能力及び生涯にわたって自立的に学習する姿勢を身につけることが可能となっていることから、上述の社会的要請に応えるものとなっている。

② 企業の需要動向

a 企業へのアンケート調査の概要

このような社会的な需要動向に沿って育成した本学部の卒業生について、地域的な人材需要動向に合致しているかを精査するため、大学外の公正な第三者機関により、以下のアンケート調査を実施した。調査の概要は以下のとおり。

◆調査機関：KEI アドバンス

◆調査日時：2019年10月

◆調査対象：神田外語大学に 2020 年度新卒採用の求人票が届いている企業に加え、過去に卒業生の採用実績のある企業等のうち、神田外語大学のキャンパス所在地である千葉県及び東京都内を中心に全国展開している、272 企業・団体

◆調査方法：調査対象とした 272 件の企業・団体の人事・採用担当者宛てに、WEB アンケートを E メールにて送信し、回答後返信を求めた（回答企業等の記名は任意）。

◆回収件数：124 件（送信件数 270 件／回収率 45.9%）

◆添付資料：新学部パンフレット（学部の理念、カリキュラムのコンセプト、カリキュラムマップ、想定される卒業後の進路、留学に関する情報、定員・学費、大学の基本情報）

【資料 2】新学部設置構想に係る人材需要アンケート調査 報告書

b アンケート調査結果の概要

アンケート調査の回答企業・団体の業種は、卸売・小売業が 32 件（25.8%）、製造業が 31 件（25.0%）、運輸・郵便業 19 件（15.3%）、その他サービス業 17 件（13.7%）等多業種にわたっている。

これらの企業等が人材を採用する際に特に重視する点について、9 割近くが「コミュニケーション能力」と回答した（108 件、87.1%）。次いで、約 5 割（56 件、45.2%）が「協調性」、約 3 割（33 件、26.6%）が「問題発見・解決力」を重視すると回答している（複数回答有り）。神田外語大学が設置を構想しているグローバル・リベラルアーツ学部のカリキュラムは、とりわけコミュニケーション能力、協調性、課題発見・解決能力の修得を重視しており、回答企業等が人材採用時に重視している項目と親和性が高い。

なお、これを裏付けるように本学部の「入学定員 60 名の徹底した少人数教育。ゼミ必修で、問題解決型、アクティブ・ラーニング形式が中心の授業形態」について、約 7 割の企業等が支持、評価した（81 件、65.3%）。

本学部の養成する人材に対して、企業等の約 8 割が「やや興味がある」（96 件、77.4%）、約 2 割が「かなり興味がある」（25 件、20.2%）と回答しており、回答企業・団体の 98%以上が興味を示している。

企業等の採用意欲を確認したところ、「採用したい」に 35 件（28.2%）、「採用を検討したい」に 40 件（32.3%）、「採用対象になる」に 30 件（24.2%）と合計で 84.7%にあたる 105 の企業等が採用意欲を示している。採用意欲を示したこれらの 105 件の企業等のうち、卒業生の具体的な採用可能人数を示した

企業・団体が 88 件あり、採用可能人数の合計は 281 人（入学予定定員人の 4.7 倍）となった。上記のうち「採用したい」と回答した 35 の企業・団体のみに限定して採用可能人数を集計した場合も、採用可能人数は 84 人となり、予定入学定員数の 1.4 倍が得られた。

以上の結果からわかるように、予定する入学定員（60 名）を上回る企業等からの採用意欲が認められ、本学部卒業生の卒業後の進路を十分確保でき、人材需要があると判断できる。

資料目次

資料１．設置構想に係るアンケート調査 報告書

資料２．新学部設置構想に係る人材需要アンケート調査 報告書

神田外語大学 御中

2019 年 12 月 16 日（月）

神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部
グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）
設置構想に係るアンケート調査 報告書

神田外語大学
グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）
設置構想に係るアンケート調査 報告書

－ C O N T E N T －

1 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	01
2 全質問項目の集計結果（高校2年生対象）	04
3 集計結果のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・	13

[添付資料]

神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）	
設置構想に係るアンケート調査票	26
概要（紹介用）リーフレット・・・・・・・・	28

1 調査の概要

- ◆調査の目的：本調査は、神田外語大学が2021年4月設置に向けて構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）」の学生確保の見通しを、大学外の公正な第三者機関によりアンケートを用いて測ることを目的とする。
- ◆調査期間：2019年10月
- ◆調査対象：2021年度の大学（学部）入試を受験・入学する可能性が最も高い2019年度現在の高校2年生をアンケート対象とした。
- ◆調査方法：神田外語大学が構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）」への通学が現実的に可能な首都圏（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）及び北関東（茨城県、群馬県、栃木県）に所在する高校で、過去に神田外語大学への入学実績がある50高校にアンケートを送付。各校の教員が調査対象である高校2年生にアンケート用紙を配布の上、回答後その場で回収した。なお48校の高等学校より回収を得た。
- ◆調査内容：アンケート項目は全10問で、9問を選択肢式とした（「その他」回答の記述を除く）。また1問を記述式とした（併願を検討中の大学名）。
主な質問内容は、以下の通りである。
 - 『回答者の基本情報（性別・居住地）について』
 - 『回答者の高校卒業後の希望進路について』
 - 『神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）』の魅力について
 - 『神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）』への受験・入学意欲について
- ◆実施校：48校（実施率 96.0% ／ 送付対象校数 50校）
- ◆有効件数：5,306件（回収件数 5,309件 ／ 有効件数率99.9%）
※ 白紙回答3件を無効回答とした。

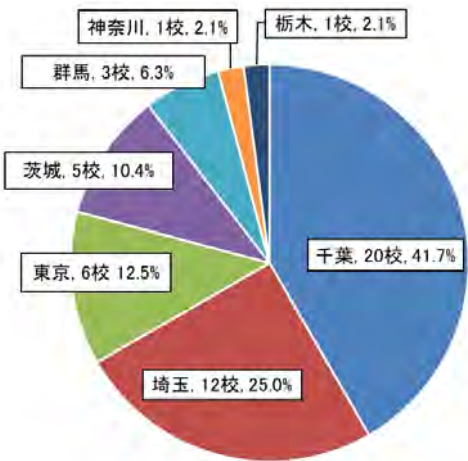
◆実施高校：本アンケートに協力いただいた48校の詳細は以下の通り。

都道府県別・設置別のアンケート回収高校数

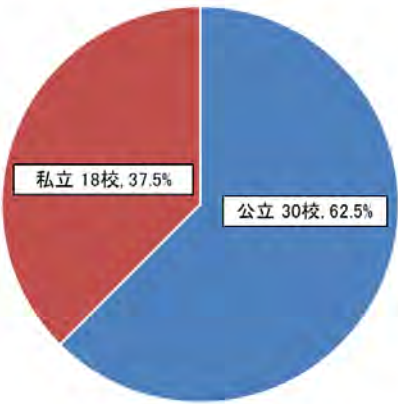
都道府県	回収高校		
	公立	私立	計
東京都	3	3	6
千葉県	13	7	20
埼玉県	9	3	12
神奈川県		1	1
茨城県	3	2	5
群馬県	1	2	3
栃木県	1		1
計	30	18	48

回収高校		
公立	私立	計
10.0%	16.7%	12.5%
43.3%	38.9%	41.7%
30.0%	16.7%	25.0%
	5.6%	2.1%
10.0%	11.1%	10.4%
3.3%	11.1%	6.3%
3.3%		2.1%
100.0%	100.0%	100.0%

都道府県別



設置別

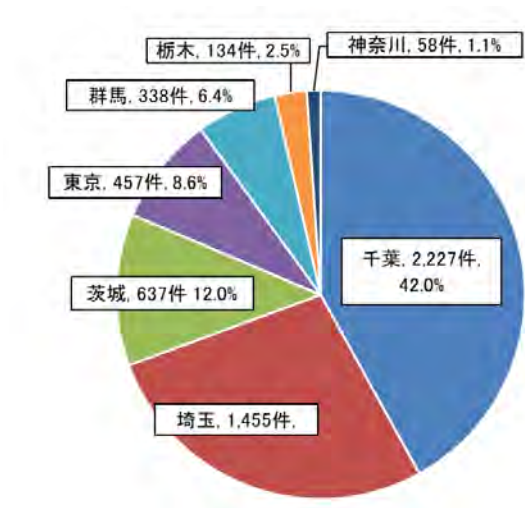


都道府県別・設置別のアンケート有効回収件数

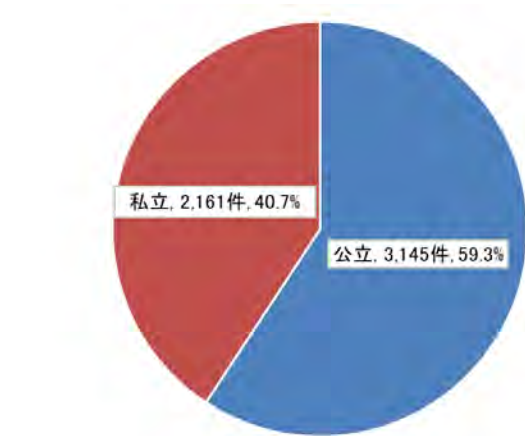
都道府県	回収高校		
	公立	私立	計
東京都	146	311	457
千葉県	1,432	795	2,227
埼玉県	1,170	285	1,455
神奈川県		58	58
茨城県	223	414	637
群馬県	40	298	338
栃木県	134		134
計	3,145	2,161	5,306

回収高校		
公立	私立	計
4.6%	14.4%	8.6%
45.5%	36.8%	42.0%
37.2%	13.2%	27.4%
	2.7%	1.1%
7.1%	19.2%	12.0%
1.3%	13.8%	6.4%
4.3%		2.5%
100.0%	100.0%	100.0%

都道府県別



設置別



2 全質問項目の集計結果

※ 構成比（％）はいずれも、小数第二位を四捨五入。合計は必ずしも 100.0％と一致しない。

以下、P.4～P12 は、アンケートで有効回答を得た 5,306 人の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

【問 1】 あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの 1 つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	男性	1,952	36.8%
2	女性	3,313	62.4%
	無回答・不明	41	0.8%
	計	5,306	100.0%

【問 2】 あなたが住んでいる都道府県をお答えください。（あてはまるもの 1 つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	東京都	384	7.2%
2	千葉県	2,439	46.0%
3	埼玉県	1,414	26.6%
4	神奈川県	60	1.1%
5	茨城県	482	9.1%
6	栃木県	150	2.8%
7	群馬県	337	6.4%
8	その他（ ）	3	0.1%
	無回答・不明	37	0.7%
	計	5,306	100.0%

その他 記述内容

宮崎県 1

【問3】 高校卒業後の希望進路についてお答えください。（あてはまるもの全てに○）

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 5,306 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	4 年制大学進学	4,851	91.4%
2	短期大学進学	146	2.8%
3	専門学校進学	380	7.2%
4	就職	92	1.7%
5	その他（ ）	99	1.9%
		5,306	

その他 記述内容

未定 28／6 年制大学進学 14／海外（大学）進学 11／海外留学 9／6 年生大学進学 5／
6 年制大学進学（医学部） 2

以下各 1 件

大学校進学／専門職大学／6 年制大学進学（薬学部）／公務員／語学学校／通信／声優養成所／
修行／YouTuber／フリーター／やりたいことを見つける

【問 4】 あなたの興味のある学問分野を 3 つまでお答えください。

（あてはまる番号を枠内に記入）

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 5,306 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	外国語	1,583	29.8%
2	国際・グローバル	1,514	28.5%
3	文学・歴史学	1,272	24.0%
4	芸術・思想・文化	930	17.5%
5	社会学	916	17.3%
6	経済・経営・商学	1,485	28.0%
7	法・政治学	883	16.6%
8	情報科学	327	6.2%
9	人間・心理学	1,461	27.5%
10	教育学・保育	1,179	22.2%
11	理工学	405	7.6%
12	農学	142	2.7%
13	医・歯・薬学	312	5.9%
14	看護・社会福祉	477	9.0%
15	家政・生活科学	353	6.7%
16	スポーツ・健康科学	539	10.2%
17	その他（ ）	156	2.9%
		5,306	

その他 記述内容

観光学 22／美容 16／ブライダル 8／メディア学 6／音楽 4／製菓・調理 4／ホテル・ブライダル 4／ファッション 3／映像編集 3／環境（科学） 3／エアライン 2／環境学 2／教養学 2／芸能 2／書道 2／情報（工学） 2／動物 2／未定 2

以下各 1 件

リハビリ／医療技術／栄養学／演劇学／海洋学／海洋生物／学際／調理／景観工学／芸術系／建築学／犬関係／航空関係／国際教養・総合／獣医学／人文学／生物学／生命科学／哲学／伝統工芸／日本語／動物心理学／美容・デザイン系／ゲームサウンドクリエイター／サービス／フリースタイルラップ／メディア・演出・映像／ライフデザイン

【問 5】 受験を検討している英語検定試験をお答えください。（あてはまるもの全てに○）

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 構成比は、回答者 5,306 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	実用英語技能検定（英検）	4,452	83.9%
2	ケンブリッジ英検	101	1.9%
3	GTEC	1,878	35.4%
4	IELTS™	46	0.9%
5	TEAP	243	4.6%
6	TOEFL iBT®	129	2.4%
7	TOEIC® L&R	161	3.0%
8	TOEIC® S&W	54	1.0%
9	未定	415	7.8%
		5,306	

**【問 6】 神田外語大学が構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）」の特色①～⑥
について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（あてはまるものに○）**

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ。

※ 記入数の合計は①～⑥全て 5,306 件。

※ 構成比は、回答者 5,306 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

	グローバル・リベラルアーツ学部の特色	とても魅力 を感じる	魅力を 感じる	あまり魅力 を感じない	魅力を 感じない	無記入
①	1 年次前期（グローバル・チャレンジ・ターム）には、国際問題や異文化を体感し、学びの動機づけを行う海外スタディ・ツアー（約4週間）が必修。	1,561	2,529	800	298	118
		29.4%	47.7%	15.1%	5.6%	2.2%
②	3 年次後期には、ニューヨーク州立大学への留学（1 セメスター）が必修。更に海外ボランティア活動が推奨されている。	1,602	2,343	919	324	118
		30.2%	44.2%	17.3%	6.1%	2.2%
③	卒業時まで TOEFL スコア PBT580 (iBT92-93) を達成する英語力に加え、+1 言語の運用能力を修得することが可能。	1,731	2,503	710	235	127
		32.6%	47.2%	13.4%	4.4%	2.4%
④	入学定員60名の徹底した少人数教育。ゼミ必修で、問題解決型、アクティブ・ラーニング形式が中心の授業形態。	1,325	2,585	1,003	259	134
		25.0%	48.7%	18.9%	4.9%	2.5%
⑤	人文・社会科学から数理・自然科学にわたる幅広い教養（リベラルアーツ）教育を実施。平和学や国際貢献などグローバルな事象に関する科目も多数設置されている。	1,229	2,706	991	254	126
		23.2%	51.0%	18.7%	4.8%	2.4%
⑥	将来は国際機関や NGO、グローバル企業等で専門性を活かして活躍することを想定したカリキュラム構成。	1,419	2,626	867	265	129
		26.7%	49.5%	16.3%	5.0%	2.4%

【問 7】 あなたは神田外語大学が構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）」を受験したいと思いますか。（あてはまるもの 1 つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	受験したいと思う	862	16.2%
2	受験したいとは思わない	4,253	80.2%
	無回答・不明	191	3.6%
	計	5,306	100.0%

以下の【問 8】【問 9】は、【問 7】で「1. 受験したいと思う」を選択した 862 人が回答対象である。

【問 8】 神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部（仮称）を「受験したいと思う」とした理由をお答えください。（あてはまるもの全てに○）

※ 構成比は「受験したいと思う」回答者 862 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	興味・関心がある分野だから	683	79.2%
2	新学部のコンセプトに共感できるから	126	14.6%
3	学びの特徴やカリキュラムに共感できるから	273	31.7%
4	希望する進路や就職に近づけると思うから	227	26.3%
5	THE 世界大学ランキング日本版の上位大学だから	38	4.4%
6	通学が便利だから	39	4.5%
7	神田外語大学に良好なイメージを持っているから	111	12.9%
8	その他（ ）	15	1.7%
		862	

その他 記述内容

- 英語の上達が見込めるから
- 留学できるから
- 英語に集中できる
- スティープジョブズもリベラルアーツをおしていたから。
- 様々な科目が学べるから
- ①②に魅力を感じた
- 留学が必修であることがモチベーションにつながると思うから
- 留学したいと思うけど 1 年留年という形では行きたくないと思っていて、みんなが行かないといけないことならいいかなと思ったから。

【問 9】 あなたは神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部（仮称）に合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの 1 つに○）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	入学したい	380	44.1%
2	併願大学の結果によっては入学したい	468	54.3%
	無回答・不明	14	1.6%
	計	826	100.0%

＊「2.」の方は、併願先の大学として検討中の大学があればご記入ください。

（1 人あたりの複数回答を含む延数、国公立大学はゴシックで表記）

青山学院大 17／東洋大 17／明治大 16／立教大 13／獨協大 11／法政大 10／早稲田大／9 中央大 6

以下各 5 件

千葉大／東京外国語大／上智大

以下各 3 件

首都大学東京／國學院大／日本大／明治学院大／学習院大

以下各 2 件

東京大／一橋大／埼玉大／津田塾／大順天堂大／神田外語大／日本体育大／東京女子大／文教大 2

以下各 1 件

筑波大／宇都宮大／群馬大／東京学芸大／金沢大／国際教養大／慶應義塾大／東京理科大／国際基督教大／東海大／亜細亜大／駒澤大／桜美林大／神奈川大／大東文化大／創価大／国土館大／昭和女子大／学習院女子大／日本女子大／大妻女子大／和洋女子大／中京大／名古屋外国語大／関西学院大／ブリガム・ヤング大／海外の大学／国立大／外国語大学

以下の【問10】は、【問7】で「2. 受験したいとは思わない」を選択した4,253人が回答対象である。

【問10】 神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部（仮称）を「受験したいとは思わない」とした理由をお答えください。（あてはまるもの全てに○）

※ 構成比は「受験したいとは思わない」回答者4,253人のうち、各項目を挙げた者の割合。

番号	選択項目	回答数	構成比
1	4年制大学への進学を考えていないから	278	6.5%
2	興味・関心のある分野ではないから	2,330	54.8%
3	神田外語大学の他学部への進学を希望しているから	117	2.8%
4	他の大学への進学を希望しているから	2,361	55.5%
5	新設学部へ進学するのは不安だから	281	6.6%
6	更に詳細を知った上で検討したいから	466	11.0%
7	通学の便	237	5.6%
8	学費	403	9.5%
9	その他（ ）	115	2.7%
		4,253	

その他 記述内容（抜粋）

- ・ 4年間のカリキュラムが少しきつい。
- ・ これよりも魅力を感じる分野があるから。
- ・ スタディ・ツアーでかなりお金がかかりそうだから
- ・ ニューヨーク州立大学への留学が必修→他の大学からもえらべるように
- ・ ハードルが高すぎる。
- ・ まだ深く知らないから。
- ・ 英語が苦手の為、国際を主とする学問は不安だから
- ・ 英語が得意じゃないから
- ・ 英語についていける自信がないから
- ・ 英語の学力がそこまでないから。
- ・ 英語の面で自信がないから。
- ・ 英語漬けの日々はいやだから
- ・ 何を学ぶのかがいまいち 分からないから
- ・ 何回も留学するカリキュラムで、資金の負担が大変そう。
- ・ 家庭的な問題で留学に行くことができないから
- ・ 海外留学を考えていないから

- 学力が足りないと思うから。
- 興味・関心はあるけれど入る時点で英語力に差がありそうで自分にできるか不安しかない
- 興味のある分野だが、他の道をすでに決めているから。
- 興味はあるが、自分が更に興味のある分野があるため
- 興味はあるが学力が合わないから
- 具体的に何をして何を目標そうとしているかわからない。グローバルと言っても範囲が広すぎる。
- 受験資格を満たす英語力がないから英語力をあげたくて入りたいのに基準がそもそも英語出来る人だと辛い
- 将来やりたい職業が専門学校でしか学べないから。
- 情報が少ない。
- 人数が少ないから色々と不安。
- 他にやりたい事が決まっている。
- 他の大学と比べてから考えたいから。
- 体力的に不安である
- 日本の大学には行かないつもりだから。
- 留学にお金がかかるから
- 留学の回数が多い。
- 留学先が選べないこと・必修であること
- ①, ②, ③にはすごく興味があるけどそれ以外はやりたくないと思ったから。

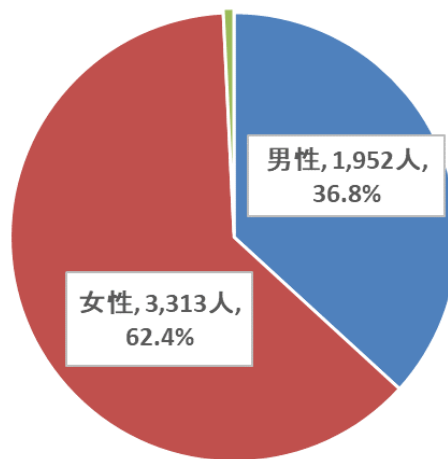
3 集計結果のポイント

※ 構成比（％）はいずれも、小数第二位を四捨五入。合計は必ずしも 100.0％と一致しない。

- 回答者の性別は、女性 6 割、男性 4 割と女子が多い。

有効回答を得た高校 2 年生 5,306 人の内訳は、男性 36.8％、女性 62.4％の構成となっている。

【グラフ】 回答者の性別 （【問 1】結果より）



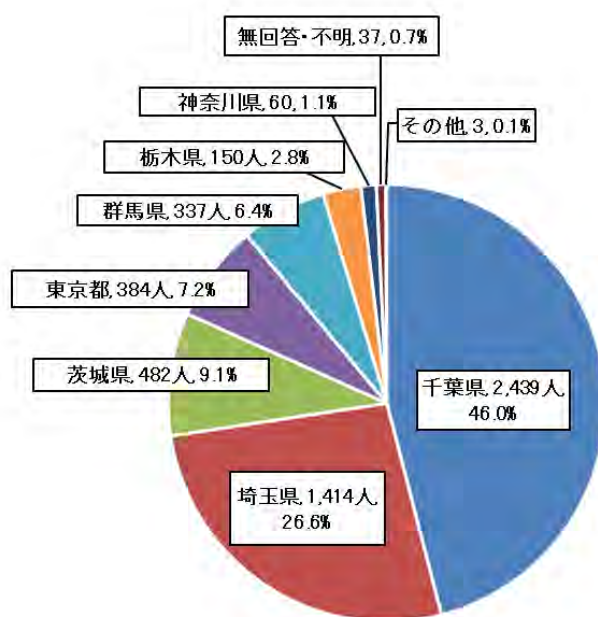
※ 無回答・不明 41 人，0.8％

● 回答者の 80%以上が首都圏 1 都 3 県に居住（全体の半数近くが千葉県に居住）

有効回答を得た高校 2 年生 5,306 人のうち、46.0%にあたる 2,439 人が、神田外語大学のキャンパス所在地である千葉県に居住していると回答した。また通学圏内と考えられる地域として、埼玉県が 1,414 人（26.6%）、東京都 384 人（7.2%）等で構成されており、1 都 3 県からの回答者は 4,297 人（81.0%）に上る。更に受験・入学実績の高い茨城県、群馬県等の北関東各県からの回答者も一定数を確保している。

以上より、本調査は神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）〔千葉県千葉市美浜区〕への通学が現実的であると考えられる地域を考慮して実施していることから、調査結果の適性を十分に担保している。

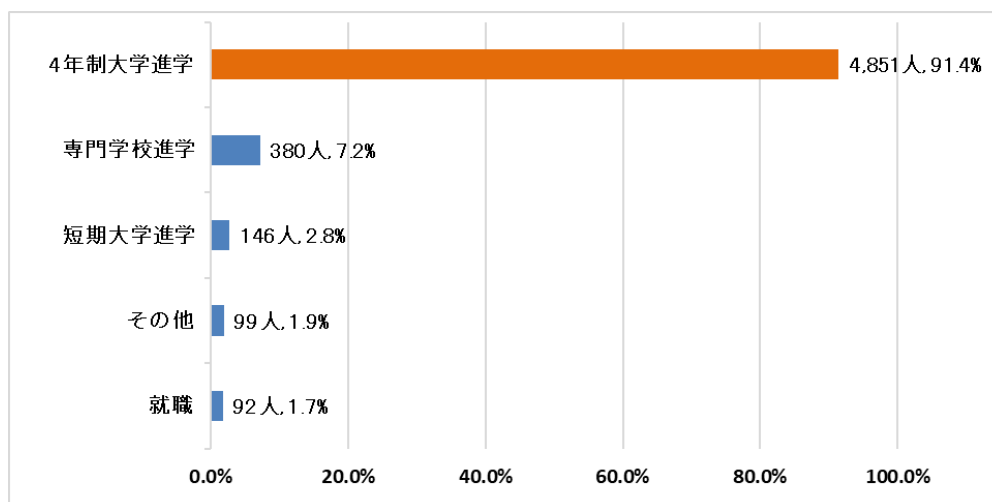
【グラフ】 回答者の居住地（【問 2】結果より）、回答の多い順



● 回答者の9割以上が、高校卒業後の進路として4年制大学進学を希望。

有効回答を得た高校2年生 5,306 人のうち、91.4%にあたる 4,851 人が高校卒業後の進路として「4年制大学進学」を選択している（複数選択）。

グラフ 高校卒業後の希望進路（【問3】結果より） ※複数選択可



※ 構成比は、回答者 5,306 人のうち、各項目を挙げた者の割合。

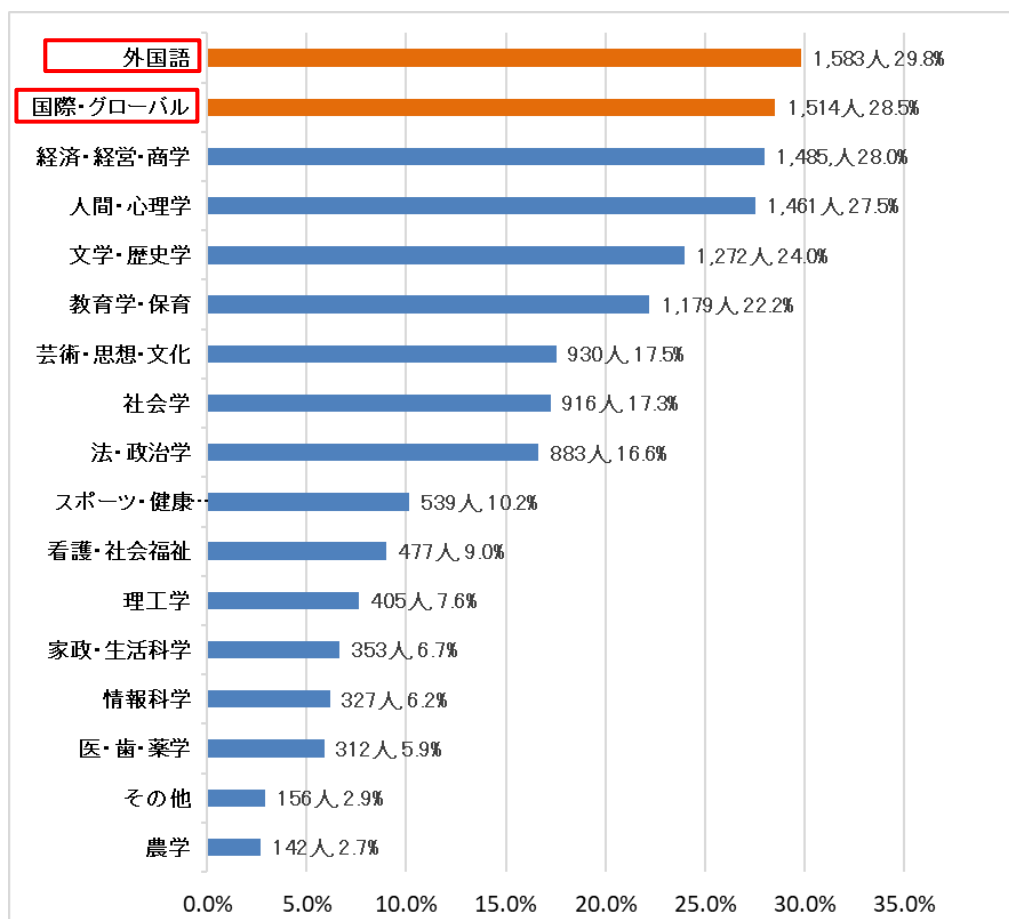
- 興味ある学門分野として、3割の高校生が「グローバル・リベラルアーツ」と親和性の高い、「外国語」、「国際グローバル」を選択した。

回答を得た高校生 5,306 人のうち、興味のある学問分野として『グローバル』と親和性の高い学問分野を選択した人数と構成比を集計した（3件まで選択可）。

全体の 29.8%にあたる 1,583 人が「外国語」を選択、28.5%にあたる 1,514 人が「国際・グローバル」を選択した。以下、28.0%にあたる 1,485 人が「経済・経営・商学」、27.5%にあたる 1,461 人が「人間・心理学」を選択している（複数回答の結果）。

外国語、国際・グローバルも然ることながら、回答した高校生は、人文科学、社会科学全般にわたる幅広い学問分野に興味を示していることが読み取れる。

【グラフ】 興味のある学問分野（【問4】結果より）※複数回答の結果、回答の多い順



※ 構成比は、回答者 5,306 人のうち、各項目を挙げた者の割合（複数選択）

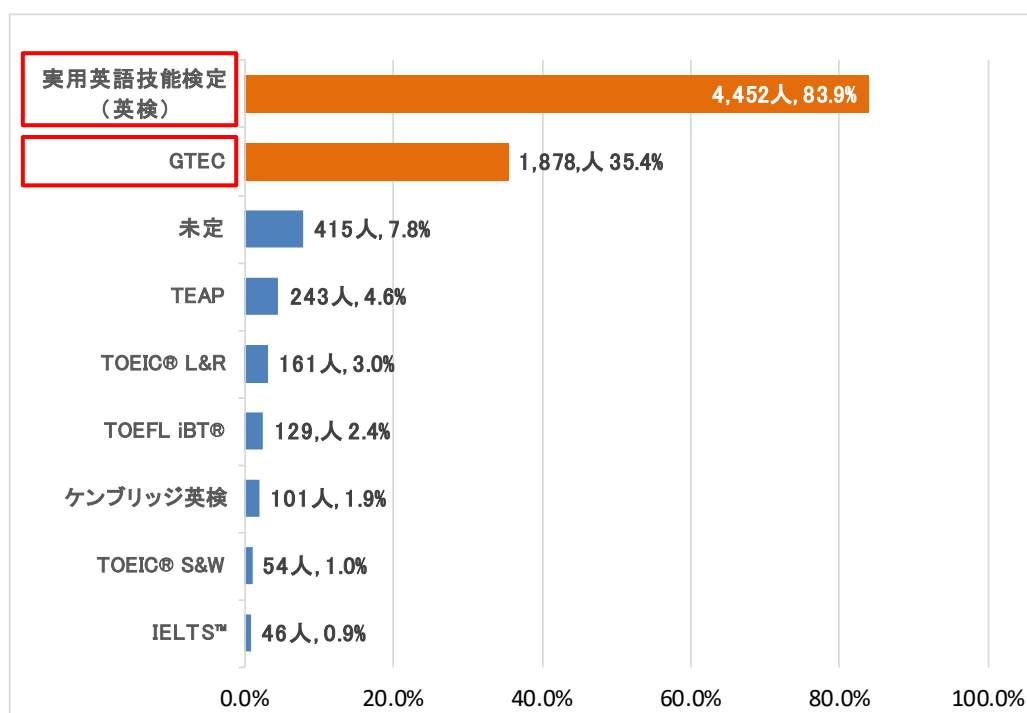
- 8割以上の高校生が「実用英語検定（英検）」受検を検討。
- 平均 2.4 種類の英語検定試験から、受検する試験を検討。

有効回答を得た高校生 5,306 人のうち、受検を検討している英語検定試験として 4,452 人 (83.9%) が「実用英語検定（英検）」と回答し、最も多い回答であった。続いて 1,878 人 (35.4%) が GTEC と回答している。

なお回答延べ数は 12,785 件であったことから、回答高校生 1 人あたり 2.4 種類の英語検定試験を検討していることになる。英語に関する高校生の意識・志向は「バランスの取れた 4 技能の修得」「実際のコミュニケーションにおける活用」にシフトしていると推察される。

本調査は「大学入試英語成績提供システム」延期発表（2019 年 11 月 1 日）前の実施ではあったが、英語検定試験を活用した私立大学の独自入試も増加傾向にあることから、英語検定試験の認知・普及は着実に進行していると判断できる。

【グラフ】 受検を検討している英語検定試験（【問 5】結果より）※複数回答の結果、回答の多い順

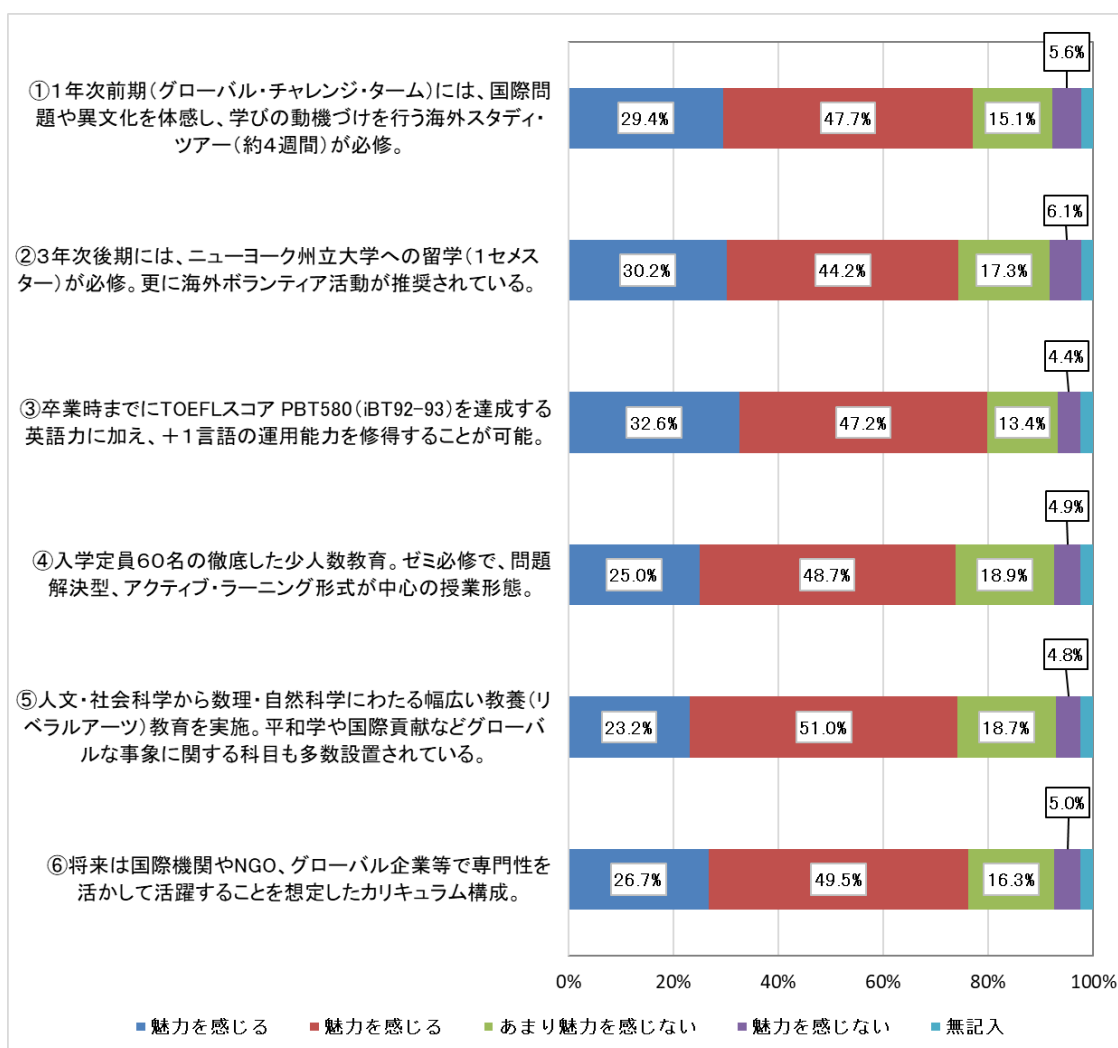


- 高校生の約7割以上が、新学部の特徴を高く評価。
- 特に高校生の8割が「TOEFLスコア+1言語の運用能力の修得」を評価。

神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部（仮称）の特色6項目について、4段階で評価を求めたところ、回答を得た高校生5,306人のうち79.8%が『③TOEFLスコア+1言語の運用能力の修得』について「とても魅力を感じる」または「魅力を感じる」を選択しており、とりわけ魅力的な要素として捉えられていることが分かる。

その他の特色5項目についても同様に7割以上の高校生が「とても魅力を感じる」または「魅力を感じる」を選択していることから、構想中のグローバル・リベラルアーツ学部（仮称）の特色が高校生のニーズにマッチしており、一定レベルの関心を寄せられていることがうかがえる。

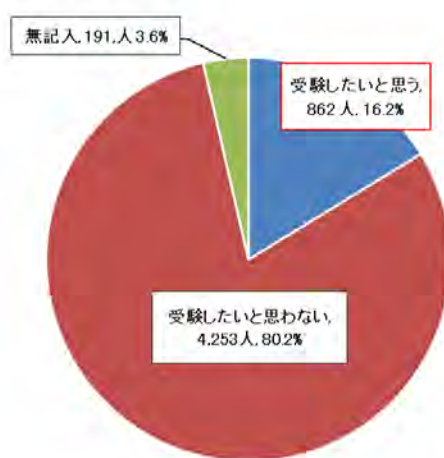
【グラフ】 新学部の特徴についての魅力度（【問6】結果より）※4段階で評価



● 862 人が「グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）を受験したい」と回答。

有効回答を得た高校 2 年生 5,306 人のうち、16.2%にあたる 862 人が、神田外語大学が構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）」を「受験したいと思う」と回答。予定される入学定員 60 人の 14.4 倍にあたる高校生より受験意欲を示す回答が得られた。

【グラフ】 神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部の受験意欲（【問 7】結果より）



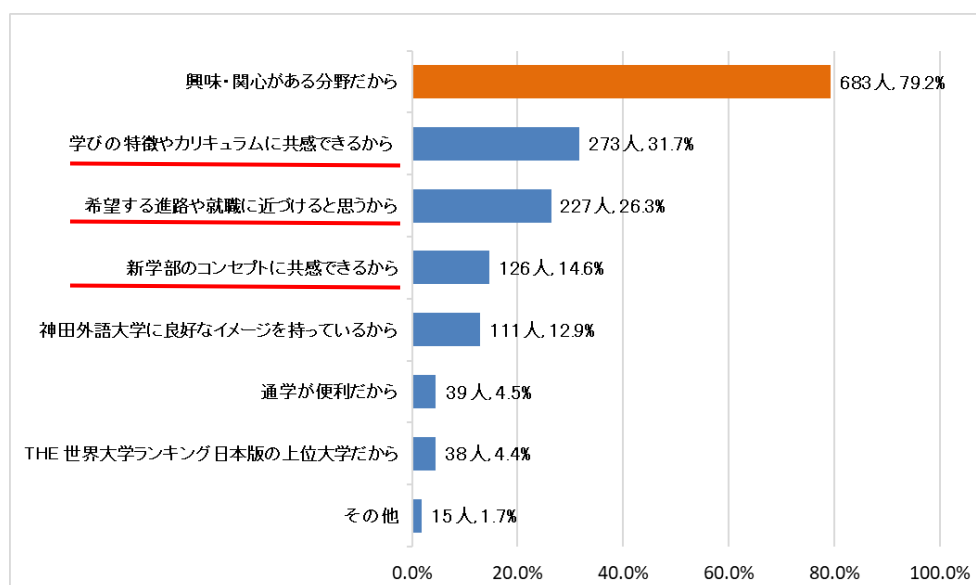
- 受験意欲を示した理由として、約 8 割が「興味・関心がある分野だから」を選択。
- 「学びの特徴・カリキュラム」、「希望する進路や就職」への評価も高い。

神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部（仮称）に受験意欲を示した 862 人に「グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）を受験したいと思う理由」に関する回答を求めたところ、683 人（79.2%）の高校生が「興味・関心がある分野だから」と回答している。

また 273 人（31.7%）が「学びの特徴やカリキュラムに共感できるから」、更に 227 人（26.3%）が「希望する進路や就職に近づけると思うから」と回答している。

受験意欲を示した 862 人は、構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）」について、「学びの特徴やカリキュラム、コンセプト」に共感し、そこからイメージされる将来像にも期待と関心を寄せていることがうかがえる。

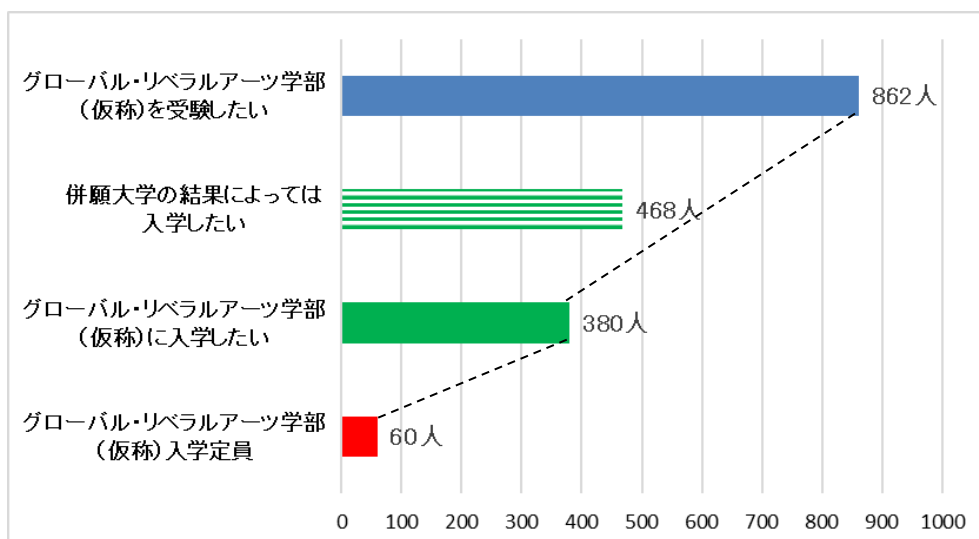
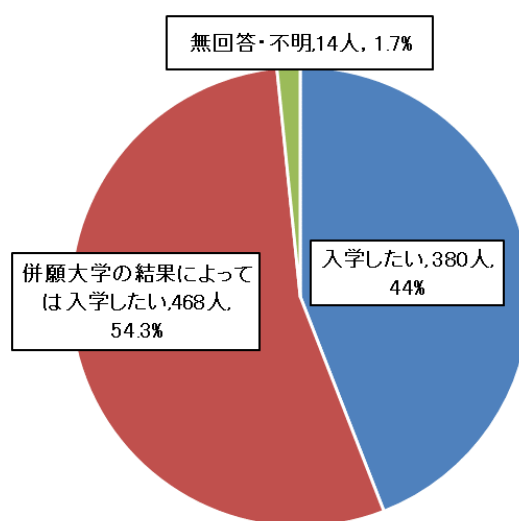
【グラフ】 新学部への受験意欲を示した 862 人×受験したいと思う理由（【問 7】【問 8】結果より）



● 380 人が「神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）」に入学したい」と回答。

神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部（仮称）を「受験したい」と回答した 862 人に対し、合格した場合の入学意欲について回答を求めた結果、
予定される入学定員 60 名の 6.3 倍となる 380 人が「入学したい」と回答、468 人が「併願大学の結果によっては入学したい」と回答した。

グラフ グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）に合格した場合の入学意欲（【問 9】結果より）



● 新学部に入学意欲を示した高校生の過半数は千葉県に居住、8割以上が首都圏在住。

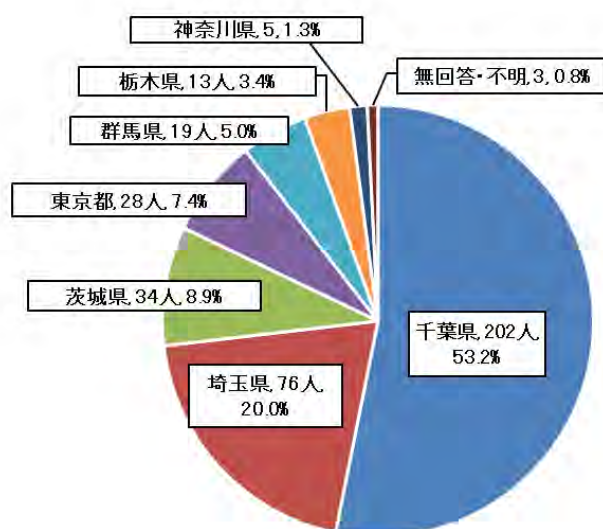
前項の入学意欲に関する回答と【問2】の居住地の回答をクロス集計したところ、グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）に「入学したい」と回答した380人のうち、53.2%にあたる202人が千葉県に居住する高校生であり、神田外語大学の近隣に居住する高校生より一定の入学意欲を示す回答が得られた。

また千葉県以外からも、埼玉県76人、東京都28人等、首都圏1都3県から計313人（81.8%）の入学意欲を示す回答が得られた。

【表】居住地別・「新学部」への入学意欲（【問2】【問9】結果より）

居住地	入学したい		併願大学の結果によっては入学したい	
	回答数	構成比	回答数	構成比
東京都	28	7.4%	48	10.3%
千葉県	202	53.2%	213	45.5%
埼玉県	76	20.0%	126	26.9%
神奈川県	5	1.3%	11	2.4%
茨城県	34	8.9%	41	8.8%
栃木県	13	3.4%	9	1.9%
群馬県	19	5.0%	19	4.1%
無回答・不明	3	0.8%	1	0.2%
計	380	100.0%	468	100.0%

【グラフ】居住地別・「新学部」へ入学したい回答人数【問2】【問9】結果より）



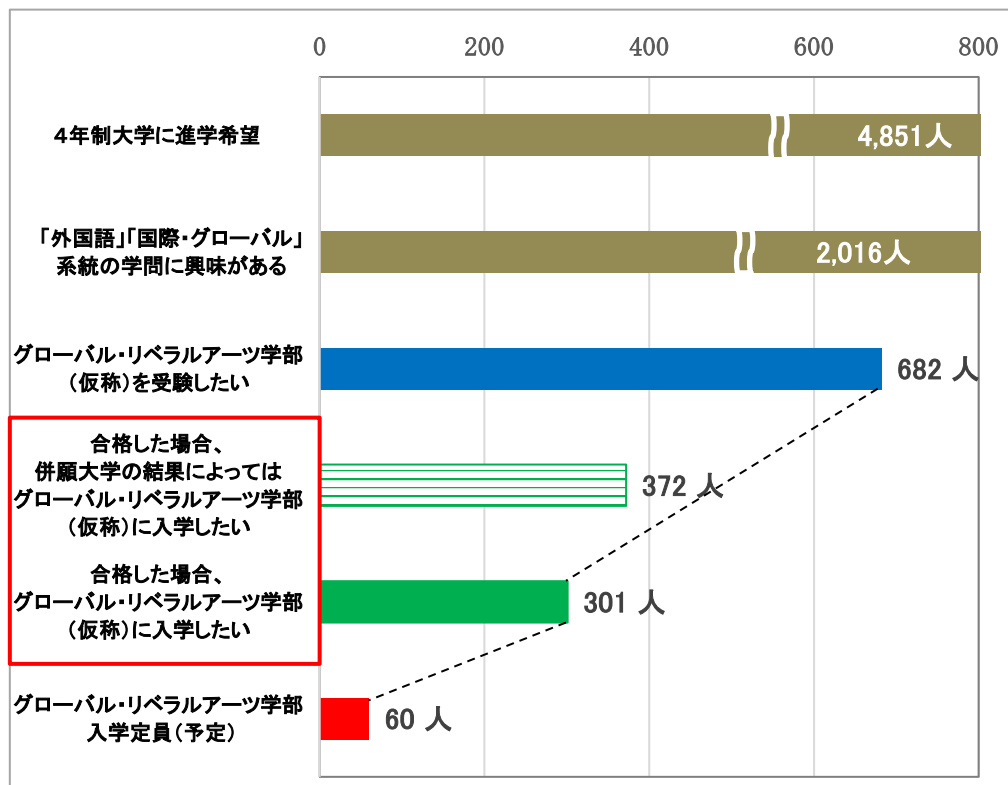
- 高校卒業後の希望進路、興味ある学問分野を踏まえた集計では、301 人が「グローバル・リベラルアーツ学部（入学予定員 60 名）」に「入学したい」、372 人が「併願大学の結果によっては入学したい」回答。

今回実施のアンケートは高校 2 年生が対象であり、今後の進路変更等の可能性は十分想定できるため、【問 3】高校卒業後の進路 及び【問 4】興味ある学問分野 については考慮せずに集計を行った。

ここではより慎重に現段階における「学生確保の見通し」を導き出すために、【問 3】高校卒業後の進路 において「4 年制大学進学を希望」を選択し、且つ【問 4】興味ある学問分野として、「グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）」の教学内容と親和性の高い「外国語」・「国際・グローバル」の 2 系統のいずれかを選択している回答者のみを対象として、受験希望者数（受験意欲）及び入学希望者数（入学意欲）について集計を行った。

グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）は入学定員 60 人（予定）に対して「入学希望」の回答が 301 人、「併願大学の結果によっては入学したい」との回答が 372 人であった。

【グラフ】 希望進路・興味分野 受験意欲・入学意欲 （【問 3】【問 4】【問 7】【問 9】結果より）



● 466 人（11.0％）が「更に詳細を知った上で検討したい」と回答。

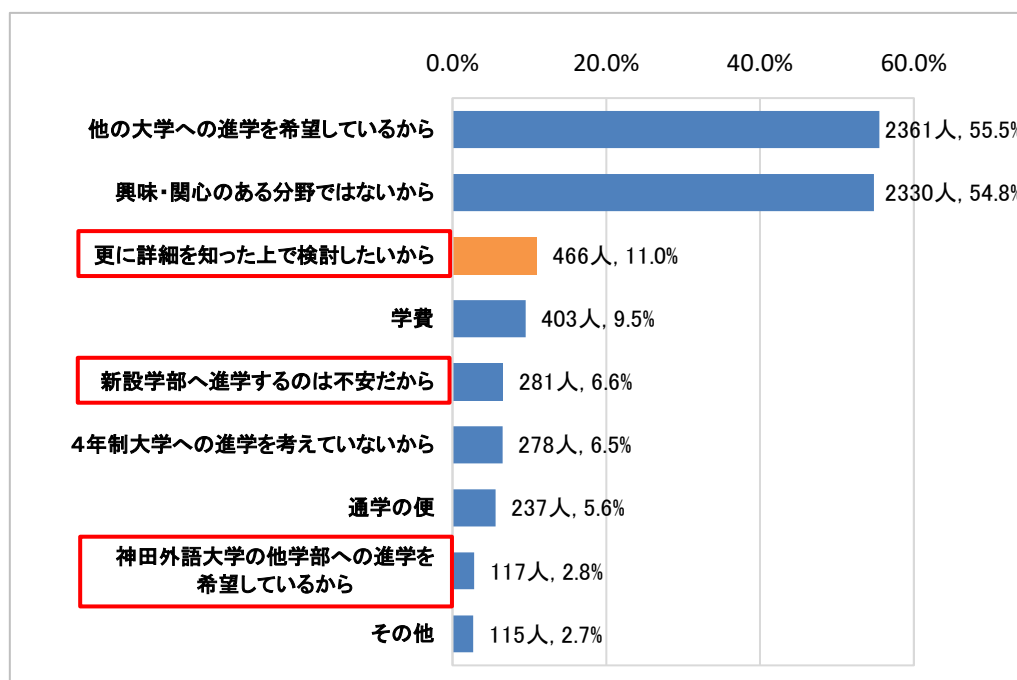
有効回答者 5,306 人のうち、神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部（仮称）を「受験したいと思わない」と回答した 4,253 人にその理由を質問したところ、55.5％にあたる 2,361 人が「他の大学への進学を希望しているから」また 2,330 人（54.8％）が、「興味・関心のある分野ではないから」と多い回答であった。

一方、各項目のうち「更に詳細を知った上で検討したいから」には 11.0％にあたる 466 人が回答していることから、一定数の受験・入学意欲を有する高校生が潜在的に存在すると考えられる。

また「新設学部へ進学するのは不安だから」は 6.6％にあたる 281 人が回答しており、更に 2.8％にあたる 117 人が「神田外語大学の他学部への進学を希望しているから」と回答しているが、神田外語大学が構想中のグローバル・リベラル学部（仮称）は、1987 年設置の外国語学部の教育・研究プログラムを基盤に発展的に進化させるものである。

今後の認知拡大に伴い、受験・入学意欲を示す高校生が増加する可能性は高いと考えられる。

【グラフ】 グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）を受験したいと思わない理由（【問 9】結果より）



※ 構成比は、「受験したいと思わない」回答者 4,253 人のうち、各項目を挙げた者の割合（複数選択）

以上の結果より、神田外語大学が 2021 年 4 月に設置構想中である
「グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）」の
学生確保の見通しについては、予定する入学定員を上回る回答を得ているため、
入学定員の確保が十分に可能であると判断できる。

以下の質問には、添付のリーフレット資料をご覧の上、お答えください。

【問6】 神田外語大学が構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）」の特色①～⑥について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（あてはまるものに○）

	グローバル・リベラルアーツ学部の特色	とても魅力を感じる	魅力を感じる	あまり魅力を感じない	全く魅力を感じない
①	1年次前期（グローバル・チャレンジ・ターム）には、国際問題や異文化を体感し、学びの動機づけを行う海外スタディ・ツアー（約4週間）が必修。				
②	3年次後期には、ニューヨーク州立大学への留学（1セメスター）が必修。更に海外ボランティア活動が推奨されている。				
③	卒業時までTOEFLスコア PBT580 (iBT92-93)を達成する英語力に加え、+1言語の運用能力を修得することが可能。				
④	入学定員60名の徹底した少人数教育。ゼミ必修で、問題解決型、アクティブ・ラーニング形式が中心の授業形態。				
⑤	人文・社会科学から数理・自然科学にわたる幅広い教養（リベラルアーツ）教育を実施。平和学や国際貢献などグローバルな事象に関する科目も多数設置されている。				
⑥	将来は国際機関やNGO、グローバル企業等で専門性を活かして活躍することを想定したカリキュラム構成。				

【問7】 あなたは神田外語大学が構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）」を受験したいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

1. 受験したいと思う → 【問8】 【問9】にお答えください。
 2. 受験したいとは思わない → 【問10】にお答えください。

以下の【問8】 【問9】は、【問7】で、1. を選択した方がお答えください。

【問8】 神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部（仮称）を「受験したいと思う」とした理由をお答えください。（あてはまるもの全てに○）

1. 興味・関心がある分野だから
 2. 新学部のコネクトに共感できるから
 3. 学びの特徴やカリキュラムに共感できるから
 4. 希望する進路や就職に近づけると思うから
 5. THE 世界大学ランキング日本版の上位大学だから
 6. 通学が便利だから
 7. 神田外語大学に良好なイメージを持っているから
 8. その他（ ）

【問9】 あなたは神田外語大学が構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）」に合格した場合、入学したいと思いますか。（あてはまるもの1つに○）

1. 入学したい
 2. 併願大学の結果によっては入学したい
 * 「2.」の方は、併願先の大学として検討中の大学があればご記入ください。（複数回答可）
 併願を検討中の大学（ ）大学（ ）

以下の【問10】は、【問7】で、2. を選択した方がお答えください。

【問10】 神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部（仮称）を「受験したいとは思わない」とした理由をお答えください。（あてはまるもの全てに○）

1. 4年制大学への進学を考えていないから
 2. 興味・関心のある分野ではないから
 3. 神田外語大学の他学部への進学を希望しているから
 4. 他の大学への進学を希望しているから
 5. 新設学部へ進学するのは不安だから
 6. 更に詳細を知った上で検討したいから
 7. 通学の便
 8. 学費
 9. その他（ ）

－アンケートは以上となります。ご協力いただきありがとうございました－

think

「世界」を考える学部

神田外語大学

2021年度
設置構想中

グローバル・リベラルアーツ学部 (仮称)

グローバル・リベラルアーツ学科

※設置計画は予定であり、内容に変更があり得ます。



言葉は世界をつなぐ平和の礎

神田外語大学

■グローバル・リベラルアーツ学部 ●グローバル・リベラルアーツ学科(2021年4月開設予定)

■外国語学部 ●英米語学科 ●アジア言語学科(中国語/韓国語/インドネシア語/ベトナム語/タイ語)

●イberoアメリカ言語学科(スペイン語/ブラジル・ポルトガル語) ●国際コミュニケーション学科(国際コミュニケーション/国際ビジネスキャリア)

グローバル・リベラルアーツ学部のめざすもの

今、世界は多くの課題を抱えています。

大国同士の通商摩擦による世界経済の混乱、温暖化に伴う気候変動や地球を破壊していく廃棄物問題など、地球全体が混迷の時代をむかえています。また宗教が異なる人々の対立によるテロや紛争も激化し、世界には、いつミサイルが飛んできてもおかしくない国も存在します。

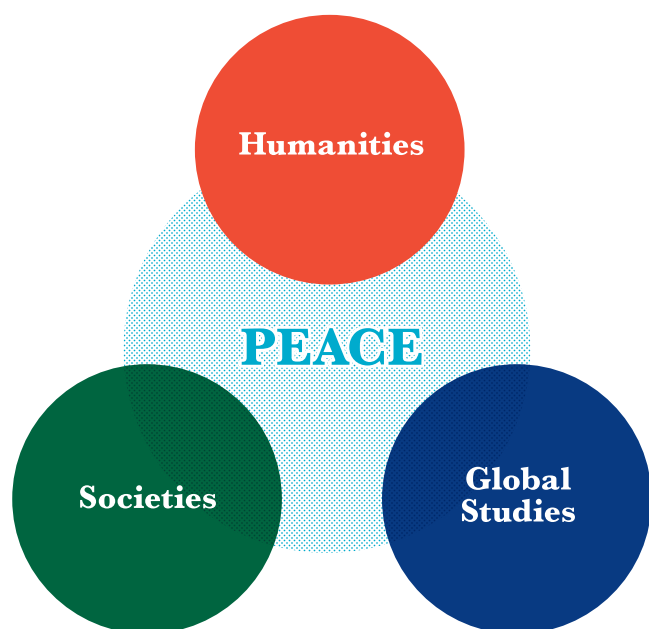
そのような、これからも激動が続くグローバル社会においても、世界の平和と繁栄のために人々の多様な価値観を深く理解し、世界の課題に対して主体的に貢献するための能力、スキル、マインドを身につけるのが本学のグローバル・リベラルアーツ学部です。

世界中の人とお互いの想いを深く共有するために必要不可欠である実践的な語学力と高いコミュニケーション力、また多角的な見方から他者や他文化を理解し尊重するための幅広い教養を併せて身につけます。

カリキュラムコンセプト

Global Liberal Arts for Peace

3つの学問領域を学び世界の平和に貢献できる力を身につけます。



少人数教育で、入学から卒業まで多彩な教員、多彩な学生と議論しながら『Humanities』『Societies』『Global Studies』の領域における国際教養科目を学習していきます。「多様性と社会」「現代社会とイノベーション」「宗教文化論」「データサイエンス」など幅広い教養を身につけ、多様な文化背景をもつ人々と協働して解決策を導き出す力を養います。

1. Humanities 人間と文化

文学、宗教、歴史、思想をはじめとした人類の様々な文化的営みについて幅広い知識を習得し、多様な世界観・価値観に対する柔軟な思考と、自己の文化を相対化して考えることのできる視点を身につけます。また、人々が古来よりこの世界や人間の幸福をどのように考えてきたのかについて学び、それらの知恵を、今これからどのように私たちの人生と社会に生かしていくことができるのかを考えます。

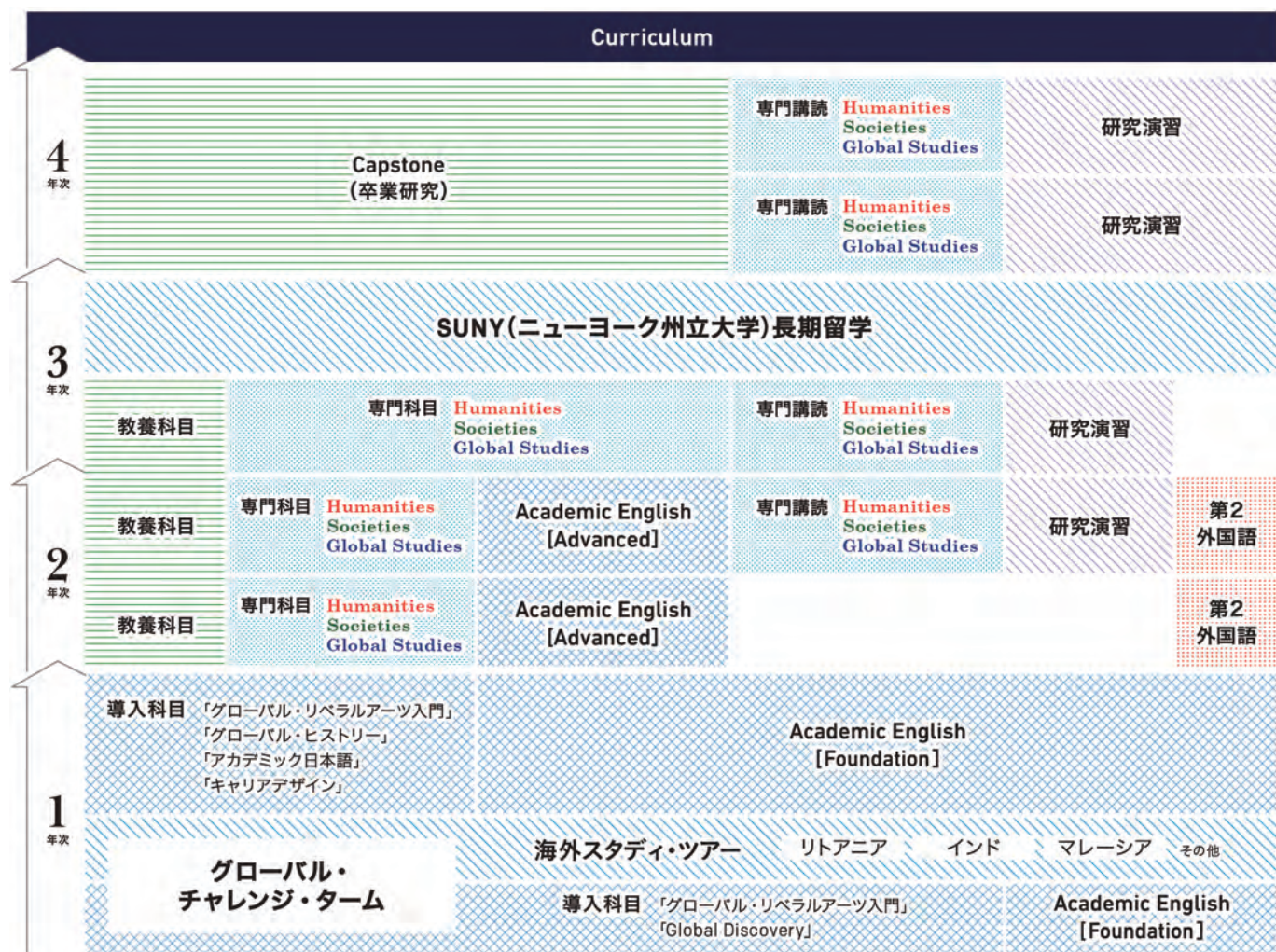
2. Societies 社会と共生

グローバル化が進み多様な人々が共生する社会となった今、相反する常識や価値観をもって社会を形成する方法論や、常識が常識でなくなったとき、社会がどのような姿を見せるのかを学びます。またAIやバーチャルリアリティ、その他の科学技術が急発展することにより社会はどのように変容するのか、社会はどのような科学技術にどう接すればいいのか等、広く学びます。

3. Global Studies グローバル・スタディーズ

国を越えて、世界全体が抱えている諸問題について、何が起きているのか、その本質を見究める力とそれを解決するための手法を学びます。国と国、国と地域がいかにして手を取り合い理想の世界を目指していけばいいのか、そのための知識・教養を身につけます。

様々な事象が複雑に絡み合った地球規模の課題解決を考えるには、幅広い分野の知識を身につける必要があります、だからこそ、リベラルアーツはこれからの時代に必要な学問なのです。



●『Introduction to Global Issues』『Media Literacy』『Global Communication』『Peace Studies』『Sustainable Development Goals』などの英語専門科目を通して英語力を磨くだけでなく、批判的思考力、効果的なコミュニケーション・スキルを身につけ、また他の学生との協働学習を通して諸問題への理解を深めながら学習を進めます。

●1年次から現地に飛び込み世界で起きていることを五感で感じ、自身の中で解決したいと考える課題を明確にし、幅広い学びの中で本質を見抜く力と自分の専門分野を明確にします。ニューヨーク州立大学群での留学を通して、様々な思考法を学び、自身で考える課題解決策を前進させ4年間で身に着けた知識や教養、問題意識、そのアプローチ方法を総動員して、自分のスタンスに基づく一つの解を導き出し、卒業研究としてまとめます。

想定される卒業後の進路

多文化共生が求められるグローバル時代において、本学の建学の理念を体現できる人材を育成していきます。高度な外国語運用能力や多分野にわたる教養を身につけ、多角的な視点で物事を捉えることができる次世代のリーダーを輩出します。外務省や国際機関、またメーカーやITベンチャーなどグローバル企業での活躍が想定されています。

- グローバル企業 ■国家公務員（国際交流担当部門） ■外務省専門職員 ■独立行政法人職員 ■国際機関職員
- NGO職員 ■マスコミ・出版 ■大学院進学

1年次グローバル・チャレンジ・ターム 海外スタディ・ツアーと 3年次ニューヨーク州立大学 (SUNY) への専門留学

1年次前期の海外スタディ・ツアーに加え、3年次後期に、State University of New York (SUNY) に1セメスター（約4ヵ月）全学生が留学。Peace StudiesやGlobal Studiesなど、現地の学生とともに勉強します。1年次前期に多様な価値観にふれ、実践を通して世の中で何が起きているかを知り、3年次後期にはニューヨーク州立大学に留学することで世界が抱える課題解決に向けて学びを深めていきます。実践と理論をとおして体系的に国際教養を身につけ、世界の平和に貢献できる人材を育成します。

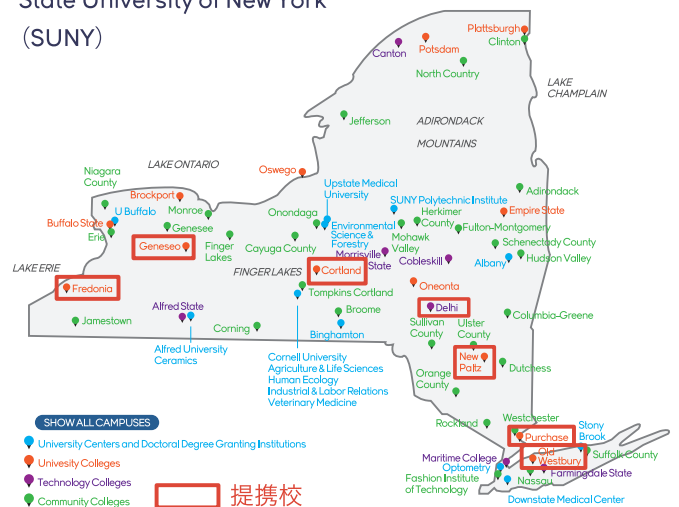
State University of New York (SUNY)

アメリカNew York州の州立大学機構。全64キャンパス、6,000以上の学科があり、40万人超の学生を有する全米有数の大学群。

グローバル・チャレンジ・タームとは



State University of New York (SUNY)



●入学定員

グローバル・リベラルアーツ学部／60名

●学費・その他納付金（予定額）

4年間／5,610,000円（給付型奨学金制度を検討しています）

※別途、留学費用がかかります。

●類似する学部・学科

東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科

獨協大学 国際教養学部 言語文化学科

法政大学 グローバル教養学部 グローバル教養学科

昭和女子大学 国際学部 国際学科



言葉は世界をつなぐ平和の礎 神田外語大学

■グローバル・リベラルアーツ学部（2021年4月開設予定）

グローバル・リベラルアーツ学科

■外国語学部 英米語学科

アジア言語学科（中国語／韓国語／インドネシア語／ベトナム語／タイ語）

イペロアメリカ言語学科（スペイン語／ブラジル・ポルトガル語）

国際コミュニケーション学科（国際コミュニケーション／国際ビジネスキャリア）

JR京葉線「海浜幕張駅」徒歩約15分／京成バス約5分

JR総武線「幕張駅」徒歩約20分、京成電鉄「京成幕張駅」徒歩約15分

JR総武線「幕張本郷駅」／京成電鉄「京成幕張本郷駅」京成バス約8分

高速バス「東京・銀座－神田外語大学」平和交通バス約40分

Access Map



神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部
グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）
設置構想に係るアンケート調査 報告書

2019 年 12 月 16 日

(株)KEI アドバンス

〒171-0022 東京都千代田区麹町 3-2

ヒューリック麹町ビル 6F

TEL 03-5276-2736

keiadvanced 2019 Printed in Japan

無断転載複写禁止・譲渡禁止

河合塾 KEIアドバンス

神田外語大学 御中

2019 年 12 月 16 日（月）

神田外語大学 新学部設置構想に係る
人材需要アンケート調査 報告書

**神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）
設置構想に係る人材需要アンケート調査 報告書**

－ C O N T E N T －

1	調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	01
2	全質問項目の集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・	03
3	集計結果のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・	11

[添付資料]

神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）	
設置構想に係る人材需要アンケート調査 WE B 調査票	22
概要（紹介用）リーフレット	24

1 調査の概要

◆調査の目的：本調査は、神田外語大学が2021年4月設置に向けて構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）」卒業生の就職における人材ニーズを、大学外の公正な第三者機関による集計・分析により測ることを目的とする。

◆調査期間：2019年10月

◆調査対象：2021年4月設置をめざすグローバル・リベラルアーツ学部（仮称）の卒業生の採用が期待できる団体として、
神田外語大学に2020年度新卒採用の求人票が届いている企業、また過去に卒業生の採用実績のある企業等から、神田外語大学のキャンパス所在地である千葉県及び東京都内を中心に、全国展している272企業・団体を対象とした。

[設置者]

選択項目	回答数	構成比
株式会社	259 件	95.2%
相互会社	3 件	1.1%
都道府県公安委員会（警察）	2 件	1.1%
共同組織金融（信用金庫等）	2 件	0.7%
官公庁	1 件	0.4%
独立行政法人	1 件	0.4%
合同会社	1 件	0.4%
特定公益増進法人	1 件	0.4%
公益社団法人	1 件	0.4%
計	272 件	100.0%

◆調査方法：調査対象とした272件の企業・団体の人事・採用担当者宛てに、神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部（仮称）の紹介リーフレット（PDF データ）を添付したWEBアンケートをEメールにて送信し、回答後返信を求めた。なおリーフレットデータはアンケート回答画面からも遷移可能な設計とした（回答企業等の記名は任意）。

◆調査内容：アンケート項目は全13問で、うち1問を記述式とした。
（「その他」回答の記述欄、及び【問11】採用可能な人数、【問12】企業・
団体名を除く）。

主な質問内容は、以下の通りである。

『企業・団体の基本情報』

『人材採用をする際に重視する点について』

『神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）の特色について
評価できる点』

『神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）の卒業生採用
見込みについて』

『神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）への要望』

◆回収件数：124件（送信件数 270件 ／ 回収率 45.9% ）

2 全質問項目の集計結果

※ 「構成比」(%)はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって合計は必ずしも 100.0%と一致しない。

3～10 ページは、アンケートで回答を得た 124 件の回答結果に基づく全質問項目の集計結果である。

◆ 貴社・貴団体についてお答えください。

【問 1】 貴社・貴団体の主業種についてお答えください。(プルダウン・単一選択)

番号	選択項目	回答数	構成比
1	建設業	2	1.6%
2	製造業	31	25.0%
3	電気・ガス・水道業	0	0.0%
4	情報通信業	10	8.1%
5	卸売・小売	32	25.8%
6	金融・保険業	2	1.6%
7	運輸・郵便業	19	15.3%
8	不動産・物品賃貸業	3	2.4%
9	その他サービス	17	13.7%
10	官公庁・自治体・公共団体	2	1.6%
11	その他 →【問 2】へお進みください。	6	4.8%
		124	100.0%

【問 2】 【問 1】で「11. その他」を選ばれた場合は、下記にご記入下さい。(自由記述)

商社 2 旅行業 1 宿泊業 1 港湾運送業 1 物流・倉庫 1

【問 3】 貴事業所の所在地（本社／本部）をお答えください。（プルダウン・単一選択）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	東京都	87	70.2%
2	埼玉県	0	0.0%
3	千葉県	19	15.3%
4	神奈川県	8	6.5%
5	その他 → 【問 4】 へお進みください。	10	8.1%
	計	124	100.0%

【問 4】 【問 1】で「11. その他」を選ばれた場合は、下記にご記入下さい。（自由記述）

大阪府 3 愛知県 2 群馬県 2 千葉県 1 新潟県 1

【問 5】 貴事業所における過去 2 年間の平均新規採用数（1 年間あたり/正規、中途含む）をお答えください。（プルダウン・単一選択）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	30 人未満	65	52.4%
2	30～100 人	45	36.3%
3	101～300 人	10	8.1%
4	301 人～500 人	2	1.6%
5	501～1,000 人	1	0.8%
6	1,001 人以上	1	0.8%
	計	124	100.0%

**【問 6】 貴事業所で人材採用の際、特に重視している点 2 つにチェックを入れてください。
(チェックボックス・複数選択)**

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ

※ 構成比は、回答 124 企業・団体のうち、当該項目を選択回答した割合

番号	選択項目	回答数	構成比
1	コミュニケーション能力	108	87.1%
2	専門知識・スキル	7	5.6%
3	基礎的な学力	17	13.7%
4	リーダーシップ	14	11.3%
5	協調性	56	45.2%
6	問題発見・解決力	33	26.6%
7	論理的思考力	21	16.9%
8	高い職業意識・倫理観	10	8.1%
9	資格取得・免許	2	1.6%
10	その他→【問 7】へお進みください	6	2.5%
	回答企業・団体数	124 件	

【問 7】 【問 6】で「10. その他」を選ばれた場合は、下記にご記入下さい。(自由記述)

柔軟性 1 入社意欲 1 語学力 1 主体性 1 チャレンジ精神・ストレス耐性 1
 ストレス耐性 1

**【問 8】 神田外語大学が構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）」の特色について評価できる点をお答えください。（あてはまるものすべてにチェックをしてください）
（チェックボックス・複数選択）**

※ 複数回答項目のため、回答数は延べ

※ 構成比は、回答 124 企業・団体のうち、当該項目を選択回答した割合

番号	選択項目	回答数	構成比
1	1 年次前期（グローバル・チャレンジ・ターム）には、国際問題や異文化を体感し、学びの動機づけを行う海外スタディ・ツアー（約 4 週間）が必修。	65	52.4%
2	3 年次後期には、ニューヨーク州立大学への留学（1 セメスター）が必修。更に海外ボランティア活動が推奨されている。	65	52.4%
3	卒業時まで TOEFL スコア PBT580（iBT92-93）を達成する英語力に加え、+1 言語の運用能力を修得することが可能。	69	55.6%
4	入学定員 60 名の徹底した少人数教育。ゼミ必修で、問題解決型、アクティブ・ラーニング形式が中心の授業形態。	81	65.3%
5	人文・社会科学から数理・自然科学にわたる幅広い教養（リベラルアーツ）教育を実施。平和学や国際貢献などグローバルな事象に関する科目も多数設置されている。	45	36.3%
6	将来は国際機関や NGO、グローバル企業等で専門性を活かして活躍することを想定したカリキュラム構成。	40	32.3%
	回答企業・団体数	124 件	

**【問 9】 神田外語大学が構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）」で養成する人材に対して、どれくらい興味がありますか？
（プルダウン・単一選択）**

番号	選択項目	回答数	構成比
1	かなり興味がある	25	20.2%
2	やや興味がある	96	77.4%
3	あまり興味がない	3	2.4%
4	興味がない	0	0.0%
	計	124	100.0%

【問 10】 神田外語大学が構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）」を卒業する学生を、採用したいと思いますか？（プルダウン・単一選択）

番号	選択項目	回答数	構成比
1	採用したい	35	28.2%
2	採用を検討したい	40	32.3%
3	採用対象になる	30	24.2%
4	どちらとも言えない	19	15.3%
	計	124	100.0%

以下は【問 10】で「1. 採用したい」「2. 採用を検討したい」「3. 採用対象になる」と回答した 105 企業・団体が回答対象である。

【問 11】 【問 10】で[1. 採用したい、2. 採用を検討したい、3. 採用対象になる]を選んだ場合は、採用可能な人数についてもお答えください。（記述）

※ 構成比は、「採用したい・採用を検討したい・採用対象になる」と回答した 105 企業・団体のうち、各回答（人数）をあげた企業・団体の割合。

※ 採用可能な人数は、〇～〇人の場合下限値を採用し、数名、未定等は 0 人でカウントした。

番号	選択項目	回答数	構成比
	1 人	31	29.5%
	1～2 人	4	3.8%
	2 人	25	23.8%
	3 人	17	16.2%
	5 人	5	4.8%
	10 人	5	4.8%
	70 人	1	1.0%
	～2 人	1	1.0%
	数名	1	1.0%
	未定	3	2.9%
	未記入	12	11.4%
		105	100.0%

	採用可能な人数 計	281 人
--	-----------	-------

【問 12】 差し支えなければ、貴社・貴団体名をご記入ください。（記述）

株式会社フジトランスコーポレーション
株式会社地域新聞社
山万株式会社
河西工業株式会社
東武トップツアーズ株式会社
株式会社法華倶楽部
株式会社レンタルのニッケン
広島建設株式会社
株式会社ミツバ
エームサービス株式会社
株式会社ファソテック
株式会社ミライト・テクノロジーズ
スターツアメニティー株式会社
ケイラインロジスティックス株式会社
株式会社共立メンテナンス
西日本鉄道株式会社 国際物流事業本部
株式会社紀文産業
Hilton Resorts Marketing Corporation
アサガミ株式会社
QVC ジャパン
ニッカ株式会社
富士電機 IT ソリューション株式会社
株式会社 NaITO
株式会社ミキモト
株式会社ヒロハマ
松田産業株式会社
太陽誘電株式会社
空港ターミナルサービス株式会社
防衛省自衛隊
株式会社前川製作所
ナラサキ産業株式会社
高砂香料工業株式会社
中川装身具工業株式会社
ワイエイシイデンコー
株式会社高山
株式会社ダイトコーポレーション
高島株式会社

株式会社ティ・アイ・ディ
岡三情報システム株式会社
三昌商事株式会社
千葉トヨペット株式会社
ジャパンシステム株式会社
株式会社協同工芸社
株式会社フローラ企画
ビー・トランセホールディングス株式会社
株式会社やます
株式会社新栄
興国インテック株式会社
日永インターナショナル株式会社
武蔵エンジニアリング株式会社
株式会社マルハニチロ物流
明治産業株式会社
株式会社ブライダルプロデュース
株式会社読売旅行
エス・エー・エス株式会社
株式会社オーバル
株式会社コングレ
日通 NEC ロジスティクス
株式会社 ロッテ
サンコーインダストリー株式会社
日鉄物流株式会社
コーンズ・グループ
コーンズ・アンド・カンパニー・リミテッド
ビューテック
菱洋エレクトロ株式会社
株式会社ザ・ギンザ
サンコーテクノ株式会社
しのはらプレスサービス株式会社
内外日東株式会社
株式会社日本ケアサプライ
株式会社 IACE トラベル
株式会社ユアソフト
株式会社千葉マツダ
横浜冷凍株式会社

（順不同）

**【問 13】 神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科(仮称・設置構想中) へのご要望がございましたら是非お書きください。
(記述)**

- 基本的な IT リテラシーを持てる人材を期待します。
- リーフレットを拝見し、「現地に飛び込み世界で起きていることを五感で感じる」という一節に強く興味を持ちました。単に語学力を磨いた学生ではなく、新しいタイプの卒業生が輩出されることを期待いたします。
- 少人数でカリキュラムもかなり濃厚なものと感じました。学生からすると乗り切るのは大変かもしれませんが、その代わり入学時点で意識の高い学生が多いのではと期待しています！
- 弊社は今後東南アジアへの街づくり展開を進めて参ります。千葉県佐倉市ユウカリが丘の開発では、住宅整備のみならず、人の生活を支える街そのものの開発から、様々なサービス企画運営まで手掛けており、街づくりを通して SDGs など世界が抱える課題を解決しようとしています。グローバル・リベラルアーツ学部(学科)で学ぶことのできる体験や視座はそんな弊社の事業にマッチし、輩出される人材は弊社の事業を加速させてくれることと期待してやみません。
- いつもお世話になっております。今の時代、どの業種でも国際感覚や国際的な知識が必要になるかと思っています。一つの国だけでなく、世界的な視野を持ったり、一つの知識だけでなく、政治・経済・観光・文化など、様々なことに興味を持てる人財が必要になると考えます。知っていることは大切ではなく、興味を持てる事。また、興味を持ったことを掘り下げて調べてみたり行動できる事。それを面倒臭がらずにスピード感を持ってできる方は、どの業種でも活躍・成長できると思います。また何かお手伝いできることがありましたらご連絡くださいませ。今後ともよろしくお願い致します。
- 単位のためではなく、ビジネスとして成立する品質のある課題解決として、課題解決授業に取り組んでいただきたいです。海外留学や海外ツアーも、ただ行ったり語学を学ぶのではなく、日本に取り入れられる日本より進んだ技術はないか？逆に日本が進出できる分野はないか？といったことを現地でキャッチしてきて欲しいです。
- いつもお世話になっております。学部の構想を拝見させていただき、よりグローバルに活躍できる学生の育成、海外への留学など学生時代に海外の文化にふれるのは非常に刺激になると思います。
- とても良いと思います。社会が求めている人材は、何事にも興味関心と疑問を持ち、それを解決しようとする行動力を持っている人だと思います。小学校からの教育、またその後の受験制度自体が暗記型の正解を求めることに重点を置いているので、幅広いものの見方と課題解決力が身につく教育は、今後社会で幅広く活躍できる人材育成に効果的だと感じます。建築や土木、製造分野を学べる視点も取り入れていただけると、国内のみならず発展途上国のインフラ問題にも興味関心を持ってくれるのではないかと思います。
- 大学 4 年間で様々な場所に赴き、見識を広め、羽ばたいていく姿が想像できます。このカリキュラムでしっかり学べば、有能な学生が育つと思います。弊社の事業部にはもったいない人材だと思います。「採用を検討したい」「1 人」とさせていただきます。
- 受け身ではなく、自分の限界を作らず、自ら発想する企画力等を養う教育を期待します。
- 世界の平和と繁栄についての価値観を身につける。という教育方針が素晴らしいと思いました。

- 外国語をツールとして、海外での異文化体験や幅広い知識を身につけられる点が魅力的だと感じました。
- 文化や価値観だけでなく、国や地域、経済や企業と学部としてフォーカスすることがとても難しい領域であるとは思いますが、国際的な視野を醸成することは今後益々重要になってくるかと思います。
- 社会人で学習したことが多く活用できる教育内容にしていきたい。
- 多方面に亘る知識の幅広い修得は、大いに評価できる。並行して平均化、画一化する学生の埋没しがちな個性や人間性教育にも力を入れていただきたいと思います。
- 全体的に良く勉強されていて知識も豊富に見える学生様が多いのですが、そのインプットに比べ、アウトプットが下手な学生様が多いと感じ、せっかくの知識や勉強した事が相手に伝わらず、もったいないな。と感じるケースがあります。グローバルな場で活躍する人材を育成する学部とイメージしておりますので、インプットだけではなくアウトプットにも注力したカリキュラムがあればと思います。
- 語学力はコミュニケーション手段として重要と認識しています。海外で活躍して頂くにはそれ以上に、ゼロ発想・チャレンジ精神・ストレス耐性・等が重要と考えています。日本企業は日本より海外の方が知名度も低く日本で働くより難易度が高いのが実情です。「海外でやりたい事」が明確でない場合、「海外で働きたい」と言う熱意だけでは障壁を乗り越えられずに挫折する方も居ます。現地の方々と同じ生活レベルで暮らす事に違和感の無いレベルまでの教育を期待します。
- 語学のできる学生は多い印象ですが、資料の作成や基礎的な数学などが苦手な学生が多い印象です。一般的な企業では国数英の試験が必須の企業もありますので語学以外の部分も怠らないようにという指導をして頂けると学生たちにとっても企業の選択の幅が広がると感じます。
- ビジネスに興味を持つ人材育成
- 空港や航空での就業に興味がある学生様がいらしたら是非ご紹介の機会などいただけると幸いです。
- 語学力のみならず、広い視野を持った人材育成が重要であります。そのためには基礎的教養と道徳力をしっかり学ぶ必要があるかと思います。また、グローバル的視点を教育の軸に置かれるのは良いと思いますが、その前に、日本、あるいは日本人についての学びが必要であると考えます。まずは、自分の国、自分たち自身をしっかりと確認（自覚）した上で、国際的視点を持つことが大事だと思います。
- 自ら学びたい学生に、学びの場や、機会を与えるには、良い学科だと思います。外国語を話せる・書けることではなく、語学を何に生かしたいか、どう生かしたいかを学べる学科になっていただきたいと思います。
- 問10について、自社の事業の方向性とグローバル・リベラルアーツ学部で学ぶ学生が希望する方向性が重なるかどうか、学生によるかと思われますが人材の観点だけでいうと是非採用の方向で検討したいです。

3 集計結果のポイント

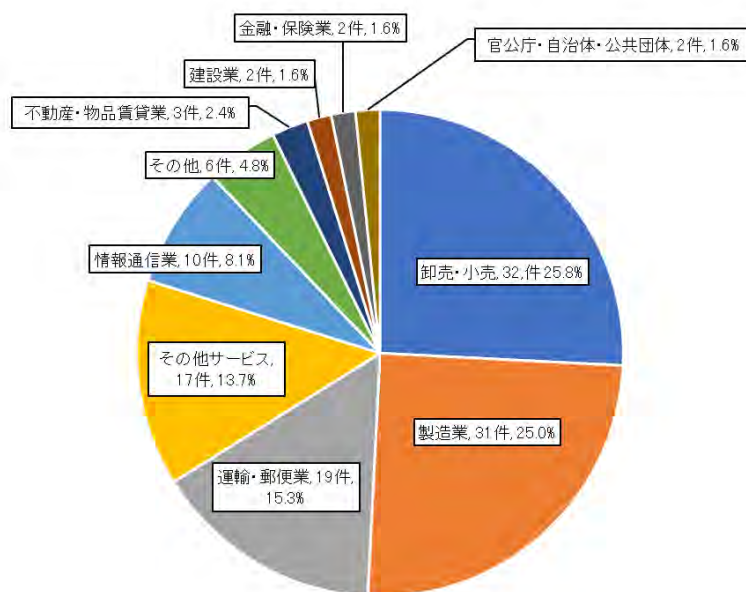
※ 「構成比」(%)はいずれも、小数第二位を四捨五入。よって合計は必ずしも 100.0%と一致しない。

- 回答企業は「卸売・小売業」「製造業」を中心に多業種にわたる。

回答を得た 124 件のうち、卸売・小売業が 32 件 (25.8%)、続いて製造業が 31 件 (25.0%)、運輸・郵便業 19 件 (15.3%)、その他サービス業 17 件 (13.7%) 等であった。

また情報通信業、不動産・物品賃貸業、建設業、金融・保険業等からも回答があり、回答企業・団体の主業種は多岐にわたっている。

〔グラフ〕 回答事業所の主業種 (【問1】【問2】結果より)



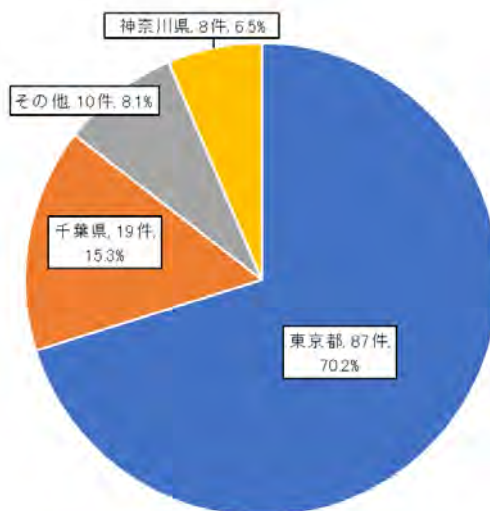
● 回答のあった企業・団体の約7割は東京都、9割以上が首都圏による構成。

回答を得た124件のうち、87件（70.2%）は東京都内に所在または東京都内に本社・本部が所在する企業・団体である。

次いで千葉県（19件、15.3%）、神奈川県（8件、6.5%）に所在する企業・団体が続き、全体の114件（95.0%）は首都圏（1都3県）に所在する企業・団体である。

その他10件（8.1%）は、大阪府、愛知県、群馬県、新潟県等に所在の企業・団体であった（→P. 4）。

【グラフ】 回答事業所の所在地 （【問3】【問4】結果より）



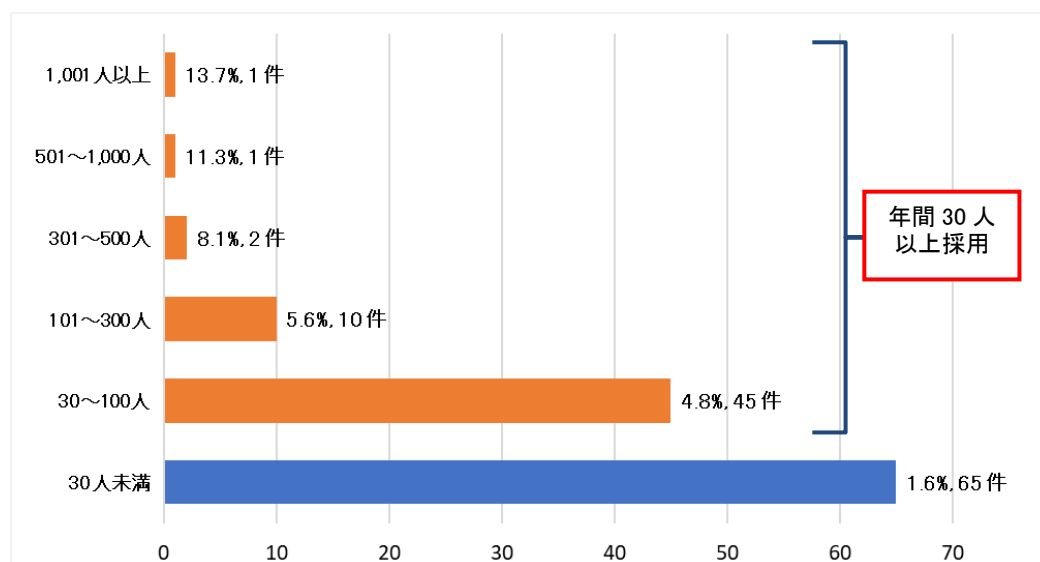
● 回答企業・団体の約半数は「年間 30 人以上」の新規採用実績あり。

回答を得た 124 件（企業・団体）の過去 2 年間の平均的な新規採用数（正規・中途含む／1 年間あたり）は、「30 人未満」が最多で、回答の約半数（52.4%）を占めている。

一方で 30 人以上 採用実績のある企業・団体も 59 件と全体の半数（47.6%）に上る。

企業・団体の業種や規模、業績等にもよるが、全体的に積極的な採用姿勢がうかがえる。

【グラフ】 回答事業所の過去 2 年間の平均新規採用数 （【問 5】結果より）

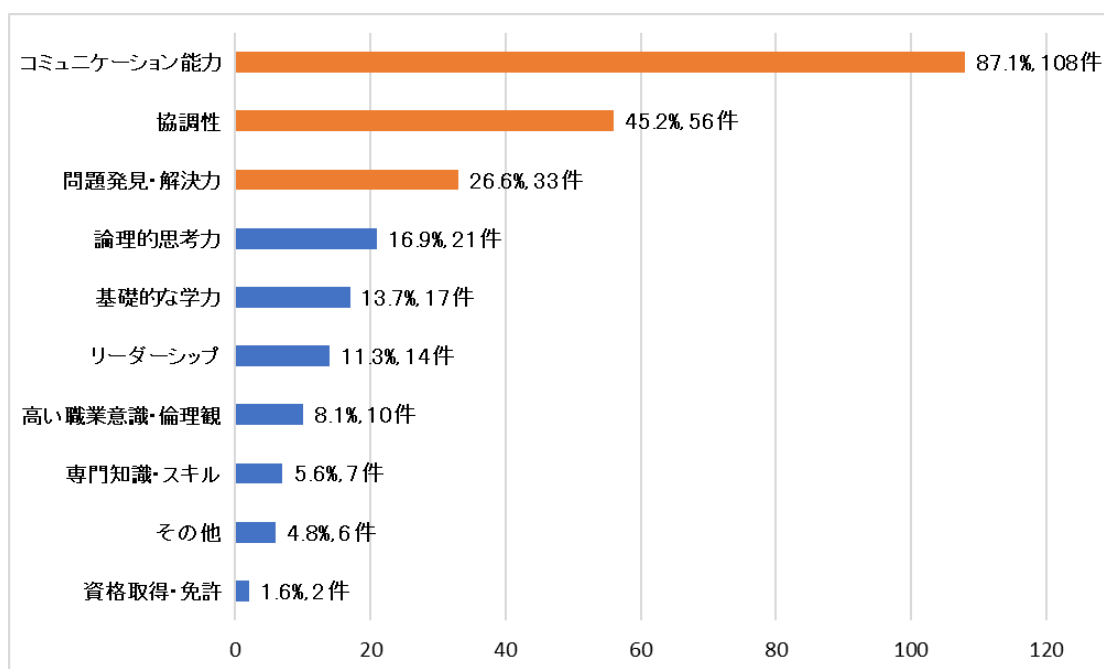


● 人材採用時は「コミュニケーション能力」「協調性」を重視。

人材を採用する際に特に重視するものとして、9 割近くの企業・団体が「コミュニケーション能力」と回答した（108 件，87.1%）。同様に約 4 割以上が「協調性」を重視すると回答している。

神田外語大学が設置を構想しているグローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）のカリキュラムは、とりわけコミュニケーション能力、協調性、課題発見・解決能力の修得を重視したコンセプトとなっており、回答企業・団体が人材採用時に重視している項目と親和性が高い（→15 ページ、巻末リーフレット参照）。

【グラフ】 人材採用の際に重視している点（【問 6】結果より）※ 2 項目選択、回答数が多い順



(参考)

神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）
カリキュラムコンセプト

世界中の人とお互いの想いを深く共有するために必要不可欠である実践的な語学力と <u>高いコミュニケーション力</u> 、また多角的な見方から他者や他文化を理解し尊重するための幅広い教養を併せて身につけます。
国を越えて、世界全体が抱えている諸問題について、今 何が起きているのか、その <u>本質を見究める力</u> とそれを <u>解決するための手法</u> を学びます。国と国、国と地域がいかにして手を取り合い理想の世界を目指していけばよいのか、そのための知識・教養を身につけます。
少人数教育で、入学から卒業まで多彩な教員、 <u>多彩な学生と議論</u> しながら「Humanities」「Societies」「Global Studies」の領域における国際教養科目を学習していきます。「多様性と社会」「現代社会とイノベーション」「宗教文化論」「データサイエンス」など幅広い教養を身につけ、 <u>多様な文化背景をもつ人々と協働して解決策を導き出す力</u> を養います。
様々な事象が複雑に絡み合った <u>地球規模の課題解決を考える</u> には、幅広い分野の知識を身につける必要があります、だからこそ、リベラルアーツはこれからの時代に必要な学問なのです。
英語力を磨くだけではなく、批判的思考力、 <u>効果的なコミュニケーション・スキル</u> を身につけ、また他の学生との協働学習を通して諸問題への理解を深めながら学習を進めます。
ニューヨーク州立大学群での留学を通して、様々な思考法を学び、 <u>自身で考える課題解決策を前進</u> させ4年間で身につけた知識や教養、問題意識、そのアプローチ方法を動員して、自分のスタンスに基づく一つの解を導き出し、卒業研究としてまとめます。

（新学部 紹介リーフレットより引用）

● 企業・団体は「少人数」「問題解決型」「アクティブ・ラーニング」を評価。

神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）の特色のうち、最も評価されている内容は「入学定員 60 名の徹底した少人数教育。ゼミ必修で、問題解決型、アクティブ・ラーニング形式が中心の授業形態」であり、6 割以上の企業・団体が支持、評価した。（81 件、65.3%）

また「英語力＋1 言語の運用能力修得」（69 件、55.6%）、「海外スタディツアー（グローバル・チャレンジターム／1 年次後期）」（65 件、52.4%）、「ニューヨーク州立大学への留学（3 年次後期）」（65 件、52.4%）が続いており、それぞれ半数以上の企業・団体から支持、評価を得ている。

以上より、グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）卒業生の『少人数のアクティブ・ラーニングで培われた問題解決力』『確かな語学運用能力』『複数回の海外経験』への評価と期待が特に高いことをうかがわせる。

【グラフ】 神田外語大学が構想中の新学部の特色で評価できる点（【問 8】結果より）
※複数回答の結果、回答数が多い順

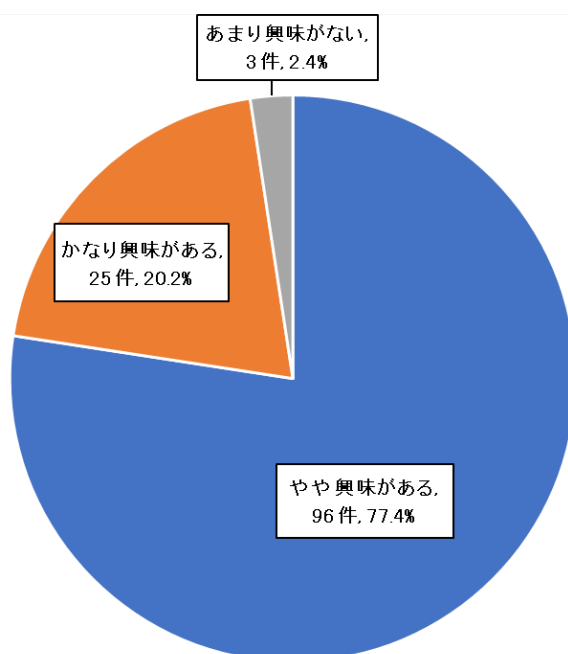


● 98%以上の企業・団体が、神田外語大学 新学部の養成する人材に興味を示す。

神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）が養成する人材に対して約2割が「かなり興味がある」（25件、20.2%）と回答した。

また全体の約8割が「やや興味がある」（96件、77.4%）と回答しており、回答企業・団体の98%以上がグローバル・リベラルアーツ学部（仮称）の養成する人材に興味を示している。

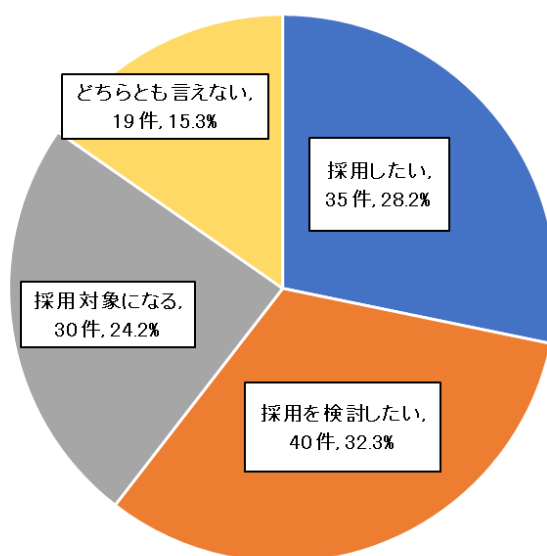
【グラフ】 神田外語大学が構想中の新学部が養成する人材への興味（【問9】結果より）



● 105 企業・団体（回答企業の約 85％）が採用意欲を示す。

神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）が養成する人材に対して「採用したい」に 35 件（28.2%）、「採用を検討したい」に 40 件（32.3%）、「採用対象になる」に 30 件（24.2%）が回答しており、合計で 84.7%にあたる 105 の企業・団体が採用意欲を示した。

【グラフ】 神田外語大学が構想中の新学部で養成する人材への採用意欲（【問 10】結果より）



● 新学部卒業生の採用可能人数は、281 人(入学定員の 4.7 倍)

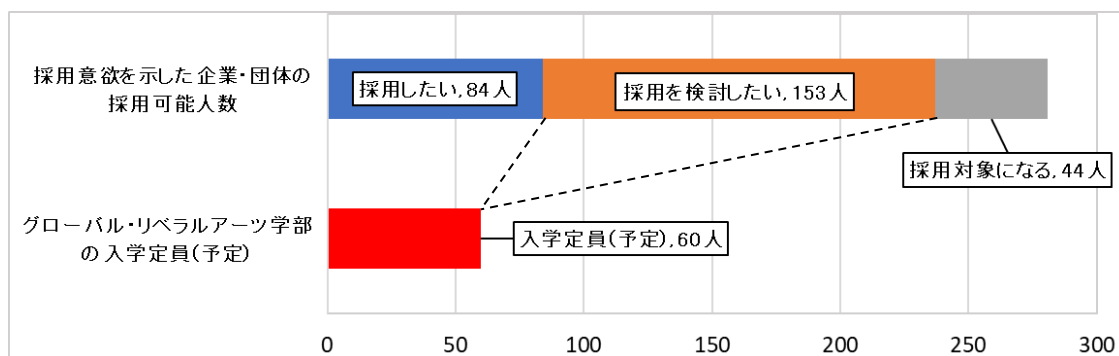
採用意欲を示した 105 件のうち、卒業生の具体的な採用可能人数を示した企業・団体は 88 件あり、採用可能人数の合計は 281 人（入学予定定員人の 4.7 倍）となった。

上記のうち「採用したい」と回答した 35 の企業・団体のみに限定して採用可能人数を集計した場合も、採用可能人数は 84 人となり、神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）の予定入学定員（60 人）を上回る結果（予定入学定員数の 1.4 倍）が得られた。

【表】 神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）卒業生の採用可能人数（【問 7】結果より）

採用可能 人数	採用したい		採用を検討したい		採用対象になる		計	
	回答数	合計人数	回答数	合計人数	回答数	合計人数	回答数	合計人数
1 人	9 件	9 人	14 件	14 人	12 件	12 人	31 件	35 人
2 人	8 件	16 人	9 件	18 人	8 件	16 人	25 件	50 人
3 人	8 件	24 人	7 件	21 人	2 件	6 人	17 件	51 人
5 人	5 件	25 人					5 件	25 人
10 人	1 件	10 人	3 件		1 件	10 人	5 件	50 人
70 人			1 件				1 件	70 人
小計	31 件	84 人	34 件	153 人	23 件	44 人	88 件	281 人
無記入・無効	4 件	0 人	6 件	0 人	7 件	0 人	12 件	0 人
総計	35 件	84 人	40 件	153 人	30 件	44 人	105 件	281 人

※ 採用可能な人数が〇～〇人の場合、下限値を採用し、また数名、未定等は「無効」、「0 人」でカウントした。



●「課題解決力」「異文化体験」「幅広い知識」「国際的な視野」を持つ人材育成に期待。

今回のアンケートで回答企業・団体に神田外語大学が構想中のグローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）についての要望（記述）を求めたところ、「アウトプット教育の充実」「語学＋αの汎用的能力」「基礎的教養と道德心」「日本（人）を自覚した上での国際的視点」等の更なる充実を望む声を得られた。

一方、「少人数の濃厚なカリキュラム」、「幅広いものの見方と課題解決力が身につく教育」、「海外での異文化体験や幅広い知識の修得」、「国際的な視野の醸成」等の評価・期待する声が多様な分野の企業・団体から寄せられており、グローバル・リベラルアーツ学部の特色や専門性に対する期待の大きさをうかがわせる結果となっている。

【資料】 神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）への要望（【問 13】引用・抜粋）

- 全体的に良く勉強されていて知識も豊富に見える学生様が多いのですが、グローバルな場で活躍する人材を育成する学部とイメージしておりますので、インプットだけではなくアウトプットにも注力したカリキュラムがあればと思います。（東京都／製造業）
- 語学力はコミュニケーション手段として重要と認識しています。海外で活躍して頂くにはそれ以上に、ゼロ発想・チャレンジ精神・ストレス耐性・等が重要と考えています。（東京都／製造業）
- 語学力のみならず、広い視野を持った人材育成が重要であります。そのためにも基礎的教養と道徳力をしっかりと学ぶ必要があるかと思えます。また、グローバルの視点を教育の軸に置かれるのは良いと思いますが、その前に、日本、あるいは日本人についての学びが必要であると考えます。まずは、自分の国、自分たち自身をしっかりと確認（自覚）した上で、国際的視点を持つことが大事だと思います。
- リーフレットを拝見し、「現地に飛び込み世界で起きていることを五感で感じる」という一節に強く興味を持ちました。単に語学力を磨いた学生ではなく、新しいタイプの卒業生が輩出されることを期待いたします。（東京都／情報通信業）
- 少人数でカリキュラムもかなり濃厚なものと感じました。学生からすると乗り切るのは大変かもしれませんが、その代わり入学時点で意識の高い学生が多いのではと期待しています！（千葉県／運輸・郵便業）
- 弊社は今後東南アジアへの街づくり展開を進めて参ります。住宅整備のみならず、人の生活を支える街そのものの開発から、様々なサービス企画運営まで手掛けており、街づくりを通して SDGs など世界が抱える課題を解決しようとしています。グローバル・リベラルアーツ学部(学科)で学ぶことのできる体験や視座はそんな弊社の事業にマッチし、輩出される人材は弊社の事業を加速させてくれることと期待してやみません。（千葉県／不動産・物品賃貸業）
- 単位のためではなく、ビジネスとして成立する品質のある課題解決として、課題解決授業に取り組んでいただきたいです。（千葉県／製造業）

- とても良いと思います。社会が求めている人材は、何事にも興味関心と疑問を持ち、それを解決しようとする行動力を持っている人だと思います。幅広いものの見方と課題解決力が身につく教育は、今後社会で幅広く活躍できる人材育成に効果的だと感じます。（千葉県／製造業）
- 外国語をツールとして、海外での異文化体験や幅広い知識を身につけられる点が魅力的だと感じました。（東京都／製造業）
- 大学４年間で様々な場所に赴き、見識を広め、羽ばたいていく姿が想像できます。このカリキュラムでしっかり学べば、有能な学生が育つと思います。（東京都／建設業）
- 空港や航空での就業に興味がある学生様がいらしたら是非ご紹介の機会などいただけると幸いです。（千葉県／その他サービス業）
- 文化や価値観だけでなく、国や地域、経済や企業と学部としてフォーカスすることがとても難しい領域であるとは思いますが、国際的な視野を醸成することは今後益々重要になってくるかと思います。（東京都／運輸・郵便業）

以上の結果より、神田外語大学が2021年4月に設置構想中である、
「グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）」
については、予定する入学定員（60名）を上回る企業・団体からの採用意欲を得たため
人材需要の見通しは問題ないと判断できる。

新学部設置構想に係る人材需要アンケート

神田外語大学では、2021年度にグローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）の設置を構想しています。つきましてはアンケート調査を通して、将来卒業生の採用をご検討いただく皆様からのご意見を賜り、新学部・学科の構想に反映させていただきたいと考えております。アンケート内容は無記名方式での実施となり、個人または事業所・団体等の特定につながる集計は一切行いません。アンケート結果につきましては、学部の改組構想に係る統計資料及び文部科学省への提出書類としてのみ活用させていただきます（ご協力いただいた企業名を含む場合がございます）。

以上の趣旨を踏まえ、アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

神田外語大学 学長 宮内孝久

※問8以降の質問には、必ず下記の【グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）】のリーフレットをご一読いただき、お答えください。

[グローバル・リベラルアーツ学部（仮称）リーフレット](#)

情報入力

確認

送信完了

◆貴社・貴団体についてお答えください。

【問1】 貴事業所の主業種についてお答え下さい。

必須

選択してください

選択してください

- 1. 建設業
- 2. 製造業
- 3. 電気・ガス・熱供給・水道業
- 4. 情報通信業
- 5. 卸売・小売
- 6. 金融・保険業
- 7. 運輸・郵便業
- 8. 不動産・物品賃貸業
- 9. その他サービス
- 10. 官公庁・自治体・公共団体
- 11. その他 → 【問2】へお進みください。

【問2】 【問1】で[11. その他]を選ばれた場合は、下記にご記入下さい。

【問3】 貴事業所の所在地（本社/本部）をお答えください。

必須

選択してください

選択してください

- 1. 東京都
- 2. 埼玉県
- 3. 千葉県
- 4. 神奈川県
- 5. その他 → 【問4】へお進みください。

【問4】 【問3】で[5. その他]を選ばれた場合は貴事業所の所在地の都道府県名をご記入下さい。

【問5】 貴事業所における過去2年間の平均新規採用数（1年間あたり/正規、中途含む）をお答えください。

必須

選択してください

選択してください

- 1. 30人未満
- 2. 30～100人
- 3. 101～300人
- 4. 301～500人
- 5. 501～1,000人
- 6. 1,001人以上

【問6】 貴事業所で人材採用の際、特に重視している点2つにチェックを入れてください。

必須

☐ 1. コミュニケーション能力 ☐ 2. 専門知識・スキル ☐ 3. 基礎的な学力

☐ 4. リーダーシップ ☐ 5. 協調性 ☐ 6. 問題発見・解決力 ☐ 7. 論理的思考力

☐ 8. 高い職業意識・倫理観 ☐ 9. 資格取得・免許 ☐ 10. その他 → 【問7】へお進みください

注）2つの項目にチェックをお願いします。

【問7】 【問6】 で[10. その他]を選ばれた場合はこちらへご記入下さい。

【問8】 神田外語大学が構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）」の特色について評価できる点をお答えください。（あてはまるものすべてにチェックをしてください）

必須

- ☐ 1. 1年次前期（グローバル・チャレンジ・ターム）には、国際問題や異文化を体感し、学びの動機づけを行う海外スタディ・ツアー（約4週間）が必修。
- ☐ 2. 3年次後期には、ニューヨーク州立大学への留学（1セメスター）が必修。更に海外ボランティア活動が推奨されている。
- ☐ 3. 卒業時までにはTOEFLスコア PBT580（iBT92-93）を達成する英語力に加え、+1言語の運用能力を修得することが可能。
- ☐ 4. 入学定員60名の徹底した少人数教育。ゼミ必修で、問題解決型、アクティブ・ラーニング形式が中心の授業形態。
- ☐ 5. 人文・社会科学から数理・自然科学にわたる幅広い教養（リベラルアーツ）教育を実施。平和学や国際貢献などグローバルな事象に関する科目も多数設置されている。
- ☐ 6. 将来は国際機関やNGO、グローバル企業等で専門性を活かして活躍することを想定したカリキュラム構成。

（あてはまるものすべてにチェックをしてください）

【問9】 神田外語大学が構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）」で養成する人材に対して、どれくらい興味がありますか？

必須

選択してください

選択してください

選択してください

1. かなり興味がある
2. やや興味がある
3. あまり興味がない
4. 興味がない

【問10】 神田外語大学が構想中の「グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科（仮称）」を卒業する学生を、採用したいと思いますか？

必須

選択してください

選択してください

選択してください

1. 採用したい→【問11】の質問にもお答えください
2. 採用を検討したい→【問11】の質問にもお答えください
3. 採用対象になる→【問11】の質問にもお答えください
4. どちらとも言えない
5. 採用したくない

【問11】 【問10】 で[1. 採用したい、2. 採用を検討したい、3. 採用対象になる]を選んだ場合は、採用可能な人数についてもお答えください。

人

（回答欄には採用可能な人数の数字のみご記入ください。実際の採用計画とは異なります。）

【問12】 差し支えなければ、貴社・貴団体名をご記入ください。

※個人または事業所・団体等の特定につながる集計は一切行いません（報告書等には、ご協力いただいた企業名を含む場合がございます）。

【問13】 神田外語大学 グローバル・リベラルアーツ学部 グローバル・リベラルアーツ学科（仮称・設置構想中）へのご要望がございましたら是非お書きください。

think

「世界」を考える学部

神田外語大学

2021年度
設置構想中

グローバル・リベラルアーツ学部 (仮称)

グローバル・リベラルアーツ学科

※設置計画は予定であり、内容に変更があり得ます。



言葉は世界をつなぐ平和の礎

神田外語大学

■グローバル・リベラルアーツ学部 ●グローバル・リベラルアーツ学科 (2021年4月開設予定)

■外国語学部 ●英米語学科 ●アジア言語学科 (中国語/韓国語/インドネシア語/ベトナム語/タイ語)

●イberoアメリカ言語学科 (スペイン語/ブラジル・ポルトガル語) ●国際コミュニケーション学科 (国際コミュニケーション/国際ビジネスキャリア)

グローバル・リベラルアーツ学部のめざすもの

今、世界は多くの課題を抱えています。

大国同士の通商摩擦による世界経済の混乱、温暖化に伴う気候変動や地球を破壊していく廃棄物問題など、地球全体が混迷の時代をむかえています。また宗教が異なる人々の対立によるテロや紛争も激化し、世界には、いつミサイルが飛んできてもおかしくない国も存在します。

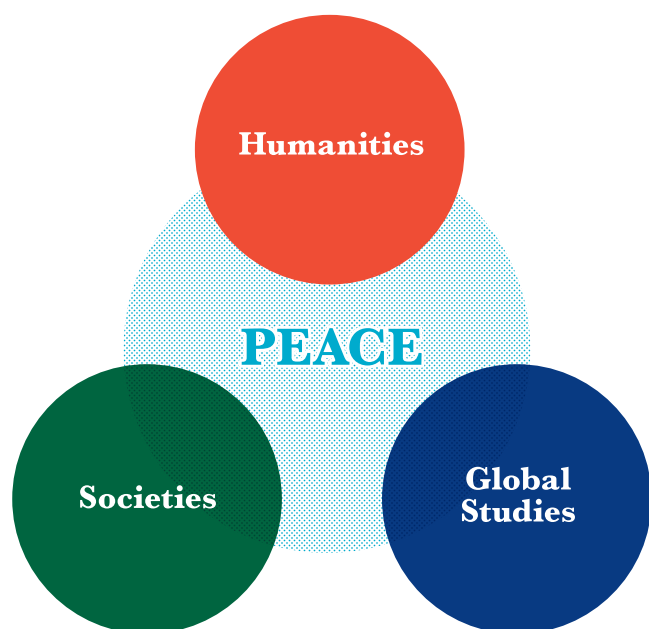
そのような、これからも激動が続くグローバル社会においても、世界の平和と繁栄のために人々の多様な価値観を深く理解し、世界の課題に対して主体的に貢献するための能力、スキル、マインドを身につけるのが本学のグローバル・リベラルアーツ学部です。

世界中の人とお互いの想いを深く共有するために必要不可欠である実践的な語学力と高いコミュニケーション力、また多角的な見方から他者や他文化を理解し尊重するための幅広い教養を併せて身につけます。

カリキュラムコンセプト

Global Liberal Arts for Peace

3つの学問領域を学び世界の平和に貢献できる力を身につけます。



少人数教育で、入学から卒業まで多彩な教員、多彩な学生と議論しながら『Humanities』『Societies』『Global Studies』の領域における国際教養科目を学習していきます。「多様性と社会」「現代社会とイノベーション」「宗教文化論」「データサイエンス」など幅広い教養を身につけ、多様な文化背景をもつ人々と協働して解決策を導き出す力を養います。

1. Humanities 人間と文化

文学、宗教、歴史、思想をはじめとした人類の様々な文化的営みについて幅広い知識を習得し、多様な世界観・価値観に対する柔軟な思考と、自己の文化を相対化して考えることのできる視点を身につけます。また、人々が古来よりこの世界や人間の幸福をどのように考えてきたのかについて学び、それらの知恵を、今これからどのように私たちの人生と社会に生かしていくことができるのかを考えます。

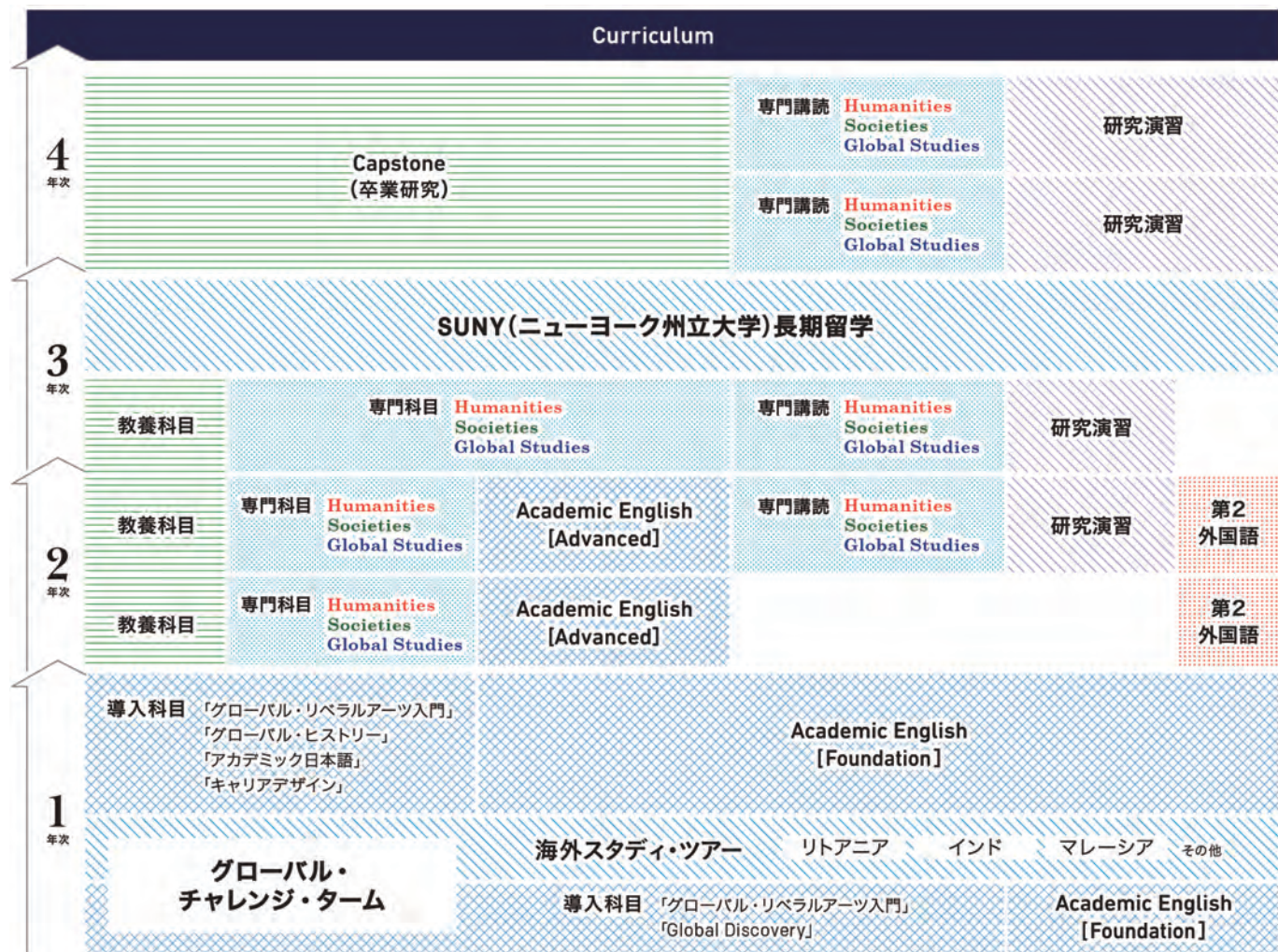
2. Societies 社会と共生

グローバル化が進み多様な人々が共生する社会となった今、相反する常識や価値観をもって社会を形成する方法論や、常識が常識でなくなったとき、社会がどのような姿を見せるのかを学びます。またAIやバーチャルリアリティ、その他の科学技術が急発展することにより社会はどのように変容するのか、社会はどのような科学技術にどう接すればいいのか等、広く学びます。

3. Global Studies グローバル・スタディーズ

国を越えて、世界全体が抱えている諸問題について、何が起きているのか、その本質を見究める力とそれを解決するための手法を学びます。国と国、国と地域がいかにして手を取り合い理想の世界を目指していけばいいのか、そのための知識・教養を身につけます。

様々な事象が複雑に絡み合った地球規模の課題解決を考えるには、幅広い分野の知識を身につける必要があります、だからこそ、リベラルアーツはこれからの時代に必要な学問なのです。



●『Introduction to Global Issues』『Media Literacy』『Global Communication』『Peace Studies』『Sustainable Development Goals』などの英語専門科目を通して英語力を磨くだけでなく、批判的思考力、効果的なコミュニケーション・スキルを身につけ、また他の学生との協働学習を通して諸問題への理解を深めながら学習を進めます。

●1年次から現地に飛び込み世界で起きていることを五感で感じ、自身の中で解決したいと考える課題を明確にし、幅広い学びの中で本質を見抜く力と自分の専門分野を明確にします。ニューヨーク州立大学群での留学を通して、様々な思考法を学び、自身で考える課題解決策を前進させ4年間で身に着けた知識や教養、問題意識、そのアプローチ方法を総動員して、自分のスタンスに基づく一つの解を導き出し、卒業研究としてまとめます。

想定される卒業後の進路

多文化共生が求められるグローバル時代において、本学の建学の理念を体現できる人材を育成していきます。高度な外国語運用能力や多分野にわたる教養を身につけ、多角的な視点で物事を捉えることができる次世代のリーダーを輩出します。外務省や国際機関、またメーカーやITベンチャーなどグローバル企業での活躍が想定されています。

■グローバル企業 ■国家公務員（国際交流担当部門） ■外務省専門職員 ■独立行政法人職員 ■国際機関職員
■NGO職員 ■マスコミ・出版 ■大学院進学

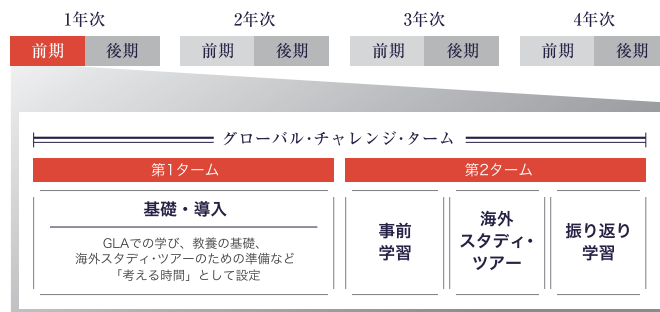
1年次グローバル・チャレンジ・ターム 海外スタディ・ツアーと 3年次ニューヨーク州立大学 (SUNY) への専門留学

1年次前期の海外スタディ・ツアーに加え、3年次後期に、State University of New York (SUNY) に1セメスター（約4ヵ月）全学生が留学。Peace StudiesやGlobal Studiesなど、現地の学生とともに勉強します。1年次前期に多様な価値観にふれ、実践を通して世の中で何が起きているかを知り、3年次後期にはニューヨーク州立大学に留学することで世界が抱える課題解決に向けて学びを深めていきます。実践と理論をとおして体系的に国際教養を身につけ、世界の平和に貢献できる人材を育成します。

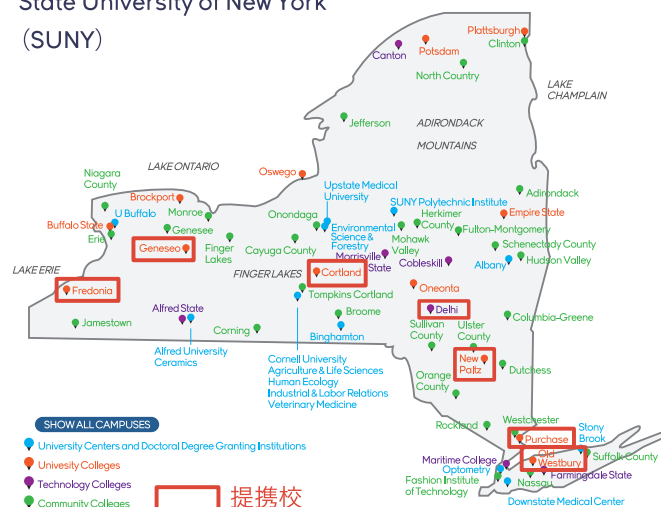
State University of New York (SUNY)

アメリカNew York州の州立大学機構。全64キャンパス、6,000以上の学科があり、40万人超の学生を有する全米有数の大学群。

グローバル・チャレンジ・タームとは



State University of New York (SUNY)



●入学定員

グローバル・リベラルアーツ学部／60名

●学費・その他納付金（予定額）

4年間／5,610,000円（給付型奨学金制度を検討しています）

※別途、留学費用がかかります。

●類似する学部・学科

東洋大学 国際学部 グローバル・イノベーション学科

獨協大学 国際教養学部 言語文化学科

法政大学 グローバル教養学部 グローバル教養学科

昭和女子大学 国際学部 国際学科



言葉は世界をつなぐ平和の礎 神田外語大学

■グローバル・リベラルアーツ学部（2021年4月開設予定）

グローバル・リベラルアーツ学科

■外国語学部 英米語学科

アジア言語学科（中国語／韓国語／インドネシア語／ベトナム語／タイ語）

イペロアメリカ言語学科（スペイン語／ブラジル・ポルトガル語）

国際コミュニケーション学科（国際コミュニケーション／国際ビジネスキャリア）

JR京葉線「海浜幕張駅」徒歩約15分／京成バス約5分

JR総武線「幕張駅」徒歩約20分、京成電鉄「京成幕張駅」徒歩約15分

JR総武線「幕張本郷駅」／京成電鉄「京成幕張本郷駅」京成バス約8分

高速バス「東京・銀座－神田外語大学」平和交通バス約40分

Access Map



神田外語大学新学部設置構想に係る
人材需要アンケート調査 報告書

2019 年 12 月 16 日

(株)KEI アドバンス

〒171-0022 東京都千代田区麹町 3-2

ヒューリック麹町ビル 6F

TEL 03-5276-2736

keiadvanced 2019 Printed in Japan

無断転載複写禁止・譲渡禁止

河合塾 KEIアドバンス

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
25	学長	ミヤウチ タカヒサ 宮内 孝久 ＜平成30年4月＞		学士 (法学)		神田外語大学 学長 (平成30.4～令和4.3)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等													
（グローバル・リベラルアーツ学部グローバル・リベラルアーツ学科）													
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
1	専	教授 (学部長)	ロバート デシルバ Robert DeSilva ＜令和3年4月＞		MA in Linguistics ※ (米国)		English for Academic Purposes (a) English for Academic Purposes (b) グローバル・ディスカバ リー I グローバル・ディスカバ リー II グローバル・ディスカバ リー (フィールドワーク)	1前 1後 1前① 1前② 1前②		2 2 1 1 4	1 1 1 1 1	神田外語大学 外国語学部 教授 (S62.4)	3日
2	専	教授	コウロギイチロウ 興梠 一郎 ＜令和3年4月＞		修士 (国際学)		グローバル・リベラル アーツ入門Ⅱ※ 地域とグローバル世界Ⅰ 講読(GS) (地域とグロー バル世界) 研究演習Ⅰ 研究演習Ⅱ 研究演習Ⅲ 卒業研究 (キャップス トーン・プロジェクト)	1後 2・3・4前 2後3前4前後 2後 3前 4通 4通		0.3 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	神田外語大学 外国語学部 教授 (H3.4)	3日
3	専	教授	サカタ ヤスヨ 阪田 恭代 ＜令和3年4月＞		修士※ (法学)		グローバル・リベラル アーツ入門Ⅱ※ グローバル平和論 講読(GS) (グローバル平 和論) 研究演習Ⅰ 研究演習Ⅱ 研究演習Ⅲ 卒業研究 (キャップス トーン・プロジェクト)	1後 2・3・4前 2・4後 2後 3前 4通 4通		0.4 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	神田外語大学 外国語学部 教授 (H10.4)	3日
4	専	教授	ジョアン マイナード Joanne Mynard ＜令和3年4月＞		Doctor of Education (英国)		Self-Directed Learning English for GLAⅠ (Introduction to Global Issues)	1前 2前		1 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 教授 (H20.4)	3日
5	専	教授	パーク シウォン Park Siwon ＜令和3年4月＞		Ph. D. in Second Language Acquisition (米国)		English for Academic Purposes (a) English for Academic Purposes (b) Advanced Writing (a) Advanced Writing (b) グローバル・リベラル アーツ入門Ⅱ※ 言語・文化とコミュニ ケーション 講読(SOC) (言語・文化 とコミュニケーション) 研究演習Ⅰ 研究演習Ⅱ 研究演習Ⅲ 卒業研究 (キャップス トーン・プロジェクト)	1前 1後 2前 2後 1後 2・4後 3・4前 2後 3前 4通 4通		2 2 2 2 0.3 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	神田外語大学 外国語学部 教授 (H17.9)	3日
6	専	准教授	イシイ マサアキ 石井 雅章 ＜令和3年4月＞		博士 (学術)		グローバル・リベラル アーツ入門Ⅰ※ グローバル・リベラル アーツ入門Ⅱ※ 数的思考法 デジタル・シチズンシッ プ論 現代社会とイノベーション 講読(SOC) (現代社会と イノベーション) 研究演習Ⅰ 研究演習Ⅱ 研究演習Ⅲ 卒業研究 (キャップス トーン・プロジェクト)	1前① 1後 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・4後 2後 3前 4通 4通		0.1 0.3 2 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	神田外語大学 グローバル教育センター 准教授 (H26.4)	3日
7	専	准教授	ウエダ 植田 かおり ＜令和3年4月＞		博士 (哲学)		グローバル・リベラル アーツ入門Ⅰ※ 哲学Ⅰ 哲学Ⅱ 人間と思想 講読(HUM) (文学/思想) 研究演習Ⅰ 研究演習Ⅱ 研究演習Ⅲ 卒業研究 (キャップス トーン・プロジェクト)	1前① 2・3・4前 2・4後 2・4後 3・4前 2後 3前 4通 4通		0.4 2 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H16.4)	3日

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
8	専	准教授	カリゴエマホ 河越 真帆 ＜令和3年4月＞		博士 (法学)		グローバル・リベラル アーツ入門Ⅱ※ 地域とグローバル世界Ⅱ 講読(GS) (地域とグロー バル世界) 研究演習Ⅰ 研究演習Ⅱ 研究演習Ⅲ 卒業研究 (キャップス トーン・プロジェクト)	1後 2・4後 2後3前4前後 2後 3前 4通 4通		0.4 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H25. 4)	3日
9	専	准教授	ヨシダ キョウコ 吉田 京子 ＜令和3年4月＞		博士 (文学)		アラビア語Ⅰ(a) アラビア語Ⅰ(b) アラビア語Ⅱ(a) アラビア語Ⅱ(b) グローバル・リベラル アーツ入門Ⅰ※ 宗教学Ⅱ 宗教文化論Ⅱ 講読(HUM) (宗教文化) 研究演習Ⅰ 研究演習Ⅱ 研究演習Ⅲ 卒業研究 (キャップス トーン・プロジェクト)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後 1前① 2・4後 2・4後 2後3後4前後 2後 3前 4通 4通		2 2 1 1 0.1 2 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H25. 4)	3日
10	専	講師	ウエノ タイスケ 上野 太祐 ＜令和3年4月＞		博士 (社会学)		グローバル・リベラル アーツ入門Ⅰ※ 倫理学Ⅰ 倫理学Ⅱ 芸術文化論Ⅱ 講読(HUM) (芸術文化) 研究演習Ⅰ 研究演習Ⅱ 研究演習Ⅲ 卒業研究 (キャップス トーン・プロジェクト)	1前① 2・3・4前 2・4後 2・4後 3・4前 2後 3前 4通 4通		0.1 2 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	神田外語大学 外国語学部 講師 (H30. 4)	3日
11	専	講師	カマタ ユリエ 釜田 友里江 ＜令和3年4月＞		博士 (文学)		アカデミック日本語Ⅰ アカデミック日本語Ⅱ	1前 1後		6 6	3 3	神田外語大学 アカデミックサスペン ダー 講師 (H29. 4)	5日
12	専	講師	スズキ ケンタ 鈴木 健太 ＜令和3年4月＞		博士 (学術)		グローバル・リベラル アーツ入門Ⅰ※ グローバル・ヒストリー 世界近現代史 講読(HUM) (歴史) 研究演習Ⅰ 研究演習Ⅱ 研究演習Ⅲ 卒業研究 (キャップス トーン・プロジェクト)	1前① 1後 2・4後 3・4前 2後 3前 4通 4通		0.1 4 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	東京外国語大学 非常勤講師 (H30. 10)	5日
13	専	講師	タカハシマナ 高橋 麻奈 ＜令和3年4月＞		博士 (比較 法学)		グローバル・リベラル アーツ入門Ⅱ※ グローバル・ガバナンス Ⅰ グローバル・ガバナンス Ⅱ 国際機構論 講読(GS) (グローバル・ ガバナンス) 研究演習Ⅰ 研究演習Ⅱ 研究演習Ⅲ 卒業研究 (キャップス トーン・プロジェクト)	1後 2・3・4前 2・4後 2・3・4前 3・4前 2後 3前 4通 4通		0.4 2 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	名古屋大学 男女共同参画セ ンター 助教 (H30. 4)	5日
14	専	講師	チネン アユム 知念 渉 ＜令和3年4月＞		博士 (人間 科学)		グローバル・リベラル アーツ入門Ⅰ※ 教育学 共生社会論 社会と多様性Ⅱ 講読(SOC) (社会と多様 性) 研究演習Ⅰ 研究演習Ⅱ 研究演習Ⅲ 卒業研究 (キャップス トーン・プロジェクト)	1前① 2・3・4前 2・3・4前 2・4後 2・4後 2後 3前 4通 4通		0.1 2 2 2 2 2 4 4	1 1 1 1 1 1 1 1	神田外語大学 外国語学部 講師 (H29. 4)	3日
15	兼任	教授	アオヤマハルキ 青山 治城 ＜令和4年4月＞		博士 (法学)		法学Ⅰ 法学Ⅱ 憲法Ⅰ 憲法Ⅱ 政治学Ⅰ 政治学Ⅱ	2・3・4前 2・4後 2・3・4前 2・4後 2・3・4前 2・4後		2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	神田外語大学 外国語学部 教授 (S62. 4)	
16	兼任	特任教授	イチノセシユキ 市瀬 良行 ＜令和3年4月＞		学士 (体育学)		アドベンチャーコミュニ ケーションプログラム (GLA)	1前②		1	1	神田外語大学 外国語学部 教授 (H8. 4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
17	兼任	教授	イトウ ヤスコ 伊藤 泰子 ＜令和3年4月＞		Ph. D. in Second Language Acquisition (米国)		English for Academic Purposes (a) English for Academic Purposes (b) English for GLA V (Sustainable Development Goals)	1前 1後 3前		2 2 2	1 1 1	神田外語大学 外国語学部 教授 (H18. 4)	
18	兼任	教授	カスガ アツシ 春日 淳 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		ベトナム語Ⅱ (a) ベトナム語Ⅱ (b)	3・4前 4後		1 1	1 1	神田外語大学 外国語学部 教授 (H15. 4)	
19	兼任	教授	クワンヨンギョン 權 容環 ＜令和4年4月＞		문학박사 (韓国)		韓国語Ⅰ (a) 韓国語Ⅰ (b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 教授 (H14. 9)	
20	兼任	特任教授	シバタ シンイチ 柴田 真一 ＜令和3年9月＞		Master of Business Administ ration (英国)		キャリアデザイン (GLA)	1後		2	1	神田外語大学 キャリア教育センター 特任教授 (H30. 4)	
21	兼任	教授	タケダ アケノリ 武田 明典 ＜令和4年9月＞		Ph. D. in Educational Psychology (米国)		心理学Ⅱ	2・4後		2	1	神田外語大学 外国語学部 教授 (H15. 4)	
22	兼任	教授	ハナガワセイコ 花澤 聖子 ＜令和4年4月＞		修士 (国際学)		中国語Ⅰ (a) 中国語Ⅰ (b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 教授 (H10. 4)	
23	兼任	教授	フィリップ マーフィー Philip Murphy ＜令和3年4月＞		Doctorate of Applied Linguistics (豪)		Academic Writing (a) Academic Writing (b) Academic Discussions & Presentations (a) Academic Discussions & Presentations (b) Advanced Writing (a) Advanced Writing (b)	1前① 1後 1前① 1後 2前 2後		1 2 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1	神田外語大学 外国語学部 教授 (H12. 4)	
24	兼任	教授	マツイ ケイコ 松井 佳子 ＜令和3年4月＞		Ph. D. in Comparative Literature (米国)		グローバル・リベラル アーツ入門Ⅰ※ 人間と文学 社会と多様性Ⅰ	1前① 2・3・4前 2・3・4前		0.1 2 2	1 1 1	神田外語大学 外国語学部 教授 (H5. 4)	
25	兼任	学長	ミヤウチタカヒサ 宮内 孝久 ＜令和5年4月＞		学士 (法学)		グローバル・キャリア	3前		2	1	神田外語大学 外国語学部 学長 (H30. 4)	
26	兼任	教授	ヤベ フミエ 矢部 富美枝 ＜令和4年4月＞		修士※ (心理学)		心理学Ⅰ 心理学Ⅱ	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 教授 (S62. 4)	
27	兼任	教授	ヨシムラトシコ 吉村 穂子 ＜令和4年4月＞		修士※ (芸術学)		美術史Ⅰ 美術史Ⅱ	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 教授 (H6. 4)	
28	兼任	教授	アオト セイイチ 青砥 清一 ＜令和4年4月＞		博士 (学術)		スペイン語Ⅰ (a) スペイン語Ⅰ (b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H19. 4)	
29	兼任	准教授	アルセニオ サンズ ARSENIO SANZ リベラ RIVERA ＜令和4年4月＞		Doctor en Linguistica Aplicada (西)		スペイン語Ⅰ (a) スペイン語Ⅰ (b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H27. 4)	
30	兼任	准教授	イジマアキコ 飯島 明子 ＜令和4年4月＞		博士 (理学)		生物学Ⅰ 生物学Ⅱ	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H20. 4)	
31	兼任	准教授	キム キョンフア 金 暉和 ＜令和4年4月＞		博士 (学際情 報学)		デジタル・メディアと社 会	2・3・4前		2	1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H26. 4)	
32	兼任	准教授	グレゴリー ポール Gregory Paul グラスゴー Glasgow ＜令和5年4月＞		Ph. D. in Applied Linguistics (豪)		English for GLA V (Sustainable Development Goals)	3前		2	1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H31. 4)	
33	兼任	准教授	シブヤ ユキ 澁谷 由紀 ＜令和4年4月＞		Doctor of Philosophy in Sociology (英国)		社会学Ⅰ 社会学Ⅱ	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H22. 4)	

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
34	兼任	特任 准教授	ス ヨ ト Suyoto ＜令和4年4月＞		Magister Management of Education (尼)		インドネシア語Ⅰ(a) インドネシア語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 特任准教授 (H25.4)	
35	兼任	教授	タイラ カオリ 平 香織 ＜令和4年4月＞		博士 (国際 文化)		韓国語Ⅰ(a) 韓国語Ⅰ(b) 言語学Ⅰ 言語学Ⅱ	2・3・4前 2・4後 2・3・4前 2・4後		2 2 2 2	1 1 1 1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H19.4)	
36	兼任	准教授	タカギ コウ 高木 耕 ＜令和4年9月＞		修士 (地域 研究)		国際開発論	2・4後		2	1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H13.4)	
37	兼任	准教授	トヨシマユカ 豊島 悠果 ＜令和5年4月＞		博士 (文学)		韓国語Ⅱ(a) 韓国語Ⅱ(b)	3・4前 4後		1 1	1 1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H22.4)	
38	兼任	准教授	トヨダ サトシ 豊田 聡 ＜令和4年4月＞		Master of Business Administ ration (星)		経営学Ⅰ 経営学Ⅱ	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H21.4)	
39	兼任	准教授	マエダ ノブヒト 前田 伸人 ＜令和4年4月＞		修士※ (学術)		スペイン語Ⅰ(a) スペイン語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H29.4)	
40	兼任	准教授	マチダ アキヒロ 町田 明広 ＜令和4年4月＞		博士 (文学)		歴史学Ⅰ	2・3・4前		2	1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H25.4)	
41	兼任	准教授	ヨシダ ミツヒロ 吉田 光宏 ＜令和4年9月＞		Ph.D. in cultural anthropo logy (米国)		文化人類学	2・4後		2	1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H11.4)	
42	兼任	准教授	ヨシノ トモコ 吉野 朋子 ＜令和4年4月＞		修士※ (言語学)		ポルトガル語Ⅰ(a) ポルトガル語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 准教授 (H21.4)	
43	兼任	講師	アーサー ウィン Arthur Nguyen ＜令和3年4月＞		M. A. TESOL (米国)		Academic Writing (a) Academic Writing (b) Critical Reading (a) Critical Reading (b)	1前① 1後 2前 2後		1 2 2 2	1 1 1 1	神田外語大学 English Language Institute 主任講師 (H24.4)	
44	兼任	講師	ユアン ボナー Euan Bonner ＜令和4年4月＞		Master of Applied Linguistics (豪)		English for GLA Ⅱ (Media Literacy)	2前		4	2	神田外語大学 English Language Institute 主任講師 (H26.4)	
45	兼任	講師	オйкаワアカネ 及川 茜 ＜令和4年4月＞		修士 (文学)		中国語Ⅰ(a) 中国語Ⅰ(b) 文学Ⅰ 文学Ⅱ	2・3・4前 2・4後 2・3・4前 2・4後		2 2 2 2	1 1 1 1	神田外語大学 外国語学部 講師 (H24.4)	
46	兼任	講師	オノヅカ カズヒト 小野塚 和人 ＜令和4年9月＞		博士 (社会学)		社会とサステナビリティ 講読(SOC) (社会とサ テナビリティ)	2・4後 3・4前		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 講師 (H26.4)	
47	兼任	講師	グスターボ メイレレス Gustavo MEIRELES ＜令和6年9月＞		修士※ (国際 関係論)		ポルトガル語Ⅱ(a) ポルトガル語Ⅱ(b)	4後		1	1	神田外語大学 外国語学部 語学専任講師 (H31.4)	
48	兼任	講師	コウチ カオル 高地 薫 ＜令和5年4月＞		修士 (学術)		インドネシア語Ⅱ(a) インドネシア語Ⅱ(b)	3・4前 4後		1 1	1 1	神田外語大学 外国語学部 講師 (H29.4)	
49	兼任	講師	ジェニー ロロフ Jennie ROLOFF ロスマン ROTHMAN ＜令和3年4月＞		M. A. in TESOL (米国)		Academic Writing (a) Academic Writing (b) English for GLA Ⅰ (Introduction to Global Issues)	1前① 1後 2前		1 2 2	1 1 1	神田外語大学 English Language Institute 主任講師 (H29.4)	
50	兼任	講師	ジェームズ オーウェンズ James Owens ＜令和3年4月＞		M. A. in Applied Linguistics (英国)		Academic Discussions & Presentations (a) Academic Discussions & Presentations (b) Critical Reading (a) Critical Reading (b)	1前① 1後 2前 2後		1 2 2 2	1 1 1 1	神田外語大学 English Language Institute 主任講師 (H23.4)	
51	兼任	講師	トミオカユタカ 富岡 裕 ＜令和4年4月＞		Doctor of Philosophy (星)		タイ語Ⅰ(a) タイ語Ⅰ(b) タイ語Ⅱ(a) タイ語Ⅱ(b)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後		2 2 1 1	1 1 1 1	神田外語大学 外国語学部 語学専任講師 (H29.4)	

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
52	兼任	講師	ニコラス リコ Nicolas RICO ＜令和4年4月＞		Master en Enseñanza de Español Como Lengua Extranjera ※ (西)		スペイン語Ⅰ(a) スペイン語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 語学専任講師 (H30.4)	
53	兼任	講師	ニール カリー Neil Curry ＜令和3年4月＞		M.A. in TESOL (英国)		Self-Directed Learning	1前		1	1	神田外語大学 Self-Access Learning Center 主任講師 (H25.4)	
54	兼任	講師	パン マツモト ユキエ 塚(松本) 幸枝 ＜令和4年9月＞		博士 (アーツ・サイ エンス)		異文化コミュニケーション論	2・4後		2	1	神田外語大学 外国語学部 講師 (H30.4)	
55	兼任	講師	フィービー ライオン Phoebe Lyon ＜令和3年4月＞		M.A. in TESOL (豪)		Academic Reading (a) Academic Reading (b) Critical Reading (a) Critical Reading (b)	1前① 1後 2前 2後		1 2 2 2	1 1 1 1	神田外語大学 English Language Institute 主任講師 (H25.4)	
56	兼任	講師	ベサン クシダ Bethan Kushida ＜令和3年4月＞		M.A. in Advanced Japanese Studies (英国)		Academic Discussions & Presentations (a) Academic Discussions & Presentations (b) Advanced Writing (a) Advanced Writing (b)	1前① 1後 2前 2後		1 2 2 2	1 1 1 1	神田外語大学 English Language Institute 主任講師 (H25.4)	
57	兼任	講師	ベリ ファリナ Veri FARINA ベチキ BECKSI ＜令和4年4月＞		Master en Enseñanza del español como segunda lengua ※ (西)		スペイン語Ⅰ(a) スペイン語Ⅰ(b) スペイン語Ⅱ(a) スペイン語Ⅱ(b)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後		2 2 1 1	2 2 1 1	神田外語大学 外国語学部 語学専任講師 (H29.4)	
58	兼任	講師	ライアンレギー Ryan Lege ＜令和3年4月＞		M.A. of Aarts (米国)		Academic Reading (a) Academic Reading (b)	1前① 1後		2 4	2 2	神田外語大学 English Language Institute 主任講師 (H25.4)	
59	兼任	講師	ワシワタタキ 鷺澤 拓也 ＜令和4年4月＞		修士 (文学)		ベトナム語Ⅰ(a) ベトナム語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 語学専任講師 (H31.4)	
60	兼任	講師	ワダ ミチヒロ 和田 理寛 ＜令和4年4月＞		博士 (地域 研究)		宗教文化論Ⅰ 講読(HUM) (宗教文化)	2・3・4前 2後3前4前後		2 2	1 1	神田外語大学 外国語学部 講師 (H31.4)	
61	兼任	講師	ワトキンス サトコ 聡子 ＜令和3年4月＞		M.A. in TESOL (米国)		Self-Directed Learning	1前		1	1	神田外語大学 Self-Access Learning Center 主任講師 (H25.4)	
62	兼任	客員教授	ティモシー マーフィー Timothy MURPHEY ＜令和4年9月＞		Ph.D. in Applied Linguistics (瑞)		English for GLAⅣ (Peace Studies)	2後		4	2	神田外語大学 外国語学部 客員教授 (H31.4)	
63	兼任	講師	アオキ ヨウイチロウ 青木 洋一郎 ＜令和4年4月＞		修士 (文学)		イタリア語Ⅰ(a) イタリア語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H11.4)	
64	兼任	講師	イセリ シュンタロウ 井芹 俊太郎 ＜令和4年9月＞		修士 (教育 学)		データ・サイエンス概論 エビデンスと評価	2・4後 3・4前		2 2	1 1	法政大学 常勤嘱託専門嘱 託職員 (H29.2)	
65	兼任	講師	イチカワアキバ ヒロコ 市川(秋葉) 宏子 ＜令和4年4月＞		修士 (文学)		ドイツ語Ⅰ(a) ドイツ語Ⅰ(b) ドイツ語Ⅱ(a) ドイツ語Ⅱ(b)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後		2 2 1 1	2 2 1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H10.5)	
66	兼任	講師	イワイ リョウタ 岩井 亮雄 ＜令和4年4月＞		修士 (文学)		韓国語Ⅰ(a) 韓国語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	東京大学 大学院人文社会 系研究科 助教 (H30.4)	
67	兼任	講師	ウエニシアキコ 上西 明子 ＜令和4年4月＞		修士 (文学)		イタリア語Ⅰ(a) イタリア語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H10.4)	
68	兼任	講師	エンドウミユキ 遠藤 美幸 ＜令和4年4月＞		修士 (経済学)		歴史学Ⅰ 歴史学Ⅱ	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H14.4)	
69	兼任	講師	オオイズミ 大泉 さやか ＜令和4年4月＞		博士 (学術)		ベトナム語Ⅰ(a) ベトナム語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	東京大学 教養学部 特任講師 (H30.4)	
70	兼任	講師	オカダ ユミコ 岡田 由美子 ＜令和4年4月＞		修士 (文学)		イタリア語Ⅰ(a) イタリア語Ⅰ(b) イタリア語Ⅱ(a) イタリア語Ⅱ(b)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後		2 2 1 1	1 1 1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H10.4)	
71	兼任	講師	オガサワラケンジ 小笠原 健二 ＜令和4年4月＞		修士 (国際学)		インドネシア語Ⅰ(a) インドネシア語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H14.4)	

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
72	兼任	講師	オザワ マコト 小澤 真 ＜令和4年4月＞		修士 (文学)		フランス語Ⅰ(a) フランス語Ⅰ(b) フランス語Ⅱ(a) フランス語Ⅱ(b)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後	2 2 1 1	1 1 1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H27. 4)	
73	兼任	講師	オマタ サチコ 小俣 幸子 ＜令和4年4月＞		学士 (経済 学)		経済学Ⅰ 経済学Ⅱ	2・3・4前 2・4後	2 2	1 1	1 1	千葉大学 大学院社会科学 研究院 特任研究員 (R元, 10. 1)	
74	兼任	講師	カーク ジョンソン Kirk Johnson ＜令和4年9月＞		Master of Arts in Applied Linguistics (米国)		English for GLA Ⅲ (Global Communication)	2後		4	2	神田外語大学 非常勤講師 (H17. 4)	
75	兼任	講師	カン エツ 韓 越 ＜令和4年4月＞		修士 (地域 研究)		中国語Ⅰ(a) 中国語Ⅰ(b) 中国語Ⅱ(a) 中国語Ⅱ(b)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後	2 2 1 1	1 1 1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H20. 4)	
76	兼任	講師	キダ ツヨシ 木田 剛 ＜令和4年4月＞		博士 (一般 言語学) (仏)		フランス語Ⅰ(a) フランス語Ⅰ(b) フランス語Ⅱ(a) フランス語Ⅱ(b)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後	2 2 1 1	1 1 1 1	1 1	獨協大学 外国語学部 教授 (H31. 4)	
77	兼任	講師	キム ヘジン 金 恵珍 ＜令和4年4月＞		Master of Korean linguistics (韓国)		韓国語Ⅰ(a) 韓国語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後	2 2	1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H29. 4)	
78	兼任	講師	クマキ アツシ 熊木 淳 ＜令和4年4月＞		博士 (フラン ス文学)		フランス語Ⅰ(a) フランス語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後	2 2	1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H27. 4)	
79	兼任	講師	クロシマノリフミ 黒島 規史 ＜令和4年4月＞		修士 (言語学)		韓国語Ⅰ(a) 韓国語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後	2 2	1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H28. 4)	
80	兼任	講師	コウ ウンスク 高 恩淑 ＜令和4年4月＞		博士 (学術)		韓国語Ⅰ(a) 韓国語Ⅰ(b) 韓国語Ⅱ(a) 韓国語Ⅱ(b)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後	2 2 1 1	1 1 1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H30. 4)	
81	兼任	講師	コミヤ チヒロ 小宮 千紘 ＜令和3年9月＞		修士 (TESOL)		TOEFL ITP 演習	1後		2	2	神田外語学院 講師 (H28. 1)	
82	兼任	講師	コンドウノブヒコ 近藤 伸彦 ＜令和5年4月＞		博士 (情報工 学)		ビッグデータ解析論	3・4前		2	1	首都大学東京 大学教育セン ター 准教授	
83	兼任	講師	コンドウヒデキ 近藤 秀樹 ＜令和4年9月＞		博士 (認知科 学)		コンピュータ・サイエン ス概論	2・4後		2	1	九州工業大学 学習教育セン ター助教 (H24. 4)	
84	兼任	講師	シイネハタナカリナ 椎根(畠中) 里菜 ＜令和4年4月＞		修士 (フラン ス文学)		フランス語Ⅰ(a) フランス語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後	2 2	1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H31. 4)	
85	兼任	講師	シバヤマシゲル 柴山 滋 ＜令和4年4月＞		修士 (東洋史)		アラビア語Ⅰ(a) アラビア語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後	2 2	1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H8. 4)	
86	兼任	講師	シマヅ ヒロシ 島津 寛 ＜令和4年4月＞		修士 (言語学)		スペイン語Ⅰ(a) スペイン語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後	2 2	1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H12. 4)	
87	兼任	講師	シマヅ ヒデハル 嶋田 英晴 ＜令和4年4月＞		博士 (文学)		宗教学Ⅰ	2・3・4前		2	1	神田外語大学 非常勤講師 (H28. 4)	
88	兼任	講師	シミズ カオル 清水 薫 ＜令和4年4月＞		修士 (文学)		ドイツ語Ⅰ(a) ドイツ語Ⅰ(b) ドイツ語Ⅲ(a) ドイツ語Ⅲ(b)	2・3・4前 2・4後 4前 4後	2 2 1 1	1 1 1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H12. 4)	
89	兼任	講師	シモーナ マリアーニ Simona MARIANI ＜令和6年4月＞		Bachelor degree in Foreign Languages and Literature (伊)		イタリア語Ⅲ(a) イタリア語Ⅲ(b)	4前 4後		1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H20. 4)	
90	兼任	講師	ジャン ビエール Jean-Pierre アブリエル ABRIAL ＜令和5年4月＞		Litté rature et Linguist ique russe (仏)		フランス語Ⅱ(a) フランス語Ⅱ(b) フランス語Ⅲ(a) フランス語Ⅲ(b)	3・4前 4後 4前 4後	1 1 1 1	1 1 1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H28. 4)	
91	兼任	講師	シユウゴウ 周 剛 ＜令和4年4月＞		Ph. D. in Linguistics (中国)		中国語Ⅰ(a) 中国語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後	2 2	1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H20. 4)	
92	兼任	講師	ジョウデタカ 城 秀孝 ＜令和4年4月＞		修士 (法学)		法学Ⅰ 法学Ⅱ 憲法Ⅰ 憲法Ⅱ 国際法	2・3・4前 2・4後 2・3・4前 2・4後 2・4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H16. 4)	
93	兼任	講師	スガヤ マイ 菅谷 麻衣 ＜令和4年4月＞		修士 (法学)		憲法Ⅰ 憲法Ⅱ	2・3・4前 2・4後	2 2	1 1	1 1	常葉大学 法学部 助教 (H30. 4)	
94	兼任	講師	スズキ トシヒロ 鈴木 敏弘 ＜令和4年4月＞		博士 (歴史学)		歴史学Ⅰ 歴史学Ⅱ	2・3・4前 2・4後	2 2	1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H19. 9)	

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
95	兼任	講師	セルヒオ ナバロ Sergio NAVARRO ＜令和4年4月＞		Ph.D. in Letters (西)		スペイン語Ⅰ(a) スペイン語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H13.4)	
96	兼任	講師	ゼン サンリェル 全 相律 ＜令和4年4月＞		修士※ (言語学)		韓国語Ⅰ(a) 韓国語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語学院 講師 (H31.4)	
97	兼任	講師	ムラカミゼン ミン (村上) 全 民 ＜令和6年4月＞		学士 (文学) (中国)		中国語Ⅲ(a) 中国語Ⅲ(b)	4前 4後		1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H31.4)	
98	兼任	講師	ソ 徐 ミンジョン ＜令和4年4月＞		修士 (言語学)		韓国語Ⅰ(a) 韓国語Ⅰ(b) 韓国語Ⅱ(a) 韓国語Ⅱ(b) 韓国語Ⅲ(a) 韓国語Ⅲ(b)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後 4前 4後		2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H31.4)	
99	兼任	講師	ツチダ ヒロシゲ 土田 宏成 ＜令和4年9月＞		博士 (文学)		歴史学Ⅱ	2・4後		2	1	聖心女子大学 現代教養学部 教授 (H31.4)	
100	兼任	講師	トウ リン 陶 琳 ＜令和4年4月＞		博士 (文学)		中国語Ⅰ(a) 中国語Ⅰ(b) 中国語Ⅱ(a) 中国語Ⅱ(b)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後		2 2 1 1	1 1 1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H28.4)	
101	兼任	講師	トヨタ ケイイチ 豊田 圭一 ＜令和3年4月＞		MA in Positive Leadership and Strategy (西)		グローバル・ディスカバ リーⅠ グローバル・ディスカバ リーⅡ	1前① 1前②		1 1	1 1	株式会社スバイ スアップ・ジャ パン代表取締役 (H24.6)	
102	兼任	講師	トヨマルアツコ 豊丸 敦子 ＜令和4年4月＞		修士 (言語学)		スペイン語Ⅰ(a) スペイン語Ⅰ(b) スペイン語Ⅱ(a) スペイン語Ⅱ(b)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後		2 2 1 1	1 1 1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H18.9)	
103	兼任	講師	ナカザワエイスケ 中澤 栄輔 ＜令和4年4月＞		博士 (学術)		物理学Ⅰ 物理学Ⅱ 自然科学概論Ⅰ 自然科学概論Ⅱ	2・3・4前 2・4後 2・3・4前 2・4後		2 2 2 2	1 1 1 1	東京大学 医学部 講師 (H29.6)	
104	兼任	講師	ナカマチチホ 仲町 知帆 ＜令和4年4月＞		博士 (文学)		スペイン語Ⅰ(a) スペイン語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	千葉工業大学 社会システム科 学部 助教 (H28.4)	
105	兼任	講師	パトリシア ロサーレス Patricia ROSALES ＜令和4年4月＞		Le Diplôme national de docteur en science politique (仏)		スペイン語Ⅰ(a) スペイン語Ⅰ(b) スペイン語Ⅲ(a) スペイン語Ⅲ(b)	2・3・4前 2・4後 4前 4後		2 2 1 1	1 1 1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H25.4)	
106	兼任	講師	バビエル カマチョ Javier CAMACHO クルス CRUZ ＜令和4年4月＞		Master en Humanidades ※ (西)		スペイン語Ⅰ(a) スペイン語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H26.4)	
107	兼任	講師	ハマダ 浜田 ゆみ ＜令和4年4月＞		修士 (社会学)		中国語Ⅰ(a) 中国語Ⅰ(b) 中国語Ⅱ(a) 中国語Ⅱ(b)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後		4 4 1 1	2 2 1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H12.4)	
108	兼任	講師	ハヤシアキラ 農 晃 ＜令和4年4月＞		修士 (社会学)		中国語Ⅰ(a) 中国語Ⅰ(b) 社会学Ⅰ 社会学Ⅱ	2・3・4前 2・4後 2・3・4前 2・4後		2 2 2 2	1 1 1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H22.4)	
109	兼任	講師	ハヤシクニヨシ 林 邦好 ＜令和4年4月＞		博士 (情報 科学)		統計学Ⅰ 統計学Ⅱ	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	聖路加国際大学 大学院公衆衛生 学研究科 講師 (H29.4)	
110	兼任	講師	ヒカサ カツシ 樋笠 勝士 ＜令和4年4月＞		修士 (文学)		哲学Ⅰ 哲学Ⅱ 芸術文化論Ⅰ	2・3・4前 2・4後 2・3・4前		2 2 2	1 1 1	岡山県立大学 デザイン学部 教授 (H28.4)	
111	兼任	講師	フクモトキクコ 福本 喜久子 ＜令和4年4月＞		博士 (理学)		化学Ⅰ 化学Ⅱ	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H23.4)	
112	兼任	講師	ホウキ アヤコ 法本 綾子 ＜令和4年4月＞		修士 (文学)		ロシア語Ⅰ(a) ロシア語Ⅰ(b) ロシア語Ⅱ(a) ロシア語Ⅱ(b)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後		2 2 1 1	1 1 1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H9.4)	
113	兼任	講師	ミヤケ マサズミ 二宅 正純 ＜令和4年4月＞		修士 (文学)		倫理学Ⅰ 倫理学Ⅱ	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H7.4)	
114	兼任	講師	ミヤシタカズヒロ 宮下 和大 ＜令和5年4月＞		修士 (言語学)		スペイン語Ⅱ(a) スペイン語Ⅱ(b)	3・4前 4後		1 1	1 1	立教大学 ランゲージセン ター 教育講師 (H29.4)	
115	兼任	講師	モンコンチャイ MONGKOLCHAI アッカラッチャイ Akrachai ＜令和4年4月＞		修士 (言語学)		タイ語Ⅰ(a) タイ語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後		2 2	1 1	タイ国政府観光 庁 秘書 (H20.6)	

調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
116	兼任	講師	ヤマムラトシエ 山村 敏江 ＜令和4年4月＞		博士 (文学)		中国語Ⅰ(a) 中国語Ⅰ(b) 中国語Ⅱ(a) 中国語Ⅱ(b)	2・3・4前 2・4後 3・4前 4後	2 2 1 1	2 1 1 1	1 1 1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H23. 4)	
117	兼任	講師	ヨラン 余 瀾 ＜令和5年4月＞		修士 (文学)		中国語Ⅱ(a) 中国語Ⅱ(b)	3・4前 4後	1 1	1 1	1 1	神田外語大学 非常勤講師 (H31. 4)	
118	兼任	講師	リン コウエイ 林 虹瑛 ＜令和4年4月＞		博士 (言語学)		中国語Ⅰ(a) 中国語Ⅰ(b)	2・3・4前 2・4後	2 2	2 2	2 2	神田外語大学 非常勤講師 (H28. 4)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	2人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	人	1人	人	1人	1人	3人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	人	4人	人	人	人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	5人	人	人	人	人	5人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	5人	6人	人	人	人	11人	
	修 士	人	人	人	1人	人	1人	1人	3人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。